

Historical Library of Matsue City

松江市歴史叢書 9

2016 年 3 月

松江市史研究 7 号

- 堀尾氏の出雲支配における支城について(3) - 亀嵩城と三沢城 - 中井 均 (1)
- いわゆる「松江城築城物語」に関する再検討 佐々木倫朗・福井 将介 (9)
- 松江城および周辺遺跡出土瓦の胎土分析について 白石 純 (21)
- 松江市域の絵図・地図目録 (中間報告) 大矢 幸雄・和田 嘉宥 (27)
- 松江城下町遺跡における陶磁器の様相と編年 - 17世紀代の資料を中心に - ... 小山 泰生 (45)
- 史跡松江城の発掘調査(2) - 北惣門橋跡、御廊下橋跡 - 岡崎雄二郎 (55)
- 松江平野北部の平野発達史と古環境変遷史(2) - 花粉分析から推定される古植生 -
..... 渡辺 正巳・瀬戸 浩二・山田 和芳・高安 克己 (71)
- 松江城城郭呼称について 松江市史編集委員会松江城部会 (83)
- 松江城天守古写真考 - 「明治初年」とされてきた荒廃した松江城天守古写真について - ... 稲田 信・福井 将介 (89)
- 〈史料紹介〉「高城権八家過去帳」に見る高城権八家の系譜 ... 稲田 信・内田 文恵・小山 祥子 (117)
- 松江市史編纂日誌 史料編纂室 (123)



(松江城)

松 江 市

は じ め に

21世紀を迎え、社会の環境や文化が大きく変化しつつある今日、地域の未来を見通すことは困難な課題です。こうした中でこそ地域の歴史的考察と研究が求められているのではないのでしょうか。歴史の中に、私たちが住む松江とは何なのか、どのような特質をもっているのか、夢・未来とは何なのかを見つけていく必要があるのでしょうか。

近年、松江の歴史的考察と研究は『松江市史』の編纂などによって大きく深まっています。全国的な研究動向から刺激を受け、広い視点から松江の歴史を考えることが可能になってきています。また、松江の歴史を通して、出雲地域の歴史や日本の歴史を捉えなおすことも出来るようになってきました。

さて、今号では松江城、絵図・地図に関する研究成果を掲載しています。

今後とも、この「歴史叢書」に対し、多くの地域史研究者のご参加をいただくことで、松江の歴史が一層明らかになるとともに、その成果が未来に向かって歩む人々の生き様に大きな示唆を与えてくれることを願ってやみません。

2016年3月

松江市長 松 浦 正 敬

『松江市史』刊行計画

(平成28年 3月25日現在)

発行年度 (平成)	巻のタイトル	本体価格 (税別)
23	史料編 5 「近世Ⅰ」	5,000円
	史料編 2 「考古資料」	7,000円
24	史料編 3 「古代・中世Ⅰ」	5,000円
	史料編 6 「近世Ⅱ」	5,000円
25	史料編 4 「中世Ⅱ」	5,000円
	史料編 11 「絵図・地図」	7,000円
26	通史編 1 「自然環境・原始・古代」	5,000円
	史料編 7 「近世Ⅲ」	5,000円
27	別編 2 「民俗」	5,000円
	通史編 2 「中世」	5,000円
	史料編 8 「近世Ⅳ」	5,000円
28	史料編 9 「近現代Ⅰ」	未刊
29	史料編 10 「近現代Ⅱ」	未刊
	別編 1 「松江城」	未刊
30	通史編 3 「近世(一)」	未刊
	通史編 4 「近世(二)」	未刊
31	通史編 5 「近現代」	未刊
	史料編 1 「地質・自然環境」	未刊

堀尾氏の出雲支配における支城について(3)

― 亀嵩城と三沢城 ―

中井 均

はじめに

慶長5年(1600)の堀尾吉晴、氏忠父子出雲入国に際して居城としたのが富田城であった。そして、領国支配と国境警備のために三刀屋城、赤名瀬戸山城が支城として改修されたことはすでに述べた通りである⁽¹⁾。また、慶長12年(1607)に松江築城が開始された後は、富田城も支城となり堀尾河内が入れ置かれた。

ところで、堀尾氏の出雲支配における支城は、この三刀屋城、赤名瀬戸山城、富田城だけであったのだろうか。例えば、宝永2年(1705)の覚融寺(奥出雲町)の文書に、「一、堀尾山城様御代前田丹波殿、堀尾但馬殿亀嵩之城一覧之上ニテ丹後(備後力)、伯耆之境目自然諸国動乱之節御番衆為被入置為御用意当寺御建立被成竹林三九郎共申仁ニ普請奉行被仰付候之由、」と記されており、堀尾忠晴の代に前田丹波(堀尾泰晴の姉の孫)、堀尾但馬(堀尾泰晴の弟方泰の子)を備後、伯耆の境目として亀嵩城に配置していたことが記されている。

さらに、寛永10年(1633)に作成された出雲国絵図(東京大学総合図書館蔵南葵文庫)には、「居城」として末次城(松江城)が記されているほか、富田、三刀屋、赤穴(赤名)、亀嵩の4ヶ所に「古城」と記されている。西尾克己、稲田信、福井将介氏によると、この「古城」表記は堀尾氏の出雲支配における支城であった城跡を記しているものではないかと考えられている⁽²⁾。

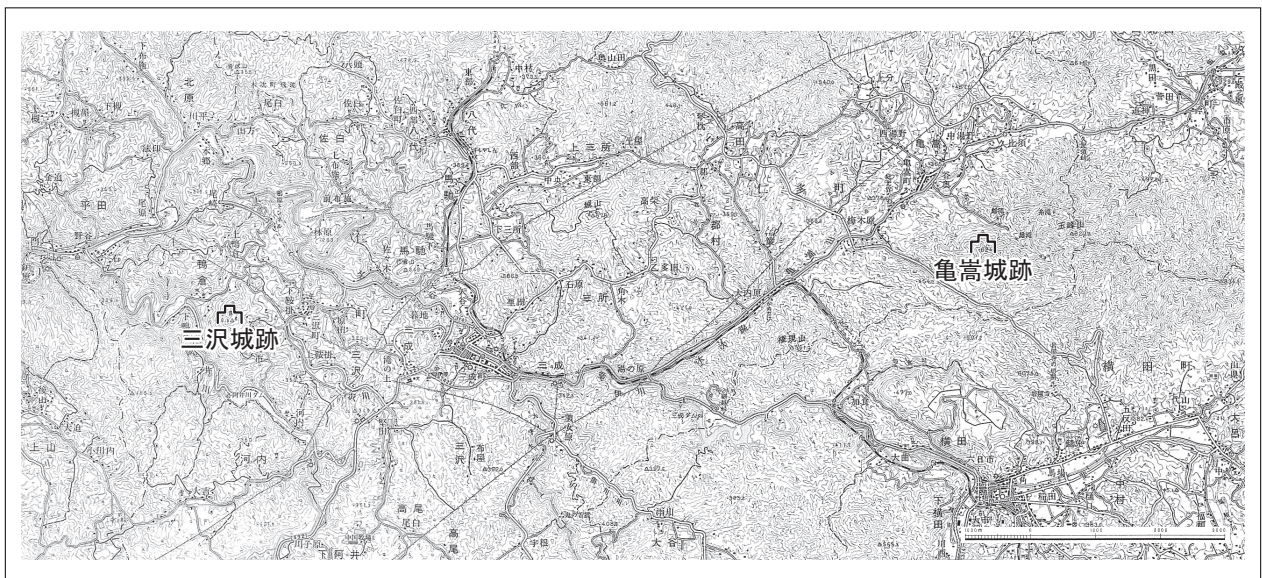


図1 亀嵩城跡と三沢城跡位置図

こうした史料から、富田城、三刀屋城、赤名瀬戸山城とともに亀嵩城も支城のひとつであった可能性が高い。一方、島根県教育委員会の実施した県内の中世城館跡分布調査によって、三沢城に石垣の用いられていることが報告されており⁽³⁾、堀尾氏入国以後に改修された可能性がある。そこで、拙稿ではこの亀嵩城と三沢城について検討をおこないたい。

亀嵩城の歴史と構造

さて、現在知られている亀嵩城とは、仁多郡奥出雲町亀嵩に所在する標高624mの急峻な山頂に位置している。築城については文明年間(1469～1487)頃に三沢氏によって築かれたと伝えられ、天正2年(1574)には三沢為清が禅隆寺を移築するため陣僧役を免除している。

天正13年(1585)には為清の子、三沢為虎は毛利輝元に起請文を差出し、忠誠を誓っている。この起請文には、「一、自然御弓矢出来之時、亀嵩及籠城程之儀侯者、御一人被差出、一丸預申、萬事可遂相談侯、乍恐、吉田之御端丸と被思召、被付御心侯而可被下事」(『毛利家文書』)と記されており、亀嵩城を吉田郡山城の端丸と考えてほしいと述べている。

天正17年(1589)に三沢為虎が毛利氏によって安芸に移されると、同19年(1591)には毛利氏の命により冷泉元満が仁多郡で3,058石を宛行われ亀嵩城に入れ置かれた。慶長の役に毛利輝元に従って朝鮮に出陣していた元満が慶長2年(1597)に蔚山で戦死すると、翌3年には子の惣四郎元珍に元満の遺跡が安堵されている。以後、慶長5年(1600)まで元珍が亀嵩城に居城していたようである。

城跡は南北約250m、東西約150mを測る中規模の山城である。その構造は曲輪の中心部に一段高く天守台を思わせるような櫓台を構えた主郭を配し、南北に延びる尾根筋に一直線上に曲輪が構えられている。主郭の西北方向に延びる尾根筋にも2段の曲輪が配されている。これらの曲輪は尾根を削平しただけのもので、石垣はもちろん土塁も一切設けられていない。さらに尾根筋を切断する堀切も認められない。ただ、主郭の東に延びる尾根筋にのみ、主郭直下を堀切っている。こうした構造からは亀嵩城が戦国時代後半の発達した城郭ではないことが読み取れる。

三刀屋城、赤名瀬戸山城、富田城の支城に共通する特徴は、石垣によって築かれた城であるという点である。慶長5年(1600)頃の築城はこれら3城に限らず、全国的に石垣による築城が主流を占めている。支城も同様で、筑前の黒田氏領六端城や、安芸・備後の福島正則の支城群も石垣によって築かれている。

こうした構造より、現在知られる亀嵩城は三刀屋城、赤名瀬戸山城、富田城と同じ構造の支城とは評価できない。



亀 嵩 城

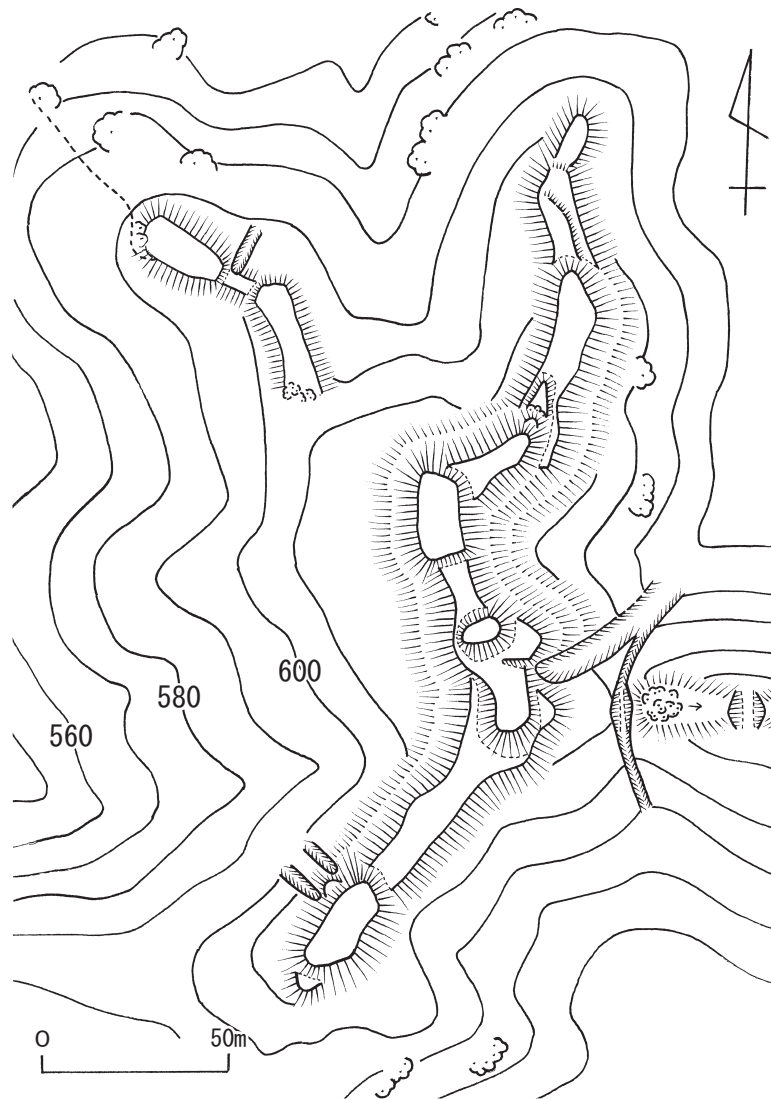


図2 亀嵩城跡概要図（中井均作成）

三沢城の歴史と構造

それでは亀嵩城に替わる支城の可能性のある城跡は存在するのであろうか。慶長5年（1600）以降の築城であれば、確実に石垣を伴う城である。そこで出雲において石垣の存在する城跡は三刀屋城、赤名瀬戸山城、富田城を除くと、三沢城にのみ認められることが判明した。

三沢城は、要害山城とも呼ばれる山城で、仁多郡奥出雲町三沢に所在する、標高418.5mの通称要害山の山頂部に位置している。

城主の三沢氏は承久の変で戦功のあった信濃の飯島弘忠が出雲三沢郷の地頭職を得て、その孫為長が乾元元年（1302）に当地へ下向し、当時鴨倉山と呼ばれていた要害山に城を構え、三沢氏を称したと伝えられている。

三沢氏は明徳の乱によって守護山名氏の勢力が一掃されると、応永32年（1425）頃より隣接する横田庄にも進出し、鉄の生産と流通を掌握して出雲最大の国人となる。その後、永正6年（1509）に藤ヶ瀬城に居城を移すが、三沢城は支城として存続している。天正17年（1589）に三沢為虎が安芸に移されると、三沢城も廃城になったと考えられる。

城跡は南北約360m、東西約300mを測る巨大な山城である。その構造は山頂部にほぼ同じ高さで主郭と、巨大な堀切を挟んで北側には副郭が備えられている。主郭は通称本丸と呼ばれ、副郭は鳥居ヶ丸と呼ばれている。主郭の西側一段下には岩棚郭と呼ばれる曲輪が構えられ、その南辺には長大な土塁が廻り、主郭直下には土塁を開口させ虎口が設けられている。

主郭の南東に派生する尾根筋は4段にわたって削平され、曾根ノ郭と呼ばれている。副郭とこの曾根ノ郭に挟まれた谷筋が大手口と見られ、山腹には巨大な曲輪が配され、枡形状の虎口が構えられている。

副郭の北側には巨大な堀切が構えられ、その外側の尾根筋にも曲輪が階段状に設けられている。さらに副郭の東北に延びる尾根筋の先端には十兵衛成と呼ばれる一郭が構えられている。副郭から伸びる尾根を掘り切り、土塁を巡らせた十兵衛成は、その先端部に堀切を設け、周囲には横堀を巡らせており、独立した出城の様相を呈している。

曾根ノ郭の先端に位置する神ノ木垣も山腹に構えられた曲輪で、長大な土塁線と豎堀によって南東尾根筋を防御している。

この三沢城の最大の特徴は大手曲輪の正面を石垣によって築いていることである。ここは大手門と呼ばれ、枡形状の虎口であったようで、その正面には人身大の巨石を用いた高石垣が築かれている。この虎口から主郭に至る登城道はつづら折れとなっているが、その側面も石垣によって築かれている。



三沢城大手石垣

なお、城跡山腹には御納戸垣内、座頭屋敷、成田屋敷、四日市などの通称地名が残されており、城下の存在したことを示唆している。

横田方面への支城は存在したか

さて、寛永10年の出雲国絵図に記された「古城」標記が、堀尾氏時代の支城を示すものであれば、亀嵩城跡が支城となるが、みてきたように亀嵩城の構造は戦国時代の山城であり、慶長5年以降の城に認められる斉一性が認められない。



三沢城登城路の石垣

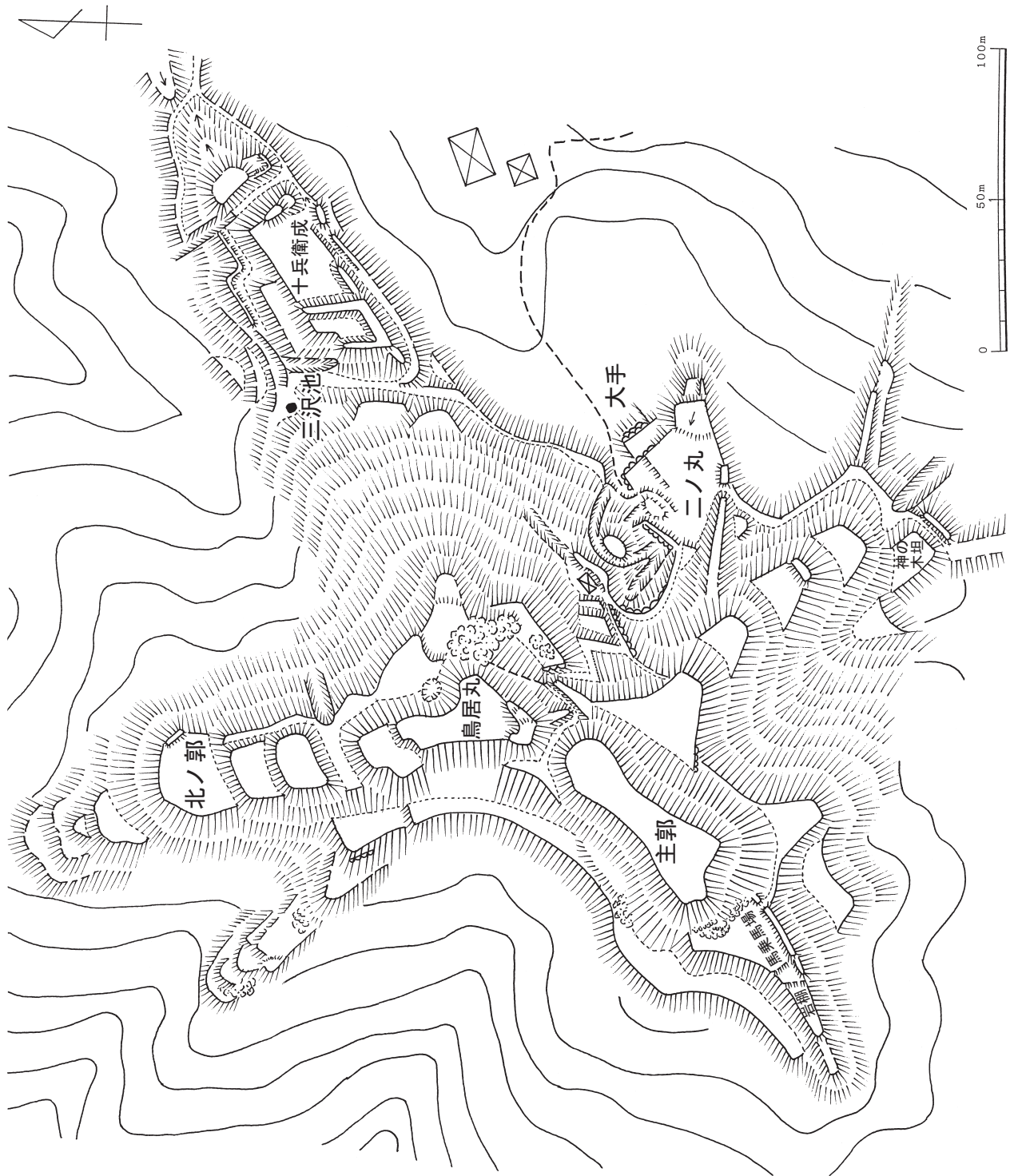


图3 三沢城概要図（中井均作図）

一方、三沢城では大手虎口には出雲では慶長以降に築かれた堀尾氏の本・支城にしか導入されていない石垣が認められる。ところが、石垣はこの大手部分と登城道にしか認められず、山上の曲輪群には一切設けられていない。三刀屋城、赤名瀬戸山城では、山上の曲輪群を石垣によって築いているのとはまったく逆であり、この大手石垣をもって支城とは断定できない。さらにその石垣の構造も三刀屋城、赤名瀬戸山城とは大きく異なっている。三刀屋城の石垣石材には矢穴が認められることより、矢穴技法によって切り出された石材を用いていることが判明している。赤名瀬戸山城の石垣石材にはほとんど矢穴は認められないものの、築石にはほぼ同じ大きさの粗割石材を用い、出隅部は長方形の石材を交互に積み上げる算木積となっている。

ところが三沢城大手石垣は、自然石を積む野面積で、出隅部には巨石を用いるものの、算木積とはならない。その構造は一見して三刀屋城や赤名瀬戸山城の石垣に比べ、古式な様相を呈している。

しかし、三沢城以外に奥出雲周辺で石垣を用いた城はなく、この古式の様相は年代差を示すものではなく、工人差を示すものとみてよいだろう。ここではその構築を堀尾氏の入国とみておきたい。

なお、西尾氏らによる絵図調査では、寛永10年の出雲国絵図のうち東京大学総合図書館蔵図では、三沢、白鹿と想われる場所に山城らしい描写の存在を指摘されており、三刀屋などの4城とは別に存続していた可能性が考えられる。

ところで、亀嵩城に関する史料である、「仁多郡中湯野村雲龍山覚融寺書出帳写」を今一度分析すると、「亀嵩之城一覽之上ニテ丹後（備後カ）、伯耆之境目自然諸国動乱之節御番衆為被入置為御用意当寺御建立」とあり、備後・伯耆国境に位置する亀嵩城に番衆を入れ置くために覚融寺が建立されたのである。つまり亀嵩城を根底から増改築したのではなく、山麓に寺院を建立して、亀嵩城は詰城として利用する目論見であったと解釈できる。

こうした亀嵩城は、支城としては三刀屋城や赤名瀬戸山城、富田城とは違った利用であった。備後、伯耆の境目として、国境警備はおこなうものの、領域支配としての支城ではなく、戦国期の山城を改修しなかったものと考えられる。

では、三沢城の大手石垣はどう理解すればよいのであろうか。石垣はもちろんのこと、十兵衛平の構造も戦国時代の三沢氏時代に築かれたものではないようである。この三沢城も山城部分に改修は認められず、山麓部にのみを改修したものである。おそらくこちらも亀嵩城とともに国境警備の城として改修されたものと考えられる。備後からの街道は王貫峠を越えて、三成を通って松江に至る。その三成で街道を挟んで両側に国境警備として堀尾氏によって支城となったのが、亀嵩城と三沢城であったのではないだろうか。つまり、2城が対となって機能していたわけである。山頂部の山城は改修せず、山麓部に寺院を建立して、番兵の駐屯地にしたり、あるいは山腹の大手曲輪に石垣を構え、山腹を改修して支城としたのであろう。このため幕府への提出絵図には、亀嵩城を支城として描き、三沢は山城らしき描写としたのではないだろうか。

なお、西尾氏らによる古絵図の分析によれば、寛永15年（1638）の出雲国絵図では、古城の標記が富田、赤穴、亀嵩、三沢、白鹿、真山、和久羅山、桧ヶ仙、平田、鶯ヶ巣、藤ヶ瀬の11ヶ所に増えているという。これは天草のキリシタン一揆後に幕府がより古城に敏感となった表れと指摘している。この絵図作成では亀嵩城と三沢城の両城跡が記載されている。より厳しい幕府の古城政策に、堀尾氏は亀嵩と三沢両城跡を記したのではないだろうか。

おわりに

横田地域は備後、伯耆の国境であり、慶長5年（1600）に出雲に入国した堀尾吉晴父子にとっては、福島正則領（備後）、中村一忠領（伯耆）と接しており、支城を築く必要のあったことは明らかである。その役割を担ったのが戦国時代に城の構えられていた亀嵩城と三沢城であった。両城の構造は支城として改修された三刀屋城、赤名瀬戸山城、富田城の構造と大きく異なるものであった。それは領域支配をも担った3城と、国境警備のためにのみ設けられた亀嵩、三沢両城との差ではなかったかと考えられる。

そして、幕府に提出した絵図には同等に古城と記したのであろう。そこには2城を支城として古城としたのではなく、1城でもって報告したのであろう。そして三沢は城跡らしい描写で済ませたのである。しかし、島原の乱後の古城に関する幕府の過剰な把握に対して、三沢城も古城として記載されたのである。

このように亀嵩城と三沢城を分析することによって、支配の核となる支城と、国境警備の支城に構造の差の存在したことを明らかにできたのではないだろうか。

最後になりましたが、三沢城跡の踏査に同行していただいた山根正明先生、亀嵩城跡の踏査に同行いただいた西尾克己先生、松江市史料編纂室の稲田信室長、福井将介氏に厚くお礼を申し上げて拙稿を終わりたい。

なお、富田城と隠岐に関しては次回に報告したい。

注

- (1) 中井均 2012「堀尾氏の出雲支配における支城について(1)―三刀屋尾崎城―」『松江城研究』1 松江市、中井均 2013「堀尾氏の出雲支配における支城について(2)―赤名瀬戸山城―」『松江城研究』2 松江市
- (2) 西尾克己、稲田信、福井将介 2014「江戸幕府収納の出雲国絵図に記された「古城」について」『松江歴史館研究紀要』第4号 松江歴史館
- (3) 島根県教育委員会 2001『島根県中世城館跡分布調査報告書 1 出雲編』

（なかい ひとし 滋賀県立大学人間文化学部教授）

いわゆる「松江城築城物語」に関する再検討

佐々木倫朗・福井将介

はじめに

松江城は、平成27年（2015）7月8日に国宝に指定された。今回の国宝指定は、昭和10年（1935）に当時の国宝保存法によって国宝（いわゆる旧国宝）に指定されていたものの、昭和25年の文化財保護法の施行に伴って重要文化財に名称変更されて以来の国宝指定であり、地域の住民、松江市、ひいては島根県域に住む人々にとって、様々な面において大きな意味を持つものと思われる。

しかし、翻って松江城自体の築城や城下町の建設に関わる事実の解明についてみると、十分な進捗をみていないように思われる。その理由は、松江城の築城と城下町の建設を行った堀尾氏が、堀尾忠晴の死去により寛永10年（1633）に改易となってしまい、一次史料を含む多くの関係史料が消滅ないし散逸してしまったことが大きな理由である。そのため、現在行われている『松江市史』編纂において、史料の収集に努めているが、未だ十分であるとは言い難い状況である。

史料的な状況が、このような状況にあるため、今日伝えられたり、現在において書かれている松江城築城に関する様々な著述は、堀尾氏の改易後に記された文献史料などを用いて書かれたものである。著述に用いられた多くの史料は、堀尾氏の改易後に記された文献である二次史料であるため、それらは歴史叙述に用いる場合慎重な史料批判が必要である。そのため、二次史料を中心に用いて書かれた松江城築城にまつわる著述は、いってみれば「松江城築城物語」とでも呼ぶべきものであると思われる。

しかし、現代において、松江城ないし松江という町を語る場合に、この「松江城築城物語」は欠かすことのできないものになっているのも一面の事実である。そのため、この「松江城築城物語」が、どのような文献資（史）料を用いて著述されてきたのかを確認すると共に、その上で、数少ない築城時の一次史料と照らし合わせることを通じて、「松江城築城物語」の中に歴史的な蓋然性を確認していく作業を行うことは重要な事柄であると思われる。

本稿は、以上のような視点から、いわゆる「松江城築城物語」を検討するために、「物語」の祖型となったと思われる『島根縣史』の叙述を確認し、その検討を通して「松江城物語」の歴史的蓋然性について検討していきたい。

1. 『島根縣史』にみる「松江城築城物語」

松江城の築城と城下町の建設に関して、最初に本格的な検討を加えた文献として挙げられるのが、『島根縣史』第9篇^{（注1）}（以下、『縣史』と略す）の叙述である。『縣史』は、野津左馬之助氏を中心に大正10年（1921）から昭和5年（1930）にかけて編纂されたもので、綿密な史料調査によって編まれたものとして今日でも一定の評価が与えられている。『縣史』は、松江城の築城についても多くの文献資（史）料を用いて記述している。そして、『新修松江市誌』^{（注2）}・『松江城』^{（注3）}・『松江城物語』^{（注4）}にも影響を与える等、後に刊本として発刊される様々な「松江城築城物語」の祖型となった叙述であると考えることができる。この『縣史』の松江城築城に関わる叙述を検討してみたい。

まず煩雑となるが、『縣史』の松江城築城に係る記述を、『島根縣史』第8巻第1章第3節第2項「千鳥城造築と松江開府」から要点を抜粋すると、次の通りである。

- ①慶長5年(1600)11月、堀尾吉晴が、出雲に入部する。
- ②富田城は、出雲・隠岐支配に不適當と認め、吉晴は移城の志を起こす。
- ③吉晴・忠氏親子は、松江市の床几山に上り洗合山と極楽寺山に着眼し、忠氏の意見により末次郷極楽寺山を新たな城地と定めた。
- ④堀尾氏は、城地移転を將軍秀忠に出願し、許可を得たのは慶長8年である。
- ⑤慶長9年に堀尾忠氏は死去して、忠氏の子忠晴が家督を継承した。
- ⑥慶長16年には、古晴が死去した。堀尾氏三代の事業によって松江城は竣工した。

イ、開府以前の松江

- ⑦須衛都久社は、千鳥城築城の際に元権現町に移され、後に現社地に移された。
- ⑧戦国時代に、末次氏が後の千鳥城山に末次城を構えたが、毛利氏に滅ぼされた。末次城では尼子復興戦での激しい争奪が行われた。
- ⑨(⑨・1)城山は、末次郷亀井田村にあることから、(⑨・2)亀田山、(⑨・3)または極楽寺山と通称する。
- ⑩(⑩・1)亀田山には須衛都久神社のほか、(⑩・2)宇賀宮三所の荒神等の社があったが、(⑩・3)築城の際奥谷春日神社域及び御細工所に移した。
- ⑪亀田山の北裾部は赤山に連続し、南裾部末次橋付近には法眼寺がある。山中及び両裾部には農家漁家が点在した。
- ⑫南田町の辺りは、千鳥城築城時に塩見畷の堀を造った土で埋め立てた。

ロ、千鳥城構築と其城下

- ⑬築城にあたって、古晴は洗合山を推したが、忠氏は、城の規模が大きく成りすぎることを指摘し、白潟と松江の渡しの二箇所で大手を守ることができ、搦手は菅田・赤崎・奥谷は左側に深田があり、右側に沼道の小筋があるだけである。そして更に西側の洗合山と鶴ヶ崎に出城を設けて防備を固め、大内谷・国谷に軍勢を置いておけば、左側は宍道湖、右側は沼沢地で、敵方が軍勢を入れる拠点を置く場所がない。また、城の後方は山続きで、白髪城に近く、白髪城に物見を置いておけば防御は堅いであろうと、亀田山を推す意見を示した。
- ⑭慶長9年に忠氏が病死すると、吉晴は、重臣達に幕府の許可を得たことと忠氏の遺志を尊重して、亀田山への築城を指示した。
- ⑮小瀬甫庵が築城設計にあたる縄張りを行ったと言い伝える
- ⑯吉晴は、加藤清正と共に築城に熱心で、諸国に城地の視察をなす密使を派遣したという伝承がある。
- ⑰吉晴は、「普請上手」の評判が高く、それは家臣の稲葉覚之丞の功績によるが多かった。吉晴の普請は、「堀尾普請」といわれ、秀吉にも評価されていた
- ⑱吉晴は、築城に必要とする石材を、宍道湖中の嫁ヶ島、川津・大井・大海崎、意宇郡矢田山から搬出した
- ⑲(⑲1)城山と赤山の間の中野山を削って塩見畷の大濠を造った。(⑲2)運搬した土の量はおよそ三万立法坪に及んだ。(⑲・3)此の土で南田町と中原の沼沢地を埋め立てた。
- ⑳吉晴自身、工事着手と同時に亀田山に出向き、仮殿を城山の北部の高地、通称上御殿跡に造った。仮殿が完成すると、富田城の留守居を堀尾河内に任せ、自身で夫人と共に工事を督励した。
- ㉑幹線道路の整備を行い、慶長13年にカラカラ橋を長さ八十四間の木橋に改修した。
- ㉒慶長12年(工事着手:初年度)の春に、伊予屋庄兵衛の屋敷を基準として南北に天神町中町の町割り、侍屋敷として殿町・母衣・内中原の三町を造成し、本丸・二之丸の地均しを行った。

- ②③工事着手にあたり、築城係と巡検番とを設けた。築城係は、重臣をもって総奉行にあて、その下に濠方、石垣方、大工方、運送方の四奉行を任命した。そして、四奉行の下に所務を行う頭領が配置された。また、巡検番を置き、諸所に大番所を設けて番士に見張りをさせた。仕置等の重臣は、野袴着用で工事を巡視した
- ②④第2年度(慶長13年)は、本丸石垣工事・天守の土台石垣・内濠工事に着手した。
- ②⑤第3年度(慶長14年)は、天守閣の建造、二之丸坂口・大手枳形・正面濠石垣・三之丸御殿の建築に着手した。
- ②⑥第4年度(慶長15年)は、天守閣・城の濠・三之丸が竣工した。
- ②⑦第5年度(慶長16年)は、全部の侍屋敷が完成し、全武士の移転が完了した
- ②⑧ (②⑧・1)初年度(慶長12年)に設計した殿町・母衣町・内中原の侍屋敷は、翌年十月に竣工しており、武士の一部は既に引っ越しを行っている。(②⑧・2)堀尾古記慶長13年の条に「一、松江越 十月二日」とあるのはこれに当たる。
- ②⑨城石垣の工事にあたっては、吉晴夫人(大方夫人)が献策した労役奨励法を実行したという。また、吉晴夫人は自身でも工事を督励したという。
- ②⑩慶長12年に工事に着手し、慶長16年冬中頃によりやく落成を遂げた。
- ②⑪西・北面の外郭に石垣が用いられていない理由は、武家法度の公布と、築城費の欠乏によるとする。しかし、本丸・二之丸・三之丸がほぼ竣工したのを見て吉晴も満足したという
- ②⑬a 慶長11年10月23日、松江城築城のための移転
- ②⑬b 慶長16年正月吉日、天守完成の祈祷(祈祷札)

2. 近世・近代の文献資(史)料との比較検討

1. では煩雑ながら、『縣史』にみえる松江城築城に関わる内容を抽出してみた。ここでは、その抽出した内容を、『縣史』が執筆に用いたと考えられる近世・近代の文献資料との比較検討を行っていきたい。表1が、現在把握されている一次史料も含めた文献資料と前述の内容を比較した表である。

まず現代の代表的な松江城の築城に関して扱った文献として、『新修松江市誌』(表中のNo. 53、以下表中のNo. を略す)と河合忠親氏の『松江城』(54)、島田成矩氏の『松江城物語』(55)について確認したところ、『新修松江市誌』においては14の項目で、『松江城』では23の項目、『松江城物語』では18の項目で●が記されている。●は、凡例に示したように、直接『縣史』に引用されていないが、同じ内容が記された文献を指しており、記述の内容が重なっていることを示している。これら現代の文献に『縣史』の叙述と重なりが多いことは、『縣史』をこれらの文献が参考に叙述されたことを示し、『縣史』がいわゆる『松江城築城物語』の祖型になっていることを示している。

次に近代の文献に目を移すと、一見してわかることは、昭和4年(1929)に刊行された『縣史』に先行して刊行された『出雲栞』(44)^(注5)と『千鳥城築城とその城下』(45)^(注6)の●の多さである。『出雲栞』は●が13の項目、『千鳥城築城とその城下』は実に24もの項目に●が記入され、記述の内容が重なっていることがわかる。このことから、約25年先行して刊行された両書、とくに『千鳥城築城とその城下』の叙述内容が、『縣史』の叙述に大きく参考にされて影響を与えていることが窺われる。そして、その影響は、表の右側である内容の⑩以降の項目で顕著である。

近代以前の史料においては、「千鳥城取立古説」(21)は9の項目に、「雲陽誌」(26)は8の項目に、「雲陽大数録」(30)が12の項目に●がみえ、『縣史』の史料的な根拠になったことを予想させる。とくに「雲陽誌」は、『縣史』に叙述を直接的に引用された箇所が1箇所存在すると共に、それ以前に存在した史料

にみられない内容で『縣史』と内容が一致する項目が2箇所存在しており、直接的に参考にされていたことがわかる。

「雲陽大数録」も、それ以前の史料にみられない叙述で内容が一致している項目が四箇所あり、かつ、その内で1箇所(⑩)の項目は、他の史料・文献に叙述がみられないため、やはり『縣史』が直接的に参考にしていることがわかる。

元禄年間(1688～1703)以降に成立したとされる「千鳥城取立古説」は、『出雲栞』に収録されていることも『縣史』が参考にすることに影響した可能性が高い。『出雲栞』かつ『縣史』と内容が一致した項目は7と多い。また『出雲栞』と一致しない項目で、『縣史』と一致する項目もあるため、『縣史』が、『出雲栞』を参考にすることで「千鳥城取立古説」を直接的に参照した可能性があるものと思われる。

次に元禄年間以前の史料をみていくと、『縣史』が「堀尾古記」(15)を参照していることが注目できる。「堀尾古記」は、堀尾氏の一族で後に松平家に仕えた堀尾但馬が記した記録である。「堀尾古記」は、『縣史』と4箇所の項目で内容が一致すると共に、直接的に1箇所の引用(28・2)を行っている。「堀尾古記」は、『縣史』を執筆した野津左馬之助氏によって再発見された史料であり、典拠となる史料を求める野津氏の丹念な『縣史』執筆姿勢を窺うことができる。

また、万寿寺に所蔵されたとされる「雲州松江城之縁起」は、近代以前において、松江城の築城をめぐる典拠として重要な役割を果たしていたものと考えられる。この縁起は、寛文9年(1669)の年記を持つもので、堀尾氏が改易された寛永10年(1633)から36年しか時が過ぎていない時期に書かれたものである。また寺の開基は、円成寺と同じ春龍玄済が行っており、吉晴が春龍和尚を崇敬して篤かったといわれ、堀尾氏と縁のある寺院でもある。そのため、縁起に書かれた内容は、多くを語るものではないが、近世に編纂された史料類と内容が一致している項目が多い。

その意味で、この縁起が記した、慶長12年着工から16年竣工に至る4年間の築城説は、基本的に後の史料や文献に継承されと考えられ、近世の『雲陽誌』・『雲陽大数録』、近代の『出雲栞』・『千鳥城築城とその城下』に受け継がれ、『縣史』に継承されたと考えることができる。また、円成寺に所蔵され、同じ寛文9年(1669)の年記を持つ「雲州松江城之事書」も、同様の説を記しており、堀尾氏改易から比較的年月がたっていない時期に作成された二つの史料がこの説をとっており、築城4年間説は、史料的な状況が変わらない限り継承すべきものと思われる。

以上のように、近世・近代の文献資料と『縣史』との関わりを検討してきた。その結果、確認できたことをまとめておくこととする。

『縣史』の叙述内容に関して、先行して叙述された『出雲栞』と『千鳥城築城とその城下』の影響が強い。とくに築城の具体的な工程を示す⑩以降の内容については、後者に依拠する面が多い。工程の具体的な内容に関しては、先行する典拠とすべき史料が存在しないこともあって、叙述内容に関して慎重な扱いが必要である。

しかし、『縣史』は、近代の文献にばかり依拠したのではなく、江戸時代の享保年間(1716～1735)に著された『雲陽誌』や『雲陽大数録』も共に参照しており、近代の文献よりも重視された箇所がある。

また、『縣史』編纂の段階で明らかとなっていた史料ばかりでなく、「堀尾古記」に代表される典拠史料を発掘し、それに基づいて執筆する姿勢が窺える。

3. 史料にみる築城期の松江

一・二において『島根縣史』の叙述と近世・近代の文献資料との比較検討を行ったが、この節では、一次史料の内容から築城期の松江について検討してみたい。

(1) 史料よりみた『松江城築城物語』

ここでは、一次史料から『縣史』の叙述内容を検討してみたい(以後の数字は、一でみた叙述内容の番号に一致する)。

①の堀尾氏の出雲・隠岐入国について、『縣史』においては、慶長5年(1600)11月とする。これについて示す史料に「堀尾古記」がある。9月15日の関ヶ原の戦いを経た10月10日段階で、徳川氏と毛利氏の和解が成立し、近畿・中国地方の状況が鎮静化し、毛利氏の周防国と長門国の二国への減封が決定した。これを受けた東軍大名の知行割の内容を伝える10月晦日付けの久代景備書状^(注7)には、「堀信濃殿へハ出雲・隠岐両国被進候事」とあり、堀尾忠氏に出雲・隠岐両国が与えられたことが記されている。このことから考えれば、堀尾氏の入国は、11月前後に行われた可能性が高く、信憑性は高いと考えることができる。

②の堀尾氏が、富田城を領国支配の拠点として不適当な立地と考えたことについては、具体的な論拠を示す史料は存在しない。しかし、慶長6年(1601)極月段階で、富田城において出雲大社に関する訴訟が行われていたことが、極月廿三日付けの出雲大社社中連署証文^(注8)からわかる。また慶長9年にも、富田において千家・北島家の両国造家の争論が行われていたことが確認できる^(注9)。さらに、「堀尾古記」には、慶長六年の項に「忠氏様御上洛、五月十八日富田御立」の記載があり、慶長十年の項にも、「吉晴様御上洛、正月廿四日ニ富田御立」、「三之介様御帰国、五月十一日 京方富田へ帰城 七月廿四日」とある。従って、少なくとも、慶長六年段階では堀尾氏は富田城を本拠としており、慶長10年段階までそれが継続していたことを確認できる^(注10)。

④の城地移転を将軍徳川秀忠に出願して許可を得たのは慶長8年であるとする説については、現在のところ明確な根拠となる史料は存在せず、検証が必要であり、確認は今後の課題である。

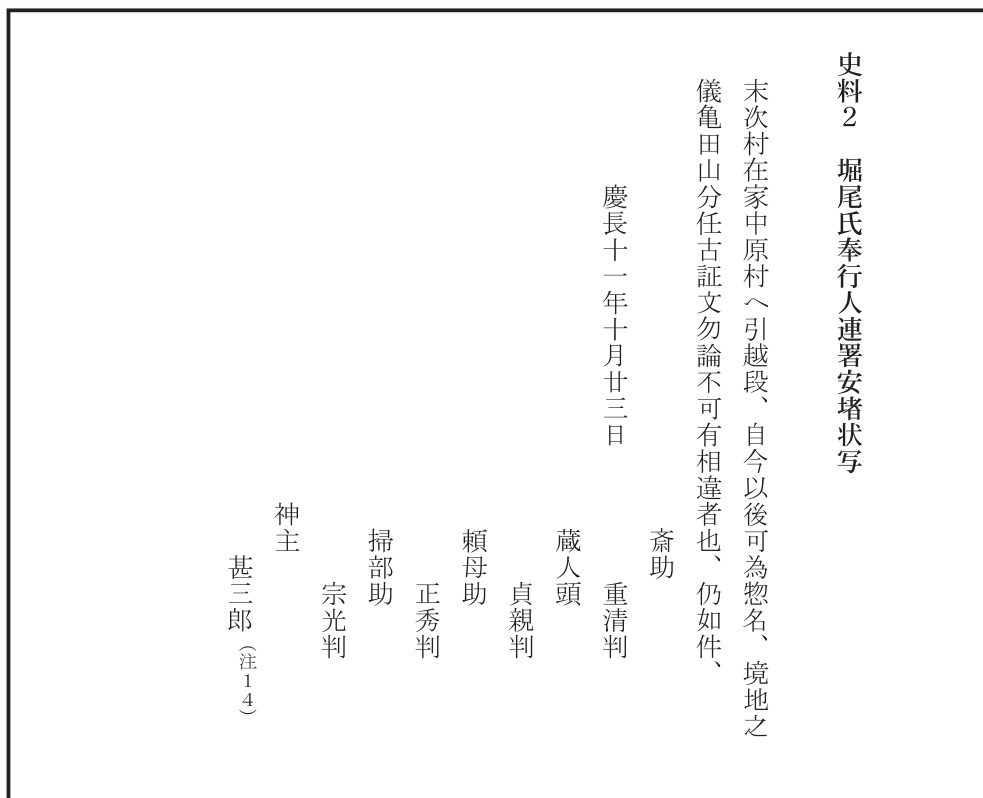
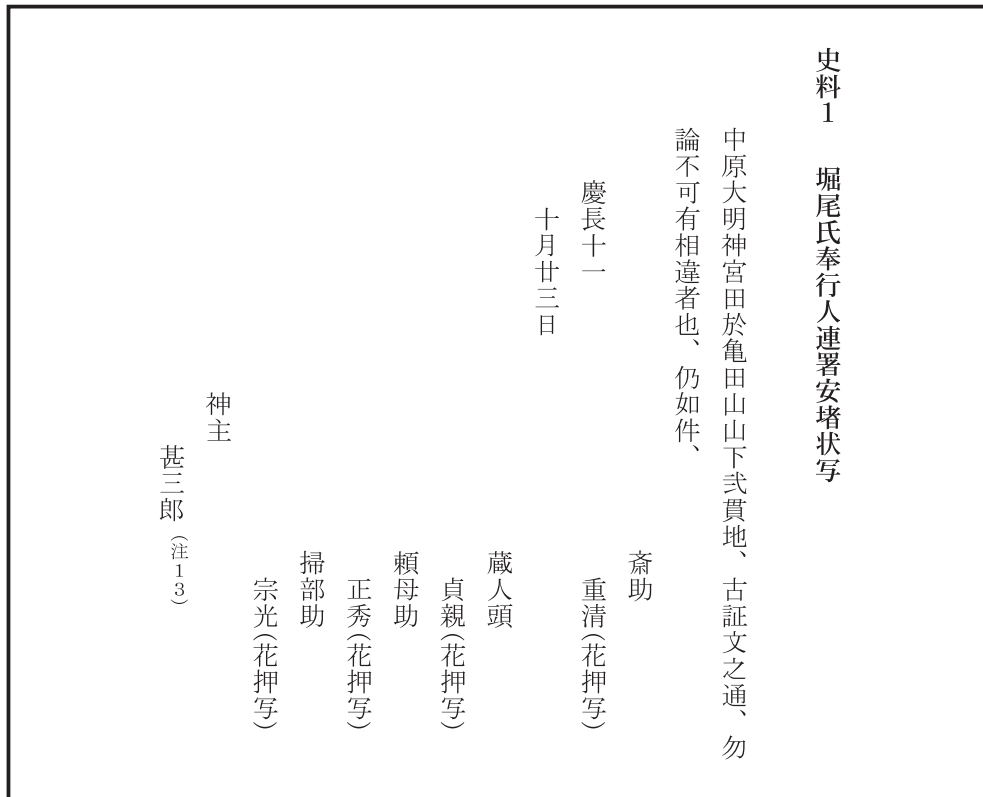
②から⑳の工事の具体的な過程を記した箇所であるが、これについては、多くが「千鳥城取立古説」に記されるのみの叙述が多く、一次史料では確認できない。再度の慎重な検証が必要である。

しかし、㉑の慶長12年に工事が着手され、慶長16年に竣工されたとする説については、寛文年間(1661～73)という比較的松江城が建設されてまだ年月がたっていない段階で作成された史料である「雲州松江城之縁起」と「雲州松江城之事書」に根拠となる文言が確認できる。両史料ともに、築城の期間について、「権輿于同丁未、落成于辛亥」^(注11)と記している。この年次については、堀尾氏が出雲・隠岐を支配していた年代から考えれば、「丁未」は慶長12年、「辛亥」は同16年に比定することができる。おそらく、この二つの史料が慶長12年から16年にかけての築城説の根拠となったと考えられるが、これらの史料の内容を否定する根拠となる史料は現在でも確認されていない。また、それは一次史料で確認した富田城在城の時期と齟齬しないため、慶長12年から16年にかけての築城説は、現在においても継承すべきものと思われる。

そして、近年再発見された慶長16年正月吉日日付の松江城天守祈祷札⁽¹¹⁾は、松江城天守が慶長16年正月以前に完成していたことを示す一次史料である。祈祷札には、その釘穴の一致から天守の柱に打ち付けられた痕跡が存在している^(注12)。城の完成・落成をどのように定義するかは諸説があると思うが、祈祷札は、少なくとも慶長16年正月段階には天守が完成していたことを示している。その祈祷札の存在も、先にみた慶長12～16年築城説を裏付けるものである。

(2) 松江城築城以前の城下周辺の状況

ここでは、番号を特に記さないが、松江城建設以前の城下周辺の状況について考えてみたい。そのことに関わる史料として、次の二つの文書に注目することができる。



村に居住していたと考えられる。

また中世後期になると、末次荘は、その地名を名字の地とする末次氏が支配するようになっており、中原分・森分に大きく分けられるようになっていたとされる^(注20)。そして、その中原分・森分を名字の地としたと考えられる中原氏と森氏も、天文23年(1554)前後と考えられる史料から確認されている^(注21)。永禄6年(1563)12月には、毛利元就が末次平右衛門尉に「末次森分之内四分一之事」の充行を行い、かつその充行には「市屋敷其外之儀」等の權益が含まれていた^(注22)。「森分」に「市屋敷」が含まれていることは重要であり、少なくとも市が定期的に開かれる場をもとは末次荘であった地域は内包していることを確認することができる。

そして、長谷川博史氏が、『松江市ふるさと文庫15 中世水運と松江 城下町形成の前史を探る』^(注23)に明らかにされたように、城下町松江の成立する以前に内海水運の物流拠点として、現在の末次本町周辺の地域は、港湾として機能し始めていたと考えられる。

それを踏まえて論点を整理すると、今までみてきたように、亀田山の南の末次、西側の中原・黒田という地域に人が居住している状況が確認された。そのことを考慮すると、史料3にみえる「亀田村」は、亀田山の東側、現在の殿町周辺に存在した可能性が高いと考えられる^(注24)。この見解は、『市史 通史編中世』と同様の理解に立つものであるが、鎌倉期より亀田山周辺に人が居住し、生活していたことは城下町建設の事実を検証していく上で確認されねばならない事実である。

史料2の「末次村在家中」が中原村に引っ越しを行うことから考えれば、史料2の「末次村」と史料3の「亀田村」は、同一ないし重なりあう可能性が高いが、時代的な違いもあって史料的な検証が未だ不十分であり、両者の関係の追求は、これからの検討課題としたい。

そして、近年松江市スポーツ振興財団埋蔵文化財課は、市道の拡幅工事に伴って城下の発掘調査を行っているが、『縣史』で湿地帯とされていた場所の一部で水田跡が発見されている^(注25)。併せて、城下町建設以前の末次周辺のイメージの再検討の必要を示している。

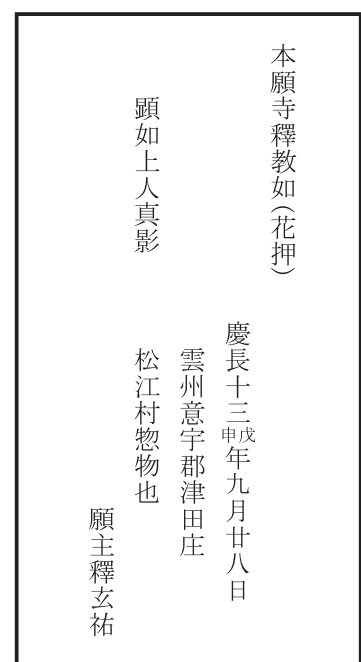
また長谷川氏は、前著および『市史 通史編中世』において、中世後期における白湯地区の町場形成の状況を明らかにしている。末次・白湯という松江の城下町の中心となった地域の、築城の前提となる状況について『縣史』段階のイメージを今後改めて検討していかなければならない。

4. 松江の地名の由来について

この項では、『縣史』の内容に捉われず、松江の地名の由来に関して新たに確認された資料について紹介したい。

松江市の松江という地名の由来に関して、様々な説が存在するが、市内に所在する西光寺(和田見町)に所蔵されている顕如上人肖像の裏書に次のような文言が確認できる。

松江の地名の由来には、堀尾吉晴や、その帰依した春龍玄済禅師が関わった説があるが、この裏書から、築城2年目にあたる慶長13年(1608)に「松江村」という地名が使われていたことがわかる。記載からは「津田庄 松江村」とあるため、城下町全体を指す語なのかどうかは不明だが、「堀尾古記」の13年10月2日の「松江越」の記載と併せて検討が必要である。「堀尾古記」は、堀尾但馬によって後年に書かれた記録であり、一次史料として扱うには取り扱いが難しい史料だが、併せて検討していく必要がある。また、『縣史』⑬に傍線部で示したが、



『縣史』にも堀尾氏入国以前から松江の地名が存在したことを示唆する「白潟と松江の渡し」という語句がみられ、「松江の渡し」をどの地を指すのかも含めて、併せて検討していく必要がある。

結びにかえて

『島根縣史』に記されている内容の検討を中心にしながら、いわゆる『松江城築城物語』について検討してきた。以下、その検討についてまとめてみたい。

『縣史』の叙述に関しては、その前段階で叙述された『出雲栞』や『千鳥城築城とその城下』の影響が強い。とくに具体的な築城の工程を記す箇所については、後者の影響が強く、その具体的な内容について、典拠とすべき史料がないこともあり、叙述内容に関しては史料批判を伴った再検討が必要である。

また、城が慶長12年から築城が開始され、慶長16年に竣工したとする説については、一次史料が存在せず、明確な典拠は存在しないが、寛文年間という比較的松江城が建設されて年月がたっていない段階で作成され、堀尾氏との関係の深い二つの寺院で伝えられた「雲州松江城之縁起」と「雲州松江城之事書」に記されていることから、現在の史料的状況においては否定すべきものとは思われない。また、再発見された慶長16年正月吉祥日付の松江城天守祈祷札(11)は、松江城天守が16年段階で完成していたことを示し、上の事実を裏付ける史料である。

次に、松江城築城以前の末次・白潟周辺の状況については、『松江市史』編纂の過程で多くの史料の収集と分析が行われ、中世段階からの集落や町場が存在し、内海流通の拠点として機能した事実が明らかにされてきている。また、このことは、発掘の成果においても裏付けられる事実である。現段階の研究成果から考えれば、城下町以前の状況を過小評価する『縣史』の叙述に基づく「松江城築城物語」は、大きく改められる必要がある。

以上のように、中間報告的なものに過ぎず不十分と思うが、本稿では、いわゆる「松江城築城物語」の検討を行ってきた。その過程で、「松江城築城物語」の祖型となった『島根縣史』の叙述の誤りを指摘することが多かった。しかし、確認しておきたいことは、今回の検討が『縣史』の意義について聊かも減ずるものではないことである。むしろ約80年前に編纂されていながらも、「堀尾古記」の史料的発掘にみられるように、史料に基づきながら真摯に松江城の築城の状況を明らかにしようとしたその編纂の姿勢と叙述は高く評価されるべきものと思われる。むしろ、現段階においてこのような再検証が必要となったことが示すように、批判されなければならないものは、『縣史』編纂の姿勢を継承して松江城築城の状況という歴史的事実の追求を怠っていた自分達も含めた後学の徒であるように思う。その意味で、今回の検討を出発点として、今後も築城の状況の事実を追求することを継続した課題としていきたいと思う。

注

- (1)『島根縣史』九卷(島根県学務部島根県史編纂掛編、1929年)
- (2)『新修松江市誌』(松江市、1962年)
- (3)河合忠親『松江城』(山陰文化シリーズ28、松江今井書店、1967年)
- (4)島田成矩『松江城物語』(山陰中央新報社、1989年)
- (5)小笹昌栄『出雲栞』(1901年)
- (6)『千鳥城築城とその城下』(1906年)
- (7)久代景備書状(大関家文書、『松江市史』史料編7「近世Ⅲ・5」所収)
- (8)出雲大社社中連署証文(千家文書、『松江市史』史料編7「近世Ⅲ・16」所収)
- (9)慶長十一年十一月二六日付千家元勝直書(千家文書、『松江市史』史料編7「近世Ⅲ・27」所収)・慶長十三年八月晦日付別火祐吉誓文(千家文書、『大日本史料』12-2所収)
- (10)「堀尾古記」には、慶長十一年の項に「七月廿日御帰城」とあるが、地名が明記されていない。

- (11)「雲州松江城之縁起」(『松江市誌』、松江市、1941年)・「雲州松江城之事書」(円成寺蔵)
- (12)卜部吉博「松江城天守創建時の祈祷」(『松江城研究収録』2、松江市、2015年)
- (13)阿羅波比神社文書(東京大学史料編纂所影写本)
- (14)阿羅波比神社文書(「宝暦十四年甲申控」(「阿羅波比神社文書」12『松江市内寺社史料調査目録』)所収)
- (15)九条家文書(『松江市史』史料編「中世Ⅰ」・161所収)
- (16)千家家文書(『松江市史』史料編「中世Ⅰ」・196所収)
- (17)山城東福寺文書(『松江市史』史料編「中世Ⅰ」・251所収)
- (18)東福寺領出雲末次荘領家方年不開田数注文(東福寺文書『松江市史』史料編「中世Ⅰ」・572所収)
- (19)東福寺文書(『松江市史』史料編「中世Ⅰ」・561所収)
- (20)長谷川博史『松江市ふるさと文庫15 中世水運と松江 城下町形成の前史を探る』、松江市教育委員会、2013年)
- (21)東福寺領出雲国末次荘公文起請文(東福寺文書『松江市史』史料編「中世Ⅱ」・1031所収)
- (22)毛利元就知行宛行状写(伯耆志所収末次家文書『松江市史』史料編「中世Ⅱ」・1164所収)
- (23)前掲注(20)参照
- (25)『松江城下町遺跡発掘調査報告書3(第7ブロック7-1区5面)』(松江市教育委員会・松江市スポーツ振興財団、2014年)

[本稿は、主として本文は佐々木倫朗が、文献史料の整理(「表1」など)は福井将介が担当したもので、平成27年7月24日に行った「「松江城築城物語」に関する文献史料検討会」(松江市史編集委員会松江城部会主催)での検討成果を反映したものである。(参加者:西尾克己、山上雅弘、佐々木倫朗、和田嘉宥、岡崎雄二郎、西島太郎、川上昭一、小山泰生、稲田信、福井将介、石塚晶子、内田文恵、北村久美子、小山祥子)]

表1 「松江城築城物語」に関する史料一覧

[illegible]

凡例：◎築城当時の史料に見えるもの。○『島根県史』に直接引用された史料。●直接『島根県史』に引用されていないが、同じ内容が記されたもの。▲『島根県史』とは別の内容で伝わったもの。

表2 一次的史料にみる松江城築城関連記事編年表

No.	西暦	(和暦)	月	日	内 容	史 料 名	備考 (根拠となる記述部分を抜粋)
			9	15	関ヶ原の戦い		
1	1600	慶長5	10	晦日	堀尾氏出雲国領有情報	(慶長5年) 10月晦日付久代景備書状	堀信濃殿へハ出雲・隠岐両国被遣候事
			11		堀尾氏出雲国入国	堀尾古記	出雲御入国 十一月
2	1601	慶長6	12	24	富田で堀尾氏に対して疎意の無いことを伝える	慶長6年極月24日付出雲大社社中連署証文	今度慶證於富田何様之被言上候哉
			5	18	忠氏上洛(富田立つ)	堀尾古記	忠氏様音上洛、五月十八日富田御立
	1602	慶長7	2		主膳が富田を見廻る	堀尾古記	主膳様富田へ御見廻、二月
						堀尾古記	忠氏様八月四日ニ御遠行
3			8	4	忠氏死去	高野山奥之院・堀尾忠氏石塔	「為前雲州太守正四位堀尾」「忠氏朝臣天袖世球大居士」「施主慈父堀尾帶刀殿」「慶長九年八月四日歿白」
						堀尾家譜系(春光院蔵)	九年甲辰八月四日ニ卒ス歳廿八
			10	28	三之助初上洛(富田立つ)	堀尾古記	三之助様初而御上洛、十月二十八日富田御立
					大方上洛	堀尾古記	大方様御上洛、但三之助様初而御上洛被成ニ付
6					富田に奉行所	慶長11年11月26日付千家元勝覚書	慶長9年両國造相論、富田奉行所に別火祐吉召出
7					富田に奉行所	慶長13年8月晦日付別火祐吉誓文	慶長9年両國造相論、富田奉行所に我等式被召寄、
			1	24	吉晴上洛(富田立つ)	堀尾古記	吉晴様御上洛、正月二十四日ニ富田御立
					三之助御目見	堀尾古記	三之助様伏見ニテ初而御目見、卯月二日伏見御立
			5	11	三之助帰国(富田へ)	堀尾古記	三之助様御帰国、五月十一日
			7	24	吉晴帰城(富田へ)	堀尾古記	吉晴様 京より富田へ御帰城、七月二十四日
			7	20	吉晴か 帰城(富田へか)	堀尾古記	御帰城
4			10	23	移転(中原大明神富田、亀田山山下式貫地を古証文の通り安塔)	慶長11年10月23日付堀尾家奉行人連署安塔状写	中原大明神宮田於亀田山山下式貫地古証文之通勿論不可有相違者也、仍如件
5			10	23	移転(末次村在家の中原村への移転について亀田山分も古証文に任せ安塔)	慶長11年10月23日付堀尾家奉行人連署安塔状写	末次村在家中原村へ引越段、自今以後可為惣名地境之儀亀田山分任古証文勿論不可有相違者也、仍如件、
8			9	28	雲州意宇郡津田庄松江村が見える	慶長13年9月4日付顕如上人肖像裏書	慶長十三戊申年九月二十八日 雲州意宇郡津田庄 松江村惣惣也
			10	2	松江越し	堀尾古記	松江越、十月二日
						堀尾古記	堀尾勘解由果ル、極月五日京ニテ
9			12	5	堀尾勘解由死去	親子観音内宝篋印塔	「慶長十三年」「十二月五」「桂口院殿祥雲世□大居士」
10						高野山奥之院・堀尾勘解由石塔	「桂岩院殿祥雲世□大□□」「慶長十三年十二月□日」
11			1	吉日	松江城天守完成時の祈禱	慶長十六年在銘松江城天守祈禱札(二枚)	「慶長十六曆」「正月吉祥日」(如意珠經)、「慶長拾六年」「正月吉祥□」(大般若經)
						堀尾古記	此年から小姓衆上り番吟味研 吉晴様衆ノ日□ステニナル
			2	5	忠晴江戸へ(松江立つ)	堀尾古記	山城様初而江戸御立、二月五日に松江御立
			5	2	忠晴帰城(松江城へ)	堀尾古記	五月二日ニ御帰城
12			6	15	富田の城安寺を移したとする瑞應寺建つ	慶長16年季夏15日瑞應寺棟札(写:「須田主殿」調査ノート)	
						堀尾古記	吉晴様御遠行、六月十七日
			6	17	吉晴死去	堀尾家譜系(春光院蔵)	十六年辛亥六月十七日可晴卒ス歳六九
	1612	慶長17	3	11	忠晴、江戸へ(松江御立)	堀尾古記	忠晴様江戸御下、三月十一日松江御立、七月八日ニ御□・・・
13	1615	元和1			松江	元和元年正月吉日付越後頭宛女房書状	まつ江 御天神への國中長久祈念を依頼。
	1619	元和5	9		堀尾河内隠岐へ流される	堀尾古記	九月ニ河内を隠岐へ被遣
	1628	寛永5	1	19	堀尾河内死去	堀尾古記	隠岐ニテ河内被仰付、正月十九日
						堀尾古記	山城様ハ廿日ニ御果被成候
						養源寺・堀尾忠晴石塔	「為圓成院殿前雍州太守」「高賢宗肖大居士」「琢磨功用如何」「一跳直入妙來地」「唱」「寛永十龍集癸酉」「九月廿日」「歿白」
	1633	寛永10	9	20	堀尾忠晴死去	高野山奥之院・堀尾忠晴石塔	「寛永十天」「出雲隠岐両国太守光堀尾」「為圓城院殿」「高賢宗肖」「大居士追善」「山城守高階朝臣忠晴御来」「九月二十日」

松江城および周辺遺跡出土瓦の胎土分析について

白石 純

1. はじめに

この胎土分析では、自然科学的手法により山陰地域の織豊期以降の近世城郭等で出土した瓦を分析した。これまでの山陰地方の瓦分析では、松江城下町遺跡を中心とする瓦の分析結果より、松江城と富城および富田河床出土の瓦は、胎土的に類似し、米子城の瓦とは異なっていることが推定されていた⁽¹⁾。

今回の分析目的は、松江城本丸事務所西中層より出土した松江城宝珠A類と同範と判断される軒平瓦が、富田城、佐太前遺跡、江美城で出土している⁽²⁾。そこで、この同範瓦の胎土を比較することで、瓦と範のどちらが移動したのか検討した。

2. 分析方法と試料

分析は蛍光X線分析法で行い、胎土の成分（元素）量を測定し、その成分量から分析試料の差異について調べた。測定した成分（元素）は、 SiO_2 、 TiO_2 、 Al_2O_3 、 Fe_2O_3 、 MnO 、 MgO 、 CaO 、 Na_2O 、 K_2O 、 P_2O_5 の10成分である。

なお測定装置・条件・試料は以下の通りである。

測定装置:SEA5120A（エスアイアイ・ナノテクノロジー社製）を使用した。

測定条件：X線照射径2.5mm、電流50～200mA、電圧50kV/15kV、測定時間300秒、測定室は真空の条件で測定した。

測定元素：10成分の定量値は地質調

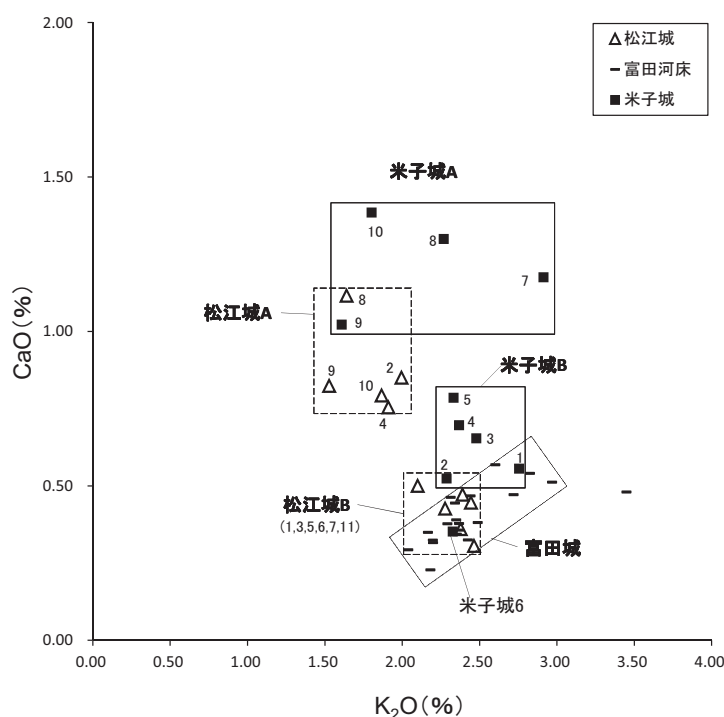


図1 各遺跡出土瓦の比較

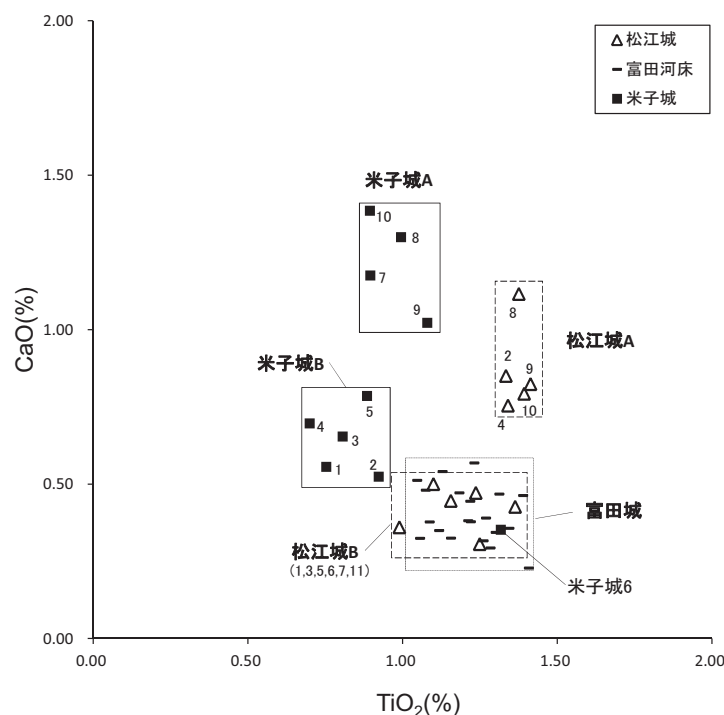


図2 各遺跡出土瓦の比較

査所の標準試料JA-1（安山岩）、JG-1a（花崗岩）、JR-1（流紋岩）、JB-1a（玄武岩）、JF-1（長石）の5個の試料を用いて検量線を作成し、定量値を算出した。

測定試料：分析試料は、瓦表面の汚れを除去後（研磨機）、乾燥した試料を乳鉢（タングステンカーバイト製）で粉末（100～200メッシュ）にしたものを加圧成形機で約15^トの圧力をかけ、コイン状に成形したものを測定試料とした。したがって、一部破壊分析である。

分析結果の比較（差異）は、有意な差がみられる成分を横軸と縦軸にとり散布図を描き、瓦に差異があるか検討した。

分析した瓦は、表1に示してある45点の瓦（軒平・丸・平）である。

3. 分析結果

今回の分析に先立ち、2011年に報告した松江城下町遺跡出土の瓦分析では、16世紀末から19世紀後半までの時期について検討した。ここでは、16世紀末から17世紀代の瓦について再検討する。

図1 K₂O-CaO・図2 TiO₂-CaO散布図は、松江城、米子城、富田城より出土した軒丸瓦、軒平瓦の比較を行った散布図である。両散布図とも松江城、米子城の瓦がそれぞれ2つに分かれた。松江城はCaO成分が多い松江城A（試料番号2・4・8・9・10）と少ない松江城B（試料番号1・3・5・6・7・11）で、米子城はCaO成分が多い米子城A（試料番号7・8・9・10）と少ない米子城B（1・2・3・4・5）である（図7参照）。そして、松江城Bと富田城が重なり、胎土が類似していた。また、米子城出土の試料番号6の軒平瓦（図7米-06）は、松江・富田城が分布する領域に入り、米子城の瓦とは胎土が異なっていた。

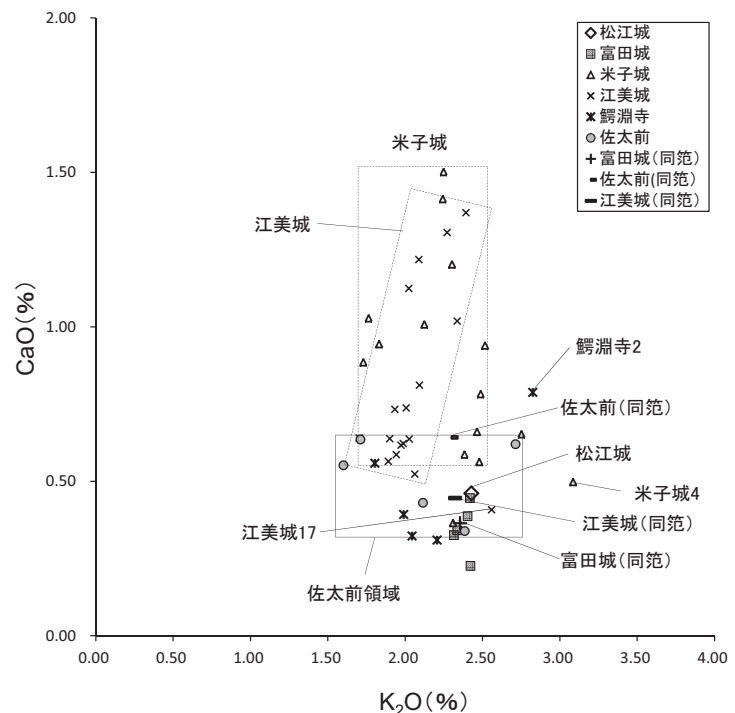


図3 松江城と同範瓦の比較

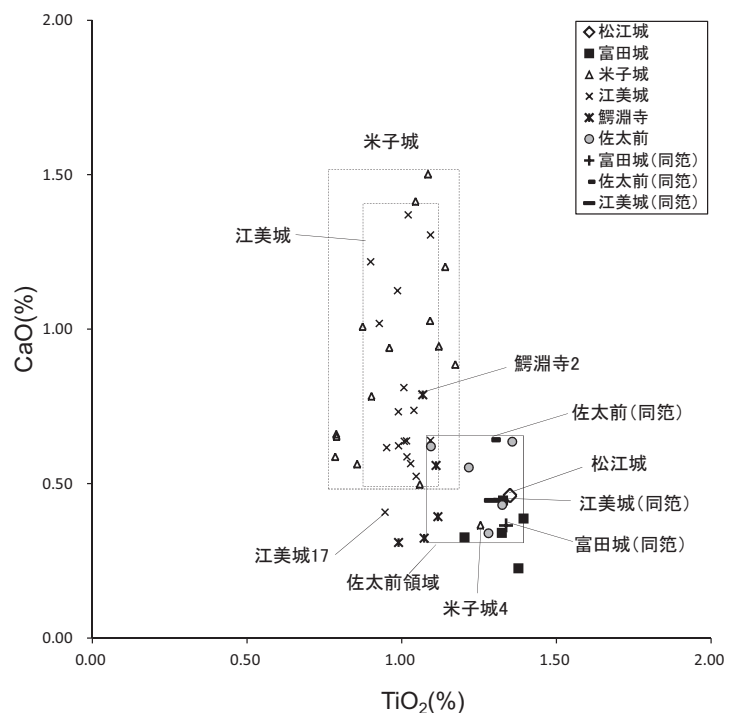


図4 松江城と同範瓦の比較

次に今回の分析目的である松江城と同範瓦が出土した富田城、江美城、佐太前の各遺跡との比較では、図3の K_2O - CaO 散布図、図4の TiO_2 - CaO の散布図から、松江城、富田城、江美城の同範瓦は同じ胎土で一つにまとまった。ただ、佐太前のものは他に比べ少し離れて分布したが、他の佐太前の瓦が松江城のものと胎土が類似していた。また、米子城4と江美城17の瓦が、松江・富田城の領域に、鰐淵寺2の瓦が米子・江美城の領域にそれぞれ分布した。

図5の K_2O - CaO 、図6の TiO_2 - CaO は各遺跡の比較を行った散布図である。この図から米子城と江美城の瓦の分布域がほぼ重なり識別はできないが、その他の松江城、富田城、佐太前遺跡、鰐淵寺とは胎土が異なっていた。特に図6の TiO_2 - CaO では TiO_2 量が約1%以下で、 CaO 量が約0.5%以上に米子城、江美城が分布し、松江城、富田城、佐太前、鰐淵寺が TiO_2 量が約1%以上で、 CaO 量が約0.5%以下に分布している。

4. まとめ

以上のように、山陰地域の織豊期以降の近世城郭瓦の胎土分析を行った結果、以下のことが推定された。

(1) 富田城、江美城、佐太前の各遺跡から出土している松江城と同範瓦は、同じ胎土であることが推定された。また米子城4と江美城17の瓦は、胎土的に松江城、富田城の瓦と類似し、鰐淵寺2は米子城、江美城と類似していた。

(2) 各城跡および遺跡出土瓦の胎土を比較したところ、米子城と江美城出土の瓦が胎土的に類似していた。

また、その他では、松江城、富田城、佐太前遺跡、鰐淵寺もほぼ一つにまとまった。なお松江城出土瓦には、図1・2で述べたように2つの胎土に分かれるようである（松江城AとB）。

このように、今回の分析では、米子城、江美城と松江城B、富田城、佐太前遺跡、鰐淵寺と松江城A

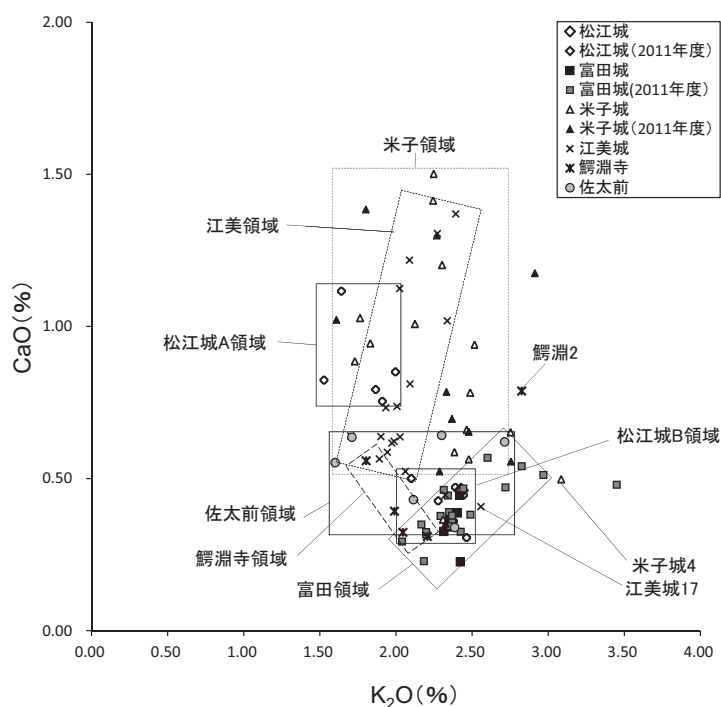


図5 各遺跡の比較

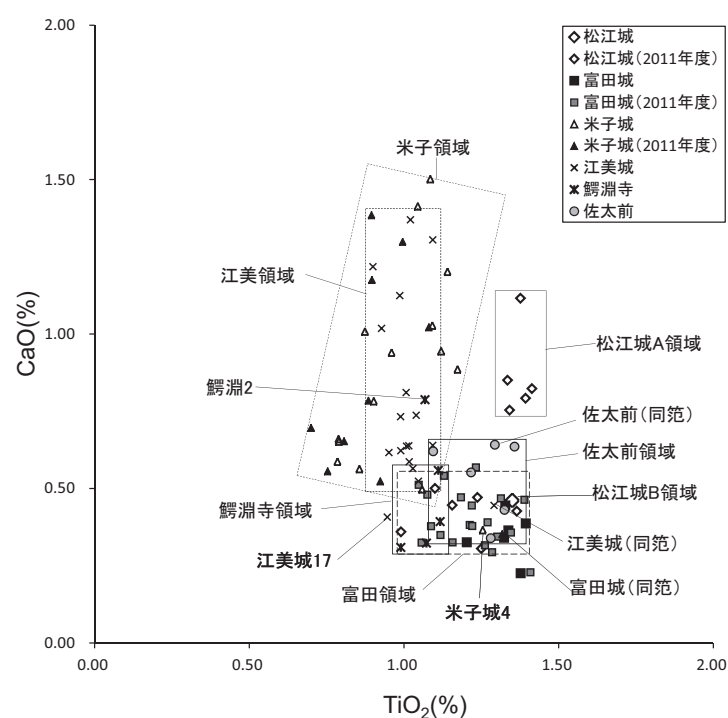


図6 各遺跡の比較

の大きく3つの胎土に分類できた。

この胎土分析による分類結果より、考古学的な検討で何か言えるのか。また今後、生産地との比較検討することで瓦の産地を推定することも必要である。

この胎土分析を実施するにあたり、以下の方々にお世話になった。記して感謝いたします。

西尾克己、岡崎雄二郎、乗岡 実、花谷 浩、佐伯純也、稲田 信、川上昭一、福井将介（敬称略）

注

- (1) 白石 純 2011「松江城下町遺跡ほか出土土器の胎土分析」『松江城下町遺跡（殿町287番地）・（殿町279番地外）発掘調査報告書』松江市埋蔵文化財調査報告書第139集
- (2) 乗岡 実 2015「松江城の屋根瓦 ―山陰で活躍した瓦工と城郭整備―」『松江市歴史叢書8（松江市史研究6）』松江市

（しらいし じゅん 岡山理科大学教授）

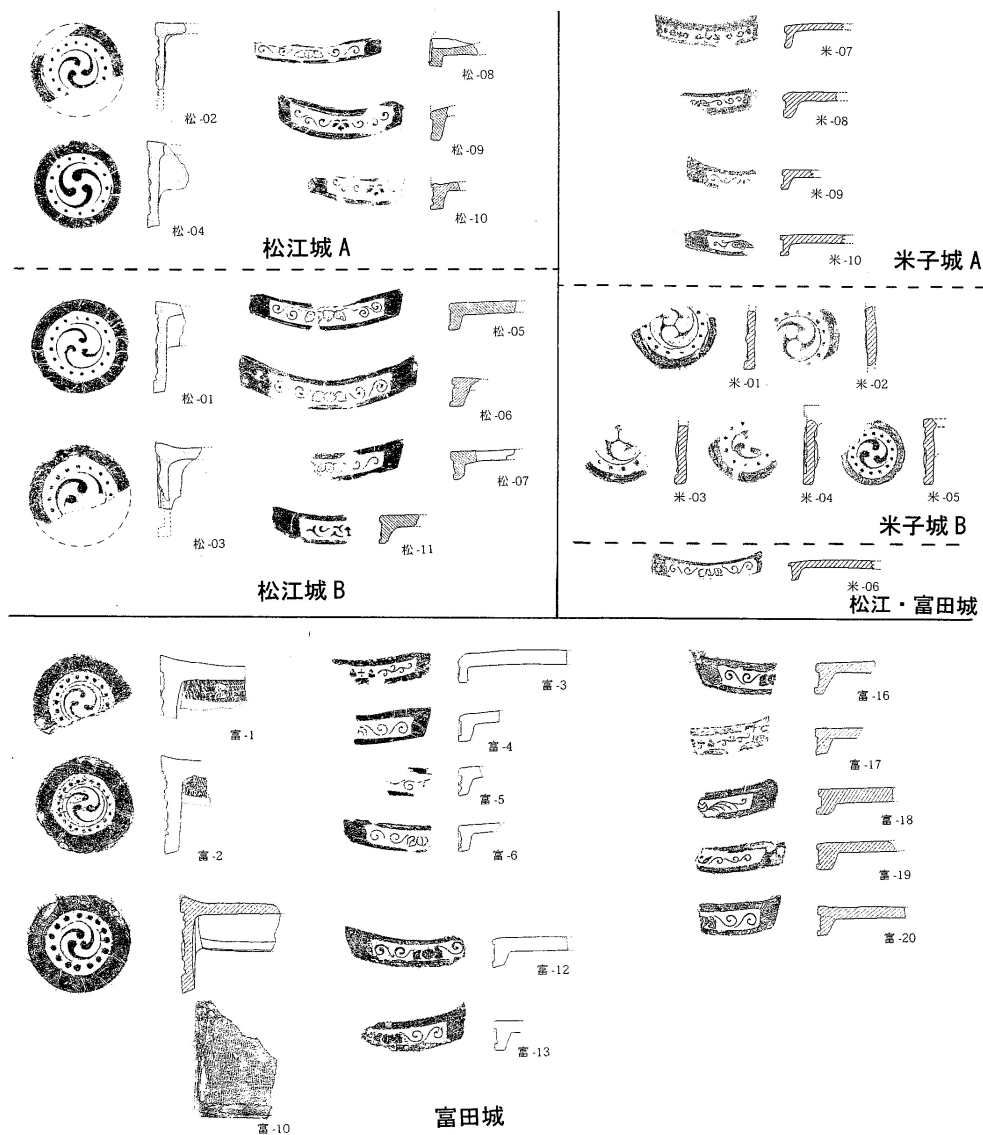


図7 胎土分析した瓦の実測図

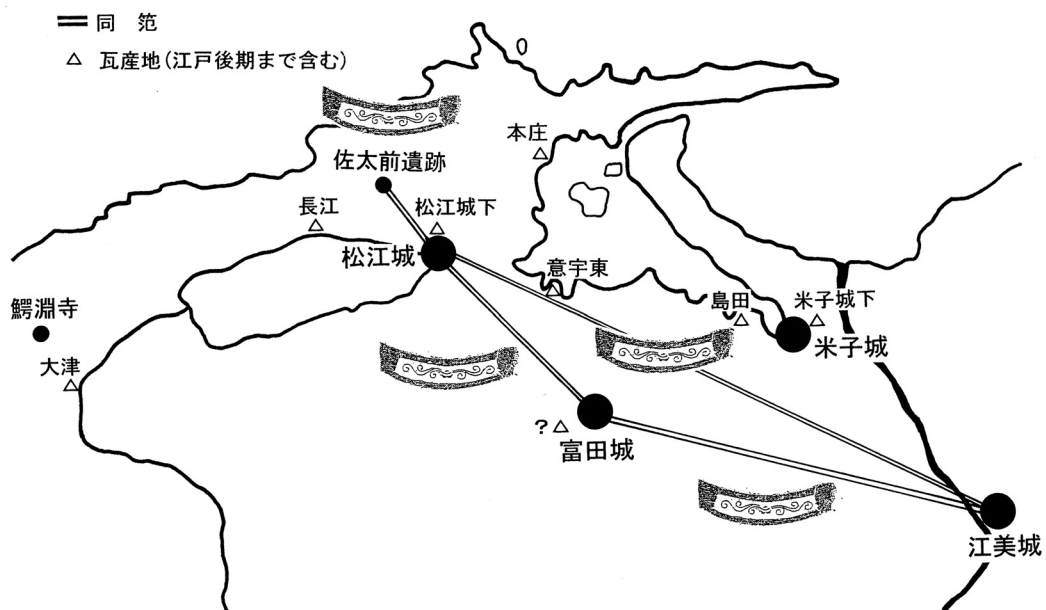


図8 胎土分析した同範瓦の分布図（乗岡2015より一部改変）

表 1 瓦の胎土分析一覧表 (%)

番号	遺跡名	出土地区	分類1	分類2	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	備考
1	松江城①	松江城本丸事務所西中層 瓦No.4 960725			70.33	1.35	16.88	6.59	0.00	1.22	0.46	0.58	2.43	0.06	
1	富田城①	富田城本丸西帯曲輪T2一括2000〔今2〕	T8	第41図 A-3類	65.84	1.33	17.89	8.53	0.11	2.13	0.45	1.16	2.42	0.05	
2	富田城②	千鳥平T-4 131003	T12	第15図19	70.56	1.38	17.83	5.36	0.00	2.03	0.00	2.42	0.07		
3	富田城③	富田城三ノ丸南T-1 9812001 細38	T9	第15図21	68.49	1.20	16.75	8.84	0.07	1.84	0.33	0.00	2.32	0.05	
4	富田城④	富田城三ノ丸南T-8上口 981221	T7	第28図126、第41図B-2類	65.92	1.39	17.21	10.25	0.04	1.37	0.39	0.90	2.40	0.04	
5	富田城⑤	千鳥平T-4 131226	T11		70.87	1.34	16.81	6.64	0.07	1.40	0.36	0.00	2.35	0.04	松江城と同範
6	富田城⑥	富田城三ノ丸南表土一括 000228	T4	第41図A-1類 今13	71.51	1.32	16.53	6.60	0.04	1.16	0.34	0.00	2.34	0.04	
1	佐太前①	佐太前H区ネコ道下 跡生黒色包含層 040334			70.11	1.29	16.85	5.81	0.08	1.67	0.64	0.73	2.30	0.41	松江城と同範
2	佐太前②	佐太前H区南坂張部BD-1面 灰色粘土010402	佐太前Z360	丸瓦B①	66.68	1.22	16.91	8.83	0.17	2.40	0.55	1.49	1.60	0.04	
3	佐太前③	H区深堀り GL-2.0cm 090308	H-3中	丸瓦③	73.08	1.32	15.93	5.86	0.07	1.07	0.43	0.00	2.11	0.04	
4	佐太前④	佐太前H区 中世包含層P-1 090308		丸瓦A	70.22	1.09	17.73	4.67	0.06	1.93	0.62	0.83	2.71	0.04	
5	佐太前⑤	H区2面中世包含層(一)S2-6 090308	H-3中	丸瓦B②	68.62	1.36	16.82	7.68	0.13	1.50	0.64	1.11	1.71	0.30	
6	佐太前⑥	H区南坂張区 2面 南坂209 灰色粘土 090402	H-7中		72.75	1.28	15.89	6.39	0.04	0.76	0.34	0.01	2.39	0.04	
1	米子城①	YJ H区 2001.08.02	ウ-28		70.60	1.08	18.90	5.20	0.00	0.30	1.50	0.01	2.25	0.04	
2	米子城②	YJ H-2区 2001.08.02	ウ-27		70.01	1.04	17.94	4.41	0.01	1.67	1.41	1.13	2.24	0.04	
3	米子城③	YJ H-2区 2001.08.02	大3		70.62	1.14	17.99	4.83	0.00	0.87	1.20	0.91	2.30	0.04	
4	米子城④	YJG内ぜん丸K区(2区) 2001.11.16 H13シクツ			71.41	1.25	16.11	6.58	0.08	1.73	0.37	0.00	2.31	0.05	
5	米子城⑤	YJG内ぜん丸K区(口区) 2001.11.16 H13シクツ			72.66	0.87	16.80	5.03	0.00	0.74	1.01	0.55	2.12	0.06	
6	米子城⑥	YJG内ぜん丸K区(2区) 2001.11.16 H14シクツ			66.40	1.17	20.22	7.87	0.11	1.44	0.89	0.00	1.73	0.04	
7	米子城⑦	YJH区坂張区 2001.08.02	ウ-8		73.13	0.90	16.11	4.64	0.04	1.13	0.78	0.49	2.49	0.25	
8	米子城⑧	YJJ区 2001.08.03	ウ-12		66.31	1.12	19.64	6.99	0.00	2.35	0.94	0.66	1.83	0.04	
9	米子城⑨	YJG-1区 2001.07.03	ウ-16		77.09	0.79	14.97	3.82	0.00	0.26	0.59	0.00	2.38	0.04	
10	米子城⑩	YJE区 T4区本丸下 2001.07.03	ウ-1		74.87	0.79	16.14	4.14	0.01	0.37	0.66	0.43	2.46	0.05	
11	米子城⑪	YJE区 T4 本丸下 2001.07.03	ウ-12		73.88	0.79	17.99	3.32	0.03	0.45	0.65	0.00	2.75	0.04	
12	米子城⑫	YJT米子御門坂張分			74.24	0.96	16.24	3.51	0.00	0.09	0.94	0.02	2.52	1.38	
13	米子城⑬	YJE区T2本丸下 2001.07.03	ウ-24		75.51	0.86	15.69	4.41	0.00	0.36	0.56	0.02	2.48	0.04	
14	米子城⑭	93 イグイ			68.95	1.06	16.69	7.05	0.19	2.35	0.50	0.00	3.09	0.04	
15	米子城⑮				67.68	1.09	18.40	6.56	0.11	2.24	1.03	1.02	1.76	0.04	
1	江美城①	大-1	1	No.9 実測図(2)の24の瓦 1998. 4. 4	74.01	0.93	15.57	4.43	0.04	1.05	1.02	0.46	2.34	0.06	
2	江美城②	大2	K-1, H-9	EBJ 大-2, 2	70.52	0.90	17.63	4.64	0.00	1.72	1.22	1.15	2.09	0.05	
3	江美城③	大3	H-1	EBJ 大-3, 3	72.02	1.09	17.13	4.56	0.03	0.66	1.31	0.77	2.27	0.05	
4	江美城④	大4		EBJ 大-4, 4	64.92	1.02	20.22	8.62	0.09	2.38	0.59	0.00	1.94	0.05	
5	江美城⑤	大5		EBJ 大-5, 5	64.67	1.09	20.99	8.60	0.07	2.06	0.64	0.00	1.70	0.05	
6	江美城⑥	大6		EBJ 大-6, 6	66.87	1.02	19.04	7.79	0.08	2.50	0.64	0.00	1.90	0.04	
7	江美城⑦			EBJ 大-7, 7	66.09	0.99	19.27	8.19	0.11	2.54	0.62	0.00	1.99	0.04	
8	江美城⑧	大8		EBJ 大-8, 8	63.55	0.99	20.71	8.48	0.10	2.67	0.73	0.70	1.93	0.04	
9	江美城⑨	大9		EBJ 大-9, 9	65.03	1.03	19.54	8.15	0.11	2.87	0.56	0.71	1.89	0.02	
10	江美城⑩			EBJ 大-10, 10	66.73	1.05	18.78	8.58	0.10	2.09	0.52	0.00	2.06	0.02	
11	江美城⑪	大11		EBJ 大-11, 11	66.11	1.04	19.46	8.25	0.11	2.16	0.74	0.00	2.01	0.02	
12	江美城⑫	大12		EBJ 大-12, 12	70.52	0.99	18.03	4.52	0.04	1.60	1.12	1.02	2.02	0.03	
13	江美城⑬	大13		EBJ 大-13, 13	65.95	0.95	18.67	7.89	0.08	2.83	0.62	0.94	1.97	0.03	
14	江美城⑭	大14		EBJ 大-14, 14	65.86	1.01	18.87	7.82	0.08	2.56	0.81	0.73	2.09	0.03	
15	江美城⑮	大15		EBJ 大-15, 15	66.28	1.01	19.17	8.34	0.12	2.32	0.64	0.00	2.03	0.03	
16	江美城⑯	大16 江美		EBJ 大-16, 16	71.73	1.02	17.57	4.33	0.00	0.60	1.37	0.80	2.39	0.04	
17	江美城⑰	大17		EBJ 大-17, 17	71.46	0.95	17.11	6.84	0.13	0.41	0.41	0.00	2.56	0.06	
18	江美城⑱	大18 江美城		EBJ 大-18, 18	71.10	1.29	16.84	6.31	0.04	1.14	0.45	0.30	2.32	0.04	松江城と同範
1	鰐淵寺①	卍28志楽120201(分布48)			69.85	1.11	14.51	8.59	0.10	2.50	0.56	0.85	1.80	0.04	
2	鰐淵寺②	卍和多坊表土中(和多42)	O-5	凹のみ	70.56	1.07	14.95	8.43	0.07	2.43	0.32	0.00	2.05	0.04	
3	鰐淵寺③	卍A51表採120315(分布51)	E-4		68.16	1.12	15.65	9.59	0.11	2.81	0.39	0.00	1.99	0.06	
4	鰐淵寺④	卍A-26表採120117(分布40)	E-5		69.80	0.99	15.06	7.77	0.10	3.04	0.31	0.54	2.21	0.06	
5	鰐淵寺⑤	卍A13表採1121214(分布32)	H-3		70.93	1.07	16.70	4.43	0.08	2.13	0.79	0.90	2.83	0.05	

松江市域の絵図・地図目録（中間報告）

大矢幸雄・和田嘉宥

『松江市史』史料編11「絵図・地図」の編集作業は、平成22年8月より正式にスタートした。当面は、江戸時代に絵画的手法により描かれた絵図と明治になって近代的測量技術による地図を調査対象として、その所蔵目録を作成することとした。また、別編1「松江城」に掲載予定の絵図（城郭図・城郭建物図）についても目録として加えた。その場合、以下のような配慮を行った。

- ① 絵図・地図の内容を(1)日本図・島根県図、(2)国絵図、(3)郡村図、(4)城下絵図、(5)市街・交通図、(6)屋敷図、(7)街道・水運図、(8)地形図、(9)城郭図、(10)城郭建物図の10分野に区分する。
- ② 絵図名、年代（制作年、書写年など）、寸法、作成技法や下地の種類、縮尺、版元などの情報を入力するように努める。
- ③ 絵図・地図部会で年代（制作年、書写年など）を確認した絵図は、年代の前に☆印をつけて他と区別した。
- ④ 調査対象地域は松江藩領域のなかでも、松江市域（平成の合併）に限定する。
- ⑤ 利用者の便利性に配慮して、松江藩域の絵図・地図が掲載されている出版物名を入手情報の範囲内で「掲載資料名」欄に明記する。『松江市史』「絵図・地図」に掲載した絵図・地図は、地図名の冒頭に▲印で示した。また、「松江城」に掲載予定の絵図・地図は地図名の冒頭に●印で示した。
- ⑥ 目録記載内容(1)～(8)は、あくまでも平成26年2月時点の情報である。「絵図・地図」編の刊行を一つの区切りとして、途中の情報を公表すべきと考え、この稿を中間報告とした。また、目録記載内容(9)～(10)は「松江城」編集過程での情報である。今後とも継続した調査が不可欠である。

松江藩に係わる近世史料は、主に島根県立図書館に所蔵されているが、絵図類の地元所蔵の確認はいたって少なく全国に散逸している。

県内では、島根県立図書館、島根大学附属図書館、松江歴史館（歴代藩主の遺品などを収集）、支所（旧町村の役場）、公民館、個人宅など地元中心に調査を進めた。さらに、過去に出版された市町村史や地誌などの目録にも目を通して、絵図の存在の有無を確認した。

地元の個人宅の調査は、これまで絵図の所蔵が確認されていた絲原家、手銭家、桑原家、賣布神社、三谷家、木幡家などで再確認を行った。新たに調査の了解が得られた個人宅からは、城下町図や軍用方関係の絵図、江戸上屋敷図、都市計画図などを次々に発見するなど、調査後半になって急激にその成果が得られた。

県外の調査は、宮城県図書館をはじめ、東京は、国会図書館、国立公文書館、東京大学（南葵文庫）、明治大学（蘆田文庫）、前田報徳会（尊経閣文庫）など、京阪神では神戸市歴史博物館、岐阜県立図書館、蓬左文庫、京都大学（中井家文書）など、中四国では広島大学、岡山大学、鳥取県立図書館、山口県立公文書館、丸亀市立博物館で行った。

その他、インターネット検索や各館の所蔵目録入手、絵図・地図部会委員相互による情報交換などを継続しながら目録の精度を高める調査を行った。

(本稿目録作成にあたり、(1)～(8)大矢が、(9)～(10) は和田が担当した。編集にあたり、福井将介史料編纂室専門調査員の協力を得た)

(おおや ゆきお 前松江市立中央図書館長)

(わだ よしひろ 米子工業高等専門学校名誉教授)

(1) 日本図・島根県図

番号	名 称	所蔵館など	年 代	原寸サイズ	掲載資料名	備 考
1	日本之図	名古屋市蓬左文庫	江戸初期	175.1×136.2		縮小図
2	日本分国図(一)・出雲国図	神戸市立博物館	江戸初期	114.5×158.4		南波コレクション・地形は古い
3	日本分国図(二)・出雲山陰道	神戸市立博物館	江戸初期	105.8×133.6		南波コレクション・名所・みやげ物記載
4	▲日本之図(郷土0003)	佐賀県立図書館(蓮池文庫)	☆寛永10年(1633)か	622×674(全体)		3分割
5	日本國中図(寛永日本総図B)貴73	京都大学付属図書館(中井家文書)	寛永15年(1638)	278(357)×430		完成は寛永16年など
6	寛永日本総図A(山陰山陽四国九州絵図)	山口県文書館(毛利家文庫)	☆寛永10年(1633)	396×321(西部)	国絵図の世界p14	東部188×154、中部374×292、3分割
7	▲日本図 WA46-1	国立国会図書館	☆寛永15～16年(1638～1639)か	370×434	国絵図の世界p16	
8	日本全国(正保日本図、初回図)	島原図書館(松平文庫)	☆慶安4年(1651)頃	240×284		
9	皇國道度図(正保日本図、再製図)	大阪府立中之島図書館	☆寛文10年(1670)頃	128.7×177.6		2分割
10	正保日本図(初回図)	国立国文学研究資料館	☆慶安4年(1651)頃			一般には知られていない
11	▲正保日本図H-110-5-2	国立歴史民族博物館(秋岡コレクション)	☆寛文10年(1670)頃	240.0×228.0	国絵図の世界p18	
12	日本海山潮陸図	東京都立中央図書館	元禄4年(1691)	97.2×170.0	山陰道p3	石川流宣
13	元禄日本総図	明治大学図書館(蘆田文庫)	元禄15年(1702)	309×222東部	国絵図の世界p20	2分割
14	京橋二十分一図	島根県立図書館	正徳5年(1715)	33×144		
15	享保日本図	国立歴史民族博物館(秋岡コレクション)	☆享保13年(1728)	122×206	国絵図の世界p22	
16	万国輿地方図	個人蔵				日本製の模写本は国内に21点
17	日本国図(新刻日本口地路程全図)	松江歴史館	安永8年(1779)	127.5x80		
18	改正日本輿地路程全図	東北大学(狩野文庫)	寛政3年(1791)	長久保赤水	山陰道p3	
19	伊能図大図	国土地理院	寛政12年(1800)	101.8×127.7		
20	日本輿地図藁	神戸市立博物館	文化6年(1809)	120.5×204.0		南波松太郎コレクション
21	伊能忠敬「中国」中四国九州	東京国立博物館	文政4年(1821)			
22	▲伊能図中国(中国・四国)	日本写真印刷株式会社蔵(フランス国イブ・ペイレ氏旧蔵)	文政4年(1821)	226×131		
23	実測輿地全図 山陰道山陽道南海道西海道	神戸市立博物館	文政4年(1821)	203.5×162.1		南波松太郎コレクション伊能図小図 西日本図
24	万国輿地方図	松江歴史館	弘化3年(1846)	110x33		
25	大日本全国(1から44)	神戸市立博物館	弘化2年(1845)	39.3×37.0		南波コレクション・切図43枚
26	大日本全国古地図六十八図・出雲国	神戸市立博物館	江戸時代	28.0×39.5		南波コレクション・石高・郡数記載
27	西日本図	名古屋市蓬左文庫	江戸期	80.3×80.3		
28	日本・朝鮮図		文久3年(1863)	68x101.3	絵図の世界p84	
29	日本府県全図	神戸市立博物館	明治8年(1875)		銅版刷彩	南波松太郎コレクション
30	日本地誌略図・山陰山陽南海西海之部	神戸市立博物館	明治10年(1877)		木版	南波松太郎コレクション
31	精製二十万分之一図島根県全図(復刻版)		明治17年・明治5年			
32	島根・鳥取兩県交通明細地図	松江歴史館	明治末～大正初			
33	島根県管内略図	松江歴史館	明治11年(1878)	38.1×68・1		附:松江・浜田・西郷・米子・鳥取市街図
34	▲島根県管内略図	島根県立図書館	明治11年(1878)	43.0×74.0		附:松江・浜田・西郷・鳥取市街図
35	島根県管内略図	岐阜県立図書館	明治11年(1878)	42×72.7		田中舎章・米田庸之助編
36	島根県管下伯耆国全図	島根県立図書館	明治12年(1879)	48×70		15000分の1附米子・倉吉など
37	島根県管轄全図	島根県立図書館	明治12年(1879)	161×123		島根県地理課作成 因幡・伯耆記載あり
38	島根県下因幡国全図	鳥取県立図書館	明治14年(1881)	47×70		
39	島根県管内明細全圖	一行寺資料館	明治14年(1881)	104×150		米子市史掲載
40	島根県下伯耆国全図	鳥取県立図書館	明治14年(1881)	48×69		
41	出雲石見隠岐土地図	島根県立図書館	明治28年(1895)	158×167		10万分の1 農商務省、英訳付
42	島根県管内全図	明治大学蘆田文庫	明治30年(1897)再版	34.5×49.4	38万分の1	初版は明治27年3月25日、清水常太郎著
43	島根県管内全図	明治大学蘆田文庫	明治41年(1908)再版	34.5×49.7	38万分の1	裏に明治41年版、清水常太郎著
44	島根県管内全図	島根県立図書館	明治40年(1907)	39×54		附:松江市・今市町・浜田町など
45	島根県管内図16万分の1	島根県立図書館	不詳	79×109		(戦前のものか) 附:松江市街図
46	五ヶ国全図	島根県立図書館	不詳	78×95		因幡・伯耆、島根県庁あり
47	五ヶ国全図	島根県立図書館	不詳	80×96		因幡・伯耆あり
48	山陰五ヶ国明細全図	島根県立図書館	不詳	108×153		出版人:園山喜三右衛門、附松江など
49	島根県管内図16万分の1	島根県立図書館	不詳	76×108		附:松江市街図 島根県経済部土木課
50	島根県地図 松江	島根県立図書館	大正10年(1921)	78×108		附:松江・浜田・今市・杵築
51	島根県観光島嶼図	島根県古代文化センター	昭和5年(1930)	50×150	絵図でたどるp39	
52	▲伊能図大図 第155号(部分)	アメリカ議会図書館	文政4年(1821)	110×230		文化3年および同12年(1815)測量、明治初年の模写
53	島根縣略圖	松江市立中央図書館	明治39年	27×38	島根県名勝誌差込	奥原福市著、有田傳助発行 (『松江市史』「絵図・地図」掲載図は名称に▲を付した)

(2) 国絵図

番号	名 称	所蔵館など	年 代	原寸サイズ	掲載資料名	備 考
101	▲出雲稽古知今図説	島根県立図書館	文政・天保年間(1818～1844)作製	32×3287		改写、渡部ツネ
102	京極忠高時代武家屋敷・出雲国全図	松江市立中央図書館	京極時代	55×40		吉野林次郎版刊
103	京極忠高時代武家屋敷と出雲国隠岐国全図	島根県立図書館	京極時代	55×40		吉野林次郎版刊
104	(出雲国)日本六十余州国々切絵図A	秋田県公文書館	寛永10年(1633)			
105	山陰道(出雲国図)	熊本大学附属図書館永青文庫	寛永10年(1633)	74.8×107.6		記号なし
106	▲出雲國圖J81:852	東京大学総合図書館南葵文庫	☆寛永10年(1633)か	150.0×110.0		写
107	出雲國圖J82:853	東京大学総合図書館南葵文庫	寛永10年(1633)	150.0×120.0		写、106より新しい
108	▲寛永出雲国絵図	島根県立出雲古代歴史博物館	☆寛永15年(1638)か	100×117	絵図でたどる島根p11	☆寛永15年
109	出雲之国図	臼杵市臼杵図書館／173	寛永15年(1638)	119/107		

110	出雲之図国	臼杵市臼杵図書館／174	寛永15年(1638)	121×107		
111	寛永15年出雲国絵図	島根県立出雲古代歴史博物館	寛永15年(1638)	100×117		臼杵と同じ
112	出雲国図	名古屋市蓬左文庫 図710	寛永	54.5×76.5		
113	出雲国絵図	明治大学蘆田文庫73-2		52.3×86.5		手書き彩色、地図名なし
114	▲出雲国絵図T1-105	岡山大学附属図書館(池田家文庫)	寛永10年(1633)巡見使国絵図の二次写本	117.3×165.3		裏書・出雲国印、
115	寛永出雲国絵図DA7	島根大学附属図書館	寛永10年(1633)	97.0 ×134.0	絵図の世界p9	二次写本か、原因あり
116	出雲国図	神戸市立博物館	江戸初期	114.5×158.4	日本分国図(二)	南波コレクション
117	正保出雲・隠岐国絵図(中川忠英旧蔵本)	国立公文書館／176-286-54	寛永	363×283	日本分国図	出雲国並隠岐国、ネガ8枚
118	正保出雲・隠岐国絵図(松平乗命旧蔵本)	国立公文書館／176-282-173	正保2(1645)	337.5×291.5	絵図でたどる島根p3	
119	▲正保出雲国・隠岐国絵図	島根県立出雲古代歴史博物館	正保(1644～1647)	292×338	国絵図の世界p204	松平・中川より良い
120	出雲国図M291-イ-3	宮城県図書館		93.4×144.6		写本(彩色) 涌谷亙理家旧蔵
121	▲宝永(元禄)元禄出雲国絵図	個人蔵	☆宝永7年(1710)	180×179	絵図でたどる島根p4	原因か☆宝永と推定、正保の写
122	▲宝永(元禄)元禄出雲国絵図	島根大学附属図書館	宝永7(1710)	182.0×182.0	池橋、2009	野津家の写か、宝永と推定
123	出雲国絵図	国立歴史民俗博物館／秋岡コレ	元禄	174.8×167.6		
124	出雲國図	国土地理院	寛永13年(1636)	30.2×51.0	国土地理院HP	160、148に類似、手書き、手彩色
125	出雲国絵図	国立公文書館／177-0431				写本、内務省蔵
126	出雲国絵図	国立公文書館／177-0433				写本、内務省蔵
127	出雲国図	名古屋市蓬左文庫 図710f	享保元年	39.6×54.3		
128	出雲国地図	国立国会図書館213-48	宝暦4年(1754)	102×115	写し	森幸安著
129	森幸安 日本分国図・出雲国之図	神戸市立博物館	宝暦6年(1756)	107×100		南波コレクション
130	▲出雲国之図	出雲文化伝承館蔵	文化4(1807)	137.0×200.0	絵図の世界p15	松江藩御仕置所秘図、旧多伎図書館蔵
131	▲天保国絵図出雲国(紅葉山文庫旧蔵本)	国立公文書館特083-0001	天保9(1838)	354X350	絵図でたどる島根p12	
132	天保国絵図出雲国(勘定所旧蔵本)	国立公文書館特083-0001	天保9(1838)	370×357		
133	出雲国国絵図	個人蔵	天保4年(1833)写			
134	出雲国絵図	国立国会図書館YR8-121		50×74	写し	飯石郡にも広瀬藩領、ボジ
135	出雲国全国	広島大学附属図書館	天保9(1838)	180×180		1袋、田儀部分欠落、松江城松平出羽守
136	出雲国絵図DA17	島根大学附属図書館(桑原文庫)	天保年間	89.2×114.3		新川あり、台場なし
137	出雲国絵図	個人蔵	天保年間		出雲の御本陣	付図
138	出雲国御領分絵図	神戸市立博物館	天保13(写し)	83.5×106.8		1.5cmの方眼・南波コレクション
139	出雲国図T1-125	岡山大学附属図書館(池田家文庫)	未詳	97.4×118.0		(郡・村名未記入) 裏山陰道
140	出雲国図	山口県文書館／毛利家文庫58-205				彩色、やや粗い
141	出雲州之図	山口県文書館／毛利家文庫58-206				御密用方の記述あり
142	出雲国奥地全国	神戸市立博物館	江戸時代後期	95.1×98.7		
143	出雲国絵図	神戸市立博物館	江戸時代後期	99.0×87.5		南波コレクション
144	出雲國圖	京都大学付属図書館(室賀コレク)		121×106		手書き彩色
145	出雲国十郡絵図並十郡村附帳 24-H-106	国立国史研究所				
146	出雲国Y912	京都大学地理学教室蔵		41×38		手書き彩色
147	出雲国図	岐阜県立図書館13-8-1		69.5×91.8		
148	出雲国十二郡図	島根県立図書館	寛永13年(1636)作成	78.0×109.0	絵図でたどる島根p11	県史謄写(島大と同じ)
149	▲出雲国十郡村附絵図DA18	島根大学附属図書館	寛政年間(1789～1801)	72.0×91.3		
150	十郡絵図	島根県立図書館	貞享3年	46×71		
151	出雲国十郡	島根県立図書館	不詳	107×111		
152	出雲国十郡絵図	国立公文書館177-0741				7鋪、内務省蔵
153	出雲国十郡絵図	国立国会図書館YD-古-4338		88×102	写し、和装彩色	モノクロ画像
154	出雲国十郡絵図	京都大学付属図書館(中井家)		100.2×146.4		大工頭中井家建築指図集
155	出雲国各郡図	広島大学附属図書館				9枚
156	出雲国十郡絵図 量物				県立図書館附録	1852
157	出雲国十郡絵図	島根県立図書館		1鋪	県立図書館附録	雲州松平家文書53
158	出雲国十二郡図 量物	個人蔵			県立図書館附録	1815
159	雲陽十郡絵図	島根大学附属図書館	幕末	87.4×99.3		神田助衛門作、広瀬藩は起こし図
160	出雲国十二郡図DA1155	島根大学附属図書館	☆寛永13年(1636)	93.0×107.0	池橋、2009(漱雲号)	県立の原因か、☆川村寛永10年の写し
161	出雲国十郡絵図	個人蔵				10色、28万2489石7斗3升9合
162	▲出雲国十郡絵図DA24	島根大学附属図書館(桑原文庫)	文化年間(1804～1818)	80.0×97.5		神田助衛門作
163	出雲国絵図	絲原記念館	江戸時代(後期)	102.0×89.0		
164	▲出雲国十郡絵図	島根県立図書館	文政4年(1821)	188.0×210.0	絵図でたどる島根p6	へら押し線あり、1分1町、重要
165	雲州全国	島根県立図書館	文政10年(1827)写	53×57.5		
166	出雲国図(依風土記)	島根県立図書館	文政7年(1824)5月写	28×42		遠州国人内山眞龍撰
167	松平四幡守領分因泊海岸絵図	鳥取県立図書館	嘉永2年(1849)	72.8×345.0		
168	出雲国絵図	松江市立出雲玉作資料館	文久2年(1862)写	89.7×160.4	4-5・4-281	山本聰奇贈
169	出雲郡中図面	島根県立図書館	不詳	188×250		堤長さ(斐伊川)あり
170	諸国国絵図山陰道出雲之図	鳥取県立図書館	江戸時代	105.5×135		
171	出雲国之図	後藤藏四郎著転載	奈良時代		ふるさと秋鹿	P34出雲国風土記考証
172	出雲国全国	島根県立図書館	不詳	74×96		
173	出雲国一円図	島根県立図書館	不詳	70×90		
174	島根県下出雲国全国	島根県立図書館	明治12年(1879)	48×70 155分の1		附:松江市・平田市・安来市・美保関など
175	島根県下出雲国全国	島根県立図書館	明治12年(1879)	48×69		附:松江市・平田市・安来市・美保関など
176	島根県下出雲国全国	島根県立図書館	明治27年(1879)	49×70 155分の1		発行:川岡清助明治12年と同じ
177	出雲国之地図	個人蔵			県立図書館附録	1812
178	出雲国図				八東郡誌(本)p7	
179	出雲国東部古図					5枚
180	出雲古図(写)	多伎図書館			絵図の世界p20	
181	出雲州之図	山口県文書館/毛利家文庫58絵図				
182	八か国御配置地図(出雲国)	山口県文書館/毛利家文庫58絵図				
183	出雲国全国(仮称)	個人蔵		73.5X96 折紙1枚		
184	出雲国全国	島根県立図書館		73.5X96 折紙1枚		
185	文化改正・出雲国十郡村附絵	松江歴史館		91.5×73		
186	出雲国絵図	個人蔵	江戸時代	102.0×98.5		
187	出雲國圖	宮城県立図書館		93.4×144.6	写本(彩色)	涌谷亙理家旧蔵M291-イ39
188	雲州松江之圖	宮城県立図書館		116×129	写本(彩色)	涌谷亙理家旧蔵M291-ウ4
189	出雲国絵図	国立公文書館177-432				日本分国絵図(松平乗命蔵)
190	出雲国十郡絵図	国立公文書館177-771				日本分国絵図(松平乗命蔵)
191	出雲国十郡分裁全国	国立公文書館177-671				日本分国絵図(松平乗命蔵)
192	出雲国十郡分裁全国	国立公文書館177-670				日本分国絵図(松平乗命蔵)
193	出雲国絵図	個人蔵		161×188		

194	出雲國圖2-3-長	前田家尊経閣文庫				写
195	出雲国十郡絵図(仮称)	個人蔵	幕末	82.6×99.0		手書き彩色、郡別に水田を2色で着色

(『松江市史』「絵図・地図」掲載図は名称に▲を付した)

(3) 郡村図

番号	名 称	所蔵館など	年 代	原寸サイズ	掲載資料名	備 考
301	秋鹿郡及楯縫郡之図		奈良時代		ふるさと秋鹿p34	
302	出雲国風土記要図				加藤義成著功転蔵 八束町誌p148	
303	松江開府前の地図				雲備大数録一部 法吉村誌p2	
304	東生馬村・古絵図	個人蔵	江戸後期頃?		生馬の里附図	県図書では53×58
305	浜佐田村・古絵図	個人蔵	江戸後期頃?		生馬の里附図	
306	島根郡村絵図(冊子)	島根大学付属図書館	江戸時代	26.2x20.2	絵図の世界p38～69	「輪」を記載、明治大学董田文庫に類似
307	納蔵のある玉造村中心部		江戸時代		玉湯町史 下巻(1)	
308	藩主人湯之節家臣宿制図		江戸時代後期		玉湯町史 下巻(1)	
309	川下村江異国船漂流一途図面附	個人蔵	享保3年		県立図書館附録146	
310	▲島根郡絵地図(仮称)	個人蔵	文政7年(1824)	195×330		小笹屋良衛渡辺ツネ作成
311	熊野川筋分間絵図	島根県立図書館	宝暦9年	284×369		
312	三成飯石上熊谷川筋図面肩書写	個人蔵	天明7年		県立図書館附録系43	
313	出雲国十郡絵図並十郡村附帳	国立史料館蔵	不詳	81X104	事業報告第2	
314	▲島根郡片江菅北三ヶ浦境絵図	島根県立図書館	寛政7年(1795)	122×146	郡奉行所文書 156-55	
315	江戸時代の木幡屋及び穴道御茶屋絵図		文化、文政、天保年間		穴道町史[通史編下巻]	木幡修介氏蔵
316	出雲国十郡附絵	松江歴史館	文化改正		城山倉庫・天守閣	
317	広瀬藩御絵図	個人蔵	文化元年(1804)		八雲村誌	金藤家蔵現安来市立民俗資料館蔵
318	母里藩絵図	伯太町歴史民俗資料館	安永8年(1779)		絵図でたどる島根p18	
319	▲上講武村山絵図	島根県立図書館	文化13年(1816)	137×220	郡奉行所文書 追加37-1	
320	原家旧蔵「御国絵図」		文久3年(1863)以前		八雲村誌	
321	出雲国十郡絵図・大根島略図		文政4年		八束町誌p299	
322	文政元年穴道町並図	個人蔵	文政元年		穴道町誌	
323	江嶋村瀬古中浦新田絵図	個人蔵	文政初期	門脇陽氏所蔵	八束町誌p271	
324	出雲国十部分図(意宇郡)	島根県立図書館	文政(1818～1821)	41×39		
325	出雲国十部分図(秋鹿郡)	島根県立図書館	文政(1818～1821)	28×39		
326	出雲国十部分図(出雲郡)	島根県立図書館	文政(1818～1821)	27×39		
327	出雲国十部分図(楯縫郡)	島根県立図書館	文政(1818～1821)	38×50		
328	出雲国十部分図(神門郡)	島根県立図書館	文政(1818～1821)	64×79		
329	出雲国十部分図(仁多郡)	島根県立図書館	文政(1818～1821)	28×39		
330	出雲国十部分図(大原郡)	島根県立図書館	文政(1818～1821)	39×49		
331	出雲国十部分図(島根郡)	島根県立図書館	文政(1818～1821)	47×78		
332	出雲国十部分図(能義郡)	島根県立図書館	文政(1818～1821)	69×66		
333	出雲国十部分図(飯石郡)	島根県立図書館	文政(1818～1821)	62×89		
334	嶋根郡手角村絵図	個人蔵	天保7年(1836)	48.7×74	57-1-1	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
335	嶋根郡長海村絵図	個人蔵	天保8年(1837)	51.7×72.8	57-1-2	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
336	嶋根郡菅浦絵図	岐阜県立図書館	天保7年(1836)頃	57×50	57-1-3	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
337	嶋根郡邑生村絵図	個人蔵	天保7年(1836)	56×50.4	57-1-4	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
338	嶋根郡別所村絵図	個人蔵	天保8年(1837)	37×51.7	57-1-5	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
339	嶋根郡野波浦絵図	岐阜県立図書館	天保7年(1836)頃	47.8×74	57-1-6	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
340	嶋根郡多古浦絵図	岐阜県立図書館	天保7年(1836)頃	38.5×58	57-1-7	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
341	嶋根郡野井浦絵図	個人蔵	天保7年(1836)頃	50×37.4	57-1-8	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
342	嶋根郡下宇部尾村絵図	個人蔵	天保7年(1836)頃	49.2×74.5	57-1-9	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
343	嶋根郡福浦絵図	個人蔵	天保7年(1836)頃	38.2×75	57-1-10	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
344	▲嶋根郡七瀬浦絵図	岐阜県立図書館	天保7-8年(1836・1837)頃	50.8×72.3	57-1-11	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
345	嶋根郡笠浦絵図	岐阜県立図書館	天保7年(1836)頃	50.2×73.5	57-1-12	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
346	嶋根郡千酌浦絵図	岐阜県立図書館	天保7年(1836)頃	48.7×73.9	57-1-13	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
347	嶋根郡雲津浦絵図	岐阜県立図書館	天保7年(1836)頃	48.7×73.6	57-1-14	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
348	嶋根郡北浦絵図	岐阜県立図書館	天保7年(1836)頃	50×73.8	57-1-15	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
349	▲意宇郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	萬延元年(1860)	13.2×19.5	野帳の写しか、冊子	帙付「出雲国郡村繪圖」11冊
350	嶋根郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	萬延元年(1860)	12.7×18.7	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色、484と関係
351	楯縫郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	文久元年(1861)	13.4×19.5	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色
352	秋鹿郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	元治元年(1864)	13.6×19.2	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色
353	飯石郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	慶応元年(1865)	13.6×19.4	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色
354	出雲郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	慶応元年(1865)	13.5×18.9	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色、359と関係
355	大原郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	慶応元年(1865)	13.6×19.7	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色
356	仁多郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	慶応元年(1865)	13.6×19.7	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色
357	能義郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	慶応3年(1867)	13.8×19.7	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色
358	神門郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	明治3年(1870)	14.2×20.1	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色
359	出雲郡村々繪圖	明治大学蘆田文庫	天保4年(1833)	13.1×18.7	野帳の写しか原因が	表紙に「米村」彩色、354と関係
360	▲秋鹿郡絵図	個人蔵	元文5年(1740)	193.0×110.5	出雲国風土記の研究 I	佐陀川開削(1787)以前
361	穴道町並図	個人蔵	嘉永2年		山陰道p89	
362	出雲国簸川分間絵図 一	島根県立図書館	不詳	141×271		
363	出雲国簸川分間絵図 三	島根県立図書館	不詳	124×240		
364	出雲国簸川分間絵図 四(下)	島根県立図書館	不詳	145×327	明和頃 変流の図あり	
365	出雲国簸川分間絵図 四(上)	島根県立図書館	不詳	145×327	明和頃 変流の図あり	
366	出雲国簸川分間絵図 四(中)	島根県立図書館	不詳	145×327	明和頃 変流の図あり	
367	出雲国簸川分間絵図 二	島根県立図書館	不詳	90×149		
368	島根郡邑生村別所村枕木山花蔵寺草刈山絵図	島根県立図書館	不詳	114×179	郡奉行所文書 153-89	
369	邑生村別所村花蔵寺絵図 控	島根県立図書館	不詳	63×122	郡奉行所文書 153-90	
370	土工記川図 飯石、神門、楯縫郡	個人蔵			県立図書館附録高61	
371	意宇郡来海村上来海絵図	来待村役場蔵	明治7年(1874)	219.0×213.0	来待役場文書42	彩色、青色、穴道町史挿絵
372	手結浦事件絵図	個人蔵	明治初期		古江百年誌p545	
373	江島埋立絵図	八束町教育委員会	明治3年(1870)	139.0×104.0	絵図でたどるp32	
374	生馬村・古絵図	松江市固定資産課蔵	明治7～8年		生馬の里附図	
375	下佐陀邑田畑山水戸別色分図	松江市固定資産課蔵	明治7年頃		生馬の里附図	
376	上佐陀村地租改正地引絵図西	松江市固定資産課蔵	明治7年頃		生馬の里附図	
377	薦津村・古絵図	松江市固定資産課蔵	明治8年頃		生馬の里附図	
378	出雲国村落分合地図(意宇郡)	島根県立図書館	明治8年	36×47		島根県修史係
379	出雲国村落分合地図(出雲郡・秋鹿郡)	島根県立図書館	明治8年	36×48		島根県修史係
380	出雲国村落分合地図(楯縫郡)	島根県立図書館	明治8年	36×48		島根県修史係
381	出雲国村落分合地図(神門郡)	島根県立図書館	明治8年	36×48		島根県修史係

382	出雲国村落分合地図(仁多郡)	島根県立図書館	明治8年	36×48		島根県修史係
383	出雲国村落分合地図(大原郡)	島根県立図書館	明治8年	36×48		島根県修史係
384	出雲国村落分合地図(島根郡)	島根県立図書館	明治8年	36×48		島根県修史係
385	出雲国村落分合地図(能義郡)	島根県立図書館	明治8年	36×48		島根県修史係
386	出雲国村落分合地図(飯石郡)	島根県立図書館	明治8年	36×48		島根県修史係
387	出雲国村落分合地図(凡例)	島根県立図書館	明治8年(1875)	36×48		島根県修史係
388	地引絵図面	八雲村役場蔵	明治10年代半		八雲村誌	八雲村役場蔵
389	島根郡西生馬村図	松江市固定資産税課	明治11年		生馬の里附図	島根郡第62区
390	西生馬村古図	松江市固定資産税課	明治7・8年		生馬の里附図	島根郡第62区
391	出雲国樺津郡図	島根県立図書館	明治12年(1879)	114×179		島根県作成 半町五厘 寺社
392	島根県管内出雲国出雲郡	島根県立図書館	明治12年(1879)	91×107		島根県作成 半町五厘
393	島根県管内出雲国樺津郡	島根県立図書館	明治12年(1879)	125×180		島根県作成 半町五厘
394	島根県管内出雲国秋鹿郡	島根県立図書館	明治13年(1880)	89×127		島根県作成
395	島根県管内出雲国秋鹿郡	島根県立図書館	明治13年(1880)	92×128		島根県作成
396	島根県管内出雲国秋鹿郡	島根県立図書館	明治14年(1881)	48×67		島根県作成 老町老分
397	島根県管内出雲国樺津郡	島根県立図書館	明治14年(1881)	65×81		島根県作成 老町老分
398	島根県管内出雲国島根郡	島根県立図書館	明治14年(1881)	66×95		島根県作成
399	島根県管内出雲国大原郡	島根県立図書館	明治18年(1885)	54×78		島根県作成 老町老分
400	国屋村荒隈城墟		明治14年	島根県史より複写	法吉村誌p424	妹尾春江製図
401	法吉村真山城墟		明治14年	島根県史より複写	法吉村誌p174	妹尾春江製図
402	法吉村白鹿城墟		明治14年	島根県史より複写	法吉村誌p153	妹尾春江製図
403	山陰道改修図・福富村	福富神社蔵	明治17年		ふるさと史談乃木p88	
404	布志名村切図		明治19年		玉湯町史 下巻(1)	
405	出雲国意宇郡第11区平原村図面	大庭公民館蔵	明治20年			
406	大字平原全圖	大庭公民館蔵	明治20年			
407	大字平原宅地田畑全圖	大庭公民館蔵	明治20年			
408	出雲国第11区意宇郡佐草村繪圖	大庭公民館蔵				明治6年地券名図下分図
409	大草村瑞雲寺前耕地整理図(原図)	大庭公民館蔵		1200分の1		
410	神魂神社土地官林實測図	大庭公民館蔵				
411	大草区道路見取図	大庭公民館蔵				
412	明治21年調整の図面	松江歴史館	明治21年		法吉の歴史あれこれp46	
413	講武村多久川下流字名道路図		明治22年	条里制遺構図	鹿島町誌p35	
414	法吉村大字国屋字図	個人蔵	明治22年		法吉村誌p472	
415	法吉村大字谷・西谷字図	個人蔵	明治22年		法吉村誌p471	
416	法吉村大字馬渡字図	個人蔵	明治22年		法吉村誌p470	
417	浜佐田村・古絵図	松江市固定資産課蔵	明治22年頃		生馬の里附図	
418	江島地名調査図		明治22年作成		八束町誌p46	
419	大根島地名(小字)調査図		明治22年作成		八束町誌p44	
420	出雲国意宇郡穴道町村絵図(控)	穴道町役場蔵	明治9年	187.5×175.0	747-2-2-5の内	彩色、421の控え
421	▲出雲国意宇郡穴道甲村繪圖	穴道町役場蔵	明治9年(1876)	175.0×182.0	747-2-3-5の内	彩色、画像有り、原因か
422	意宇郡来海村大字東来海地区	来待村役場蔵	明治22年	167.5×213.0	747-2-5	地押更生地図、所蔵なし
423	意宇郡来待郷大字西来待地区	来待村役場蔵	明治22年	215.0×248.0		地番図、村長成相立敬、捺印有、
424	意宇郡来待村大字上来待地区	来待村役場蔵	明治22年	170.0×216.0		地押更生地図
425	意宇郡来海村大字東来海地区(原図)	来待村役場蔵	明治22年	205.0×174.5	747-2-5	地押更生地図、村長成相立敬、捺印有
426	山林繪圖面	文化財課				第67區西持田村
427	山林原野絵図面	文化財課	明治10年			第66區坂本村
428	第5区東持田下分	文化財課				持田村
429	持田村、大字坂本	文化財課				持田村
430	福原図	文化財課				持田村
431	字地区、持田村大字西持田	文化財課				
432	持田村大字川原	文化財課				
433	川津地区図	文化財課				
434	西忌部地区図	文化財課				
435	出雲国意宇郡竹矢村地図	文化財課				
436	出雲国意宇郡矢田村地図	文化財課	明治21年			
437	出雲国意宇郡馬湯村地図	文化財課	明治21年			
438	出雲国意宇郡八幡村地図	文化財課	明治21年			杉村伸二所蔵の写しか
439	出雲国意宇郡八幡村地図	個人蔵	明治21年			
440	朝酌地区山林絵図	文化財課				
441	異動地絵図面意宇郡東津田郷	文化財課	明治20年			
442	絵図面西津田	文化財課				
443	西津田村地図	文化財課	明治21年			
444	東津田村地図	文化財課	明治21年			
445	第62区島根郡国屋村地番図	文化財課				
446	第62区島根郡黒田村地番図	文化財課				
447	第62区島根郡法吉村地番図	文化財課				
448	第62区島根郡春日村地番図	文化財課				
449	出雲国島根郡新庄村全図	文化財課	明治22年			
450	出雲国第66区島根郡長海村絵図	文化財課				
451	出雲国島根郡別所村	文化財課	明治22年			
452	出雲国島根郡邑生村	文化財課				
453	出雲国第66区島根郡手角村絵図	文化財課	明治8年			
454	出雲国島根郡上宇部尾村	文化財課	明治22年			
455	出雲国島根郡上本庄村	文化財課				
456	八束町絵図彩色	文化財課				
457	八束町絵図	文化財課				
458	法吉村全図		明治39年	法吉名勝案内	法吉村誌p26	
459	意宇郡穴道町村寛図		明治四未十月改	穴道町誌		葉山氏所蔵原図による
460	安国寺境内古図		大正15年	大阪大成館彫刻部	八束郡誌・復刻版p178	
461	嫁ヶ島美測図		大正15年		八束郡誌・復刻版p367	
462	栗山付近地図		大正15年		八束郡誌・復刻版p935	
463	忌部村史蹟図		大正15年		八束郡誌・復刻版p293	
464	玉造村史蹟図		大正15年		八束郡誌・復刻版p447	
465	熊野村史蹟図		大正15年		八束郡誌・復刻版p237	
466	佐陀貝塚付近之図		大正15年		八束郡誌・復刻版p751	
467	美保関古墳図		大正15年		八束郡誌・復刻版p857	
468	道路と河川		昭和初期		生馬の里附図	

469	松江市・八東郡地図	島根県立図書館	不詳	54×76		昭和年代・年不明
470	八束村新田漁場図				八束町誌p583	
471	島根郡下宇部尾村ニテ大根島受所山絵図	島根県立図書館	不詳	37x104	郡奉行所文書 231-11	
472	赤貝活養場絵図面				八束町誌p430	
473	上乃木地区耕地整理区画図				ふるさと史談乃木巻末	
474	大野地区字名図				続大野郷土誌p112	
475	秋鹿村全圖	秋鹿公民館蔵				
476	秋鹿町図面	秋鹿公民館蔵				明治6年4月写し
477	秋鹿村大字秋鹿村切図	秋鹿公民館				
478	秋鹿村戸籍番号図	秋鹿公民館				
479	秋鹿町戸籍番号図	秋鹿公民館				
480	大垣村戸籍番号図	秋鹿公民館				
481	鹿島町全図				鹿島町誌	
482	湯ノ内新田開墾				生馬の里p73	
483	小字地名分布図			12枚	生馬の里附図	
484	島根郡村繪圖	島根大学付属図書館	江戸時代	26.2×20.2	絵図の世界p38	前表紙、出雲國松江府下繪圖
485	島根郡古地図				八束郡誌より	八束町誌p169
486	乃白・福富・浜乃木耕地整理区画図				ふるさと史談乃木巻末	
487	青柴垣神事絵巻	美保閨神社蔵				
488	秋鹿村大字岡本地図	秋鹿公民館				
489	島根郡村絵図国谷村	秋鹿公民館				
490	大根島絵図	八束支所	天保5年	3尺5分	八束町誌p266	s52木桶吹月氏寄贈
491	出雲の国意宇郡大根島絵図	八束支所	明治初年頃	3尺5分		村間の距離、対岸への距離
492	江島村瀬古中浦新田絵図	八束支所	文政2年(1819)頃	60.2×86.2		埋め立て年代、所有者名
493	大根嶋流入浦絵図	八束支所	明治中期か	6尺5寸		小字、字界、地番
494	大根嶋流入浦図面	八束支所	明治中期か			宅地番号、戸主名
495	遅江村絵図	八束支所	明治中期か	3尺5寸		
496	意宇郡大根嶋遅江村絵図面	八束支所	明治中期か			道路、小字名、地番
497	意宇郡大根嶋遅江村建宅界図面	八束支所	明治中期か			家番号、戸主名
498	意宇郡大根嶋二子村地所絵図	八束支所	明治中期か	161×223		小字名、小字界
499	大根嶋二子村宅地図	八束支所	明治中期か			家番号、戸主名
500	意宇郡大根嶋二子村	八束支所	明治22年1月			小字名、小字界
501	意宇郡大根嶋寺津村	八束支所	明治中期か	3尺9寸		小字名、小字界
502	意宇郡大根嶋寺津村地籍番号図面	八束支所	明治中期か			宅地番号、戸主名
503	意宇郡大根嶋亀尻村地籍番号図面	八束支所	明治中期か	4尺1寸		宅地、畑、水田、地番
504	意宇郡大根嶋亀尻地籍番号図面	八束支所	明治中期か			家番号、戸主名
505	意宇郡大根嶋馬渡村	八束支所	明治20年5月1日	4尺6寸5分		宅地、畑、水田、地番
506	意宇郡大根嶋馬渡村建家界図面	八束支所	明治20年頃			家番号、戸主名
507	江島村絵図	八束支所	明治初期	4尺5分		畑、水田、小字など
508	意宇郡江島村敷道之図	八束支所	明治中期か	4尺		第六十八区
509	江島村絵図	八束支所	明治3年	3尺5分	人参方張り出し	各村石高、戸数、人数
510	意宇郡大根嶋江島村第1号	八束支所	明治中期か	131×140		地籍図原簿
511	意宇郡大根嶋江島村第2号	八束支所	明治中期か	127×140		地籍図原簿
512	江島村建宅図	八束支所	明治中期か			家番号、戸主名
513	意宇郡熊野村地引図図面	長澤報徳会	明治9年			長沢政十源忠具製之
514	意宇郡玉造村地図	玉作資料館	明治22年2月	191.6×134.4	4-5・4-391②	大字大谷・玉造
515	湯町村切図 湯町川西	玉作資料館		55×102.2	4-5・4-386①	
516	▲旧12区絵図 大谷・玉造分	玉作資料館	明治7年(1874)	123.0×183.8	4-5・4-395	
517	大谷村切り図	玉作資料館	明治6年	291.4×295.0	4-5・4-384	変形、3枚に分離
518	布志名村切り図	玉作資料館	明治22年	100×108.6	4-5・4-385①	
519	第13区意宇郡湯町村切図	玉作資料館		127.0×105.4	4-5・4-386②	
520	布志名村絵図	玉作資料館	明治19年	101.8×121.6	4-5・4-396	
521	旧12区絵図 大谷・玉造分	玉作資料館	明治7年	137.2×41.6	4-5・4-397	明治28年切断、写し
522	第13区意宇郡布志名村水路/図控	玉作資料館		74.2×71.6	4-5・4-385③	
523	第13区意宇郡布志名村道敷/図控	玉作資料館		71.4×73.8	4-5・4-385②	
524	第12区意宇郡大谷村図面	玉作資料館	明治8年	119.6×153.2	4-5・4-398	
525	湯町村図面	玉作資料館	明治18年	130.8×122.0	4-5・4-386④	
526	第13区意宇郡面白村	玉作資料館	明治7年	92.4×85.0	4-5・4-393①	
527	玉造村地図	玉作資料館		93.8×160.4	4-5・4-391①	
528	布志名村切図	玉作資料館		73.4×100.4		箇の中
529	布志名村切図	玉作資料館		89.8×127.4		箇の中
530	布志名地券取調図面	玉作資料館		75.6×125.4		箇の中
531	出雲国13区湯町村山林原野図面	玉作資料館	明治10年頃	137.2×86.2	4-5・4-386③	県令境二郎に提出
532	出雲国13区林邸絵図面	玉作資料館		239.0×177.4	4-5・4-392②	
533	意宇郡湯町村地図	玉作資料館	明治22年	135.4×138.0		3ヶ村戸長名など記載
534	第13区意宇郡湯町村切図 向市周辺	玉作資料館		265×112.4	4-5・4-386②-1	
535	地租改正絵図 林村	玉作資料館				耕宅地絵図
536	意宇郡東岩坂村地引絵図面老番	旧八雲村役場		91×141	21-T-1-3	改善センター保管
537	意宇郡東岩坂村戸籍改正図面	旧八雲村役場		127×40	21-T-1-5	改善センター保管
538	意宇郡東岩坂村道敷之図(東本郷分)	旧八雲村役場	明治9年		21-T-1-6	改善センター保管
539	意宇郡西岩坂村本郷絵図面	旧八雲村役場		128×198	21-T-1-8	改善センター保管
540	意宇郡西岩坂村道敷之図	旧八雲村役場	明治22年		21-T-1-9	改善センター保管
541	意宇郡西岩坂村水路之図	旧八雲村役場	明治22年		21-T-1-10	改善センター保管
542	意宇郡大根嶋入江村(字界図)	八束支所	明治22年1月			小字名、小字界
543	美保閨絵図	個人蔵		125.0×158.0		白絵図
544	島根郡野波浦全圖	島根支所	明治22年3月	189.0×203.0		道路、水路、字界など
545	加賀村道路図(仮題)	島根支所	明治時代	421.0×193.0		
546	第六十三區島根郡大蘆浦繪圖面	島根支所	明治6～8年	208.0×121.0		彩色、田畑図面
547	加賀村略圖 第老号	島根支所	明治22年8月	428.0×204.0		製圖者田中亀太郎、裏に地代表
548	一筆限切圖經	島根支所		72.2×118.4		宇瀬崎分、小字名124ヶ所記入
549	加賀村絵図(仮題)	島根支所	明治時代	390.0×184.0		作成途中、一部に地籍、彩色
550	加賀村地図(仮題)	島根支所	明治6～8年	292.0×166.2		田畑図面、彩色、
551	加賀村水路図(仮題)	島根支所	明治時代	65.2×116.0		水路、水源の記載
552	第六十三區島根郡大芦浦道路図(仮題)	島根支所	明治6～8年	145.3×102.0		村道、作道記載
553	山林圖面 全村	島根支所	明治時代	378.0×206.2		黄色彩色
554	出雲国第14区意宇郡佐々布村絵図面	宍道町役場蔵	明治9年	223.7×163.0	747-4-7-7	朱書、明治9年地租改正耕宅地絵図
555	意宇郡伊志見村大字伊志見番地図	宍道町役場蔵	明治年間	125.0×66.4	747-5-2-内1	壬申地券地引絵図

556	意宇郡白石村全図	宍道町役場蔵	明治19～21年	225.0×138.0	747-3-2-2	朱書、地押更生地図
557	宍道町大字宍道番地図	宍道町役場蔵	明治19～21年	157.0×136.0	747-2-5-内4	2葉の内1、朱書304号、地押更生地図
558	宍道町大字宍道番地図	宍道町役場蔵	明治19～21年	146.0×135.0	747-2-内1	2葉の内2、地押更生地図
559	八束郡白石郡村宅地図	宍道町役場蔵	明治19年	214.5×132.0	747-3-2-1	地押校正地図、鉄道記載あり
560	佐々布開拓地実測図	宍道町役場蔵		79.5×85.0	747-4-7-2	字地番入り
561	佐々布旧番地図	宍道町役場蔵	明治19～21年	299.0×233.0	747-4-7-3	地押更生地図、1200分の1
562	意宇郡伊志見村地押更生図	宍道町役場蔵	明治19～21年	142.5×76.0	747-4-7-4	製図者持田晶
563	佐々布村山絵図面	宍道町役場蔵	明治9年	210.0×156.0	747-4-7-5	破損、変形
564	意宇郡伊志見村地図	宍道町役場蔵	明治年間	285.0×170.0	745-5-2-内2	着色、明治9年を修正、精密
565	宍道郡村宅地見取図	宍道町役場蔵	明治年間	132.0×111.0	747-2-1と同包	鉄道記載
566	江尻灘耕地整理図	宍道町役場蔵	明治年間	79.0×55.0	747-4-7-内1	鉄道記載
567	佐々布郡村宅地図	宍道町役場蔵	明治年間	166.0×228.0	747-4-7-内6	地番図、彩色、地目別
568	島根郡片江村(道路・水路)図	美保閘支所	明治22年3月	80.0×81.0		裏朱書、片江村大字諸食
569	第64区千酌浦川井手堤防敷之圖	美保閘支所	明治初	64.5×73.0		
570	雲津浦田畑荒地圖面	美保閘支所	明治期	67.5×59.0		破損有り
571	第64区島根郡笠浦道敷ノ圖	美保閘支所	明治期	38.0×82.0		6名記載、捺印
572	第64区島根郡千酌浦道敷ノ圖	美保閘支所	明治期	80.5×75.5		村道、水路、橋記載
573	片江村大字七瀬 道水路図	美保閘支所	明治22年	118.0×85.0		製圖者山本、赤山
574	第65区島根郡片江浦圖面	美保閘支所	明治初	151.0×116.0		地目別、樋、塩浜など彩色
575	島根郡片江浦字図面	美保閘支所	明治22年3月	118.5×135.0		製圖者松本太七、水路道路
576	島根郡千酌浦耕地地繪圖面	美保閘支所	明治初	117.0×141.0		地番図、彩色、地目別
577	美保閘各浦字切図	美保閘支所	明治22年	28.0×41.5		11冊の切り図
578	野波浦図	島根民俗歴史館	文化3年(1806)	73.3×51.0	松江歴史館寄託	島根郡浦図野波に類似か
579	松江市堅町地図	松江歴史館	明治35年3月調製	380×540	100101	
580	松江市堅町地図	松江歴史館	大正13年3月改写	370×510	100202	
581	幸町地図	松江歴史館	大正10年4月調製	545×770	100303	
582	幸町地図	松江歴史館	昭和7年3月調製	550×785	100404	
583	榮町地図(老)	松江歴史館	昭和7年3月調製	305×495	100505	
584	榮町地図(栄改ノ内)	松江歴史館	大正10年4月調製	655×655	100606	
585	榮町地図(式)	松江歴史館	昭和7年3月調製	780×780	100707	
586	横濱町	松江歴史館	昭和6年4月調製	490×720	100808	
587	松江新町地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×390	100909	
588	松江新町地図	松江歴史館	大正10年4月改写	340×340	101010	
589	松江新町地図	松江歴史館	昭和8年10月改写	410×475	101111	
590	雑賀町(老)	松江歴史館	不詳	695×615	101212	
591	雑賀町(老)	松江歴史館	不詳	785×790	101313	
592	雑賀町(式)	松江歴史館	不詳	650×600	101414	
593	雑賀町(式)	松江歴史館	不詳	700×600	101515	
594	松江市雑賀地図(五ノ内)	松江歴史館	大正4年7月調製	1115×760	101616	
595	雑賀地図(五ノ内)(元字田中)	松江歴史館	大正4年7月調製	540×560	101717	大正10年1月18日 大字名改称
596	雑賀町稲荷廻	松江歴史館	不詳	455×795	101818	
597	雑賀地図(五ノ内)(元清水)	松江歴史館	明治35年3月調製	380×365	101919	大正10年1月18日 大字名改称
598	雑賀地図(五ノ内)(元三月西 三月下)	松江歴史館	明治35年3月調製	335×735	102020	大正10年1月18日 大字名改称
599	雑賀地図(五ノ内)(元稲荷廻)	松江歴史館	大正4年7月調製	370×780	102121	大正10年1月18日 大字名改称
600	雑賀町字田中	松江歴史館	不詳	522×597	102222	
601	雑賀町字清水 三月下 三月西	松江歴史館	不詳	535×725	102323	
602	雑賀町字稲荷廻	松江歴史館	不詳	380×730	102424	
603	松尾町地図	松江歴史館	大正10年4月調製	490×440	102525	
604	松江市松尾町地図	松江歴史館	昭和13年3月改写	547×520	102626	
605	本郷町地図	松江歴史館	明治35年3月調製	445×627	102727	大正10年1月18日 大字名改称
606	本郷町地図	松江歴史館	大正13年10月改写	470×670	102828	
607	本郷町	松江歴史館	昭和11年4月17日校合	507×737	102929	
608	新雑賀町	松江歴史館	昭和11年4月17日(校合)	467×792	103030	
609	新雑賀町地図	松江歴史館	大正10年4月改写	355×710	103131	
610	津田町地図	松江歴史館	大正10年4月調製	337×475	103232	
611	津田町	松江歴史館	昭和11年4月17日(校合)	590×430	103333	
612	大正町地図	松江歴史館	昭和17年6月改写	550×145	103434	
613	朝日町	松江歴史館	昭和6年以前?	555×790	103535	
614	朝日町	松江歴史館	昭和6年4月調製	760×1063	103636	
615	伊勢宮町地図	松江歴史館	大正10年4月調製	357×586	103737	
616	伊勢宮町	松江歴史館	昭和6年4月調製	525×550	103838	
617	御手船場町地図	松江歴史館	大正10年4月調製	485×600	103939	
618	御手船場町	松江歴史館	昭和6年4月調製	510×640	104040	
619	松江市和多見地図	松江歴史館	明治35年3月調製	395×615	104141	
620	和多見町地図	松江歴史館	大正10年5月改写	345×550	104242	
621	和多見町地図	松江歴史館	昭和25年3月改写	468×618	104343	
622	松江市八軒屋地図	松江歴史館	明治35年3月調製	273×382	104444	
623	伊勢宮町	松江歴史館	昭和15年7月改写	500×590	104545	
624	大字松江分地図	松江歴史館	大正4年7月調製	845×1115	104646	北土手・伊勢宮・宮ノ沖
625	松江市白濁魚町地図	松江歴史館	明治35年3月調製	378×540	104747	
626	魚町地図	松江歴史館	不詳	543×785	104848	
627	松江市灘町地図	松江歴史館	大正4年7月調製(改写)	535×695	104949	
628	灘町	松江歴史館	昭和9年7月改写	560×775	105050	
629	灘町土地区画整理図	松江歴史館	不詳	278×400	105151	灘町罹災地改正図
630	松江市天神地図	松江歴史館	明治35年3月調製	390×740	105252	大正9年12月改写
631	松江市天神地図	松江歴史館	明治35年3月調製	455×780	105353	昭和13年3月改写
632	松江市白濁本町地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×595	105454	
633	松江市寺町地図	松江歴史館	明治35年3月調製	590×955	105555	
634	松江市寺町地図	松江歴史館	大正10年8月改写	545×928	105656	
635	寺町地図	松江歴史館	昭和8年10月改写	538×960	105757	
636	寺町99番宅地	松江歴史館	不詳	380×1015	105858	地主松本勲次郎
637	大正町地図	松江歴史館	不詳	795×855	105959	青焼き複写
638	朝日町	松江歴史館	不詳	567×795	106060	青焼き複写
639	天神町	松江歴史館	不詳	565×780	106161	青焼き複写
640	横濱町	松江歴史館	不詳	395×520	106262	青焼き複写
641	御手船場町	松江歴史館	不詳	560×800	106363	青焼き複写
642	本郷町	松江歴史館	不詳	588×790	106464	青焼き複写

643	雑賀町 清水 三月西 三月下	松江歴史館	不詳	575×795	106565	青焼き複写
644	雑賀町	松江歴史館	不詳	590×780	106666	青焼き複写
645	雑賀町 稲荷廻	松江歴史館	不詳	560×790	106767	青焼き複写
646	雑賀町 字田中	松江歴史館	不詳	570×795	106868	青焼き複写
647	松江市松尾町地区	松江歴史館	不詳	780×520	106969	青焼き複写
648	和多見町地区	松江歴史館	不詳	565×790	107070	青焼き複写
649	寺町地区	松江歴史館	不詳	790×930	107171	青焼き複写
650	魚町地区	松江歴史館	不詳	575×795	107272	青焼き複写
651	雑賀町No.2	松江歴史館	不詳	400×455	107373	青焼き複写
652	雑賀町No.3	松江歴史館	不詳	395×455	107474	青焼き複写
653	新雑賀町	松江歴史館	不詳	560×795	107575	青焼き複写
654	新町地区	松江歴史館	不詳	550×410	107676	青焼き複写
655	伊勢宮町	松江歴史館	不詳	545×790	107777	青焼き複写
656	松江市白濁本町地区	松江歴史館	不詳	335×570	107878	青焼き複写
657	松江市西茶地区	松江歴史館	不詳	330×590	107979	青焼き複写
658	横浜町地区	松江歴史館	昭和24年11月複写	530×450	108080	
659	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	395×425 1枚	108181	青焼き複写
660	朝日町五葉ノ内第一字伊勢宮	松江歴史館	不詳	390×420 1枚	108282	青焼き複写
661	朝日町五葉ノ内第四字伊勢宮	松江歴史館	不詳	395×430 1枚	108383	青焼き複写
662	朝日町五葉ノ内第三字伊勢宮	松江歴史館	不詳	393×430 1枚	108484	青焼き複写
663	朝日町字伊勢宮字宮ノ沖	松江歴史館	不詳	390×425 1枚	108585	青焼き複写
664	御手船町字伊勢宮二葉ノ内	松江歴史館	不詳	395×453 1枚	108686	青焼き複写
665	御手船町字伊勢宮二葉ノ内	松江歴史館	不詳	400×455 1枚	108787	青焼き複写
666	大正町伊勢宮字北土手	松江歴史館	不詳	395×450 1枚	108888	青焼き複写
667	大正町伊勢宮字北土手	松江歴史館	不詳	460×393 1枚	108989	青焼き複写
668	大正町字伊勢宮字北土手	松江歴史館	不詳	453×397 1枚	109090	青焼き複写
669	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	285×370	109191	六百分ノ一
670	朝日町伊勢宮字宮ノ沖	松江歴史館	不詳	285×370	109292	六百分ノ一
671	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	285×370	109393	六百分ノ一
672	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	285×370	109494	六百分ノ一
673	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	285×370	109595	六百分ノ一
674	御手船町字伊勢宮二葉ノ内	松江歴史館	不詳	285×370	109696	六百分ノ一
675	御手船町字伊勢宮二葉ノ内	松江歴史館	不詳	285×370	109797	六百分ノ一
676	大正町字伊勢宮字北土手	松江歴史館	不詳	285×370	109898	六百分ノ一
677	大正町字伊勢宮字北土手	松江歴史館	不詳	285×370	109999	六百分ノ一
678	大正町字伊勢宮字フケ字北土手	松江歴史館	不詳	285×370	110100	六百分ノ一
679	東朝日町三十一葉ノ内第一番	松江歴史館	不詳	285×370	110201	六百分ノ一
680	東朝日町三十一葉ノ内第二番	松江歴史館	不詳	285×371	110302	六百分ノ一
681	東朝日町三十一葉ノ内第三番	松江歴史館	不詳	285×372	110403	六百分ノ一
682	東朝日町三十一葉ノ内第四番	松江歴史館	不詳	285×373	110504	六百分ノ一
683	東朝日町三十一葉ノ内第五番	松江歴史館	不詳	285×374	110605	六百分ノ一
684	東朝日町三十一葉ノ内第六番	松江歴史館	不詳	285×375	110706	六百分ノ一
685	東朝日町三十一葉ノ内第七番	松江歴史館	不詳	285×376	110807	六百分ノ一
686	東朝日町三十一葉ノ内第八番	松江歴史館	不詳	285×377	110908	六百分ノ一
687	東朝日町三十一葉ノ内第九番	松江歴史館	不詳	285×378	111009	六百分ノ一
688	東朝日町三十一葉ノ内第十番	松江歴史館	不詳	285×379	111110	六百分ノ一
689	東朝日町三十一葉ノ内第十一番	松江歴史館	不詳	285×371	111211	六百分ノ一
690	東朝日町三十一葉ノ内第十二番	松江歴史館	不詳	285×372	111312	六百分ノ一
691	東朝日町三十一葉ノ内第十三番	松江歴史館	不詳	285×373	111413	六百分ノ一
692	東朝日町三十一葉ノ内第十四番	松江歴史館	不詳	285×374	111514	六百分ノ一
693	東朝日町三十一葉ノ内第十五番	松江歴史館	不詳	285×375	111615	六百分ノ一
694	東朝日町三十一葉ノ内第十六番	松江歴史館	不詳	285×376	111716	六百分ノ一
695	東朝日町三十一葉ノ内第十七番	松江歴史館	不詳	285×377	111817	六百分ノ一
696	東朝日町三十一葉ノ内第十八番	松江歴史館	不詳	285×378	111918	六百分ノ一
697	東朝日町三十一葉ノ内第十九番	松江歴史館	不詳	285×379	112019	六百分ノ一
698	東朝日町三十一葉ノ内第二十番	松江歴史館	不詳	285×371	112120	六百分ノ一
699	東朝日町三十一葉ノ内第二十三番	松江歴史館	不詳	285×372	112221	六百分ノ一
700	東朝日町三十一葉ノ内第二十四番	松江歴史館	不詳	285×373	112322	六百分ノ一
701	東朝日町三十一葉ノ内第二十五番	松江歴史館	不詳	285×374	112423	六百分ノ一
702	東朝日町三十一葉ノ内第二十六番	松江歴史館	不詳	285×375	112524	六百分ノ一
703	東朝日町三十一葉ノ内第二十七番	松江歴史館	不詳	285×376	112625	六百分ノ一
704	東朝日町三十一葉ノ内第二十八番	松江歴史館	不詳	285×377	112726	六百分ノ一
705	東朝日町三十一葉ノ内第二十九番	松江歴史館	不詳	285×378	112827	六百分ノ一
706	東朝日町三十一葉ノ内第三十番	松江歴史館	不詳	285×379	112928	六百分ノ一
707	東朝日町三十一葉ノ内第三十一番	松江歴史館	不詳	285×375	113029	六百分ノ一
708	東津田町長通	松江歴史館	不詳	285×376	113130	六百分ノ一
709	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	280×405	113231	青焼き複写
710	朝日町字伊勢宮字宮ノ沖	松江歴史館	不詳	280×405	113332	青焼き複写
711	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	280×405	113433	青焼き複写
712	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	280×405	113534	青焼き複写
713	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	280×405	113635	青焼き複写
714	御手船町字伊勢宮二葉ノ内	松江歴史館	不詳	280×405	113736	青焼き複写
715	御手船町字伊勢宮二葉ノ内	松江歴史館	不詳	280×405	113837	青焼き複写
716	大正町伊勢宮字北土手	松江歴史館	不詳	280×405	113938	青焼き複写
717	大正町伊勢宮字北土手	松江歴史館	不詳	280×405	114039	青焼き複写
718	大正町伊勢宮字北土手	松江歴史館	不詳	280×405	114140	青焼き複写
719	雑賀町(西部)切図NO1	松江歴史館	不詳	280×405	114342	青焼き複写
720	雑賀町(西部)切図NO2	松江歴史館	不詳	280×405	114443	青焼き複写
721	雑賀町(西部)切図NO3	松江歴史館	不詳	280×405	114544	青焼き複写
722	雑賀町(西部)切図NO4	松江歴史館	不詳	280×405	114645	青焼き複写
723	雑賀町(西部)切図NO5	松江歴史館	不詳	280×405	114746	青焼き複写
724	雑賀町切図NO1	松江歴史館	不詳	270×390	114847	
725	雑賀町切図NO2	松江歴史館	不詳	270×390	114948	
726	雑賀町切図NO3	松江歴史館	不詳	270×390	115049	
727	雑賀町切図NO4	松江歴史館	不詳	270×390	115150	
728	雑賀町切図NO5	松江歴史館	不詳	270×390	115251	
729	東津田町第三区字森脇	松江歴史館	1947年か	390×530	115352	

730	東津田町第三区字森脇・ハサラ	松江歴史館	1947年か	390×530	115453	
731	東津田町第三区字ハサラ	松江歴史館	1947年か	390×530	115554	
732	東津田町第三区字堂前	松江歴史館	1947年か	390×530	115655	
733	東津田町第三区字沼	松江歴史館	1947年か	390×530	115756	
734	東津田町第三区字沼	松江歴史館	1947年か	390×530	115857	
735	東津田町第三区字根屋	松江歴史館	1947年か	390×530	115958	
736	東津田町第三区字森脇	松江歴史館	1947年か	390×530	116059	
737	東津田町第三区字森脇	松江歴史館	1947年か	390×530	116160	
738	東津田第三号字中島	松江歴史館	1947年か	330×460	116261	
739	東津田第一号字長通	松江歴史館	1947年か	330×460	116362	未撮影
740	東津田第二号字溜池	松江歴史館	1947年か	330×460	116463	未撮影
741	東津田第三号字松原	松江歴史館	1947年か	330×460	116564	未撮影
742	東津田第四号字原前	松江歴史館	1947年か	330×460	116665	未撮影
743	東津田第八号字原屋	松江歴史館	1947年か	330×460	116766	未撮影
744	東津田第九号字榎前	松江歴史館	1947年か	330×460	116867	未撮影
745	東津田第十号字神守	松江歴史館	1947年か	330×460	116968	未撮影
746	東津田第十二号字寺後	松江歴史館	1947年か	330×460	117069	未撮影
747	東津田第十三号字堂前	松江歴史館	1947年か	330×460	117170	未撮影
748	東津田第十四号字ハサラ	松江歴史館	1947年か	330×460	117271	未撮影
749	東津田第十五号字原	松江歴史館	1947年か	330×460	117372	未撮影
750	東津田第十六号字休庭	松江歴史館	1947年か	330×460	117473	未撮影
751	東津田第十七号	松江歴史館	1947年か	330×460	117574	未撮影
752	東津田第十八号字舟津田	松江歴史館	1947年か	330×460	117675	未撮影
753	東津田第二十二号字森脇	松江歴史館	1947年か	330×460	117776	未撮影
754	東津田第二十三号字岡	松江歴史館	1947年か	330×460	117877	未撮影
755	東津田第二十一号字根屋	松江歴史館	1947年か	330×460	117978	未撮影
756	東津田第二十号字大田字隅山	松江歴史館	1947年か	330×460	118079	未撮影
757	東津田第十九号字高杉	松江歴史館	1947年か	330×460	118180	未撮影
758	東津田第二十四号字喰ヶ谷	松江歴史館	1947年か	330×460	118281	未撮影
759	東津田字古志字寺床字長谷	松江歴史館	1947年か	330×460	118382	未撮影
760	東津田第二十六号字極楽寺	松江歴史館	1947年か	330×460	118483	未撮影
761	東津田第二十七号字垂水	松江歴史館	1947年か	330×460	118584	未撮影
762	東津田第二十八号字土器田	松江歴史館	1947年か	330×460	118685	未撮影
763	東津田第二十九号字立丁	松江歴史館	1947年か	330×460	118786	未撮影
764	東津田第三十号字井手平	松江歴史館	1947年か	330×460	118887	未撮影
765	東津田第三十一号字石台	松江歴史館	1947年か	330×460	118988	未撮影
766	東津田第三十二号字佐水	松江歴史館	1947年か	330×460	119089	未撮影
767	東津田第三十三号字オノ前	松江歴史館	1947年か	330×460	119190	未撮影
768	東津田第四十号字石屋	松江歴史館	1947年か	330×460	119291	未撮影
769	東津田第三十四号字越前	松江歴史館	1947年か	330×460	119392	未撮影
770	東津田第三十五号字講田	松江歴史館	1947年か	330×460	119493	未撮影
771	東津田第三十六号字井廻	松江歴史館	1947年か	330×460	119594	未撮影
772	東津田第三十七号字樋岡	松江歴史館	1947年か	330×460	119695	未撮影
773	東津田第三十八号字南外	松江歴史館	1947年か	330×460	119796	未撮影
774	東津田第三十九号字須原	松江歴史館	1947年か	330×460	119897	未撮影
775	東津田第四十一号字安原	松江歴史館	1947年か	330×460	119998	未撮影
776	東津田字佐兵衛山字隅山	松江歴史館	1947年か	330×460	120099	未撮影
777	東津田字西山字灰田	松江歴史館	1947年か	330×460	120200	未撮影
778	東津田字浜田字津田前	松江歴史館	1947年か	330×460	120301	未撮影
779	津田町切園	松江歴史館	1947年か	330×460	120402	破損多く不明
780	松江市乃木松江分他	松江歴史館	不詳	465×430 1枚	120503	複写物
781	嫁島土地区画 換地図	松江歴史館	昭和40年代か	340×1950 1枚	120604	換地図 千分ノ一
782	中原町地図	松江歴史館	昭和12年3月改写	710×995	200101	
783	中原町地図	松江歴史館	昭和15年7月改写	570×775	200102	
784	内中原町	松江歴史館	不詳	715×1220	200103	
785	外中原町地図	松江歴史館	昭和17年3月調製	945×1185	200104	
786	外中原町地図	松江歴史館	昭和17年3月調製	835×590	200105	青焼き複写(一部)
787	松江市母衣町地図	松江歴史館	昭和4年3月調製	530×1220	200106	米子町地図無
788	松江市石橋町地図之内	松江歴史館	昭和4年3月調製	960×1115	200107	石橋町一
789	松江市石橋町地図之内	松江歴史館	昭和4年3月調製	1030×867	200108	石橋町二
790	北田町地図ノ一	松江歴史館	大正15年11月調製	675×875	200109	北田町ノ一
791	北田町ノ二	松江歴史館	不詳	610×780	200110	北田町二
792	殿町	松江歴史館	昭和6年4月調製	1505×1065	200113	
793	南田町地図式枚之内	松江歴史館	昭和8年10月改写	640×815	200114	一枚不明
794	(外中原町)	松江歴史館	不詳	600×900	200115	青焼き複写一部分
795	外中原町地図	松江歴史館	昭和17年3月調製	805×570	200116	青焼き複写
796	松江市片原地図	松江歴史館	不詳	390×850	200117	青焼き複写
797	松江市石橋町地図式枚之内	松江歴史館	不詳	760×795	200118	青焼き複写
798	殿町参枚ノ内ノ参	松江歴史館	昭和26年6月	790×1040	200119	青焼き複写
799	松江市母衣町地図	松江歴史館	不詳	790×1300	200120	青焼き複写
800	(母衣町)	松江歴史館	不詳	470×1110	200121	
801	松東土地区画整理確定図	松江歴史館	不詳	605×780	200122	東本町
802	東本町	松江歴史館	不詳	540×790	200123	青焼き複写
803	松江市末次本町地図	松江歴史館	明治35年3月調製	340×580	200124	青焼き複写
804	松江市末次地図	松江歴史館	不詳	540×540	200125	青焼き複写
805	北堀町地図	松江歴史館	不詳	680×815	200126	青焼き複写
806	(石橋町)	松江歴史館	不詳	500×790	200127	青焼き複写
807	向島町地図	松江歴史館	大正13年10月改写	330×610	200128	青焼き複写
808	松江市米子町地図	松江歴史館	不詳	330×705	200129	青焼き複写
809	北田町地図ノ巻	松江歴史館	大正15年11月調製	620×835	200130	青焼き複写
810	南田町地図式枚之内	松江歴史館	昭和8年10月改写	600×780	200131	青焼き複写
811	南田町地図式枚之内	松江歴史館	昭和8年10月改写	550×1070	200132	青焼き複写
812	松江市石橋町地図式枚之内	松江歴史館	不詳	520×860	200133	
813	内中原町	松江歴史館	不詳	790×1210	200134	青焼き複写
814	中原町地図	松江歴史館	昭和15年7月改写	605×780	200135	青焼き複写
815	奥谷町地図	松江歴史館	昭和26年5月改写	1210×750	200136	青焼き複写
816	(奥谷町地図)	松江歴史館	不詳	660×1130	200137	青焼き複写

817	松江市東茶地図	松江歴史館	不詳	420×300	200138	青焼き複
818	松江市芋町地図	松江歴史館	不詳	355×425	200139	青焼き複写
819	大垣村山林図	松江歴史館	不詳	1800×1360	200140	秋鹿村役場図面/部
820	松江市北堀地図	松江歴史館	明治35年3月調製	690×1525	300101	
821	松江市奥谷地図	松江歴史館	明治35年3月調製	1080×1280	300202	
822	松江市中原地図	松江歴史館	明治35年3月調製	535×885	300303	
823	松江市内中原地図	松江歴史館	明治35年3月調製	530×1145	300404	
824	松江市外中原地図	松江歴史館	明治35年3月調製	1075×1280	300505	
825	松江市片原地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×880	300606	
826	松江市母衣地図	松江歴史館	明治35年2月調製	550×1135	300707	
827	松江市米子地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×800	300808	
828	松江市北田地図	松江歴史館	明治35年3月調製	675×1495	300909	
829	大字奥谷字大輪地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×605	301010	「北田町」式
830	大字末次字仙石屋敷地図	松江歴史館	明治35年3月調製	400×550	301111	
831	松江市東茶地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×395	301212	
832	松江市芋町地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×400	301313	
833	松江市西茶地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×530	301414	
834	大字末次字正毛地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×400	301515	
835	大字末次字舟堀地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×400	301616	
836	大字末次字土手後地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×400	301717	
837	松江市末次地図	松江歴史館	明治35年3月調製	490×520	301818	
838	大字西川津字上迫子	松江歴史館	明治35年3月調製	275×405	301919	「向島式枚之内」
839	松江市天神地図	松江歴史館	明治35年3月調製	400×755	302020	
840	松江分字伊勢宮字宮ノ沖地図	松江歴史館	明治35年3月調製	885×1140	302121	(一号)
841	松江分字伊勢宮字宮ノ沖地図	松江歴史館	明治35年3月調製	855×1105	302222	(二号)
842	松江分字稲荷廻地図	松江歴史館	明治35年3月調製	380×770	302323	
843	松江分字字賀地図	松江歴史館	明治35年3月調製	385×485	302424	
844	松江分字元山地図	松江歴史館	明治35年3月調製	790×1040	302525	
845	松江分字新丁地図	松江歴史館	明治35年3月調製	380×775	302626	
846	松江分字田中地図	松江歴史館	明治35年3月調製	535×570	302727	
847	西津田字松江境字フク地図	松江歴史館	明治35年3月調製	385×675	302828	
848	乃木字薩摩縄手地図	松江歴史館	明治35年3月調製	275×470	302929	
849	松江市(末次他11)	松江歴史館	不詳	545×2875	303030	末次・芋町・片原・西茶・東茶・末次本町・紙屋・元材木・末次魚町・鍛冶・新材木・向島
850	松江市(北堀石橋奥谷)	松江歴史館	不詳	995×1180	303131	縮写約千二百分ノ一
851	松江市(堅町他6)	松江歴史館	不詳	1070×1165	303232	堅町・横浜・榎實・新町・乃木・松江分伊勢宮を除く・西津田 縮写約千二百分ノ一 天神川以南
852	松江市(白湯本町他7)	松江歴史館	不詳	1540×1175	303333	白湯本町・八軒屋・和多見・寺町・白湯魚町・天神・轟町・松江分ノ内伊勢宮 縮写約六百分ノ一
853	松江市(内中原外中原中原大字末次ノ内)	松江歴史館	不詳	1800×1160	303434	
854	松江市(殿町母衣)	松江歴史館	不詳	1530×1170	303535	
855	(松江市橋北図)	松江歴史館	不詳	650×870	303636	
856	松江市末次本町地図	松江歴史館	明治35年3月調製	335×580	303737	
857	松江市紙屋地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×380	303838	
858	松江市元材木地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×400	303939	
859	松江市末次魚町	松江歴史館	明治35年3月調製	270×500	304040	
860	松江市鍛冶地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×675	304141	
861	松江市新材木地図	松江歴史館	明治35年3月調製	335×790	304242	
862	大字末次字向島地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×645	304343	「向島町式枚之内」
863	奥谷町地図	松江歴史館	昭和14年7月改写	1130×1310	304444	
864	松江市北堀町地図	松江歴史館	大正10年8月改写	1540×670	304545	
865	北堀町地図	松江歴史館	昭和14年7月改写	760×1650	304646	
866	(北堀町地図)	松江歴史館	不詳	920×790	304747	青焼き複写
867	北堀町地図	松江歴史館	昭和5年1月調製	775×1840	304848	
868	奥谷町全図	松江歴史館	明治初期	1210×1040	304949	奥谷町戸長尾義勝他地主総代製図者の名有り 切図
869	奥谷町地図	松江歴史館	昭和7年3月調製	1080×1300	305050	
870	松江市奥谷地図	松江歴史館	大正13年3月調製	1030×1250	305151	
871	殿町地図	松江歴史館	大正10年5月改写	1310×1080	400101	
872	殿町三枚ノ内巻	松江歴史館	昭和9年7月改写	525×615	400202	県庁敷地付近図
873	殿町式	松江歴史館	昭和9年7月改写	780×1055	400303	式号公園地内全図
874	殿町三枚ノ内参	松江歴史館	昭和9年7月改写	525×1040	400404	参考県庁前通り以东全体図
875	松江市内中原地図	松江歴史館	大正12年3月改写	540×1160	400505	
876	中原町地図	松江歴史館	大正10年4月調製	510×800	400606	
877	外中原町地図	松江歴史館	大正10年4月調製	930×1210	400707	
878	北田町ノ二	松江歴史館	大正15年11月調製	625×865	400808	
879	松江市宅地等級概況図	松江歴史館	明治44年(1911)頃	1160×1090	400909	1430と同図
880	松江市南田地図	松江歴史館	明治35年3月調製	980×1080	401111	
881	南田町地図	松江歴史館	昭和5年1月調製	920×1080	401212	
882	南田町地図二枚之内	松江歴史館	昭和8年10月改写	1060×530	401313	南田町二(北部)
883	大字末次字田町地図	松江歴史館	明治35年3月調製	275×400	401414	南田町二(大字末次字田町)
884	松江市(米子・南田・北田)	松江歴史館		1570×1190	401515	
885	出雲国意宇郡竹矢村地図	松江歴史館	明治20年頃?	1010×1830	500101	戸長中島綱之助他地主総代人図面者の名前あり
886	出雲国意宇郡八幡村地図全	松江歴史館	明治21年12月調製	1035×1740	500202	戸長福島榮太郎他地主総代製図者の名前あり
887	出雲国意宇郡矢田村地図全	松江歴史館	明治21年12月調製	950×1560	500303	控え 戸長福島榮太郎他地主総代者製図者の名前あり
888	出雲国意宇郡馬湯村地図全	松江歴史館	明治21年12月調製	750×900	500404	控え 戸長福島榮太郎他地主総代者製図者の名前あり
889	山林原野絵図面 坂本村控え	松江歴史館	明治10年	1470×580	500505	第六十六区坂本村控え 戸長本村忠七副戸長の名前
890	山林原野絵図面 西持田村	松江歴史館	明治10年か?	615×1200	500606	戸長青山勘兵衛他副戸長用系下調人の名前あり
891	第五区東持田下分	松江歴史館	明治10年代始め	1090×940	500707	
892	川原新地図	松江歴史館	不詳	1050×750	500808	持田村農業調査区第四号
893	持田村大字坂本	松江歴史館	明治20年頃?	2180×900	500909	戸長三代蔵四郎他地主総代人製図者名前あり
894	持田村大字川原	松江歴史館	明治20年頃?	1625×755	501010	戸長三代蔵四郎他地主総代人製図者名前あり
895	福原図	松江歴史館	明治20年頃?	1545×1035	501111	戸長三代蔵四郎他地主総代人製図者名前あり
896	字地図 持田村大字西持田村	松江歴史館	明治20年頃?	2230×1160	501212	戸長三代蔵四郎他地主総代人製図者名前あり
897	第六十二区島根郡国屋村地番図写し	松江歴史館	原因:明治20年?	2100×1360	501313	昭和61年3月写し
898	法吉(複写)	松江歴史館	不詳	800×1620	501414	松江市役所税務課複写か?
899	黒田(複写)	松江歴史館	不詳	770×1550	501515	松江市役所税務課複写か?
900	不明	松江歴史館	不詳	795×1725	501616	松江市役所税務課複写か?
901	春日(複写)	松江歴史館	不詳	1060×800	501717	松江市役所税務課複写か?

902	不明	松江歴史館	不詳	725×1110	501818	松江市役所税務課複写か?
903	不明	松江歴史館	不詳	800×1120	501919	松江市役所税務課複写か?
904	黒田町	松江歴史館	不詳	800×1490	502020	青焼き複写
905	松江市索引図	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502121	青焼き複写
906	No.2(奥谷町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502222	青焼き複写
907	No.3(北堀・奥谷町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502323	青焼き複写
908	No.4(北堀町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502424	青焼き複写
909	No.5(北田町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502525	青焼き複写
910	No.6(北田町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502626	青焼き複写
911	No.7(南田町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502727	青焼き複写
912	No.8(米子町・南田町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502828	青焼き複写
913	No.9(母衣町・殿町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502929	青焼き複写
914	No.10(母衣町・殿町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503030	青焼き複写
915	No.11(城山)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503131	青焼き複写
916	No.12(内中原町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503232	青焼き複写
917	No.13(殿町・内中原町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503333	青焼き複写
918	No.14(外中原町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503434	青焼き複写
919	No.15(中原町・外中原町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503535	青焼き複写
920	No.16(外中原町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503636	青焼き複写
921	No.17(末次町)末次本町ほか	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503737	青焼き複写
922	No.18(東本町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503838	青焼き複写
923	No.19(伊勢宮・御手船場・朝日町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503939	青焼き複写
924	No.20(和多見町・白潟魚町・天神町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	504040	青焼き複写
925	No.21(寺町・天神町・瀬町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	504141	青焼き複写
926	No.22(大正町・朝日町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	504242	青焼き複写
927	No.23(雑賀町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	504343	青焼き複写
928	No.24(雑賀町・堅町・横浜町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	504444	青焼き複写
929	No.25(幸町・栄町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	504545	青焼き複写
930	No.26(雑賀町・新町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	504646	青焼き複写
931	第八区意宇郡乃木村	松江歴史館	明治10年代	2300×1800	504747	
932	第八区意宇郡乃木村	松江歴史館	明治10年代	2300×1800	504848	
933	第八区意宇郡乃木村	松江歴史館	明治10年代	1800×2120	504949	
934	第八区意宇郡乃木村	松江歴史館	明治10年代	1800×2850	505050	
935	意宇郡東津田村	松江歴史館	明治8年	1030×2180	505151	戸長布野豊典他副戸長用の名前
936	出雲国意宇群東津田村地図	松江歴史館	明治21年12月調製	1360×1290	505252	宇佐木・宇ノ/唐・宇越前・宇講田・宇須原・宇石屋
937	異動口絵図面 四ノ内第口	松江歴史館	明治20年	1430×2200	505353	意宇群東津田村
938	出雲国意宇群西津田村地図	松江歴史館	明治21年12月調製	1600×1160	505454	戸長福島榮太郎他地主総代人の名前あり
939	意宇群東津田町変換地図	松江歴史館	明治19年8月製	1080×980	505555	
940	(西津田村全図)	松江歴史館	原本:明治21年12月調製	1550×1050	505656	戦後の写しか?
941	東津田町地番図ノ式	松江歴史館	戦後	910×1950	505757	写し
942	東津田町(地番図ノ巻)	松江歴史館	戦後	1275×1880	505858	写し
943	津田村東群絵図面(写し)	松江歴史館	原本:明治10年頃	1315×1755	505959	
944	絵図第六十二号(北堀・石橋・奥谷)	松江歴史館	明治10年代か	1800×2310(原図)	506060	北堀・石橋・奥谷町の住宅図

(『松江市史』「絵図・地図」掲載図は名称に▲を付した)

(4) 城下絵図

番号	名 称	所蔵館など	年 代	原寸サイズ	掲載資料名	備 考
1101	▲●堀尾期松江城下町絵図DA32	島根大学図書館	元和6～寛永10年(1617～33)	141.0×117.0	絵図でたどるp7	原図か
1102	▲●寛永年中松江御城並家数割町分圖14-10	丸亀市立資料館	寛永11～14年(1634～37)頃	152.0×130.0		昭和56年表装、サイズ148×125に縮小
1103	雲隠兩國太守京極若狭守忠高御時代城下略図	島根県立図書館	☆宝永4年以降	101×47 折紙1枚 表紙・裏表紙付		原図か
1104	雲隠兩國太守京極若狭守忠高御時代城下略図	松江歴史館	☆宝永4年以降	49.5X103 巻紙1枚		原図は賣布神社、s27別所唯義模写
1105	雲隠兩國太守京極若狭守忠高御時代城下略図	松江歴史館	☆宝永4年以降	115.5X55.7 巻紙1枚		原図は石原家、s28別所唯義模写、
1106	雲隠兩國太守京極若狭守忠高御時代城下略図	個人蔵	寛永11～14年頃(1634～37)	52X92.5 1枚		
1107	京極殿時代松江家中之圖4-24	丸亀市立資料館	寛永11～14年頃(1634～37)	46×101		江戸時代後期写、清二館旧蔵
1108	京極忠高時代松江城下図	島根県立図書館複写	不詳	25×53	松江市誌附図	1103のs12～16年頃複写図、宝永4年以降
1109	▲松江城正保年間絵図	個人蔵	正保年間(1644～1648)	300X330 1枚		控え図
1110	▲●出雲国松江城絵図(松江城正保年間絵図)	国立公文書館	正保年間(1644～1648)	274X324 1枚		国重要文化財、元家老乙部家の原図
1111	▲●松江城及城下古図	個人蔵	☆天和3年～元禄5年(1683～1692)	102.0×150.0		元家老宅
1112	雲州松江	個人蔵	☆延宝4年以降	26.7X37 巻紙1巻	事業報告第2	
1113	●雲州松江城図(松平乗明)176-282	国立公文書館	江戸中期頃	95X100 1枚		
1114	▲雲州松江御城下之図	島根県立図書館	☆文政8年～天保5年	100.0×87.5		斎貴公時代か
1115	雲州松江御城下之図	松江歴史館	☆文政8年～天保5年	100X87.5 折紙1枚		
1116	雲州松江御城下之図(江戸末期松江城下地図)	松江歴史館	☆文政8年～天保5年	タテ66×ヨコ81 等し97×101		
1117	松江城下古繪図	松江市立中央図書館	☆嘉永3年～文久3年		大江出版	
1118	雲州松平出羽守領地松江城下圖	個人蔵	☆嘉永3年～文久3年		県文化財調査s50	
1119	松江城下図	松江歴史館	嘉永3年(1850)一昭和27年模写	42X52.5		昭和27年別所唯義模写
1120	嘉永三年絵図	松江歴史館	嘉永3年(1850)一昭和27年模写	100.5X157.5 巻紙1枚		昭和27年模写
1121	松江城全図	個人蔵	享保18年～元文元年	55.5×79.5		昭和14年頃模写、原図不明
1122	▲ 松江城下絵図	個人蔵	☆文政・文久年間(1854～1864)	51.5×74.0		繊細美麗、手書き絵図、乙部家寄託
1123	▲●松江城下絵図	島根県立図書館	元文・延享年間(1736～1748)	165×159	絵図でたどるp20	太陽コレクションp10
1124	出雲松江城圖w20-970	東京大学南英文庫		93.0×89.8		
1125	延享元年松江城下図(仮称)	個人蔵	延享元年(1744)	80X91.5 折紙1枚		原図の所在は不明
1126	山陰道及び山陽道諸城圖(松江城)t3-43	岡山大学付属図書館		29.7×41.5		
1127	雲州松江之図M291-ウ-4	宮城県図書館		116×125.5		写本(彩色)、浦谷亘理家旧蔵
1128	延享年間松江城下古図	島根県文書課原蔵縮写	延享2年～4年		松江市誌附図	山陰道
1129	延享年間松江城下絵図(宗衍公城下図)	明治大学蘆田文庫		54.9×39.7	県図原図を復刻	
1130	松江城下古圖(不昧公時代)	明治大学蘆田文庫	宝暦5年より安永4年	53.3×37.1	吉野林次郎復刻	原図は松平家蔵
1131	松江城下町図	個人蔵	文化12年			原図か
1132	松江城下町図	松江歴史館	文化12年(1815)	91X112.5 巻紙1枚		昭和28年有田傳助を模写
1133	松江城下図	松江歴史館	文政年間後半	117X135 巻紙1枚		瀬川亮氏寄贈、515,521と同じ絵図
1134	松江城下図	島根県立図書館	☆文化12年～14年	78×123		
1135	松江城下之図	松江歴史館	天保年間(1830～1844)頃	101×145	巻紙1枚	
1136	▲松江城下繪圖	松江歴史館	天保年間(1830～1844)頃	103×146	城山倉庫・天守閣	藤岡大拙解説
1137	松江城下繪圖(写)	松江市立中央図書館	☆文政8年～天保5年	99.0×72.5	昭和礼文社	藤岡大拙解説、1136の複写

1138	▲雲州松江之図	個人蔵	天保14年(1843)	99×160		
1139	松江城下絵図	島根県立図書館	☆天保年間～嘉永3年	88×110		
1140	賣布神社蔵・城下略図(写)	松江歴史館	☆文久3年～明治元年		城山倉庫・天守閣	原図は賣布神社
1141	松平期松江城下町絵図DA31	島大図書館(桑原文庫)	☆嘉永3年～文久3年	39.5X49.8 折紙1枚	絵図の世界p30	原図か
1142	松江藩圖面(御城下繪圖)	個人蔵	文久元年	2枚		島根県立図書館資料
1143	松江城下図(仮)	豆布神社蔵	文化元年	63.5×79.3		大橋川以北のみ、彩色
1144	雲陽御家中城下図面	個人蔵	19世紀後半	35.5×50 1枚	事業報告第2	
1145	松江千島城下之図	個人蔵	文久2年			昭和14年写し
1146	松江城下家中屋敷之圖	個人蔵	文久2年			千茶荘包装紙・s14模写
1147	雲藩士族屋敷之図	個人蔵	☆文久3年～慶応元年			1149と同じ
1148	雲藩士族屋敷之図	雲藩職制附図	☆文久3年～慶応元年	39.5X54 折紙1枚	雲藩職制	1141の縮写図か
1149	雲藩士族屋敷之図	松平定安公傳附図	☆文久3年～慶応元年		松平定安公傳	
1150	松江城下図1113	金沢市立図書館	寛永18年(1641)写し	29×41	諸国居城之図集(山陰道)117	略図、彩色、写し、元禄5年有沢永貞筆
1151	▲松江城下図	絲原記念館	☆文政・文久年間(1854～1864)	86×99	絵図でたどるp21	太陽コレクション、木版刷彩
1152	松江城下地図	島根県立図書館	☆天保～嘉永3年	78×123		
1153	松江城下図	松江歴史館	江戸		城山倉庫・天守閣	
1154	▲松江城下絵図	島取県立図書館	☆宝永2年～正徳3年(1705～1713)	108.0×137		
1155	雲州松江御城下図	松江歴史館	年代未詳			
1156	松江城下図	松江歴史館	年代未詳			
1157	旧松江城附近之絵図	兵庫県歴史博物館	不詳	不詳	事業報告第2	
1158	御城下繪圖	個人蔵	江戸後期	39×51(8.5×19.7)		1151、1141、1159に類似
1159	御城下繪圖	個人蔵	江戸後期	39.7×51(8.7×20.0)		
1160	京極忠高時代城下略図(写)	松江歴史館			城山倉庫・天守閣	原図は石原氏
1161	松江御城下絵図(写)	松江歴史館			城山倉庫・天守閣	原図は堀江氏所蔵
1162	雲州松江之城図 9-チー45、国書513-13	前田育徳会	元禄癸酉春上旬写之(元禄6年)	133.8×141.6	有沢永貞蒐集	
1163	雲州松江 以下極大図縮之 9-15-外	前田育徳会		28.9×40.7	諸国居城図185枚の1枚	松江城と一部の武家地、1162の一部を写す
1164	松江城下 以下極大図縮之 9-15-外	前田育徳会		28.9×40.7	諸国居城図185枚の1枚	松江城下図、1162の写し
1165	松江城下図	松江歴史館			城山倉庫・天守閣	1164から移動
1166	▲白潟天満宮祭礼図(3幅1対)	白潟天満宮	安政年間(1854～1860)	南38.5×131.0中38.7×131.7左38.8×131.4	箱79.5×20.0×7.5	清水撫玉作、3枚の軸
1167	延宝四年間松江大火図	個人蔵	延宝4年(1676)		松江市誌	
1168	大火の図	島根大学図書館	嘉永5年(1852)模写			天保8、文化5年など複製
1169	松江延宝年間大火図	個人蔵	嘉永5年模写、昭和14年模写	21×28		s14模写トレース図(原図は不明)
1170	享保頃雑賀町古絵図	個人蔵	享保15年(1730)頃か	73.0X39.5 折紙1枚		写し、s12野津静一郎蔵
1171	享保頃雑賀町古絵図	個人蔵	享保15年(1730)頃か	23X39	松江市誌附図	模写図
1172	▲松江末次本町絵図	島根大学図書館	元禄年間(1688～1704)	91.4×123.5	絵図の世界	安政3年(1856)写
1173	▲雑賀町繪圖	個人蔵	文久元年(1861)頃	43.2×63.5		袋入り、手書か、1177、1174と同類系
1174	▲雑賀町繪圖	絲原記念館	文久元年(1851)頃	41.1×65.1	絵図でたどるp24	袋入り、木版刷彩か、1177、1173と同類系
1175	雑賀町地図	松江歴史館	文久の絲原より新	37.3X52 折紙1枚		
1176	雑賀町地図	雲藩職制附図	文久の絲原より新	39×54	雲藩職制	松城縮写の記載
1177	松江雑賀町絵図DA30	島大図書館(桑原文庫)	江戸時代後期	41.0×64.0		桑原文庫、1174、1173と同類系
1178	松江藩雑賀衆居住圖	島根県立図書館	弘化・文久			吉野林次郎編
1179	松江末次商家図	個人蔵	明和7年(1770)頃	73.5X90 折紙1枚		昭和14年模写、原図は末次御図帳
1180	雑賀町足輕屋敷と間取り図				新修松江市誌p276	
1181	意宇郡松江白潟之圖	明治大学蔵田文庫	江戸後期	65.2×88.0	内田文庫印	手書き彩色
1182	松江白潟町絵図「白潟魚町図」	松江歴史館	安永9年(1780)～天保12年(1841)頃	112.0×238.2		原図と貼図有り
1183	松江白潟町絵図「白潟天神町図」	松江歴史館	安永9年(1780)～天保12年(1841)頃	101.0×314.7		原図と貼図有り
1184	松江白潟町絵図「白潟本町・八軒屋町」	松江歴史館	安永9年(1780)～天保12年(1841)頃	242.0×137.6		原図と貼図有り
1185	松江白潟町絵図「寺町図①」	松江歴史館	安永9年(1780)～天保12年(1841)頃	113.6×454.4		原図と貼図有り
1186	松江白潟町絵図「横浜町洞光寺(堅町)」	松江歴史館	安永9年(1780)～天保12年(1841)頃	54.8×138.2		原図と貼図有り
1187	松江白潟町絵図「寺町図②」	松江歴史館		113.6×454.4		原図と貼図有り
1188	御入湯御用御宿割図(玉湯)	松江歴史館	化政期から天保年間	135.0×70.0	宮ノ上地区発掘調査報告書	家臣が宿泊するときの宿割、宿割帳と一体
1189	外中原江戸堀図(仮)	広島大学付属図書館	幕末	209.0×149.0		1袋
1190	松江城下図屏風	松江歴史館			太陽コレクション	
1191	松江城下図屏風	松江武家屋敷			山陰道p89	
1192	松江白潟(写し)	松江歴史館	安永9年(1780)～天保12年(1841)頃		城山倉庫・天守閣	
1193	松江白潟町絵図「横浜町図」	松江歴史館	安永9年(1780)～天保12年(1841)頃	92.3×286.2	城山倉庫・天守閣	
1194	▲松江白潟町絵図「和多見町」	松江歴史館	安永9年(1780)～天保12年(1841)頃	153.8×237.2	城山倉庫・天守閣	
1195	極秘諸国城図	松江歴史館			城山倉庫・天守閣	
1196	松江城下町地図77-1-1	個人蔵	不詳	98.5×101.0	島根県古代文化センター	/77-1-1
1197	松江城下之図90-2-10	個人蔵	天明4年(1784)初秋	98.6×94.7	島根県古代文化センター	裏に「北堀中嶋氏」の付箋あり。石材加工業小川曉之助画
1198	松江新橋町絵図	松江歴史館		71.0×169.0		
1199	出雲国美保神社真景図	美保関神社所蔵	慶応2年(1866)			
1200	青柴垣神事絵巻	美保関神社所蔵				
1201	松江城下圖		明治10年(1877)			天野漱石作
1202	▲松江四季眺望図	個人蔵	明治7年(1874)調整	60.7×125.4		絵師陶山勝寂
1203	▲大山寺縁起(模本)	東京国立博物館	応永5年(1398)・天保2年(1831)模写	43.6×1581.8		天保2年8月(1831)模写Aー6922
1204	松江城下図	絲原記念館	明治10年(1877)			天野漱石筆、鳥瞰図
1205	雑賀町絵図	豆布神社蔵	文久年間か	51.2×72.0		文化年間を延享年間に訂正張り紙
1206	雑賀町地図	個人蔵				
1207	宍道町並図	個人蔵	文化・文政年間	218.5×37.3		
1208	宍道町並図	個人蔵	文政元年	217.0×39.0		
1209	松江四季眺望図	個人蔵	大正3年(1914)写		松江歴史館寄託	絵師陶山勝寂
1210	松江四季眺望図	個人蔵				絵師陶山勝寂、箱書s25,1松平家より
1211	松江城下絵図(下書き図会)	個人蔵	☆文政・文久年間(1854～1864)	51.5×74.0		繊細美麗、屋敷未記入、乙部家の複製か
1212	御城下絵図	個人蔵	幕末	74.0×91.5	彩色手書き、蘭語の訓用地図記	
1213	▲松江城下図(仮称)	個人蔵	文久頃	44.0×58.0	裏に碧雲堂の印あり	1151、1141、1159に類似、手書き写し
1214	松江城下図(仮称)	個人蔵	幕末	89.5×125.0	彩色手書き、雑賀町人を記載	向島に歩兵屋敷、習兵所記載
1215	松江城下図	個人蔵	文久頃	50.0×36.0		
1216	極秘諸国城図74枚	松江歴史館蔵	元禄5年(1692)辛亥正月吉辰	41.7×28.7		此主山岡景茂、一部組図

(『松江市史』「絵図・地図」掲載図は名称に▲を、『松江市史』「松江城」掲載予定絵図は名称に●を付した)

(5) 市街・交通図

番号	名 称	所蔵館など	年 代	原寸サイズ	掲載資料名	備 考
1301	三国通覽輿地路程全図	松江歴史館	天明5年	75.5×53		

1302	陸地測量部地図「松江」	松江歴史館		45.7×57		
1303	出雲礼三拾三所道法順附絵図	松江歴史館		28×41		
1304	出雲郡新田筋七ヶ村絵図	松江歴史館		46.5×37		
1305	出雲郡新田筋絵図	松江歴史館		46×35		
1306	出雲郡・神門郡図	松江歴史館		74×50		
1307	絵図入	松江歴史館				
1308	出雲街道絵図	山陰歴史館所				
1309	松江橋北溝渠下水之図	島根県立図書館	明治初年頃	122×172		
1310	松江橋南溝渠下水之図	島根県立図書館	明治初年頃	85×105		
1311	松江市外中原小三区方眼寺	広島大学付属図書館	明治6年	251.0×232.0		
1312	第一大区小七区横浜町図面	広島大学付属図書館	明治6年			
1313	第七区松江分図面二枚之内	広島大学付属図書館	明治6年			
1314	第一大区小三区中原町	広島大学付属図書館	明治6年	304.0×170.0		
1315	第六区白濁・天神・灘・寺町	広島大学付属図書館	明治6年		松江市立中央図書館蔵写所蔵	
1316	第六区南和多見町・北和多見町	広島大学付属図書館	明治6年		松江市立中央図書館蔵写所蔵	
1317	第一区大区小四区之二茶町	広島大学付属図書館	明治6年		松江市立中央図書館蔵写所蔵	
1318	松江市街二分図第一区・殿町	広島大学付属図書館	明治6年	242.0×275.0	松江市立中央図書館蔵写所蔵	
1319	松江市街二分図第一区・母衣・米子	広島大学付属図書館	明治6年			
1320	松江市街二分図第二区・北堀・石橋・奥谷	広島大学付属図書館	明治6年	283.0×330.0		
1321	松江市街二分図第三区・内中原	広島大学付属図書館	明治6年	246.0×126.0		
1322	新丁屋敷図	広島大学付属図書館	明治6年	267.0×147.0		
1323	松江市街二分図第四区第五区・末次・材木	広島大学付属図書館	明治6年	419.0×81.5	松江市立中央図書館蔵写所蔵	
1324	松江市街二分図第六区・本町・八軒屋	広島大学付属図書館	明治6年		松江市立中央図書館蔵写所蔵	
1325	松江市街二分図第七区・堅・横浜	広島大学付属図書館	明治6年		松江市立中央図書館蔵写所蔵	
1326	地券地引絵図湯町	松江市立出雲玉作資料館	明治7年			
1327	出雲国区割全図(A)	国立公文書館177-0723	明治9年～14年	101.5×95.0		橋北が薄緑色
1328	▲出雲国区割全図(B)	国立公文書館177-0724	明治9年～14年(1876～1881)	101.0×94.5		橋北が黄色
1329	外中原町地図鷹匠町東側	広島大学付属図書館	明治初年頃か☆	96.0×175.0		
1330	地租改正絵図(耕地)湯町	松江市立出雲玉作資料館	明治9年			
1331	地租改正絵図(耕地)林村	松江市立出雲玉作資料館	明治9年			
1332	松江市街二分図 北南田町	広島大学付属図書館	明治6年	264.0×268.0		
1333	地押更生地図玉造	松江市立出雲玉作資料館	明治19年～21年			
1334	布志名村図面	松江市立出雲玉作資料館				
1335	松江城下圖		明治10年			天野漱石作
1336	出雲地図十郡切絵図・意宇郡・島根郡	神戸市立博物館	明治時代	40.7×27.0		南波コレクション
1337	出雲地図十郡切絵図・出雲国全図	神戸市立博物館	明治時代	39.5×48.6		南波コレクション
1338	出雲國全圖	国立国会図書館YG913-2124	明治14年(1881)	47×35	23万分の1	大日本一統輿地圖
1339	▲出雲國松江市街之圖	国立国会図書館YG913-1499	明治12年(1879)	52.0×62.0	6000分の1	片平文一編
1340	島根縣下出雲國全圖	国立国会図書館YG913-2090	明治12年(1879)	48×71	1万5千分の1	片平文一編
1341	松江市街之図	島根県立図書館	明治12年(1879)	52×62		
1342	島根県管下出雲国全図	岐阜県立図書館	明治12年(1879)	48.3×70.5		片平文一編
1343	明治十二年出版 出雲国松江市街之図		明治12年1879	28.533.5 新紙1枚		明治十二年出版
1344	出雲国松江市街之図		明治12年3月出版		市制100年市誌	園山喜三右エ門出版人
1345	出雲国松江市街之図		明治12年3月出版	28.5×33.5	松江市誌付図	園山喜三右エ門出版人
1346	島根県下出雲国全図	島根県立図書館	明治12年(1879)	48×70		松江市街図あり
1347	出雲国松江市街之図島根郡	島根県立図書館	明治14年(1881)	48×67		島根県作成
1348	出雲国松江市街之図意宇郡	島根県立図書館	明治16年(1883)	35×49		島根県作成
1349	島根出雲国意宇郡湯町図面	松江市立出雲玉作資料館				
1350	玉造村図	松江市立出雲玉作資料館	明治21年			
1351	意宇郡玉造村地図大字大谷・玉造	松江市立出雲玉作資料館	明治22年			
1352	複製20万分1図(部分図)		明治21年		八雲村誌	
1353	雑賀町地図	松江歴史館	明治22年	54×80.5		
1354	灘町地図	島根県立図書館	明治20年頃			田中史好作
1355	松江市街実測図	島根県立図書館	明治33年	56×41		複製・川岡清助編
1356	松江市街実測図	松江歴史館	明治33年	55.5×42		
1357	松江市街實測図	岐阜県立図書館	明治33年(1900)	39.5×54.6		川岡清助編
1358	松江市街実測図	岐阜県立図書館	明治33年(1900)		山下資料	川岡清助編
1359	松江市街実測図	島根県立図書館	明治33年(1900)	39×55		
1360	最新松江市全図	松江歴史館	大正11年	39.5×54.5		有田傳助編著
1361	松江市全圖	松江市立中央図書館	明治39年	27×38	島根県名勝誌差込	奥原福市著、有田傳助発行
1362	松江市全図	松江市立中央図書館	明治40年頃			作成途中か
1363	大火の図	島根大学図書館	大正2年頃			
1364	島根県地図 松江	島根県立図書館	大正10年(1921)	78x108		
1365	松江市全図及案内図	島根県立図書館	明治43年(1910)	42×57		有斐堂
1366	松江市全図	明治大学蔵田文庫	大正11年	48.6×35.1		有田傳助編
1367	松江市全圖	岐阜県立図書館	大正11年(1922)	39.3×54.0		榊原孝一著
1368	松江市全図	岐阜県立図書館	大正11年(1922)		山下資料	榊原孝一著
1369	松江市街図	松江市立中央図書館	大正14年発行	3万分の1	分県地図其32	大阪毎日新聞
1370	松江市全図	松江歴史館	大正6年	30.5×46		有田伝助編
1371	松江市全図	松江市立中央図書館	大正7年	40×50		附録松江市案内
1372	松江市全圖	岐阜県立図書館	大正7年(1918)	39.5×54.5		有田傳助著
1373	松江市全図	岐阜県立図書館	大正7年(1918)		山下資料	有田傳助著
1374	松江市全圖	島根県立図書館	昭和11年	56×71		有田傳助著・複製
1375	白濁大火図		昭和24年8月15日		新修松江市誌p432	
1376	松江市全図	松江市立中央図書館	昭和11年	62×50		
1377	最新松江市全図	松江歴史館	昭和15年	55×69.5		
1378	松江都市計画図		昭和16年	2万5千分の1	松江市誌	
1379	松江都市計画図		昭和16年	縮尺2万5千分の1	市制100年市誌	
1380	松江市街図		昭和16年	縮尺2万5千分の1	市制100年市誌	
1381	松江市街図		昭和16年	縮尺2万5千分の1	松江市誌	
1382	住民地図	松江歴史館	昭和20年	38×52		北殿町住民地図

1383	松江市全図	松江市立中央図書館	昭和2年	39×55		有田伝助編
1384	最新松江市全図	岐阜県立図書館	昭和2年(1927)		山下資料	有田傳助著
1385	最新松江市全図	岐阜県立図書館	昭和4年(1929)		山下資料	有田傳助編
1386	松江市街図	岐阜県立図書館	昭和4年(1929)		山下資料	今井兼文編
1387	島根縣名勝遊覧圖繪	松江市立中央図書館	昭和5年	17.5×76.8	島根県島瞰図	島根縣觀光協會発行
1388	最新松江市全図	岐阜県立図書館	昭和5年(1930)		山下資料	有田傳助編
1389	最新松江市全図	島根県立図書館	昭和7年(1932)	40×55		有田傳助編
1390	松江市全図	岐阜県立図書館	昭和9年(1934)		山下資料	松江市発行
1391	松江市全図	松江市立中央図書館	昭和30年頃	77×54		
1392	最新松江市全図	岐阜県立図書館	昭和33年(1958)		山下資料	今井兼文編
1393	松江市案内	松江歴史館	昭和38年			
1394	▲水郷松江と神國出雲	松江市立中央図書館	昭和7年(1932)	15.2×43.0		松江観光協會発行
1395	松江圏都市計画総括図		昭和63年現在	1万分の1	市制100年市誌	
1396	松江市勢要覽附図	島根県立図書館	昭和11年(1936)	51×50		
1397	松江市市街図	島根県立図書館	昭和11年(1936)	51×54		昭和12年(発行)
1398	松江市街案内図	島根県立図書館	昭和11年(1936)	54×69		1万分の1
1399	松江市誌附図	島根県立図書館	昭和13年(1938)	22×39		享保頃雑賀町古絵図
1400	松江市誌附図	島根県立図書館	昭和16年(1941)	38×49		大橋川より下川絵図面
1401	松江市誌附図	島根県立図書館	昭和16年(1941)	39×48		市街図
1402	松江市誌附図	島根県立図書館	昭和16年(1941)	46×36		都市計画図
1403	松江市勢要覽附図	島根県立図書館	昭和4年(1929)	54×40		
1404	松江市勢要覽附図	島根県立図書館	昭和5年(1930)	54×40		
1405	松江市勢要覽附図	島根県立図書館	昭和6年(1931)	54×40		
1406	松江市勢要覽附図	島根県立図書館	昭和8年(1933)	54×40		
1407	松江市勢要覽附図	島根県立図書館	昭和9年(1934)	54×39		
1408	松江市勢要覽附図	島根県立図書館	昭和29年(1954)	46×33		松江市全図S29
1409	松江市勢要覽附図	島根県立図書館	昭和29年(1954)	48×38		松江市街図S29
1410	松江市勢要覽附図	島根県立図書館	昭和30年(1955)	47×33		松江市全図S30
1411	松江市勢要覽附図	島根県立図書館	昭和30年(1955)	48×39		
1412	松江市中心部(地形図)	国土地理院	現在	1万分の1	絵図の世界p28	
1413	川下辺絵図(現代)地形図	国土地理院	現代	1万分の1	絵図の世界p36	
1414	絵図面	島根県立図書館	不詳	90×94		
1415	新町絵図	松江歴史館		169×71		3-13松江歴史館蔵、湯町氏寄贈
1416	雲州松江図	島根県立図書館	不詳	28×39		
1417	地図	松江歴史館		(33×76),(43.5×59.5)		
1418	松江市全図	松江歴史館		40×49		
1419	旅行案内地図	松江歴史館				奥原国雄
1420	松江の地勢図				新修松江市誌p9	
1421	松江土木事務所管内図	松江歴史館				
1422	松江市地質図				新修松江市誌p18	
1423	松江市街図	松江歴史館				
1424	松江管区地図	松江歴史館				
1425	新町絵図	松江歴史館		169×71		
1426	今市都市計画区域図	松江歴史館				
1427	▲松江市宅地等級概況図	松江歴史館	☆明治44年(1911)頃	116.0×109.0		879と同図
1428	松江都市計画区域図(2万5千分の1地形図)	国立公文書館033	昭和3年			
1429	出雲國第十区意宇郡掛屋村図	東出雲支所	明治8年9月	2490×2300		はみ出し75×45
1430	出雲郡村貳番組山圖	東出雲支所	明治9年調整	1470×940		
1431	地租改正地引繪圖面 今宮分	東出雲支所	明治初	1220×1090		
1432	出雲國第十区意宇郡掛屋村図	東出雲支所	明治初	1700×1730		最長303
1433	出雲國第9区意宇郡出雲郷村分	東出雲支所	明治8年	1410×1650		
1434	下意東村図	東出雲支所	明治時代	2910×2560		最短680
1435	下意東大圖面	東出雲支所	明治時代	2380×1750		
1436	下意東山林図面	東出雲支所	明治時代	1170×1400		
1437	銅鑛山借區地実測図	東出雲支所	☆明治7年(1874)頃	860×1100	民有地33,836坪	明治7年民間払い下げ、佐藤他3名
1438	▲銅鑛山借區地実測図	東出雲支所	☆明治7年(1874)頃	940×1180	民有地35,832坪9合	訂正印あり、公印の捺印か
1439	六十一区秋鹿郡手結浦繪圖	鹿島支所	明治6年懸差並上ル	112.0×94.0		
1440	秋鹿郡手結浦地押圖	鹿島支所	明治22年	172.0×109.0		戸長三浦正祐他
1441	第61区秋鹿郡江角浦圖面	鹿島支所	明治6年	88.0×105.5		彩色きれい
1442	第61区秋鹿郡片匂浦山林原野取調繪圖面	鹿島支所	明治8年	99.0×143.0		地主総代山本嘉右衛門他
1443	第61区秋鹿郡片匂浦圖面	鹿島支所	明治6年	107.0×106.0		
1444	第61区出雲國秋鹿郡片匂浦繪圖面	鹿島支所	明治8年12月改正	127.0×98.5		青色、少し破れ
1445	水浦片匂境圖	鹿島支所	明治9年	26.0×73.0		
1446	江角字限り圖	鹿島支所	明治22年3月調製	99.0×76.0		戸長三浦正祐他
1447	南講武字界地面	鹿島支所	明治22年3月調製	108.0×78.0		戸長宮廻隆一他
1448	上講武村地圖字境界	鹿島支所	明治22年3月調製	156.0×111.5		戸長宮廻隆一他
1449	名分村地圖字界	鹿島支所	明治22年3月調製	161.0×78.0		戸長宮廻隆一他
1450	佐太村地押申告地圖	鹿島支所	明治時代	118.0×101.0		
1451	佐太村宅地所在見取圖	鹿島支所	明治時代	52.0×35.0		
1452	佐陀宮内村客社境内外区域明細圖	鹿島支所	明治12年	38.5×27.5		島根懸令境 二郎宛
1453	第61区秋鹿郡武代村圖面	鹿島支所	明治6年	105.0×139.0		彩色きれい
1454	佐陀宮内村佐陀神社境内外区域明細圖	鹿島支所	明治12年	40.0×28.0		
1455	第61区秋鹿郡佐陀本郷村圖面	鹿島支所	明治6年	194.0×168.0		彩色きれい
1456	武代村全圖	鹿島支所	明治22年3月調製	73.0×101.0		戸長新宮善八郎他
1457	佐陀本郷改組山林圖面	鹿島支所	明治22年3月調製	177.0×93.0		
1458	佐陀宮内村全圖	鹿島支所	明治22年3月調製	88.5×83.0		戸長新宮善八郎他
1459	佐陀宮内村耕地繪圖面	鹿島支所	明治8年8月	82.0×89.0		彩色きれい、下調人新宮常松他
1460	第60区秋鹿郡佐陀宮内村繪圖	鹿島支所	明治8年8月	84.5×100.5		彩色きれい、神官の宅地明記
1461	北講武村地圖字界	鹿島支所	明治22年3月調製	114.0×117.0		戸長宮廻隆一他
1462	第62区繪圖面四枚内一 上講武邑	鹿島支所	明治6年	176.0×100.5		彩色一部破損
1463	第62区繪圖面四枚内二 上講武邑	鹿島支所	明治6年	128.5×109.5		彩色一部破損

1464	第62区繪圖面四枚内三 上講武昌	鹿島支所	明治6年	116.0×114.0		彩色一部破損
1465	第62区繪圖面四枚内四 上講武昌	鹿島支所	明治6年	148.0×63.0		彩色一部破損
1466	第62区名分村繪圖面	名分村集会所蔵	明治6年	90.0×154.0		彩色、戸長宮廻藏七郎他
1467	浜佐田村繪圖	個人蔵	江戸末期頃	73.0×112.0		彩色美、内湾記載、
1468	意宇郡大谷村全地圖	玉湯支所	明治22年2月	125.0×157.0		製圖者石川惣太郎
1469	道路圖(玉造)	玉湯支所	明治8年	100.0×61.5		
1470	水路圖(玉造)	玉湯支所	明治8年	108.0×66.0		
1471	意宇郡玉造村水路繪圖面(控)	玉湯支所	明治初	106.0×77.0		
1472	玉造村地圖	玉湯支所	明治初	89.5×55.5		彩色、作成途中
1473	第13区意宇郡湯町村 水路圖面	玉湯支所	明治初	99.0×86.0		堤防水路圖面
1474	意宇郡玉造郷 道路繪圖面	玉湯支所	明治初	96.0×71.5		
1475	第13区湯町村圖面	玉湯支所	明治8年	97.0×97.5		一部着色
1476	玉湯村大字大谷道路圖	玉湯支所	大正9年2月	92.5×106.5		山道など詳細
1477	川井手圖面扣 林村	玉湯支所	明治初	64.0×85.0		用悪水の記録、川筋水色
1478	山林原野圖面扣 林村	玉湯支所	明治初	74.0×110.0		黄色着色
1479	第13区意宇郡湯町村 道路圖面	玉湯支所	明治初	87.0×90.0		
1480	第12区意宇郡大谷村圖面	玉湯支所	明治8年	93. 0×93.0		川用悪水井手桁など
1481	松江市全圖	個人蔵	昭和7年(1932)	92.0×76.3		1万分の1
1482	▲松江市計画街路網圖	個人蔵	昭和7年(1932)	92.0×76.3		1万分の1
1483	松江市都市計畫概要圖	個人蔵	昭和7年(1932)	92.0×76.3		2万5千分の1
1484	都市計畫時間帶圖	個人蔵	昭和7年(1932)	92.0×76.3		2万5千分の1
1485	松江市都市計画區域圖	個人蔵	昭和7年(1932)	92.0×76.3		2万5千分の1
1486	松江市都市計畫区域内人口密度圖	個人蔵	昭和7年(1932)	92.0×76.3		2万5千分の1
1487	風致景勝地圖	個人蔵	昭和7年(1932)	92.0×76.3		2万5千分の1
1488	松江市都市計畫交通路線圖(仮)	個人蔵	昭和7年(1932)	92.0×76.3		2万5千分の1
1489	市営自動車運轉系統圖	個人蔵	昭和7年(1932)	92.0×76.3		2万5千分の1
1490	松江市水道配水管平面圖	個人蔵	昭和7年(1932)			6千分の1

(『松江市史』「絵図・地図」掲載図は名称に▲を付した)

(6) 屋敷図

番号	名 称	所蔵館など	年 代	原寸サイズ	掲載資料名	備 考
1601	木佐家屋敷図		江戸時代		出雲の御本陣p68	
1602	正保江戸堀町図	島大図書館(桑原文庫)	正保年間(1644)～	412×539	絵図の世界p77	
1603	広瀬村松平上野介在所繪圖	明治大学蘆田文庫		108.2×69.7		彩色手書き
1604	藤間家屋敷図	個人蔵	幕末期		出雲の御本陣p50	
1605	京都當時御屋鋪繪図	島根県立図書館	安永5年(1776)	89×94		
1606	於御広間御の御上覧之図	島根県立図書館	安永6年(1777)	63×73		
1607	赤坂台御屋敷繪図	島根県立図書館	安永6年(1777)	86×105		惣坪数2440坪
1608	柵町御屋鋪繪図面	島根県立図書館	安永6年(1777)	64×94		坪数1449坪2合6勺
1609	青山御屋鋪分間繪図	島根県立図書館	寛政9年(1797)	151×72		惣坪数5633坪
1610	御立山之内楽山御茶屋絵図	島根県立図書館	享和2年(1802)	71×50		
1611	脇坂十郎兵衛屋鋪繪図	島根県立図書館	文政9年(1826)	109×90		
1612	江戸御上屋鋪奥御殿惣絵図	島根県立図書館	天保2年(1831)	225×163		
1613	網敷入場絵図	島根県立図書館	天保9年	60×134		郡奉行所文書 200-89
1614	御立山之内楽山御茶屋絵図	島根県立図書館蔵	享和2年	50×71	松江市誌	
1615	お茶屋絵図	島根県立図書館	天保12年(1841)	65×64		
1616	御屋敷絵図(大崎)	島根県立図書館	天保12年(1841)	177×285		
1617	江戸御仕立所絵図	島根県立図書館	天保12年(1841)	69×46		
1618	畑ヶ谷御屋鋪分間惣絵図	島根県立図書館	天保12年(1841)	124×184		
1619	江戸大崎御屋鋪繪図	島根県立図書館	嘉永6年(1853)	170×268		惣間数165間余
1620	雲州不昧大崎別業真景	国立国会図書館	嘉永元年(1848)写	1軸39	明治29年出版	谷文晁著
1621	出雲国美保関神社真景図	美保関神社蔵	慶応2年		山陰道p88	
1622	棟門絵図面	島根県立図書館	慶応3年(1867)	46×85		建築図
1623	薬医門之図	島根県立図書館	慶応3年(1867)	50×71		建築図
1624	意宇郡定飯屋借地図面書揚	広島大学付属図書館	明治7年			27枚
1625	神幸之図	松江歴史館	明治初め	16.4×466.5	松江のネーランド付図	岸本豪郎氏寄贈
1626	神谷浩之助殿元屋敷絵図	島根県立図書館	明治2年(1869)	105×128		
1627	雲隠两国大守京極若狭守忠高御時代城下略図	島根県立図書館	不詳	47×101		
1628	楽山御指図	島根県立図書館	不詳	35×47		
1629	喜多御旅館分間絵図	島根県立図書館	不詳	112×90		
1630	京都御指図	島根県立図書館	不詳	73×74		
1631	●御月見御殿絵図	島根県立図書館	不詳	31×43		
1632	●御仕立所御指図控	島根県立図書館	不詳	70×46		
1633	高輪松平大和守様御陣屋小屋絵図	島根県立図書館	不詳	28×41		
1634	●御姫様御殿	島根県立図書館	不詳	75×72		大崎下屋敷東館
1635	御立山惣絵図	島根県立図書館	不詳	126×148		
1636	江戸御上屋敷東御殿廻り	島根県立図書館	不詳	123×120		
1637	江戸大奥御殿絵図面	島根県立図書館	不詳	46×117		
1638	江戸大崎御絵図	島根県立図書館	不詳	81×114		
1639	高輪御陣屋絵図	島根県立図書館	不詳	41×55		
1640	高輪松平大和守様御陣屋表門廻り建絵図	島根県立図書館	不詳	28×80		
1641	砂村御屋敷繪図 下書き	島根県立図書館	不詳	55×75		惣坪数197822坪
1642	●三助様御屋敷絵図	島根県立図書館	不詳	55×100		御花畑南端／城郭建物図？
1643	●若殿様御殿繪図面	島根県立図書館	不詳	70×115		御花畑南端／城郭建物図？
1644	●若殿様御殿表御門絵図面	島根県立図書館	不詳	38×64		上絵図面の門？／建築図
1645	清住町御屋敷惣絵図	島根県立図書館	不詳	77×52		
1646	大坂御屋敷御殿絵図	島根県立図書館	不詳	51×66		
1647	浜佐田村御茶屋絵図面控	島根県立図書館	不詳	44×67		
1648	浜町御屋敷絵図	島根県立図書館	不詳	81×48		惣坪数2547坪
1649	別荘屋敷絵図	島根県立図書館	不詳	98×105		植樹名記載あり
1650	北嶋専之丞屋敷図	島根県立図書館	慶応頃か	74×49		
1651	本牧御陣屋絵図面写	島根県立図書館	不詳	77×110		惣建物坪1915坪2合5勺
1652	●妙喜庵絵図83	島根県立図書館	不詳	45×35		間取図／建築図か？

1653	●妙喜庵絵図84	島根県立図書館	不詳	31×43		間取図／建築図か？
1654	▲●有澤権五郎屋鋪絵図	島根県立図書館	文政9年(1826)	88.0×109.0		
1655	●脇坂十郎兵衛屋鋪絵図97	島根県立図書館	文政9年(1826)	109×90		
1656	▲脇坂十郎兵衛屋鋪絵図99	島根県立図書館	不詳	26×37		
1657	守忠高御時代城下略図	島根県立図書館				
1658	御船屋分見絵図(旧)	個人蔵	江戸初期～中期		雷電・御船屋・漁師町	
1659	▲大坂御蔵屋鋪図(写)	松江歴史館	☆寛延元年(1748)以降	80.0×57.0		原因は有沢氏
1660	▲大崎御屋敷絵図面	松江歴史館	天保9年(1838)	181.2×269.5		県図1616に似てゐる
1661	大崎屋敷分間惣御絵図面	松江歴史館	天保9年(1838)	173.5×285.2		県図1616と同年代
1662	京都御屋敷図(写)	松江歴史館				原因は個人所蔵
1663	桜井家屋敷全図	個人蔵			出雲の御本陣p27	
1664	田部家屋敷図				出雲の御本陣p74	
1665	独楽庵平面図YD-古-3844	国立国会図書館		54×64	出雲の御本陣p85	折りたたみ28×207イルム
1666	武家屋敷と間取り図	個人蔵			新修松江市誌p274	酒井肅子提供
1667	町屋の間取り図	個人蔵			新修松江市誌p1763	
1668	堅町横浜町西側屋敷図	広島大学付属図書館				
1669	外中原町屋敷図	広島大学付属図書館	☆江戸後期			鷹匠町・外中原、彩色
1670	奥谷塩見縄手通り屋敷図	広島大学付属図書館				中身は武家屋敷図詳細帳
1671	松江三ノ丸御殿内分	雲藩職制		33.4×44.3	雲藩職制付図	
1672	松江城周辺火薬庫関連絵図	広島大学付属図書館				
1673	屋敷図面	松江歴史館				
1674	釜ヶ谷方御立山絵図	個人蔵	不明			彩色
1675	御屋敷図面	個人蔵	不明			小図
1676	月照寺山内御廟所絵図	島根県立図書館	不詳	46×89		
1677	三御丸分間御絵図	個人蔵	江戸中期以降	79×64		島田・城下図19
1678	御花畑附近絵図	島根県立図書館	不詳	54×73		島田・城下図15
1679	▲●三谷家上屋敷絵図	個人蔵	文政9年(1826)			曲尺壹寸壹間分間之圖、綺麗
1680	松江御殿ト御花畑圖	雲藩職制		44×38	雲藩職制付図	松江御殿分間圖之写
1681	清光院絵図(仮)	個人蔵				
1682	▲熊野大社本社並摂末社々殿絵図	熊野大社蔵	明治41年(1908)編纂	78.0×2300.0		元禄11年(1698)以前の風景か
1683	三御丸屋敷絵図(仮称)	個人蔵	弘化4年(1847)写し	96.0×84.5		弘化4年5月写し
1684	▲御船屋分見絵図	個人蔵	☆寛政5～12年(1793～1800)頃	69.6×138.8		彩色
1685	末次村御家中社寺之図	個人蔵		51.0×61.5		極彩色
1686	他国相撲御覽場図	個人蔵		37.0×76.5		彩色
1687	御相撲長屋之図	個人蔵		44.5×50.5		白図
1688	▲江戸上屋敷絵図	個人蔵	☆文化年間(1804～1818)頃	54.5×113.5		
1689	▲佐太神社「指図板」	佐太神社蔵	貞享4年(1687)頃		厚さ1.5	竹内宇兵衛作
1690	青山御屋敷三丁四方絵図	個人蔵		31.0×46.4、31.0×46.5、 28.3×60.5		31.0×46.4、31.0×46.5、28.3×60.5
1691	三谷家上屋敷図37-1	個人蔵		60.0×45.5		榎那様、御軍用方御土蔵など
1692	三谷家上屋敷図37-2	個人蔵		40.0×35.0		浄勝院御部屋など、1693と類似
1693	三谷家老上屋鋪絵図(仮)	個人蔵				若旦那様、御勘定所、一部欠損
1694	三谷家老上屋鋪絵図(仮)	個人蔵				釜屋、馬建、炭部屋など1695に類似
1695	三谷家下屋敷図	個人蔵				中央に方位図
1696	下御屋鋪絵図面3-1	個人蔵				中央に貼紙2枚、
1697	下御屋鋪絵図面3-2	個人蔵				絵図名裏に記載
1698	御下屋敷新建絵図3-3	個人蔵				坪数87坪記載
1699	御下屋鋪絵図	個人蔵		88.7×97.5		北東隅に絵図名記載、田畑山記載
1700	三谷家上屋敷絵図	個人蔵		105.6×140.8		文政前後か、1681人名と比較
1701	屋敷地絵図	個人蔵	明治2年(1869)	115.3×137.3		明治二年己巳八月改之
1702	三谷家袖師別邸絵図	個人蔵		99.5×180.6		絵彩色なし
1703	御花畑新御茶屋絵図面	島根県立図書館102	天保12年1841	65×64		御花畑の内

(『松江市史』『絵図・地図』掲載図は名称に▲を、『松江市史』『松江城』掲載予定絵図は名称に●を付した)

(7) 街道・水運図

番号	名 称	所蔵館など	年 代	原寸サイズ	掲載資料名	備 考
1801	五畿七道城図				前田育徳会	
1802	五畿七道城図 ㊸山陰道				前田育徳会	
1803	▲道程記	松江歴史館蔵	文政10年(1827)頃	22.0×1100.0	絵図でたどるp31	
1804	上方街道絵図	米子市山陰歴史館所蔵	天保年間写	26.5×1080.0		
1805	道中絵図	島根県立図書館	不詳	27.0×429.0		
1806	▲道中記(江戸ヨリ松江マデ)	松江歴史館	☆17世紀末	28.7×987.5折本		文化10年4月写
1807	▲出雲国海防図(仮称)	個人蔵	☆元治元年(1864)以降	941.0×27.5(-部54.5)		元治元年(1864)の台場記載
1808	川下辺絵図	島根大学付属図書館	天明6年(1786)	70.3×82.7		桑原文庫
1809	大橋より下川絵図面	個人蔵		38×48.5 折紙1枚	松江市誌附図	川下辺絵図に類似
1810	大坂より松江航路図	神戸市立博物館	☆17世紀末	35.0×1791.0		中山家所有と類似
1811	▲大坂より松江航路図(登米寄港図)	個人蔵	☆17世紀末	36.0×1736.0	絵図でたどるp30	神戸市立博物館所有と類似
1812	▲出雲國天神川口新田ノ図	明治大学蔵田文庫	☆18世紀末	64.9×81.0	川下辺に近い、新田名詳細	絵図名端裏書、朱筆、島大所蔵に類似
1813	出雲礼三拾三所道法順附絵図	島根県古代出雲歴史博物館	文化14年(1817)	56×40.5		
1814	松江大坂間三十七宿図	個人蔵	☆明治初期			小村成章筆
1815	松江堀川の禁漁区	島根県公文書センター	明治20年		県警察史中	堀川記述詳細
1816	宍道湖大橋川平面図(天神川平面図)	島根県公文書センター	明治27年(1894)	152.3×430.0	宍道湖西岸から大橋川	関屋忠正他1名
1817	宍道湖実測図	島根県公文書センター	明治23年以前	173.3×357.4	湖岸全城6千分の1	M22.4.1前の村名
1818	八東郡道水路面図	島根県公文書センター	不明		加賀・持田・津田他	
1819	八東郡道水路面図	島根県公文書センター	不明		大庭・朝酌・熊野他	
1820	八東郡道水路面図	島根県公文書センター	不明		積屋・意東・法吉他	
1821	八東郡道水路面図	島根県公文書センター	不明		乃木・玉湯・美保間他	
1822	漁場場区(海川ノ部)	島根県公文書センター	明治9年		出雲国	
1823	秋鹿村道敷之図	島根県公文書センター	明治9年	108.3×103.0	道水路図面編	多数あり
1824	道路絵図面 加賀浦	島根県公文書センター		152.9×167.8	道水路図面編	
1825	北浦水路之図	島根県公文書センター		73.3×77.5	道水路図面編	
1826	往古簸川西流絵図	島根県立図書館	大正3年写	76×81		出雲郡往昔大擬之図
1827	京橋二十分一図	島根県立図書館	正徳5年(1715)	33×144		
1828	出雲国簸川分間絵図	島根県立図書館	不詳	6枚		明和頃 変流の図あり
1829	熊野川筋分間絵図	島根県立図書館	宝暦9年(1759)	284×369		

1830	二股大敷網場絵図	島根県立図書館	不詳	100×140		
1831	網敷入場絵図	島根県立図書館	天保9年(1838)	60×134		郡奉行所文書200-89
1832	秋鹿郡村々灘筋図面	秋鹿公民館蔵				
1833	楯縫郡大川内絵図	島根県立図書館	明和4年(1767)	52×214		
1834	▲寸里道地図	個人蔵	天明2年(1782)	16.5×260.0		神田助右衛門編
1835	斐伊川・新川平面図	国土交通省出雲河川事務所	明治27年(1894)	153.0×495.0	電子化、3千分の1	関屋他3名
1836	斐伊川河口実測地形図	国土交通省出雲河川事務所	不詳	153×202	電子化	
1837	斐伊川派川新川平面図	国土交通省出雲河川事務所	大正8年	153×634	電子化	
1838	洪水痕跡水位縦断面図	国土交通省出雲河川事務所	明治26年	78×490	電子化	
1839	▲斐伊川治水調査全図	国土交通省出雲河川事務所	明治27年(1894)	153.0×290.0	1万5千分の1、電子化	関屋忠正他5名、1816関連
1840	斐伊川平面図(本川下流)	国土交通省出雲河川事務所	明治27年(1894)	153.0×430.0	電子化、3千分の1	関屋他3名
1841	中海深浅図	国土交通省出雲河川事務所	大正9年	153×477	電子化、3千分の1	
1842	大橋川平面図	国土交通省出雲河川事務所	大正8年	153×620	電子化	
1843	佐陀川平面図	国土交通省出雲河川事務所	大正8年	160×620	電子化	
1844	宍道湖深浅図	国土交通省出雲河川事務所	大正9年	153×370	電子化	
1845	大橋川基帳平面圖	島根県公文書センター	大正年間か	3千分の1	大橋川流域実測図	堤防に工事地点記入
1846	雲州公御上京行列絵巻	島根県古代出雲歴史博物館	弘化4年(1847)	3巻の合計が320	桑原半次郎コレクション	弘化4年松平齊貴上洛図
1847	松江藩御上使行列絵巻	徳島県立博物館	弘化4年(1847)		1巻H002090	弘化4年松平齊貴上洛図
1848	斐伊川平面図(河口付近)	国土交通省出雲河川事務所	大正7年	153×348		M35年の写し
1849	斐伊川平面図(新川入口)	国土交通省出雲河川事務所	大正7年	153×402		M35年の写し
1850	斐伊川流域各平面図	国土交通省出雲河川事務所	大正9年	153×534		
1851	斐伊川流域地質岩層類別図	国土交通省出雲河川事務所	明治27年	130.0×110.0	10万分の1	関屋他1名、彩色図
1852	黒田村沙留之図	個人蔵		26.4×36.8		極彩色
1853	大橋川流域新田開発之図	個人蔵		60.0×75.0		極彩色絵図
1854	大橋川流域新田及御立山之図	個人蔵		71.3×78.0		極彩色絵図
1855	大橋川流域黒田新田之図	個人蔵		72.5×76.8		極彩色絵図
1856	馬潟白魚漁場水行掛網図	個人蔵		77.2×108.5		極彩色絵図
1857	川下普請之図	個人蔵		75.0×70.8		白地図に朱書き
1858	松江より三保間迄舟筋岩瀬ノ図	個人蔵		50.2×86.0		
1859	駒次郎様湖上之御花火御覧之図面	個人蔵		61.1×51.3		白絵図
1860	伯耆国之内出雲国境縁絵図写	鳥取県立博物館	元禄14年(1701)10月	84×98	鳥取藩政資料	松江藩3名宛、彩色、1舗
1861	出雲国之内伯耆国境縁絵図写	鳥取県立博物館	元禄14年(1701)5月	77×96	鳥取藩政資料	鳥取藩3名宛、彩色、2舗
1862	出雲国(山陰道図)中井貴66	京都大学付属図書館(中井家)		164×120		手書き彩色、元国絵図145
1863	山陰道船路圖b]ー106	東京大学南英文庫				写
1864	出雲街道絵図(仮)	山陰歴史館	安永10年新出来	22.4×1081.7		嘉永4年写し
1865	道中略図	松江歴史館	安永10年3月出来	28.8×1095.0	黒沢家寄託	文化10年7月写し、文久5年再写し
1866	出雲東海両道中双六図(仮)	個人蔵	未詳	90.0×66.0		江戸赤坂御門と上屋敷門が詳細
1867	松平齊貴上洛絵巻 第3冊	松江歴史館		36.4×2067.0		全5冊のうち1冊
1868	松平齊貴上京行列図	東京国立博物館	江戸後期			全5巻
1869	雲州公御上京御行列 第1巻	島根県古代出雲歴史博物館	江戸後期	39.7×1215.0		全3巻の内1巻
1870	寸里道地図	個人蔵		17.0×130.0	一川家文書	折本1冊
1871	仁多郡稲田村原口村鉄穴流し絵図	島根県立図書館	不詳	78×41		
1872	雲石境界図	島根県立図書館	正保3年(1646)		河上家文書	

(『松江市史』「絵図・地図」掲載図は名称に▲を付した)

(8) 地形図

番号	名 称	所蔵館など	年 代	原寸サイズ	掲載資料名	備 考
2001	▲松江5万分の1	国土地理院	明治34年	46.0×60.0	108-16- 1	明32測図
2002	松江5万分の1	島根県立図書館	明治34年	46×58		
2003	松江5万分の1	国土地理院	M36.6.30		108-16- 19	明32測図
2004	松江5万分の1	国土地理院	M40.5.30		108-16- 20	明40修正
2005	松江5万分の1	国土地理院	M44.4.30		108-16- 2	明42鉄修
2006	松江5万分の1	国土地理院	T7.7.30		108-16- 3	大4修正
2007	松江5万分の1	国土地理院	S8.6.30		108-16- 4	昭7鉄補
2008	松江5万分の1	国土地理院	S12.4.30		108-16- 5	昭9二修
2009	松江5万分の1	国土地理院	発行年月日記載なし		108-16- 6	昭9二修
2010	美保関2万5千分の1	国土地理院	T6.7.30		108-11-4- 1	大4測図
2011	恵曇2万5千分の1	国土地理院	T6.11.30		113-3-2- 1	大4測図
2012	揖屋2万5千分の1	国土地理院	T6.12.28		108-16-1- 1	大4測図
2013	宍道2万5千分の1	国土地理院	T6.12.28		113-4-2- 1	大4測図
2014	松江2万5千分の1	国土地理院	T7.1.30		108-16-3- 1	大4測図
2015	玉造2万5千分の1	国土地理院	T7.2.28		108-16-4- 1	大4測図
2016	秋鹿2万5千分の1	国土地理院	T7.2.28		113-4-1- 1	大4測図
2017	境港2万5千分の1	国土地理院	T7.3.30		108-15-2- 1	大4測図
2018	広瀬2万5千分の1	国土地理院	T7.3.30		108-16-2- 1	大4測図
2019	加賀2万5千分の1	国土地理院	T7.5.30		108-15-4- 1	大4測図
2020	宍道2万5千分の1	国土地理院	S2.2.28		113-4-2- 2	大6鉄補
2021	松江2万5千分の1	国土地理院	S8.4.30		108-16-3- 2	昭7鉄補
2022	秋鹿2万5千分の1	国土地理院	S8.6.30		113-4-1- 2	昭7鉄補
2023	揖屋2万5千分の1	国土地理院	S8.11.30		108-16-1- 2	昭7鉄補
2024	広瀬2万5千分の1	国土地理院	S9.11.30		108-16-2- 2	昭7鉄補
2025	美保関2万5千分の1	国土地理院	S11.4.30		108-11-4- 2	昭9修正
2026	恵曇2万5千分の1	国土地理院	S11.6.30		113-3-2- 2	昭9修正
2027	秋鹿2万5千分の1	国土地理院	S11.7.30		113-4-1- 3	昭9修正
2028	揖屋2万5千分の1	国土地理院	S11.8.30		108-16-1- 3	昭9修正
2029	松江2万5千分の1	国土地理院	S11.9.30		108-16-3- 3	昭9修正
2030	広瀬2万5千分の1	国土地理院	S11.10.30		108-16-2- 3	昭9修正
2031	玉造2万5千分の1	国土地理院	S11.10.30		108-16-4- 2	昭9修正
2032	境港2万5千分の1	国土地理院	S11.11.30		108-15-2- 2	昭9修正
2033	加賀2万5千分の1	国土地理院	S12.1.30		108-15-4- 2	昭9修正
2034	宍道2万5千分の1	国土地理院	S12.2.28		113-4-2- 3	昭9修正
2035	美保関2万5千分の1	国土地理院	S22.10.30		108-11-4- 3	昭9修正
2036	境港2万5千分の1	国土地理院	S22.10.30		108-15-2- 3	昭9修正

(『松江市史』「絵図・地図」掲載図は名称に▲を付した)

(9) 城郭図

番号	名 称	所蔵館など	年 代	原寸サイズ	掲載資料名	備 考
2101	●松江城縄張り図	松江歴史館	元禄11年頃1698頃?	193×170	事業報告4石垣4	200分の1の割合図
2102	出雲国松江城之絵図(昭修)	松江歴史館	延宝2年1672	85×124	事業報告16石垣11	№3の写
2103	●出雲國松江城之繪圖	松江歴史館	延宝2年1672	84.4×124		破損修理(二之丸大手石垣・三之丸長屋下石垣)
2104	●松江城郭図	松江歴史館	元文3年1738	76×87.5	事業報告17石垣12	元文二年十二月二日破損所(中曲輪南方堀下石垣)
2105	松江城廓図(昭修)	松江歴史館		51.7×37.7		原図梅政義
2106	出雲松江城之図	兵庫県立歴史博物館	元文3年1738	72×86.5	出雲国松江城之図	元文二年十二月二日破損所(中曲輪南方堀下石垣)
2107	●松江城郭古図	松江歴史館	安永7年1778	74×89	事業報告18石垣13	石垣破損(中曲輪北方堀下) 所蔵館台帳に松江城郭古図(写)とある
2108	松江城郭古図(昭修)	松江歴史館		72.2×88.2	事業報告18石垣13	№6図の模写
2109	御本丸絵図面(昭修)	松江歴史館	天保11年1840	72×83	事業報告20石垣15	石垣築直之節公儀向下絵図本図御細工所 昭和27年写
2110	松江城一二三丸全図		19世紀頃	21×30	事業報告22石垣17	『松江市誌』表紙見返し(2220の写し)
2111	●出雲国松江本城図	国立公文書館	元治元年1865	75×88	事業報告23石垣19	本城外廻北西方…木柵
2112	松江城郭図	個人蔵	元治元年頃1865	52×79.5	事業報告24石垣20	
2113	旧松江城絵図	『雲藩職制』所収	明治10年1877	6×12	事業報告26石垣23	
2114	出雲国奈江城図	国立国会図書館	不詳	61.6×108.7		本丸へ三之丸のみ「日本古城絵図」山陰道之部254
2115	出雲国松江城図	国立国会図書館	不詳	40.8×55		模式図か、「日本古城絵図」山陰道之部255
2116	●松江城測量図	国立国会図書館	昭和初期か		事業報告27石垣22	他の報告書には明治初年とあるが、大正～昭和に編集された「日本城郭資料」の絵図を譲渡したものか
2117	松江亀田城略図		明治21年1888		事業報告28石垣25	松江城史料目録所見
2118	●松江城郭図	個人蔵	明治42年1909	59.3×120	事業報告29石垣26	
2119	松江城郭図	『雲藩職制』所収	明治45年1912	37×51	事業報告31石垣28	
2120	出雲国島根郡松江城図	兵庫県立歴史博物館	明治14年1881製図	64.5×96	事業報告34石垣36	出雲国島根郡松江城図 出雲国松江城図1巻の内第4図 島根県令第二(巻)千石立てて4図を納める
2121	雲陽亀田山千鳥城之図	個人蔵	文久2年1862			主要部のみ
2122	雲州松江城之図	岡山大学附属図書館池田家文庫		36.7×48.5		実際の松江城の縄張りとは異なる
2123	雲州松江 粗図	金沢市立玉川図書館津田文庫		29×41		
2124	出雲国松江城「諸国城郭修復図」	東京大学史料編纂所	安永2年7月	76×92	東京大学史料編纂所データベース	写本「松平出羽守」 出雲国松江城
2125	松江城山実測平面図	松江歴史館				須田主殿旧蔵
2126	松江城旧絵図	松江歴史館	明治45年			須田主殿旧蔵

(昭和25～30年の松江城天守修理時に模写されたものは、名称に(昭修)を付した。『松江市史』松江城掲載予定絵図は名称に●を付した)

(10) 城郭建物図

番号	名 称	所蔵館など	年 代	原寸サイズ	掲載資料名	備 考
2201	御天守上ヨリ下迄地絵図面(昭修)	松江歴史館	文久元年カ	39×67.7		
2202	三御丸分間御絵図	個人蔵	中期以降	79×64	事業報告5・石垣5	明治33年写
2203	松平家二ノ丸内米倉及び荻田屋敷之図	個人蔵	天保年間以降	24×29.6	事業報告6・石垣6	
2204	三丸館及役所松平家補理之図	個人蔵	天保年間以降	24×31	事業報告7・石垣7	
2205	御花畑旧南御茶屋御絵図	個人蔵	天保年間以降		事業報告8・石垣8	
2206	松江三ノ丸御絵図内分間図	『出雲松江城』所収	19世紀後半	7.2×10.2	事業報告9・石垣9	
2207	●三ノ丸御殿間取図	松江歴史館	不詳			
2208	松江三ノ丸御殿内分間図(昭修)	松江歴史館	不詳			原図梅政義『雲藩職制』収載?
2209	松江御殿(三ノ丸)御花畑図(昭修)	松江歴史館	不詳			原図梅政義『雲藩職制』収載?
2210	雲州三ノ丸之図面(昭修)	松江歴史館	不詳	80×55.8		原図藤間陽
2211	年頭御目見之節御殿中図面(昭修)	松江歴史館	不詳	36.6×48.1		原図藤間陽
2212	松江城三ノ丸図	兵庫県歴史博物館	不詳	78×54	事業報告10・石垣34	三之丸の建物配置 方眼入り 松江城三ノ丸図 出雲国松江城図1巻の内(第2図)
2213	●松江城鳥瞰図	兵庫県歴史博物館	不詳	77.5×218		南東よりの鳥瞰図 松江城鳥瞰図 出雲国松江城図1巻の内(第1図)
2214	松江亀田千鳥城図	松江歴史館	明治42年1909	22.6×36	事業報告30・石垣27	南東よりの鳥瞰図
2215	松江亀田千鳥城図	松江歴史館		76.5×151.5		本丸～三之丸の建物俯瞰図
2216	●安政三辰四月改三丸惣御絵図面	国文学研究資料館	安政3年1856	159×140 1枚	事業報告11・石垣19	貼紙「明治廿八年二月二日取調」
2217	●式丸御書院御広間絵図	国文学研究資料館	嘉永3年1850	95.2×108 1枚	事業報告12・石垣32	
2218	●御三丸御指図三枚之内	国文学研究資料館	不詳	122×129 1枚	事業報告13・石垣37	
2219	●御本丸二之御丸三ノ丸共三枚ノ内	国文学研究資料館	寛文11～元禄7年1671～97	163.5×185 1枚	事業報告14・石垣38	「明和三年大破」
2220	●御本・二・三丸御花畑共略絵図面扣	個人蔵	江戸末期	90×134 1枚	事業報告21・石垣16	
2221	登り御廊下より御本丸水ノ手御門迄地絵図面	個人蔵	明治14年写1881	巻軸1巻	事業報告21・石垣16	建物輪郭のみ
2222	●御城内絵図面	国文学研究資料館	享保5年1720頃?	292×377 1枚	事業報告9・石垣9	貼紙「明治五申九月兵部省江差出ニ付置」
2223	於御広間御の御上覧之図	島根県立図書館145	安永6年1777	63×73		
2224	御天守御間内之分	個人蔵	不詳	2枚 37×26	三谷家文書別置37-3	天守内の作法
2225	御花畑新御茶屋絵図面	島根県立図書館102	天保12年1841	65×64		(6)屋敷図(1705)に記載 御花畑の内
2226	●御月見御殿絵図	島根県立図書館74	不詳	31×43		(6)屋敷図(1631)に記載
2227	●御仕立所御指図控	島根県立図書館71	不詳	70×46		(6)屋敷図(1632)に記載
2228	●御炬燵御殿	島根県立図書館161	不詳	75×72		(6)屋敷図(1634)に記載
2229	●三助様御屋敷絵図	島根県立図書館82	文化元年1804	55×100		(6)屋敷図(1642)に記載
2230	●若殿様御殿絵図面	島根県立図書館96	江戸末期	70×115		(6)屋敷図(1643)に記載
2231	●若殿様御殿表御門絵図面	島根県立図書館95	不詳	38×64		(6)屋敷図(1644)に記載
2232	松江城三ノ丸御殿図	個人蔵	不詳			弘化5年の写し
2233	●妙喜庵図	島根県立図書館				(6)屋敷図(1653・1654)に記載
2234	●御国二而出来之図(狐蓬庵)	野津敏夫蔵	享和3年1803頃?	54×40		御花畑南 三助様御屋敷絵図
2235	御花畑附近絵図	島根県立図書館		53×75		(6)屋敷図に記載 屋敷図(1680)
2236	三御丸屋敷絵図(仮称)	個人蔵	弘化4年(1847)写し	96.0×84.5		(6)屋敷図に記載 屋敷図(1685)

(昭和25～30年の松江城天守閣修理時に模写されたものは、絵図名に(昭修)を付した。『松江市史』松江城掲載予定絵図は名称に●を付した)

【(6)屋敷図と(10)城郭建物図では重複する図面も数点ある。建築関係図面の目録整理については更なる検討が求められるよう】

松江城下町遺跡における陶磁器の様相と編年

—17世紀代の資料を中心に—

小山泰生

はじめに

松江城下町遺跡の発掘調査は平成18年度から本格的に始まり、現在も継続して調査が行われている。城下町遺跡の発掘調査開始以前は、遺跡が現在の中心市街地と重複していることから大部分が消失しているものと考えられていた。しかし、実際に発掘調査が実施されると、地下には良好な状態で遺跡が残っていることが明らかとなった。

松江城下町遺跡の主な調査事例として、松江歴史館整備事業に伴う発掘調査（平成18～20年度）、城山北公園線都市計画街路事業に伴う発掘調査（平成18年度～現在）、広島高等裁判所松江支部・松江地方裁判所合同庁舎新営工事に伴う発掘調査（平成23～24年度）が挙げられる。これら城下町遺跡の発掘調査では数万点におよぶ出土遺物があり、その情報量は莫大である。

全国的に見ると近世考古学及び陶磁器研究は1980年代以降、80年代後半から90年代をピークに各地で発掘調査・報告がなされ、2000年代には減少傾向にあるものの、東京（江戸）・大阪・京都などの大都市遺跡、仙台・徳島・広島などの地方都市遺跡、陶磁器の生産地である瀬戸・美濃・肥前などの大窯業地では、断続的に発掘調査や編年研究が進められている。全国的な城下町遺跡の調査が一段落した時期に始まった松江城下町遺跡の発掘調査は後発となるが、これまでに各地で進められてきた調査・研究の蓄積を投影できるという点で恵まれた環境下にあると言える。

松江市では『松江市史』別編1「松江城」の刊行に向け、平成25年10月に佐賀県立九州陶磁文化館の大橋康二氏と大阪歴史博物館の松尾信裕氏を招いて「第1回松江城下町遺跡出土陶磁器検討会」を開催し、17世紀代を中心とした陶磁器の検討を行った。翌年、平成26年10月に「第2回松江城下町遺跡出土陶磁器検討会」を開催し、18～19世紀代を中心とした陶磁器の検討を行った。その中で消費地遺跡である松江城下町の年代基準となる陶磁器編年の作成は、検討会の目的でもある「今後の調査・研究水準を向上させ、併せて発掘調査の有効性と効率性を高めていく」ためにも焦眉の急を要する課題となっていた。

本稿では松江城下町遺跡出土の陶磁器について整理と検討を行い、17世紀代を中心とした陶磁器編年と時期区分を提示したい。陶磁器編年は、あくまでも現段階における松江城下町遺跡の遺構・遺物を位置付けるためのものであり、今後の調査の進展によっては資料の追加・補正が必要となる。

また、本稿に提示したものは概ね武家地の資料として把握できるが、町人地・寺社地・藩施設など様々な階層に適用できるものではないことを付記しておく。



大橋家与力屋敷出土の陶磁器
(平成22～26年度調査)

1. 発掘調査に見る松江の中世末から近世への転換

近世松江城下町の成立は17世紀代初頭の堀尾氏による松江城築城に始まる。しかし、その直前の中世末に展開していた末次・中町・白潟の港湾集落（町場）を取り込むように城下町が形成されており、近世松江城下町を考察する上で中世の姿を念頭におく必要がある。

城下町形成以前の城下周辺一帯には低湿地（沼沢地）が広がっていたとされるが、近年の発掘調査では母衣町・北田町で水田跡を検出するなど、人為的な活動痕跡が窺える事例が報告されている。

その後の城下町形成初期段階に位置付けられるものとして、松江城の東側に近接する殿町で鍛冶場や木材加工場の存在が想定できる遺構が見つかった。武家地の発掘調査では、屋敷地の縁辺部や街路と並行する位置に素掘の大溝（区画溝）を掘削し、掘削時に生じた残土をそのまま屋敷地の造成土として利用していることが明らかとなっている。また、屋敷地の初期造成手法は屋敷地一帯を一律に嵩上げするのではなく、まず建物構築予定地だけに先行して盛土を行い、その後の段階で盛土周囲の低位部に土砂を投入することにより屋敷地の平坦化を行う島状整地⁽¹⁾を採用している状況が確認されている。これらの城下町形成過程を前提として近世松江城下町が成立していくこととなる。

2. 基準資料

最初に、確実に時期を抑えることのできる資料を用いて、陶磁器の変遷を抽出する。本稿では松江城下町遺跡（南田町132外・134-11外）発掘調査で出土した陶磁器を取り扱う。調査地は松江城本丸から東へ約1.1km離れた場所に位置する。堀尾・京極期には武家地の一角にあたり、松平期初頭から幕末に至るまでの間には家老である大橋茂右衛門の与力（陪臣）の屋敷地として利用されていた（以下、大橋家与力屋敷と呼ぶ）。発掘調査では旧地表面と6面の遺構面を確認している（第1図）。

この調査地では遺構面ごとに調査を実施しており、複数期の遺構面を同時に調査していないこと、出土遺物が層位毎に取り上げられているという理由から変遷を示す上で有効な資料と言える。また、絵図や文献から大橋家与力屋敷が展開する開始時期が松平期初頭と明確なことが重要な点と考える。



第1図 基準資料とした松江城下町遺跡位置図

3. 松江城下町遺跡の時期区分と年代比定

ここでは松江城下町遺跡出土陶磁器について、時期区分と年代比定の根拠を提示しておきたい。基準資料である大橋家与力屋敷の発掘調査成果を基に、17世紀代を中心とした時期区分をまとめたものが表1になる。この表に従って、各遺構面内に含まれている陶磁器を時系列に並べた時、器種ごとにどのような変化があるのかを検討する。さらに、陶磁器を産地別に分類し、松江城下町遺跡における陶磁器の消長を概観する。

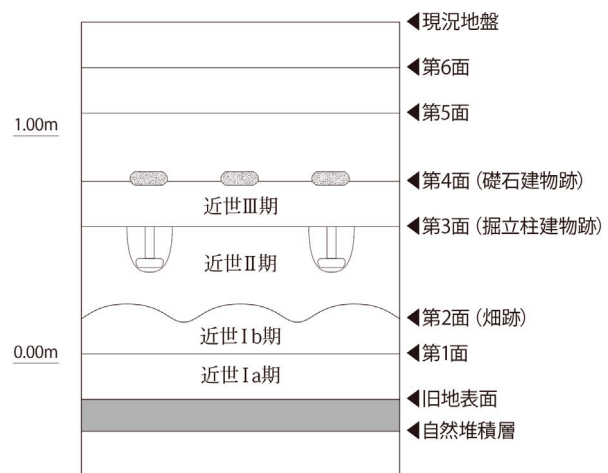
まず、表1に示した遺構面の時期設定について、1600年代初頭を始めとする古い遺構面の順に第1面～第4面としている。第1面は城下町造成以前の旧地表面上に盛られた最初の造成土であり、これを基盤層とする遺構面を堀尾期とした。第2面は基本的に畑地として利用されていた時期であり、これを堀尾～京極期とした。京極期の畑地と断言できない理由について、堀尾期の段階で既に畑地が開墾されていた可能性を否定できないことが挙げられ、引き算を用いて上限を初期造成後、下限を大橋家与力屋敷が展開する松平期以前と考えた。第3面以降から松平期の大橋家与力屋敷が展開し、掘立柱建物跡を検出した遺構面を第3面、礎石建物跡を検出した遺構面を第4面とした。掘立柱建物から礎石建物へ構築物に変化する時期は、遺物組成を根拠に1650年代を境としている。

表1 時期区分の基準と指標

歴年代	1600年代～1630年代前半	1630年代前半～1637年	1638年～1650年代	1650年代～1690年代
	堀尾期	堀尾～京極期	松平期	
時期区分	近世Ⅰa期	近世Ⅰb期	近世Ⅱ期	近世Ⅲ期
遺構面	第1面	第2面	第3面	第4面
主な検出遺構	城下町初期造成土	畑跡	掘立柱建物跡	礎石建物跡
年代根拠	城下町造成当初の遺構面	初期造成後～与力屋敷の展開以前	与力屋敷の展開(城下町絵図)	与力屋敷における構築物の変化
各期に並行する その他の遺跡	殿町279：南屋敷第4面	殿町287：北屋敷第3面 SK23 (1637年下限)		母衣町68：第3面 SK01 (1678年母衣町大火一括資料)
	母衣町68：第1面			
	母衣町180-29：第4面			

次に、これらの遺構面が層位的にどのように対応するのかを模式的に示したものが第2図である。時期区分は遺構面と対応するよう4つの時期に区分した。出土量の大半を占める肥前陶磁器をメルクマールとした場合、近世Ⅰ期を陶器碗・皿の窯詰め技法の違いからⅠa期とⅠb期に細分し、近世Ⅰa期は胎土目積み技法が主体となる段階、近世Ⅰb期は砂目積み技法が主体となる段階とした。近世Ⅱ期は肥前磁器が入ってくる段階とし、初期伊万里の出土が見られる。近世Ⅲ期は肥前陶器では呉器手碗や京焼風陶器、肥前磁器では日字鳳凰文皿や芙蓉手皿の出土が見られる。

以上の検討から、近世Ⅰa期を1600年代～1630年代前半まで、近世Ⅰb期を1630年代前半～1637年まで、近世Ⅱ期を1638～1650年代まで、近世Ⅲ期を1650年代～1690年代までの陶磁器群とした。



第2図 大橋家与力屋敷の基本層序模式図

4. 陶磁器の様相と編年

前述した4つの時期区分に基づき、ここでは各期の特徴を検討したい。そして、陶磁器の編年を提示して17世紀代の様相を概観する（第3・4図）。なお、図中に実測不可として掲載できなかった陶磁器の中には、産地の特定が可能なものがあるため、これらは本文中に含めて補うこととする。

国産陶磁器の分類・編年にあたっては、生産地の年代指標として瀬戸・美濃は大窯製品編年⁽²⁾、備前は乗岡編年⁽³⁾、肥前は大橋氏が実見された陶磁器の年代観を軸に九州陶磁器編年⁽⁴⁾を使用した。

(1) 各期の様相

〔近世 I a期〕 1600年代～1630年代前半

輸入陶磁器

青磁の出土が無く、白磁の皿が少数出土するが、ほとんどは青花で占められている。青花碗・皿は景德鎮系と漳州窯系のものが多く、精製のものが目立つ。その他に華南三彩の小皿がある。

国産陶磁器

肥前陶器が大半を占める状況で、瀬戸・美濃、志野、備前、萩（山口）、上野・高取（福岡）が少数出土する。瀬戸・美濃は天目碗、灰釉内禿皿、見込みに印花をもつ灰釉折縁ソギ皿、志野菊皿などが出土している。生産地の年代観で大窯Ⅳ期（1590～1610年代）のものが主体である。

備前は德利、壺、播鉢があり、乗岡編年近世1c期（1598～1620年代）のものが主体である。萩（山口）は丸皿や稜皿、上野・高取（福岡）は丸碗や筒形碗がある。

肥前陶器は生産地の年代観で九陶編年Ⅰ-2期（1594～1610年代）のものが主体である。碗は丸碗、天目碗、筒形碗があり、鉄釉や灰釉を施すものが多い。皿はすべて胎土目で、なぶり口の口縁をもつものを含む。砂目の出土は無い。碗皿類の高台は露胎で、鉄絵を施した絵唐津が目立つ。その他に、底部に貝目をもつタタキ成形の壺がある。この時期に肥前磁器は出土していない。

土師器皿は京都系のみで、内面に「の」字状のナデ上げ調整を施すものがある。

〔近世 I b期〕 1630年代前半～1637年

輸入陶磁器

近世 I a期と同様な状況で、ほとんどは青花で占められている。青花碗・皿は景德鎮系と漳州窯系のものが多く、精製のものが目立つ。

国産陶磁器

肥前陶器が大半を占める状況は変わらず、瀬戸・美濃、志野、織部、備前、萩（山口）、上野・高取（福岡）が少数出土する。瀬戸・美濃は灰釉内禿皿、灰釉折縁ソギ皿などが出土している。生産地の年代観で大窯Ⅳ期後半（1600～1610年代）のものが主体である。

備前は壺、播鉢があり、引き続き乗岡編年近世1c期（1598～1620年代）のものが主体である。萩（山口）は丸碗や丸皿、上野・高取（福岡）は丸碗がある。

肥前陶器は生産地の年代観で九陶編年Ⅰ-2期のものが主体だが、Ⅱ期（1610～1650年代）のものが少数入る。碗は丸碗、筒形碗があり、全面施釉（畳付無釉）するものが見られる。皿は胎土目が少数入るものの、近世 I a期と大きく異なる点は、この時期から砂目が主体となることである。砂目刷毛目皿や二彩唐津が出土するのが特徴的で、数点の溝縁皿が入る。この時期も肥前磁器は出土していない。

土師器皿は京都系が圧倒的な割合を占め、底部外面に糸切り痕をもつ在地系が少数出土する。

〔近世Ⅱ期〕 1638年～1650年代

輸入陶磁器

この時期の輸入陶磁器は数点あるが、近世Ⅰa・Ⅰb期と比べて減少する。青磁・白磁の出土が無く、青花で占められている。青花碗・皿は景德鎮系と漳州窯系のもので、精製と粗製のものが共伴する。

国産陶磁器

国産陶磁器の組成は、肥前磁器の出現によって大きな変化が見られる。肥前陶磁器が大半を占める状況で、織部、備前が少数出土する。肥前陶磁器の増加と呼応するように、瀬戸・美濃、志野、萩（山口）、上野・高取（福岡）の出土が見られなくなる。

備前は壺、播鉢があり、乗岡編年近世2a期（1620～1630年前後）のものが含まれる。

肥前陶器は生産地の年代観で九陶編年Ⅱ期（1610～1650年代）のものが主体となる。碗は丸碗、筒形碗がある。皿は胎土目の出土が無くなり、砂目で占められるようになる。中でも、溝縁皿の増加が目立ち、肥前磁器がスタートの頃に比定されるものが主体となる。

肥前磁器は生産地の年代観で九陶編年Ⅱ-1期（1610～1630年代）の初期伊万里が数点出土するが、Ⅱ-2期（1630～1650年代）のものが主体となる。碗は高台無釉のものが多く、鉄釉や青磁釉を施すものが見られる。青磁釉の碗では、見込みに菊花文を入れたものがある。小坏は蘭文を施した端反口縁のものがある。皿は1630年代後半～1640年代を中心に生産されたイゲ縁皿や型打成形の皿がある。

土師器皿は京都系と在地系が共伴するが、京都系が減少して在地系が増加し、その割合が逆転する。この時期から土師器皿は、次第に京都系から在地系へ切り替わることを示している。

〔近世Ⅲ期〕 1650年代～1690年代

輸入陶磁器

輸入陶磁器は青花が極少数出土するが、近世Ⅱ期のものが伝世している可能性が考えられる。青花碗・皿は景德鎮系と漳州窯系のもので、精製と粗製のものが共伴する。

国産陶磁器

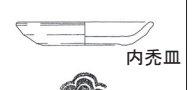
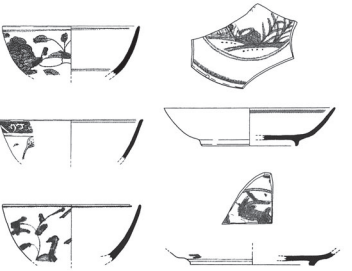
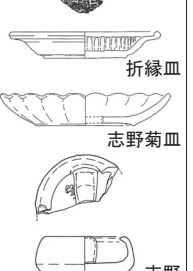
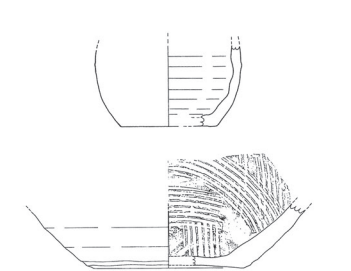
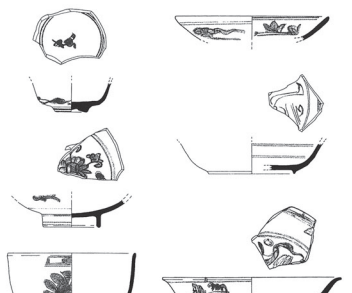
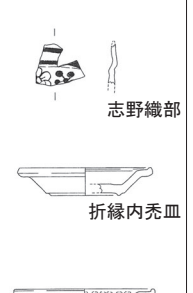
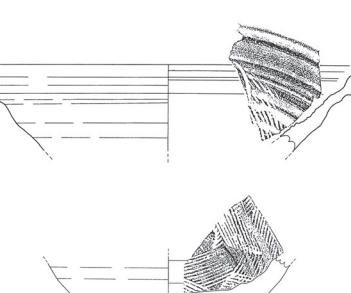
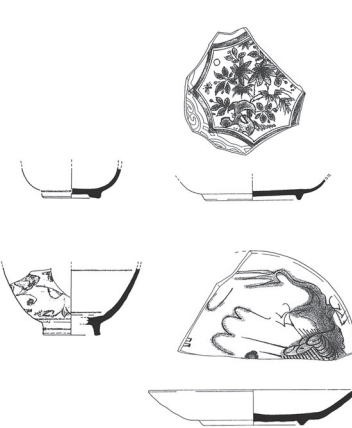
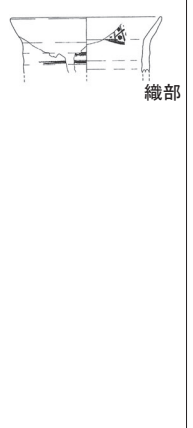
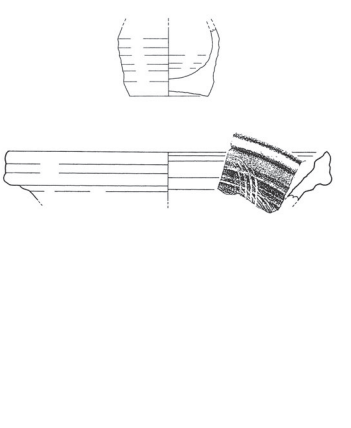
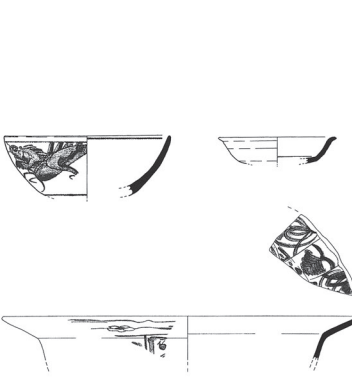
国産陶磁器の組成は、近世Ⅱ期の組成と大幅な変化はないものの、この時期の特徴として肥前陶器の減少と肥前磁器の増加が見られることが挙げられる。肥前陶磁器が大半を占める状況は変わらず、織部、備前の出土が見られなくなる。

この時期から、備前播鉢と入れ替わるように須佐播鉢が入ってくる。また、京信系陶器が少数出土している。

肥前陶器は生産地の年代観で九陶編年Ⅱ期のものが減少し、Ⅲ期（1650～1690年代）のものが主体となる。碗は呉器手碗や京焼風陶器がある。皿は砂目で占められ、内野山窯産のものが目立つ。溝縁皿や鰐縁皿は引き続き出土し、この時期に特徴的な蛇ノ目釉剥ぎ皿が極少数見られる。

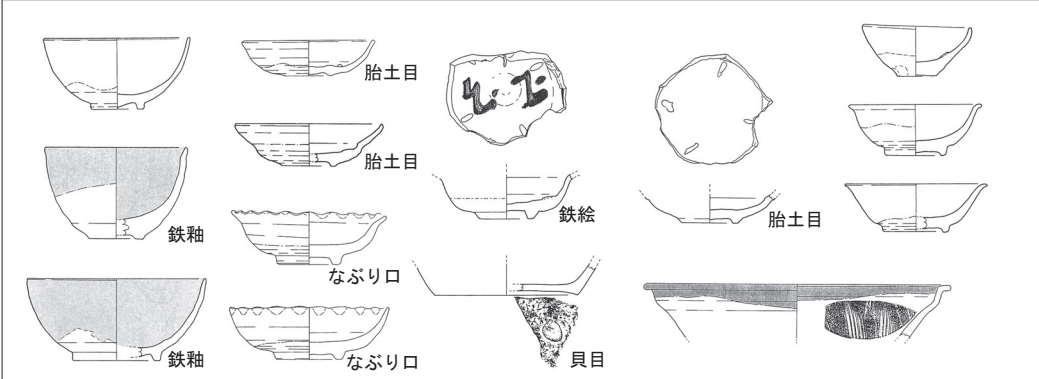
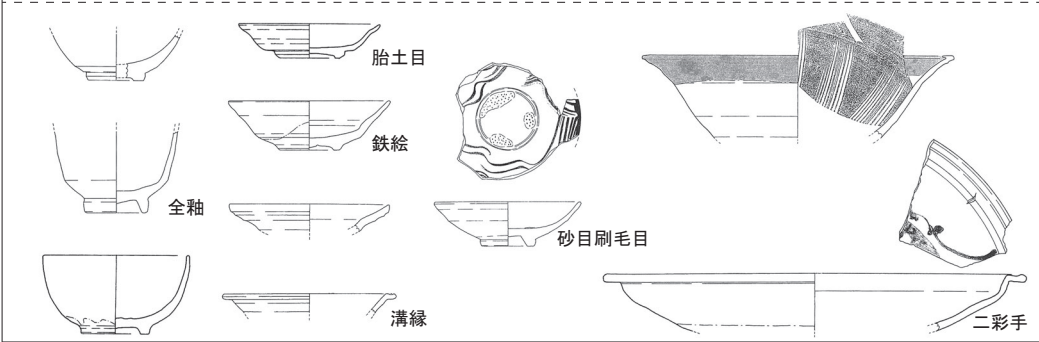
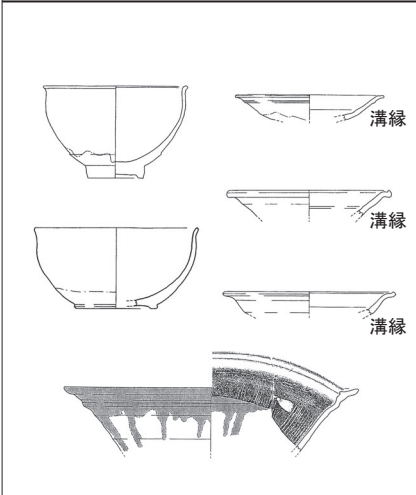
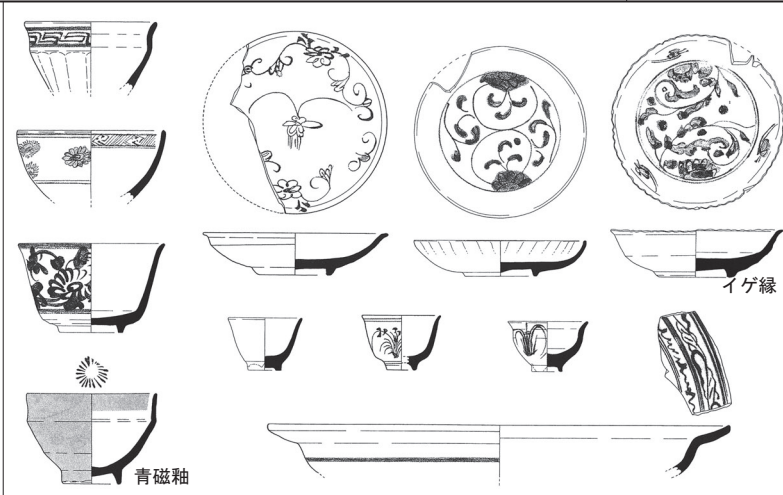
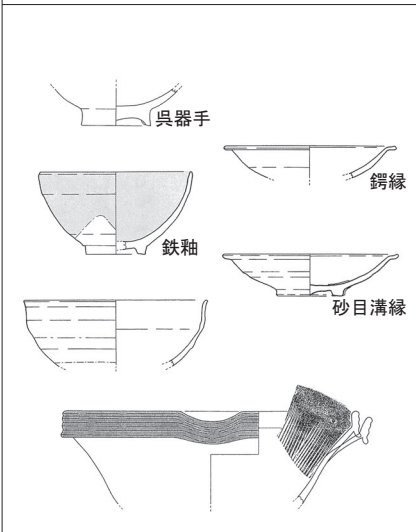
肥前磁器は生産地の年代観で九陶編年Ⅱ-2期のものが減少し、Ⅲ期（1650～1690年代）のものが主体となる。碗は丸みをもった網目文の碗や鉄釉・青磁釉掛け分けの碗がある。小坏は端反口縁のものが多い。皿は1650年代以降を中心に生産された日字鳳凰文皿や芙蓉手皿の他、波佐見青磁の皿がある。手塩皿も少数出土し、青磁釉や型打成形の菊花皿がある。

土師器皿は京都系の出土が無くなり、在地系で占められる。この時期から土師器皿は、在地系のものへほぼ移行する。

区分	歴年代	中国磁器	瀬戸・美濃	備前
近世Ⅰa期	1600年代 初頭			
	堀尾			
近世Ⅰb期	京極			
	1637年			
近世Ⅱ期	1638年			
	松平			
近世Ⅲ期	1650年代			
	1690年代			

[中国磁器、瀬戸・美濃、備前]

第3図 17世紀代の陶磁器編年(1) (陶磁器S=1:6)

肥前陶器				肥前磁器
 胎土目 胎土目 鉄絵 胎土目 胎土目 鉄釉 なぶり口 なぶり口 貝目				出土無し
 胎土目 鉄絵 全釉 砂目刷毛目 溝縁 二彩手				出土無し
 溝縁 溝縁 溝縁		 イゲ縁 青磁釉		
 呉器手 銕釉 砂目溝縁		 銕釉青磁釉 青磁釉 型打		

[肥前陶器、肥前磁器]

第4図 17世紀代の陶磁器編年(2) (陶磁器S=1:6、播鉢S=1:8)

(2) 各期の陶磁器産地別組成と国産陶磁器の消長

以上の編年を踏まえて、ここでは各期の陶磁器産地別組成と国産陶磁器の消長を検討する。表2には基準資料とした大橋家与力屋敷1軒分の陶磁器産地別組成を、表3には各期の国産陶磁器の消長を示している。出土した17世紀代の陶磁器を産地別に見ると、輸入陶磁器では景德鎮系と漳州窯系の中国青花が大半を占める。国産陶磁器では肥前が圧倒的に多く、瀬戸・美濃、志野、織部、備前、上野・高取（福岡）、萩（山口）、須佐がこれに次ぐ。京焼、信楽などの関西系陶器も出土するが極少数で、越前、常滑、丹波などは出土していない。組成グラフでは近世Ⅰa期・Ⅰb期には中国磁器、瀬戸・美濃、肥前陶器が主体で、これに志野、織部、備前、上野・高取（福岡）、萩（山口）が入る組成から、近世Ⅱ期・Ⅲ期になると中国磁器、瀬戸・美濃、志野、織部、備前が減少し、肥前陶磁器が主体となる組成へ変化していることが読み取れる。

産地別の様相を見る限り、松江には九州地方や中国地方からの陶磁器が比較的多く流入していたことが考えられる。

この状況こそが流通経路に規定される地域性であり、松江城下町の陶磁器の消長を示すものと捉えられる。

表2 各期の陶磁器産地別組成

陶磁器組成内訳	近世Ⅰa期		近世Ⅰb期		近世Ⅱ期		近世Ⅲ期	
	破片数	割合%	破片数	割合%	破片数	割合%	破片数	割合%
①中国白磁	2	2.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
②中国青花	9	11.5	24	8.6	5	3.3	2	1.6
③瀬戸・美濃	9	11.5	10	3.6	0	0.0	0	0.0
④志野	4	5.1	3	1.1	0	0.0	0	0.0
⑤織部	0	0.0	3	1.1	1	0.7	0	0.0
⑥備前	4	5.1	16	5.8	4	2.7	0	0.0
⑦肥前陶器	42	53.9	215	77.3	65	43.6	20	15.7
⑧肥前磁器	0	0.0	0	0.0	74	49.7	83	65.3
⑨上野・高取(福岡)	6	7.7	4	1.4	0	0.0	0	0.0
⑩京信系	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	2.4
⑪萩(山口)	2	2.6	3	1.1	0	0.0	0	0.0
⑫須佐	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	3.1
⑬瓦質土器	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	2.4
⑭土器	0	0.0	0	0.0	0	0.0	12	9.5
合計	78	100.0	278	100.0	149	100.0	127	100.0

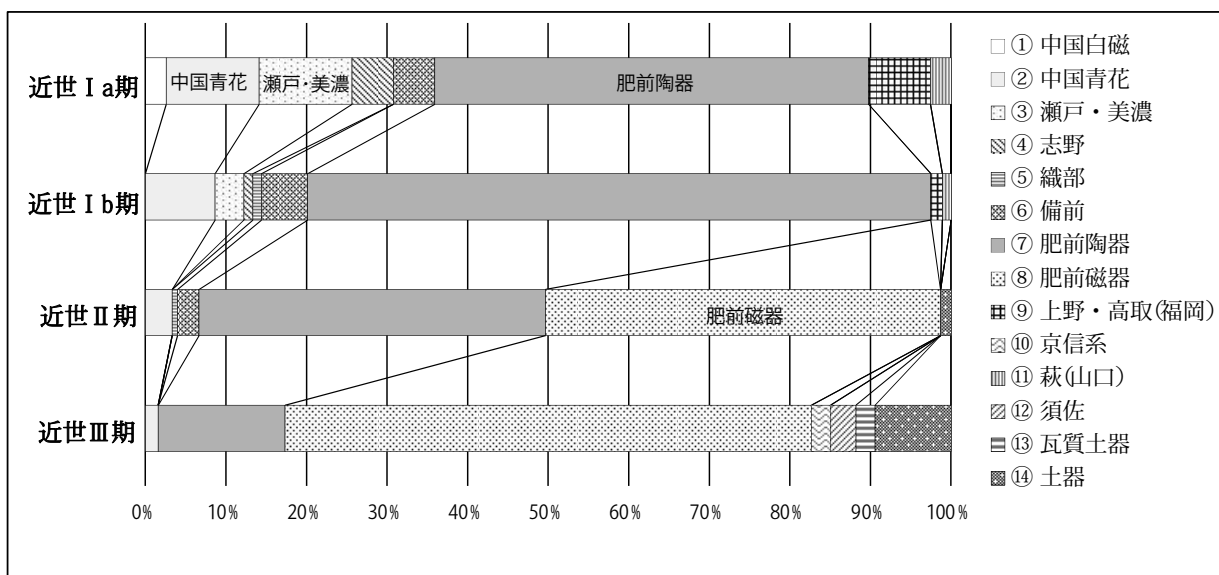


表3 各期の国産陶磁器の消長

時期区分	遺構面	瀬戸・美濃		志野	織部	備前		肥前陶器										肥前磁器		上野 高取	萩(山口)		須佐
		碗	皿			播鉢	徳利	碗				皿						播鉢	碗		皿		
								鉄絵	高台無軸	全面施釉	呉器手	鉄絵	胎土目	砂目	溝線	刷毛目	二彩手						
近世Ⅰa期	第1面	●	●	●		●	●	●	●			●	●				●		●	●			
近世Ⅰb期	第2面		●	●	●	●	●		●	●			●	●	●	●	●		●	●	●		
近世Ⅱ期	第3面				●	●	●		●	●			●	●			●	●	●				
近世Ⅲ期	第4面									●	●		●	●			●	●	●		●		

●=出土陶磁器

5. 17世紀代前半の青花の様相と肥前磁器の出現

本稿では、青花碗・皿についての詳細な分類まで至っていないが、森穀氏による青花分類⁽⁵⁾に則して、松江城下町遺跡における17世紀代前半の青花の概観を示しておきたい。

松江城下町遺跡では17世紀代初頭から景德鎮系と漳州窯系の精製・粗製品が入る。景德鎮系の碗は饅頭心の碗E群が無く、底部が平坦な碗Gや底部外面が窪む碗Hが主体となる。皿は皿E群が主体となり、口縁部端反でペンシルドロウイングの手法を用いた皿B3や芙蓉手の皿Iが入る。これら景德鎮系の精製品に漳州窯系の碗F群や皿F群粗製が加わり、17世紀代前半の青花が構成されている。

この状況は近世Ⅰa期から近世Ⅰb期まで大きく変化せず、近世Ⅱ期の肥前磁器の出現を境として青花の出土が減少することとなる。その後は肥前磁器が急速に増加し、青花に取って代わる。

このように、近世Ⅰb期から近世Ⅱ期にかけて青花の占める割合が減少することは、近世Ⅱ期における肥前磁器の出現が画期となっていることが明瞭である。生産地での肥前磁器の焼成開始年代は1610年代とされるが、消費地である松江城下町遺跡での肥前磁器の出現は1638年以降と考えられる。この年代は安来市広瀬町の富田川河床遺跡での肥前磁器の出現期とされる1635～1644年前後⁽⁶⁾と比べても齟齬が無い。一方で、松江城下町遺跡における肥前陶器の出現については、現段階で17世紀代を遡ることのできる資料が見つかっておらず、まだ解決を見ない問題となる。

6. 肥前陶器の胎土目から砂目への移行

ここでは松江城下町遺跡出土の肥前陶器に主眼を置き、胎土目から砂目へ移行する時期⁽⁷⁾について検討してみたい。近世Ⅰa期の肥前陶器はすべて胎土目で、砂目は出土していない。松江城下町遺跡で砂目が確認できるのは、近世Ⅰb期の1630年代前半以降からで、近世Ⅱ期の肥前磁器と共伴する時期の砂目には溝縁皿が多く見られる。

この状況から近世Ⅰb期の胎土目と共伴する時期の砂目と、近世Ⅱ期の肥前磁器と共伴する時期の砂目は区別する必要があるが、松江城下町遺跡では近世Ⅰb期において胎土目が少数残るものの、主体となるのは砂目であり、胎土目から砂目へ移行する時期は1630年代前半頃にあると考える。

7. 消費地遺跡における陶磁器組成の比較 ―大坂と松江―

17世紀代前半の大坂の陶磁器組成と松江の陶磁器組成を比較すると、大坂で「豊臣後期」とされる1598～1615年の陶磁器組成と、松江城下町が展開し始める近世Ⅰa期の陶磁器組成とが類似している。さらに「徳川初期1・2」とされる1615～1650年の陶磁器組成についても、松江の近世Ⅰb・Ⅱ期の陶磁器組成が類似していることが分かる。

大坂と松江では、大都市遺跡と地方都市遺跡の違いがあるが、同じ消費地遺跡として大枠で捉えた場合の陶磁器組成は大きく異ならないことが言える。しかし、細分した陶磁器組成の中ではその様相に変化が見られる。

前述した肥前陶器の胎土目から砂目への移行を例に挙げると、大坂では胎土目から砂目へ移行する時期を元和末～寛永初年（1620年代中頃）とされており、松江では寛永中頃（1630年代前半頃）と考えている。これらを比較すると松江の方が大坂よりも移行する時期がやや遅く、数年のタイムラグが生じていることとなる。その要因として大都市遺跡と地方都市遺跡での消費差、あるいは流通経路の違いによる供給の時期差などが考えられる。

おわりに

松江城下町遺跡における17世紀代の陶磁器の様相を概観してきたが、その中で最も特徴的な点は17世紀代初頭が松江城下町の開始時期ということであろう。陶磁器組成の観点から、松江では1600年代初頭にそれまで組成の中心となっていたと思われる中国青花や瀬戸・美濃、志野、織部などのいわゆる桃山陶磁が1630年代を境に徐々に減少していき、肥前陶器（胎土目・鉄絵）が中心となる近世Ⅰa期から始まる。その後、肥前陶器（砂目）が中心となる近世Ⅰb期、松平期の開始年代である1638年以降に肥前磁器が入り、肥前陶器と肥前磁器が中心となる近世Ⅱ期、1650年代以降に肥前陶器が減少して肥前磁器が増加する近世Ⅲ期という変遷を辿る。

近世陶磁器は数年単位といった短い時間幅で変化を見せることから、その年代比定は慎重にならなければならない、それを限定していかなければ遺跡の正当な評価を行えないことにもなる。近世城下町は発掘調査だけではなく、文献史学や自然科学分析から得られる成果も重要であり、これらを踏まえた総合的な知見から判断することで新たな理解へと繋がる。陶磁器から読み取れる変化を着実に捉え、松江の資料に即した暦年代観の構築と地域性を抽出することで、松江城下町遺跡の価値を更に高めるものと確信する。この資料が今後の松江城下町陶磁器研究の一助となれば幸いである。

〔謝辞〕 陶磁器の分類・年代観について佐賀県立九州陶磁文化館の大橋康二氏、大阪歴史博物館の松尾信裕氏に詳細な検討と御教示を賜った。また本稿を作成するにあたり、大田市教育委員会の西尾克己氏、米子市文化財団の佐伯純也氏、松江市まちづくり文化財課の川上昭一氏には有益な御指導をいただいた。これらの方々に心から感謝申し上げます。

注

- (1) 島状整地は、低湿地に形成される徳島城下町の発掘調査で最初に確認された造成手法である。
- (2) 愛知県史編纂室2007「瀬戸・美濃大窯製品編年表」『愛知県史 別編 窯業2』
- (3) 乗岡実2000「備前焼播鉢の編年について」『第3回中近世備前焼研究会資料』中近世備前焼研究会
- (4) 九州近世陶磁学会2000『九州陶磁の編年』
- (5) 森毅1995「十六・十七世紀における陶磁器の様相とその流通」『ヒストリア』第149号 大阪歴史学会
- (6) 村上勇1986「寛永21年銘木札を伴う陶磁」『貿易陶磁研究』No.6 日本貿易陶磁研究会
- (7) 大橋康二氏は、肥前陶器（唐津焼）の皿に見られる重ね積みの痕跡（窯詰め法）を、粘土を団子状におく胎土目積みと、砂を団子状に固めた砂目積みで分類し、胎土目から砂目へと変化することを明らかにした。そして初現期の唐津焼は胎土目であり、年代を1580年頃とする。生産地の胎土目から砂目への移行の時期は、文禄・慶長の役によって連れ帰られた朝鮮人陶工によってもたらされた技術変化と理解し、その時期を慶長年間とされている。

参考文献

論文

松尾信裕2005「近世大坂の発掘調査と地域史研究」『日本歴史』第690号 吉川弘文館
森 毅1992「十六世紀後半から十七世紀初頭の陶磁器」『難波宮址の研究』第九 大阪市文化財協会

報告書

落合昭久他編2011『松江歴史館整備事業に伴う松江城下町遺跡（殿町287番地・殿町279番地外）発掘調査報告書』松江市教育委員会・（財）松江市教育文化振興事業団
小山泰生編2014『城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡発掘調査報告書4』松江市教育委員会・（公財）松江市スポーツ振興財団
小山泰生編2015『城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡発掘調査報告書5』松江市教育委員会・（公財）松江市スポーツ振興財団

（こやま たいせい 公益財団法人松江市スポーツ振興財団埋蔵文化財課調査員）

史跡松江城の発掘調査(2)

—北惣門橋跡、御廊下橋跡—

岡崎雄二郎

I. 北惣門橋跡の発掘調査

1. 調査に至る経緯

松江城は城下町松江のシンボルであることから、市民や来訪者に対し一層の理解と活用を図るため、平成4年度から同6年度にかけて、自治省所管の地域づくり推進事業の一つ「史跡松江城公園周辺整備事業」として様々な整備事業を実施した。

この内、松江城の東側の内堀に架かっていた眼鏡橋は、近代の石造アーチ橋であり、松江城の歴史的景観にふさわしくないことと、停滞していた堀川の通水性を高める必要があったことから、従来の眼鏡橋を解体撤去し、橋下の発掘調査を実施し、その成果に基づき江戸時代にあった木橋「北惣門橋」に復元架橋することになった。現地調査は、平成5年10月18日から着手し、同年11月16日まで行なった⁽¹⁾。

2. 北惣門橋の変遷

北惣門橋は、『堀尾期松江城下町絵図』（1620～1633：島根大学附属図書館蔵）に見られるように、松江城の築城と同時に城の脇（横）から出入りする道筋の内堀に架かる橋として建造された。「出雲国松江城絵図」

（1644～1648：国立公文書館蔵）には、反りを持った太鼓橋として描かれている。今の大手前から入ったところの南惣門（大手御門ともいう）に対して、北惣門（東惣門、脇虎口之門ともいう）に渡る橋だったことから北惣門橋と呼ばれていた。

又、宝暦年間に編纂された「雲陽大数録」（『松江市史』史料編「近世I」）によれば、北惣門橋は、「長九間四尺五寸、幅貳間」と記されている。これを一間（六尺三寸）＝1.91mで換算すると全長18.54m、幅3.82

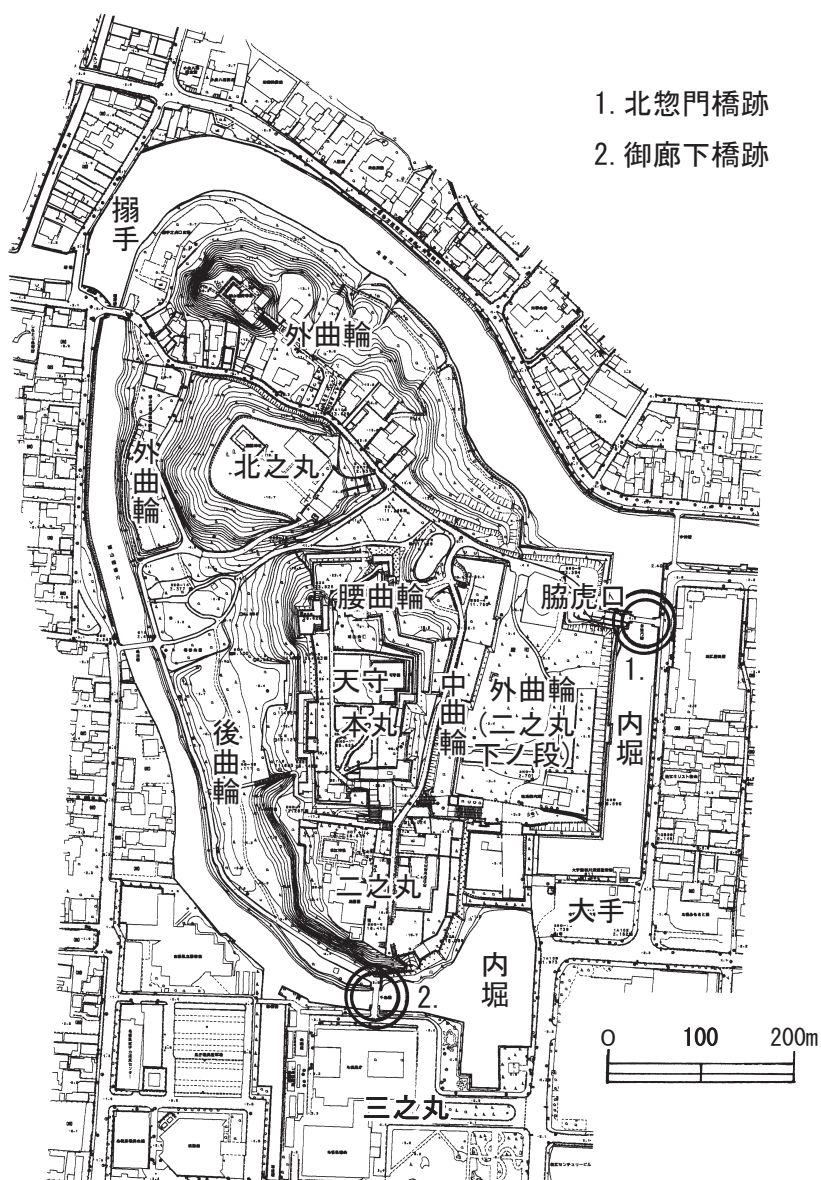


図1 発掘調査位置図

mとなる⁽²⁾。降って明治初期に陸軍省が作成した「松江城測量図」(国立国会図書館蔵)⁽³⁾や明治22年6月作成の「道路取調図(1区殿町)」(松江市蔵)には江戸時代の長さのままの橋が描かれている。しかし、明治35年度調製の「松江市道路水路図(内中原)」(松江市蔵)では短い橋に変わっている。おそらく、この間に長い木橋から短い石造りのアーチ橋(通称眼鏡橋)に架け替えられたものと思われる⁽⁴⁾。

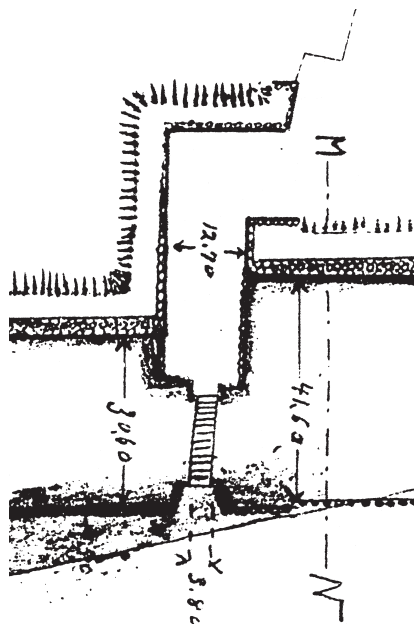


図2 明治初期、陸軍省作成の「松江城測量図」に見える北惣門橋

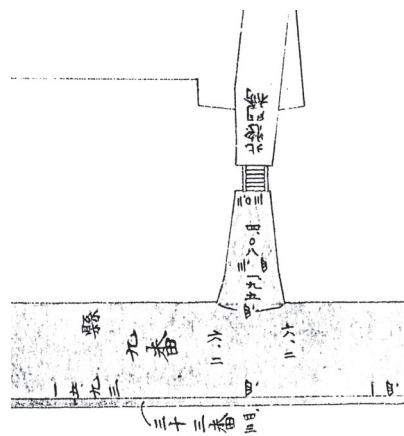


図3 明治35年の松江市道路図に見える北惣門橋

3. 調査の概要

(1) 眼鏡橋及び取付部の解体撤去

大型重機により眼鏡橋の石造アーチ及び両側の取付部(土橋)を注意深く基礎盛土下まで解体撤去した。アーチは、凝灰質砂岩(通称来待石)製で根石を2段積みにした上に、片側11個ずつ積み上げ、中央部にくさびとなる石を挟んで形づくる。根石の外方に接して一辺15cmの角材の上部に幅6cm、深さ3cmの溝を彫り込んだ木樋が埋設されていた。



眼鏡橋旧景

アーチの基礎の最下部は、直径20~30cmの丸太木が2本ずつ組み合わされて南北に通してあり、それを直径20~30cmの縦杭が支えている。さらに、この丸太木に直交して3本の丸太木が組み合わせてあり、北東部では多数並列させて平場を作り、側部石垣根石の基礎となる2本組みの丸太材に接続している。2本組みの丸太材は南側の石垣下にも同様に敷いていた。

(2) 橋脚部基礎の調査

江戸時代の胴木2本、それを支える支柱8本、単独の柱6本を検出した。

① 東側の胴木と支柱

胴木は南北方向に据えられ、長さ4.15m、厚み27～29cm前後の松材である。胴木を支える支柱（縦杭）は5本あり、内4本は黒色で直径30cm前後のもの、1本は黄褐色で22.3cmあった。胴木には長方形のホゾ穴が計5ヶ所あり、中央部に1ヶ所、南部と北部にそれぞれ2ヶ所あった。いずれも長さ17～21cm、幅9.10cm、深さ1.5～6cmを測る。黒色柱が黄褐色柱に比べてより古い段階のものと考えられる。

又、中央の支柱にのる胴木は、長さ45cm、奥行き最大15cmの範囲で丸く削り込まれ、支柱をはめこんでいる。胴木は東部をわずかに残して、大半虫食い痕が認められる。

② 西側の胴木と支柱

胴木は、南北方向に据えられ、長さ4.25m、直径21～32cmの松材である。中央部に1ヶ所、南部と北部にそれぞれ2ヶ所ずつの長方形のホゾ穴が彫り込まれている。

支柱は、直径30cm前後のもので、黄褐色と黒色を呈するものの2種が認められた。ホゾ穴は長さ18.9cm、幅5.5～9cm、深さ3.5～4.5cmを測る。

東側の胴木と同様の配列である。支柱はそれぞれホゾ穴の直下付近にあるが、中央の支柱は炭化し黒色を呈し、中心が胴木から東へはみ出している。北側の支柱は高さ、幅共8cmのホゾを作り、胴木にうまく組み込まれている。黒色柱が黄色柱に比べて古い段階のものと考えられる。西側と東側の胴木の間隔はおよそ7mを測る。



胴木検出状況（全景）



東側の胴木北端部と支柱

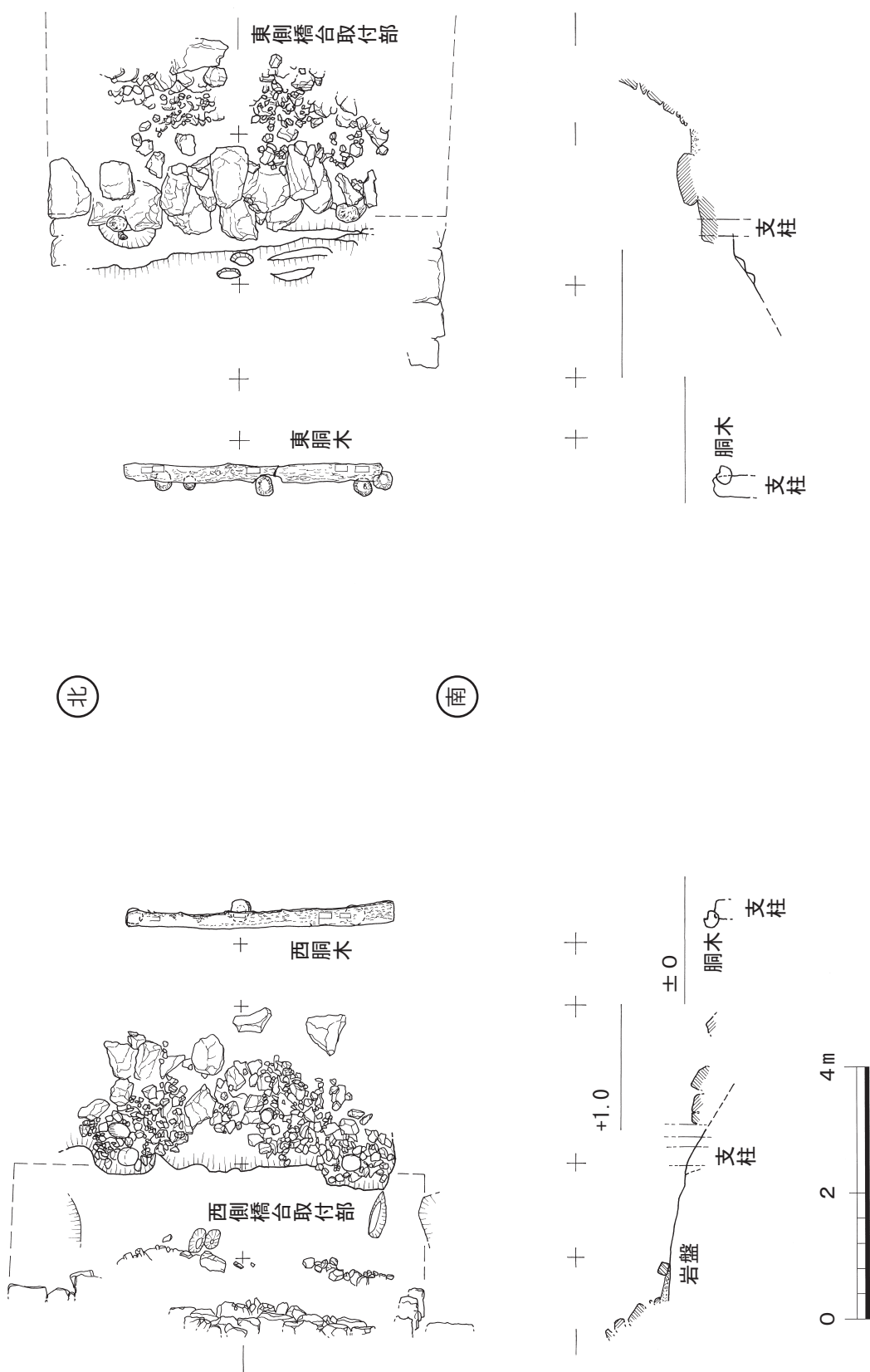


图 4 北惣門橋跡発掘調査成果図

(3) 橋台取付部の調査

① 東側橋台取付部

東側胴木から約3.9m東で50×100cm前後の大石が南北方向に列をなして据えられていた。

その背後の約40cm後ろ(家老屋敷跡側)にもう1列大石が並んでいた。大石の前端には南と北の2か所に径30cm前後の大杭が岩盤の青色ナメラ層(軟砂岩層)に打ち込んであり、周囲には掘り方が確認できた。南北の芯々距離は約3.8mを測る。大石が前方に押し出されないよう抑えの機能を持つものであろう。大石の背後は約40cmの間隔をおいて直径20～40cmの割り石が積み上げられ、その高さは1mを測る。



東側橋台 根石

大石の前内堀側は約29度の角度で、地元で青ナメラと呼ばれる岩盤(青灰色軟砂岩)が急傾斜している。橋下の堀の掘削作業のための足掛かりと思われる窪み2ヶ所(38×18、36×22cm)や平坦面2ヶ所も確認できる。江戸時代の橋台部は、大石からその後方の割石積までの間に設けられたものと考えられる。

② 西側橋台取付部

西側胴木から約3.9m西で大杭が南北に1本ずつ検出された。北の大杭は黄褐色を呈する。南の大杭との芯々距離は約3.7mを測る。北の大杭の東北東には20cm離れて炭化して黒色を呈する別の杭がある。中央部にも炭化し黒色を呈する杭がある。北の黒色杭と対をなし、その芯々距離は約2.3mを測る。杭には径20cm前後のものと径30cm前後のものの2種がある。

これらの杭周囲から東にかけて岩盤が切削され、約17度の角度で緩やかに傾斜していく。この緩傾斜面には東西2.5m、南北5mの範囲に多数の礫、転石を捨てて地盤を固めている。比較的東側により大きな石を置いている。

一方これらの杭の西方(城山側)は、岩盤が緩やかに立ち上がり、約1.5m西の位置に南北幅4.5mの範囲で直径10～20cmの石が集中していた。

さらに80cm西方では、南北両側の現存石垣と連続する石垣が市道直下で検出されたが、上半部は全く遺存しておらず、一部褐色土も混入しており、眼鏡橋の土橋構築時に攪乱を受けた可能性が高い。江戸時代の橋台は、大杭からこの石垣列までの間に設けられたものと考えられる。

4. 出土遺物の検討

(1) 陶磁器の変遷について

図5-1～10は肥前系磁器である。5-1は九陶Ⅱ-2期からⅢ期の染付中瓶である。5-2は九陶Ⅲ期の網目文染付瓶である。5-3～5は染付の小杯、小碗、五寸皿で九陶Ⅳ期にあたる。5-6～10は中碗、中皿、大皿や御神酒徳利で九陶Ⅴ期のものである。5-11の^{ひょうそく}秉燭、5-13の土瓶は、いずれも18世紀後半以降の京都・信楽系の陶器と思われる。5-12は在地の^{ふじな}布志名焼の高坏で幕末以降のものと考えられる。5-14は19世紀初頭から幕末にかけての再興九谷焼で高台が二重に廻るものである。以上のように、17世紀前半にあたる陶磁器はわずかで、18世紀代から19世紀代のものが主として出土している⁽⁵⁾。

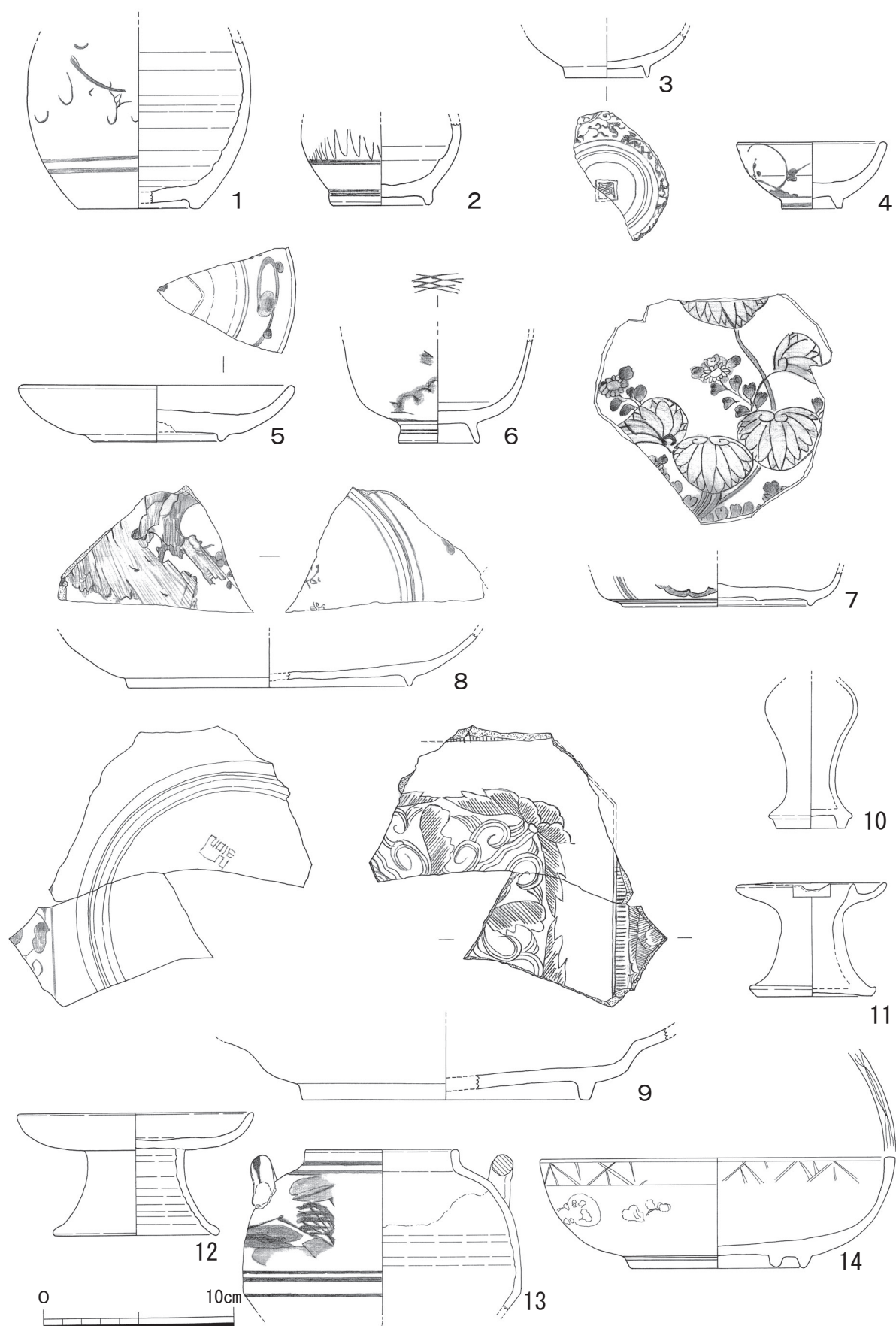


图5 出土陶磁器実測図

(2) 分銅紋の刻印のある軒丸瓦について

東側の胴木付近から出土した。瓦当面は接合部から剥落している。内面には布目痕を残す。外面円孔の横に長さ2.3cm、最大幅2.1cm、くびれ部幅0.6cmの分銅紋を押す。分銅紋は、堀尾氏の家紋の一つである。刻印瓦の類例は松江城内では二之丸中櫓跡から軒平瓦が、外曲輪（二之丸下ノ段）から軒丸瓦の丸瓦部のものの計2例、昭和25～30年に実施された天守の解体修理工事の際にも数例発見されているが数少ないものである。松江城築城期に焼成された瓦と考えられる。

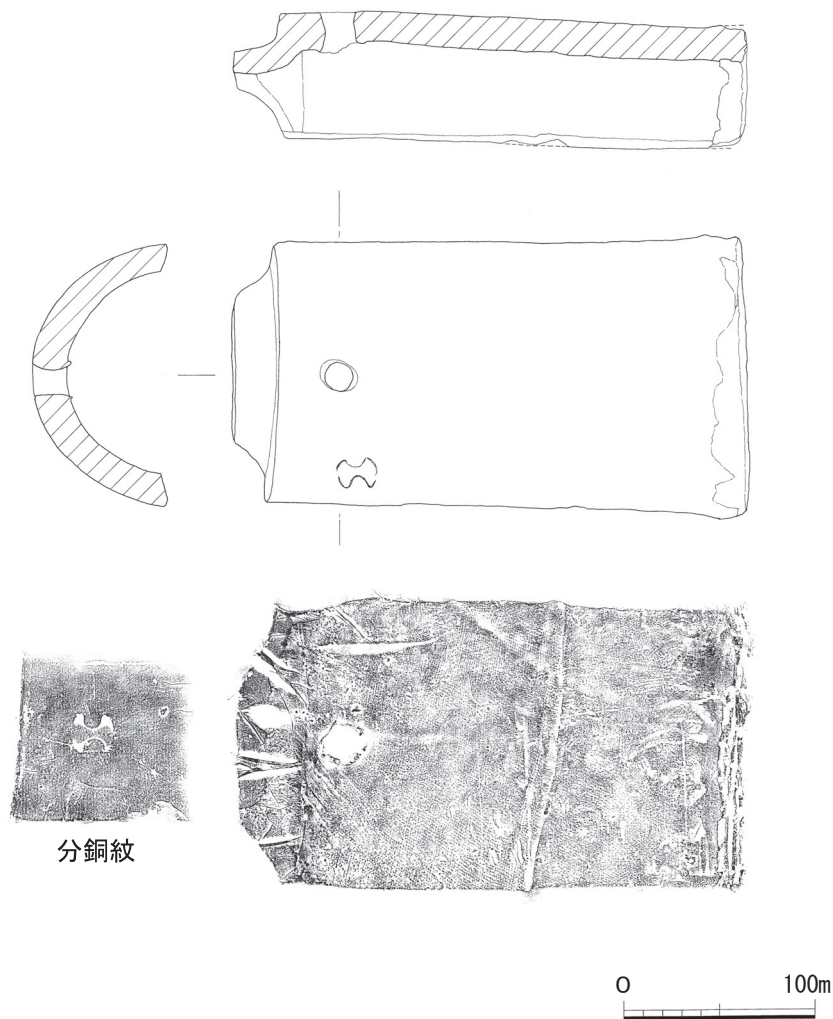


図6 軒丸瓦実測図



分銅紋の刻印のある軒丸瓦

(3) 鯰瓦について

橋下から鯰瓦の胴部の破片が出土した。素地は非常に精選された灰色の粘土で、瓦と同じ焼きである。外面にはヘラで鱗紋を描き、銀色の光沢がある。鱗の単位は縦2.0～2.4cm、横幅2.7～3.5cm、深さ1.5～2mmを測る。上方に向かって大きくなり、かつ断面が角張っていく傾向がある。絵図・文献資料によれば、北惣門橋から城内へ約10m入ったところに、「北惣門」或いは「脇虎口之門」と呼ばれた二階造りの櫓門があった。棟の両端には、鯰が取り付けてあったことが絵図から分かるので、この出土品は北惣門のものであったことが考えられる。松江城関係の鯰瓦の出土例は、本丸弓櫓跡付近、二之丸中櫓跡付近、同太鼓櫓跡、大手門跡付近から出土している。

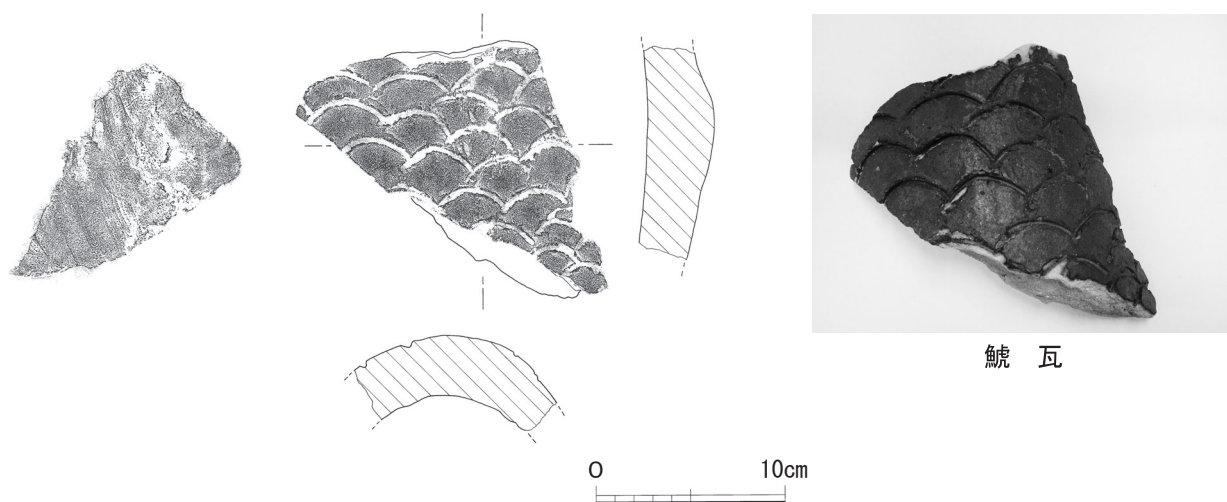


図7 鯰瓦実測図

5. 北惣門橋の復元

(1) 調査成果を基にした復元イメージ

胴木は長さ約4m余の皮をとった松材で、約7mの間隔をおいて東西に2本検出された。それぞれ北端部、中央部、南端部に長方形のホゾ穴が穿たれており、そこから橋脚本体が立ち上がっていたことが分かった。従って、橋脚は7mの間隔をあけて2列あり、各列3本建てであったことが知られる。

橋台部は、東側、西側共攪乱を受けており、不明瞭であったが、胴木から外方へ約4mの間隔をおいて出張部の石垣の根石とその前端に大杭が検出された。東側橋台部（家老屋敷跡側）では南北方向に約3.8mの間隔をあけて2本、西側橋台部（北惣門跡側）では4本検出され、この内両端の2本は南北方向に約3.6mの間隔があった。これは、各橋台部の先端の根石がずれないように、根固めする機能があるものと考えられた。従って、橋台部は、これら大杭より外方にあったものと推定した。

(2) 復元の基本方針

① 橋脚列は2列、橋脚本数は各列3本建てとする

発掘調査の結果、約7mの間隔をあけて2か所、3本建ての橋脚であること及び江戸末期（天保年間頃）の様子を描いた『松江城郭図』や『出雲国松江城図』とも符合することに基づいた。

② 主要寸法は長さ18.54m、幅3.82mとする

宝暦年間（1751～1762）に著された松江藩の統計書『雲陽大数録』に記載されている「長さ九間四尺五寸、幅弍間」という数値及び明治初期に陸軍省が実測した『松江城測量図』に記載されている橋

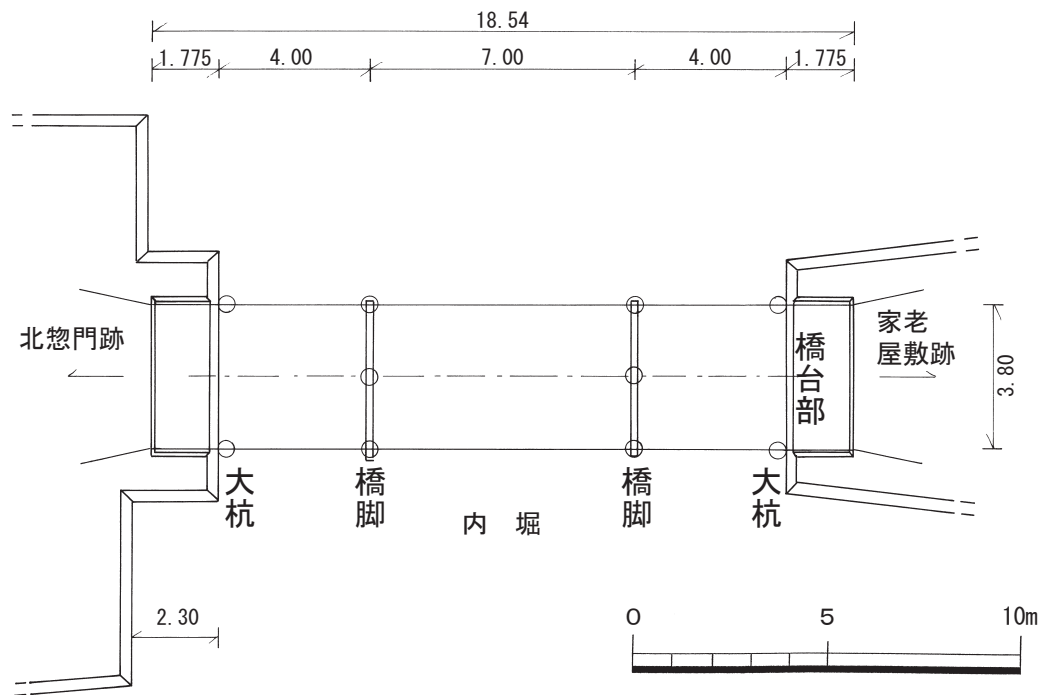


図8 北惣門橋復元基本寸法図

幅3.80mを根拠にして一間＝六尺三寸＝1.91mを基準尺度として計算した。

③ 反り橋とする

上記『松江城郭図』、『出雲国松江城図』に太鼓橋として表現されていることに基づき、反り上がりについては明治時代末期の北堀橋の古写真を参考とした。

④ 擬宝珠高欄は8本とする

『出雲国松江城図』の高欄基部親柱と袖部柱に4本ずつ計8本表現されていることに基づいた。

⑤ 梁の屋根を付ける

正徳五年（1715）作図の『京橋絵図』を参考とした。

(3) 復元工事の概要

- ・調査の成果に基づき、復元設計を財団法人文化財建造物保存技術協会で行い、文化庁の現状変更（復元）の許可が下りたので平成6年4月23日に復元工事に着手し、同年11月30日に木橋「北惣門橋」として竣工した。
- ・発掘調査で確認された江戸時代の柱盤（胴木）と木杭は原状保存するため橋脚側は松杭と横矢板を打ち土砂の流出を止め、上面には真



復元された北惣門橋

砂土を敷き詰めて遺構を保護した。

- ・橋台石積工事は、発掘調査で解体した橋台及びその周辺の石積を周囲にならい築いた。
- ・橋材は、国産（青森県産）のヒバとし、古色塗りとした⁽⁶⁾。

6. まとめ

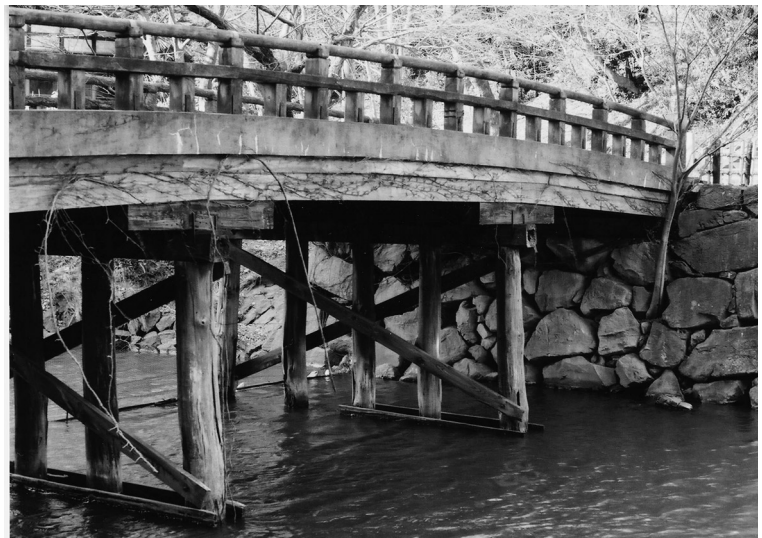
橋下部分の橋脚基礎構造の調査は、全国的に稀である。古くは和歌山城跡の一之橋⁽⁷⁾、最近では鳥取城跡の擬宝珠橋⁽⁸⁾の例がある。

今回、江戸時代の北惣門橋の橋脚を建てた胴木と支柱が検出され、長方形ホゾ孔の位置から2列3本建てであることが分かった。同年度に立会調査した「御廊下橋」跡でも胴木が確認されており、江戸時代の木橋の基本的な下部構造を知る上で大変貴重な資料となるものである。

Ⅱ. 御廊下橋跡の立会調査

1. 調査に至る経緯

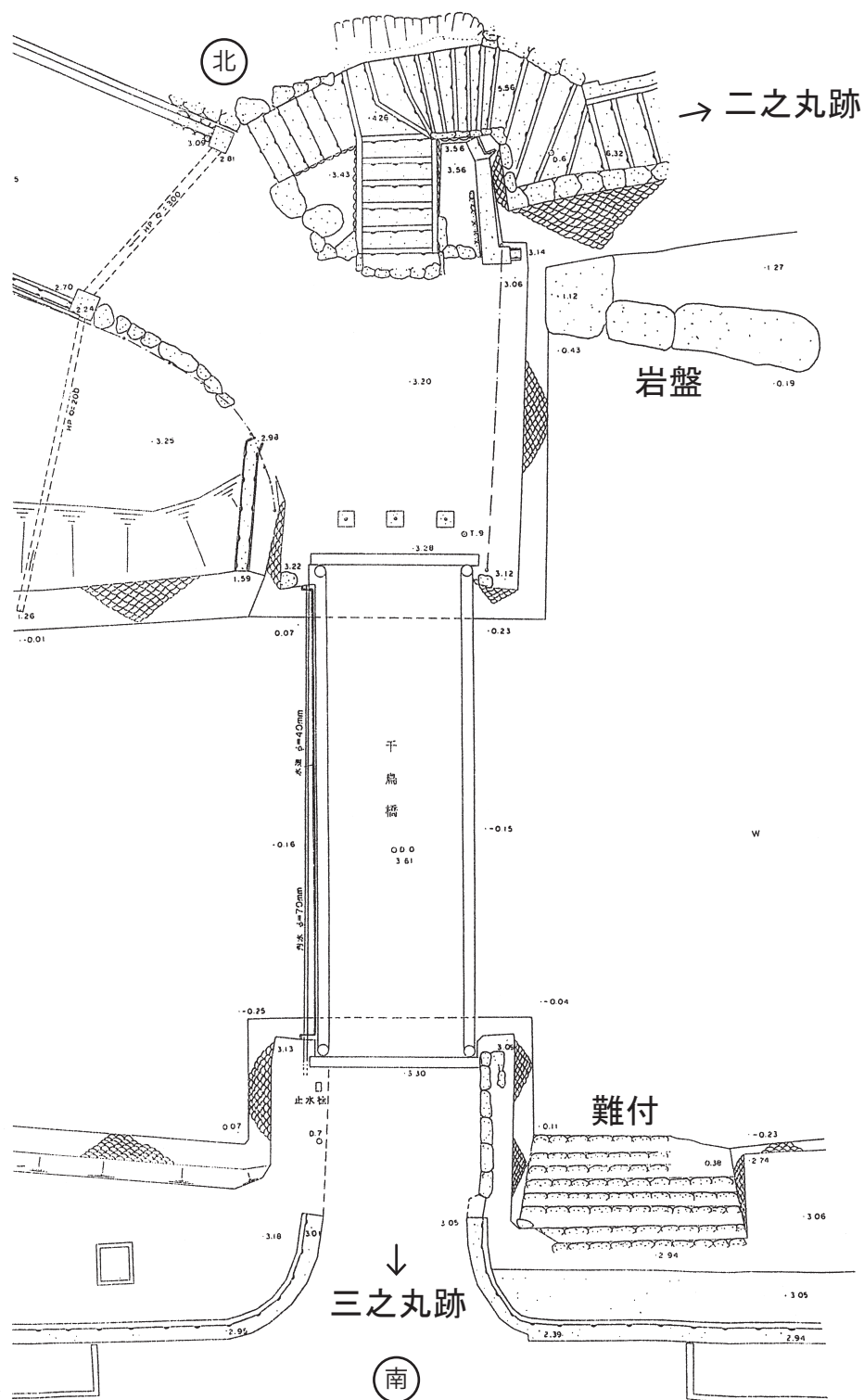
千鳥橋は、松江市殿町にある現島根県庁舎の北側、城山公園との間を東西に走る内堀に架かる木橋である。江戸時代には、亀田山に配置された本丸、二之丸などの主要城郭施設と藩主の居館である三之丸を連結する「御廊下橋」と呼ぶ重要な橋であった。『堀尾期松江城下町絵図』を見ると三之丸の正面、東の出入り口は堀を遮断した土橋、「御花畠」との北部の出入り口となる「助次橋」は通常の木橋だが、南方「三之丸内」、西方「御花畠」、北方「二之丸」との連絡は、築城当初から全て屋根付



北の橋台部を見る

の橋が架かっていたことが知られる。これは、藩主などが人目を気にせず、又風雨に会うことなく行きかうことを可能にするためであったと考えられる。

近代以降は、恐らく屋根のないごく普通の木橋ではなかったかと思われる。「千鳥橋」と呼称していた。平成5年度に至り、松江市では老朽化した千鳥橋を架け替えることになった。このため、工事中に橋下が排水され露出することから、解体直後を見計らって立会調査を行い、江戸時代の胴木など橋脚基礎の遺構や岩盤の状況の確認、遺物の採集を行うことになった。



現島根県庁舎

図9 千鳥橋旧状平面図

2. 史料に見える御廊下橋

(1) 文献史料

17世紀末に成立した『竹内右兵衛書つけ』には記載がない。明和三年（1766）に書き写された『御城内惣間数』二之御丸の項によれば、「一 御廊下橋 壱間壱尺ニ六間五尺」とあり、1間＝六尺五寸＝1.97mで換算すれば幅約2.273m、長さ13.335mとなる⁽⁹⁾。

(2) 絵図史料

17世紀前半に成立した「出雲国松江城絵図」（国立公文書館蔵）ほかのほとんどの松江城郭図には、屋根のかかった橋として描かれているので、江戸時代を通じて全体的な形状の変化は無いようである。17世紀末に成立した「松江城縄張図」（松江歴史館蔵）では「御廊下橋」と墨書された貼紙が貼ってあるが、橋本体の姿は描かれておらず寸法も記載されていない。その北に幅約3間、長さ7～9間の長方形の平地が表現されている。ここは、橋台部から二之丸へ上がる「御廊下」と呼称される石段下の踊り場である。東西と南側



「松江亀田千鳥城図」に見える御廊下橋

（今は剥落している）に石垣を表す紺色の紙とその内側に塀を表す薄茶色の紙が貼り付けてある。幕末の様子を描いたとされる「松江亀田千鳥城図」（松江歴史館蔵）によれば、橋脚は2列の3本建てとして描かれている。橋上には屋根が掛かり左右に板壁が取り付けられている。

3. 調査の概要

仮設工事で橋の両側は土のうで締め切られ、常に排水している状態であった。堆積していたヘドロやごみを除却し岩盤を確認すると共に、両側の橋台部に近い位置で橋の中軸線に直交した胴木が検出された。

(1) 遺構

① 南側の胴木

南側の橋台取付部の石垣根石から約90～113cmの間隔をあけて、長さ4.04m、直径25～31cmの胴木が、石垣前端線と平行して検出された。胴木は松材と思われ、軟砂岩の岩盤の上に和久羅山デイサイト（通称おおみざき大海崎石）⁽¹⁰⁾の小石を諸所にかませて固定し、全体の樹皮を取り除いた丸太木の上面と下面を削平し、上部平坦面に墨で中軸線を引いて両端付近に長方形のホゾ穴を穿っている。ホゾ穴は、いずれも長さ18cm余、横幅6cm余、深さ6cm前後を測る。西側のホゾ穴の周囲は丸く黒ずんでいた。その範囲は径33cmで橋脚がこのホゾ穴にはめ込まれて立ち上がっていたものと推定される。東と西のホゾ穴の芯々距離は約3.4mである。西側ホゾ穴と胴木西端の間には、銚子が打ち込まれていた。胴木と橋脚を固定するためのものであろう。

又、西側ホゾ穴のある胴木の側面には、表面を薄く削り9つの文字が墨書されていた。文体は「廿式

間□□代四□□」と断続的に読める。胴木の切り出しか運搬時に書かれたのではないかとされるが、内容は不明である。

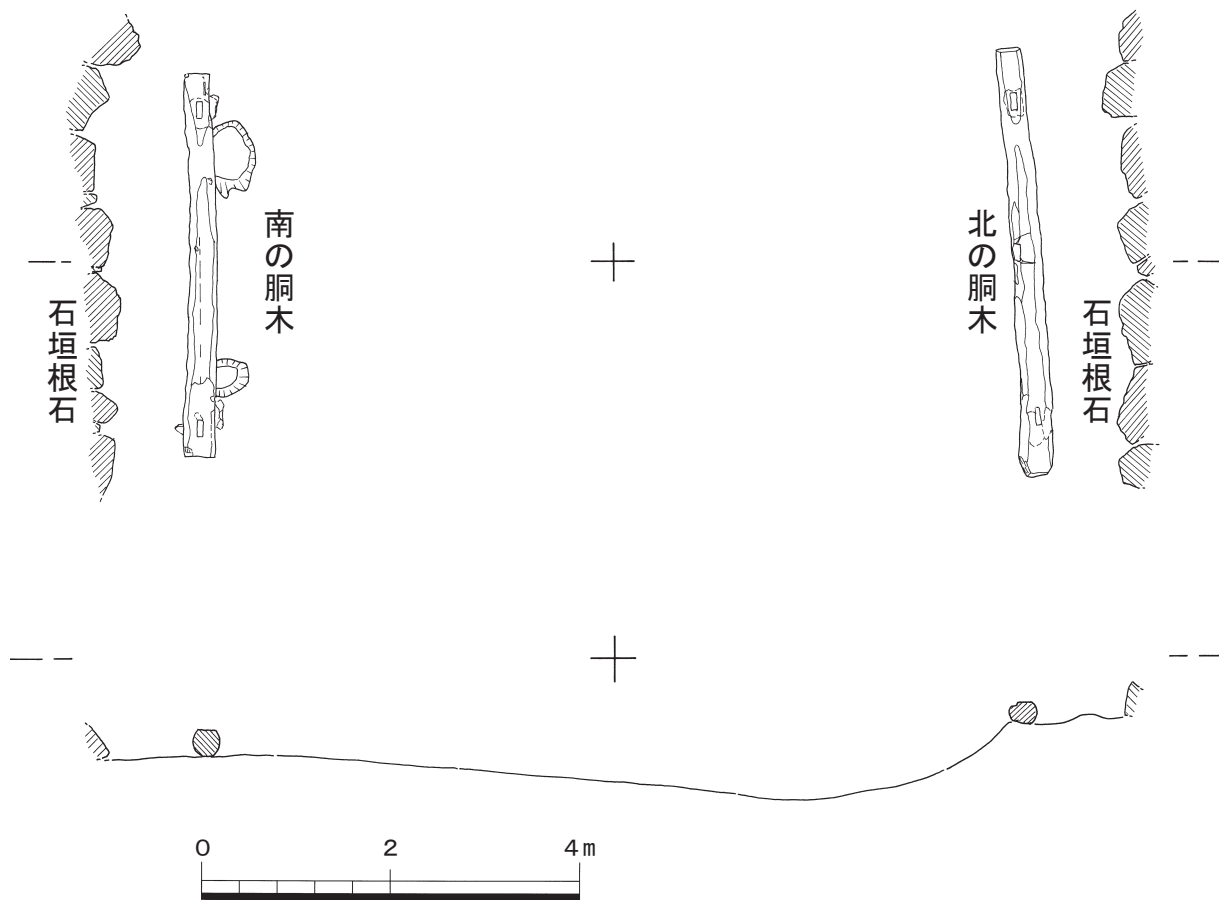


図10 胴木検出状況平面図・断面図



南の胴木

② 北側の胴木

北側の橋台取付部の石垣根石から85～95cmの間隔をあけて、長さ4.52m、直径20.5～33cmの胴木が石垣前端線とほぼ平行な形で検出された。胴木は松材と思われ、上面と下面を削平し、直接岩盤の上に固定されている。両端付近に長方形のホゾ穴を穿つ。ホゾ穴はいずれも長さ18cm余、横幅6cm前後、深さ5cm余を測る。東側のホゾ穴の周囲は直径35cmの範囲が丸く黒ずんでいた。橋脚がこのホゾ穴にはめ込まれて立っていたのだろう。西側の長方形ホゾ穴の周囲も径29×20cmの不定形な範囲が黒ずんでいた。又、こ



北の胴木

のホゾ穴の真下にも別のホゾ穴があった。向きが悪くて変更したのだろうか。東西の芯々距離は約3.36mである。岩盤はこの胴木の南側から急激に傾斜していく。北と南の胴木の芯々距離は、約8.7mである。

③ 石垣の刻印

南側（県庁側）の橋台取付石垣は、薄桃色の和久羅山デイスait（通称大海崎石）が大半で打ち込み接ぎの築石であるが、その内に鱗紋（三角形）の刻印石が1個認められた。

北側（城山側）の橋台取付部石垣も同様に和久羅山デイスaitが大半で打ち込み接ぎの築石であるが、その内に、地紙形の中に一と刻んだ刻印石が1個認められた。

(2) 遺物

① 陶製擬宝珠

宝珠最大径17.3cm、基底部径21.6cm、現存高32.3cm。宝珠の上部を欠く。宝珠と台部を接合し、接合部付近の内側は削って整形する。台部に4段の突帯を廻す。基底部付近に釘で木部に固定するための推定径8mmの円孔がある。外面全体に青地釉が分厚く掛かる。台部内面に2行にわたって「昭和十九年／本田□」と読めるヘラ書きの文字が認められる。□の上部は竹冠である。江戸時代は屋根の掛かった「御廊下橋」であったので、青銅製の擬宝珠は取り付けしていなかったものと思われる。明治時代に入りこの橋がそのままの形で維持されていたのか、屋根が取り壊されて普通の木橋になったのか定かではないが、昭和戦前の段階では青銅製の擬宝珠を取り付けた普通の木橋だったようである。

出土した陶製擬宝珠がいかなる事情の下、どこの窯で焼成されるに至ったのか、青い釉薬の発色が似ている袖師窯で聞いてみた。窯元の五代尾野友彦氏によれば、戦時下から昭和20年代にかけ、金属供出で取り外された市内の橋の擬宝珠や神社の高欄の代用品として、陶製の擬宝珠を製作焼成したという。昭和27年作の天神橋の擬宝珠は、径37cm、高さ64.8cmを測るもの。しかし、素地・釉薬や形状・寸法とも出土例と異なるという。後日、電話があり第4代目尾野晋也さんのお兄さんの話によれば、「当時、袖師窯と出雲市大津の萬祥山窯^{ばんしょうざん}で手分けして焼いた。袖師窯では裏銘は刻まない。あったとしても尾野何某だろう。萬祥山窯に本田という人がいたのではないか。」という。

そこで、萬祥山焼窯元へ行き現当主の日野頸甫氏^{けいすけ}に出土品を見ていただいたところ、素地や青地釉の

具合から萬祥山窯で焼いたものと判明した。刻字された「本田□」は、戦前から昭和52、3年頃まで50数年働いていた陶工の本田繁一氏で、出身は大津町の上津の宇那手であることが分かった。さらに日野氏所有のアルバムの中の古写真や新聞記事、メモから、松江大橋の代用擬宝珠を25個も製作したこと。出雲大社の大鳥居前にかかる宇賀橋や、本殿と神楽殿の間の橋、松江の城山周辺の橋の代用擬宝珠も作ったことが分かった。まさに戦争遺物とでもいうべきか。

他に、長さ6cm、吸口の径2×3mm、小口の径9mm弱を測る真鍮製煙管が出土した。木質の内側は3×4mmの範囲が空洞となる。江戸時代の通有のものである。

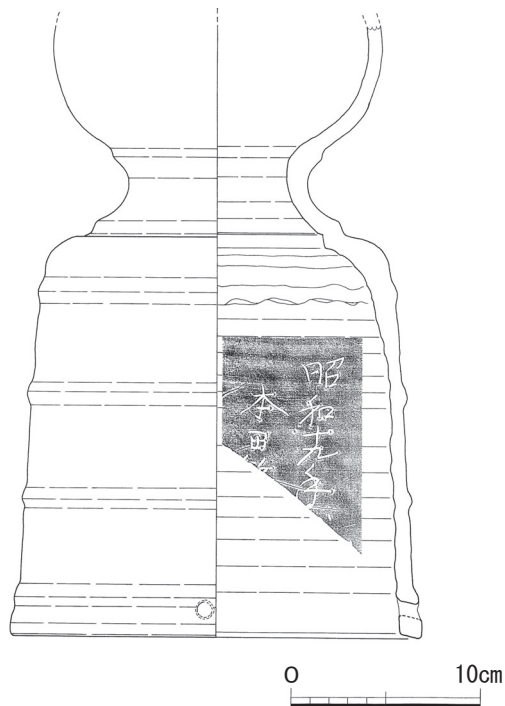


図11 陶製擬宝珠実測図



陶製擬宝珠

4. 小結

- (1) 江戸時代末期の様子を描いたと思われる『松江亀田千鳥城図』によれば、御廊下橋の橋脚は2列、3本建てとして描かれているが、調査の結果では2列2本建てであり、両者は合致しない。胴木の間隔が約8.7mと長いので、中央部にもう1列あった可能性が高い。
- (2) 2本柱の橋脚は、絵図の示す江戸時代末期より古い段階のものと考えられる。
- (3) 千鳥橋架け替え工事に当たっては、絵図・文献史料や立会い調査の結果も検討されたが、
 - ① 江戸時代の御廊下橋に復元するには、屋根、壁などの資料的根拠が不足していることから、千鳥橋の形状は変えず、新材で改修する。
 - ② 橋脚は、江戸時代末期の様子を表した絵図に描かれている3本柱、2列とする。
 - ③ 擬宝珠は、正徳2年（1712）京橋改修時の絵図に記載される形状を踏襲し、鋳銅製とする。という方針で従来どおりの木橋として施工された。

注

- (1) 発掘調査は当時松江市生涯学習部文化課文化財係長の岡崎雄二郎が担当し、同係主事の寺本康が補助し、工事担当の松江市建設部土木課橋北道路係技師の土江幹雄が協力した。
- (2) 復元の基本方針②を参照。
- (3) 城郭研究者の検討では、陸軍省築城部本部が、昭和初期に刊行した『日本城郭史資料第32冊出雲・石見国』に登載されたものとする見解があるが、原図の確認に至ってはおらず、当初の作成年代については、不明である。
本報告では、発掘調査当時の見解として、「松江城測量図」を明治時代初期の作成として論を進めた。
- (4) 石造りのアーチ橋に架け替えられた事由は、①明治になって管理が行き届かず崩壊の危険が生じた②明治26年に松江地方を襲った台風と洪水により崩壊した③明治35～36年にかけて行われた興雲閣建設に伴い非常に重たい建築部材を城内に運び入れる必要があった。と考えられるが、③の可能性が高いと考える。
- (5) 出土した陶磁器の編年観は、「九州陶磁の編年―九州近世陶磁学会10周年記念―」（2000年2月、九州陶磁学会）に拠る。具体的には、公益財団法人松江市スポーツ振興財団埋蔵文化財課調査員の徳永桃代氏のご教示による。
- (6) 「史跡松江城公園周辺整備事業 北惣門橋復元工事概要」平成六年十一月松江市、松江市教育委員会、「史跡松江城公園周辺整備事業実施報告書」平成8年3月、島根県松江市、松江市教育委員会所収
- (7) 和歌山市文化体育振興事業団埋蔵文化財センター長の中野隆亮氏にお聞きしたところ、1982年11月に行われた調査で現橋脚部の南北両側で柱列痕と柱抜き跡が検出されたという。
- (8) 鳥取市教育委員会文化財課文化財専門員の坂田邦彦氏にお聞きしたところ、2011年度に調査した結果、近世の2時期（内1時期は幕末頃）、近代1時期（明治28～30年頃）の3時期に亘る橋脚が62本も検出された。幕末期の橋脚は3本7列、幅5.4（上面5.2）m、全長約35.46m（十八間）と考えられている。
- (9) 『御城内惣間数』天守の項で、「一、御天守高九丈四尺二寸 但六尺五寸／間二、拾四間三尺二寸」と記し、1間を6尺5寸に換算している。
- (10) 別名「大海崎石」と呼ばれ、これまで高山、和久羅山山塊に分布する安山岩とみなされていたが、最近の調査・研究では、今から500万年前に噴出した火山岩（溶岩）の一種で、安山岩より珪酸の量が多く流紋岩に近いものであることが分かった。タイプⅢに分類される赤褐色のディサイトは、松江城の石垣に多く使用されているものである。→佐藤大介、松本一郎、亀井淳志「島根県松江市、和久羅山ディサイトの岩石記載と全岩化学組成」（地質学雑誌第117巻第8号、2011年8月）所収

（おかざき ゆうじろう 松江城部会専門委員）

松江平野北部の平野発達史と古環境変遷史(2)

—花粉分析から推定される古植生—

渡辺正巳・瀬戸浩二・山田和芳・高安克己

1. はじめに

松江を描いた絵図によれば、18世紀まで、松江平野北部には水域が存在した。しかし、新田開発とその後の宅地化によって、現在ではその痕跡すら失われてしまっている。失われた水域の実体を明らかにするために、水域の想定域内である松江市学園1丁目(13Mt01G)と菅田町(13Mt02G)の2か所で、簡易ジオスライサーを用いて、柱状試料を採取した。また、これらのコアについての詳細な記載と、地球化学的手法を用いた解析結果は、既に瀬戸ほか(2015)として公表済みである。本報では、花粉分析結果を基に、先の解析結果の追従をするとともに、古植生についての考察結果を報告する。

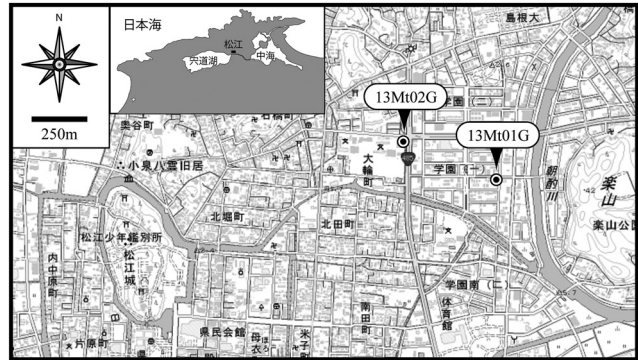


図1 試料採取地点(瀬戸ほか, 2015)

2. 試料について

試料の記載、地球化学的分析手法、結果は、既報(瀬戸ほか, 2015)の通りである。また、13Mt01の最上部の標高はTP-31.1cm、13Mt02の最上部の標高はTP-49.7cmであった。花粉分析に当たり、分割・保存してあった試料から、図2、3に示した試料を抜き取って使用した。ただし、分割された試料は1cmの厚さで細分され、一部が分析に使用されていたために、分析量が足らなかった。このため、上下の数試料を合わせて1試料とした。

3. 花粉分析方法・分析結果

渡辺(2010)に従い分析処理を行った。検鏡に当たり、プレパラートを光学顕微鏡下の400~1000倍率で観察し、原則的に木本花粉(化石)で200粒以上の検定、計数を行い、同時に出現する草本花粉(化石)と孢子(化石)の検定、計数も行った。また中村(1974)に従い、イネを含む可能性が高いイネ科(40%以上)とイネを含む可能性が低いイネ科(40%未満)に細分している。

花粉分析結果を図2、3及び表1に示す。図2、3の「花粉ダイアグラム」では、各々の木本花粉(針葉樹)、木本花粉(広葉樹)、草本花粉、一部の孢子について、計数した木本花粉を基数にした百分率を算出してスペクトルで表した。このほか「総合ダイアグラム」として、分類群ごとにこれらの総数を基数とした累積百分率を算出してスペクトルで表した。さらに、分類群ごとの単位重量当たりの含有量を、折れ線グラフで示した。

4. 局地花粉帯の設定と既知の花粉帯との対比

今回得られた花粉化石群集を基にI~V帯の局地花粉帯を設定した。以下に各局地花粉帯の特徴を、下位から示す。また、松江城下町遺跡北東部の地域花粉帯(渡辺・瀬戸, 2014)、あるいは中海・宍道湖地域の地域花粉帯(大西, 1993)との対比結果も示す。

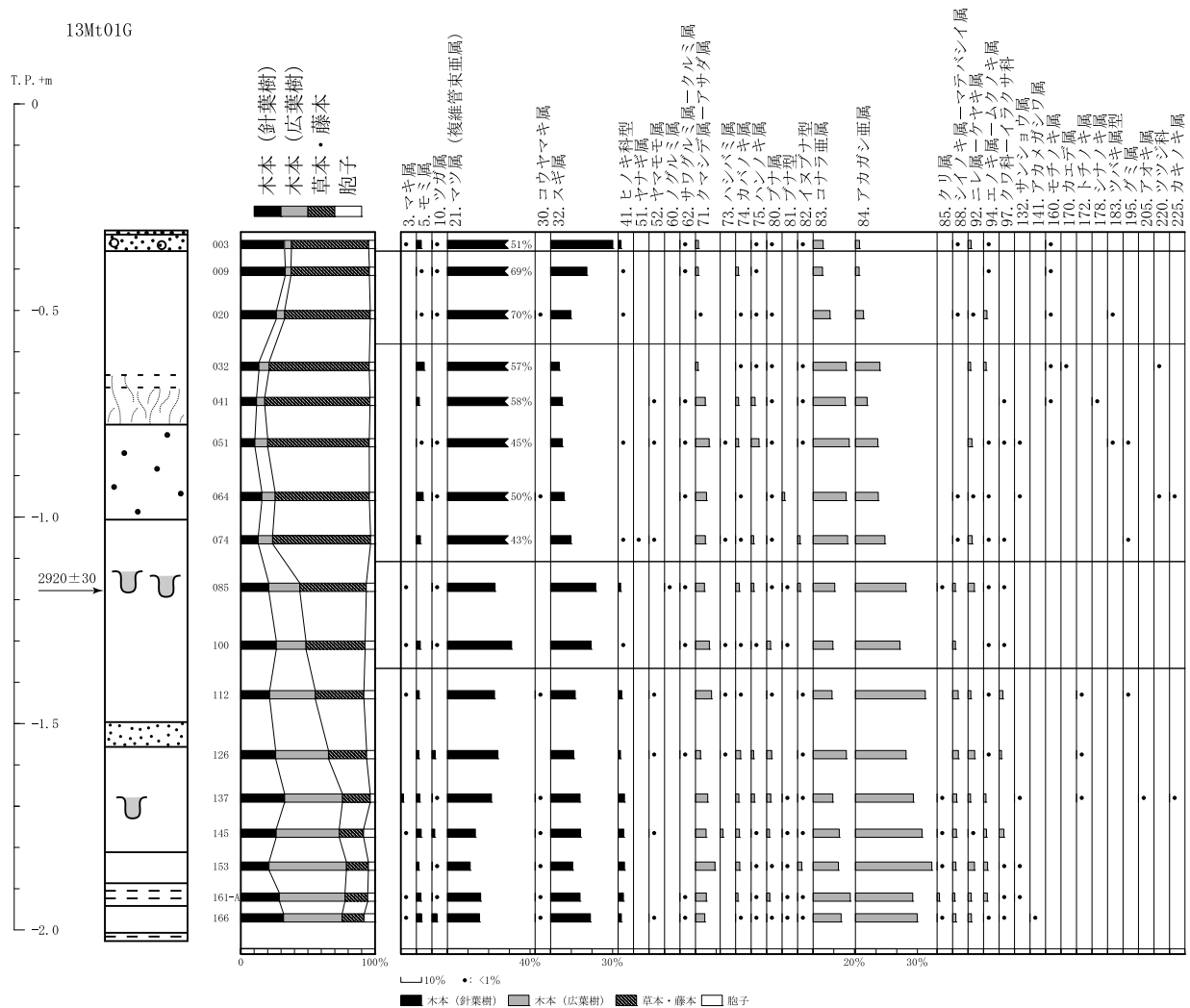


図2 花粉ダイ

(1) V帯 (13Mt01G:166-112, 13Mt02G:145-113)

アカガシ亜属が他の種類に比べ高率で、マツ属（複維管束亜属）、スギ属、コナラ亜属がこれに次ぐ。アカガシ亜属、コナラ亜属は試料ごとに若干の増減があるもののほぼ一定で、マツ属（複維管束亜属）は増加傾向を示し、スギ属は緩やかな減少傾向を示す。13Mt01Gでは低率であるが、マキ属がほぼ連続して検出される。一方13Mt02Gでは、マキ属が試料によって1%を超えるが、出現は断続的である。草本花粉、孢子の割合は、低い傾向にある。

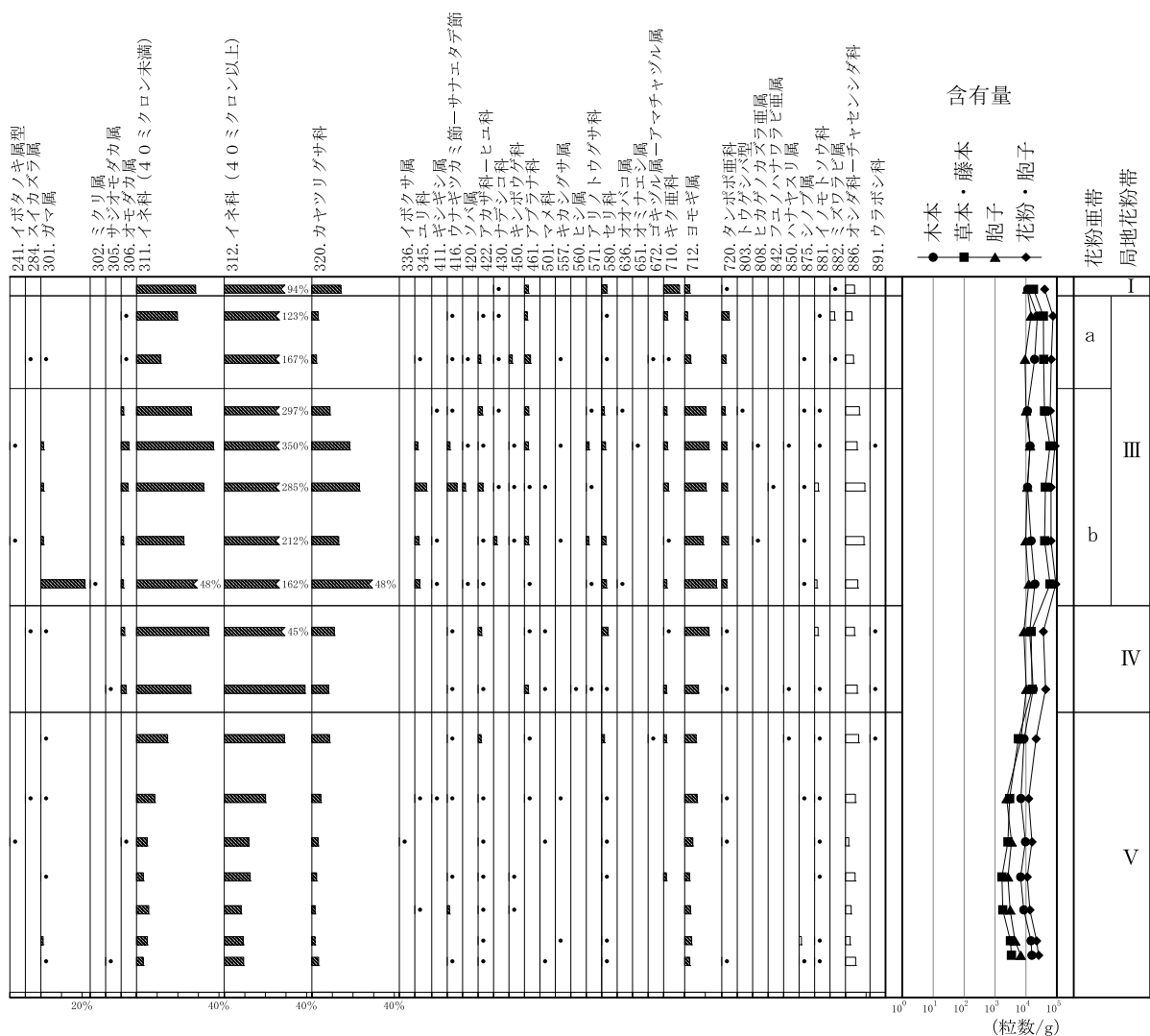
アカガシ亜属が高率を示し、マツ属（複維管束亜属）、スギ属、コナラ亜属を伴う。さらに、低率で連続的にマキ属が出現するという特徴から、渡辺・瀬戸（2014）のIV帯に対比できる。

また、渡辺・瀬戸（2014）のIV帯は、縄文時代後期の植生を示していると考えられている。

(2) IV帯 (13Mt01G:100-085, 13Mt02G:105-096)

アカガシ亜属がV帯に比べ低率になり、マツ属（複維管束亜属）がアカガシ亜属に比べ高率になる。2試料間での変化であるが、スギ属、コナラ亜属はやや増加する。13Mt01Gではスギ属の出現率が20%を超え、13Mt02Gではコナラ亜属の増加が顕著である。また両地点ともに、低率であるがマキ属が検出される。草本花粉の割合が増加し、特にイネ科（40%以上）の増加が著しい。

13Mt02Gで得られている3065cal yrBP（2920±20yrBP）の年代は、渡辺・瀬戸（2014）ではIII帯中部か



アグラム (13Mt01G)

ら得られている。渡辺・瀬戸 (2014) のⅢ帯の特徴は、Ⅳ帯の特徴とほぼ同じであり、マキ属を欠くことで分けられている。一方、今回の13Mt01Gではアカガシ亜属の減少が著しく、マツ属 (複維管束亜属) の出現率が渡辺・瀬戸 (2014) のⅢ帯に比べ高い。13Mt02Gでは、マツ属 (複維管束亜属)、スギ属の出現率が渡辺・瀬戸 (2024) のⅢ帯に比べやや高い。また、今回分析の両地点ともに、マキ属が低率であるが検出されている。このような違いは背後の森林植生の違い、あるいは渡辺・瀬戸 (2014) に対する相対的な前後関係によると考えられる。

また、今回の結果を踏まえると、渡辺・瀬戸 (2014) のⅢ帯は、縄文時代後期から晩期にかけての植生を示していると考えられる。

(3) Ⅲ帯 (13Mt01G:074-009, 13Mt02G:087-037)

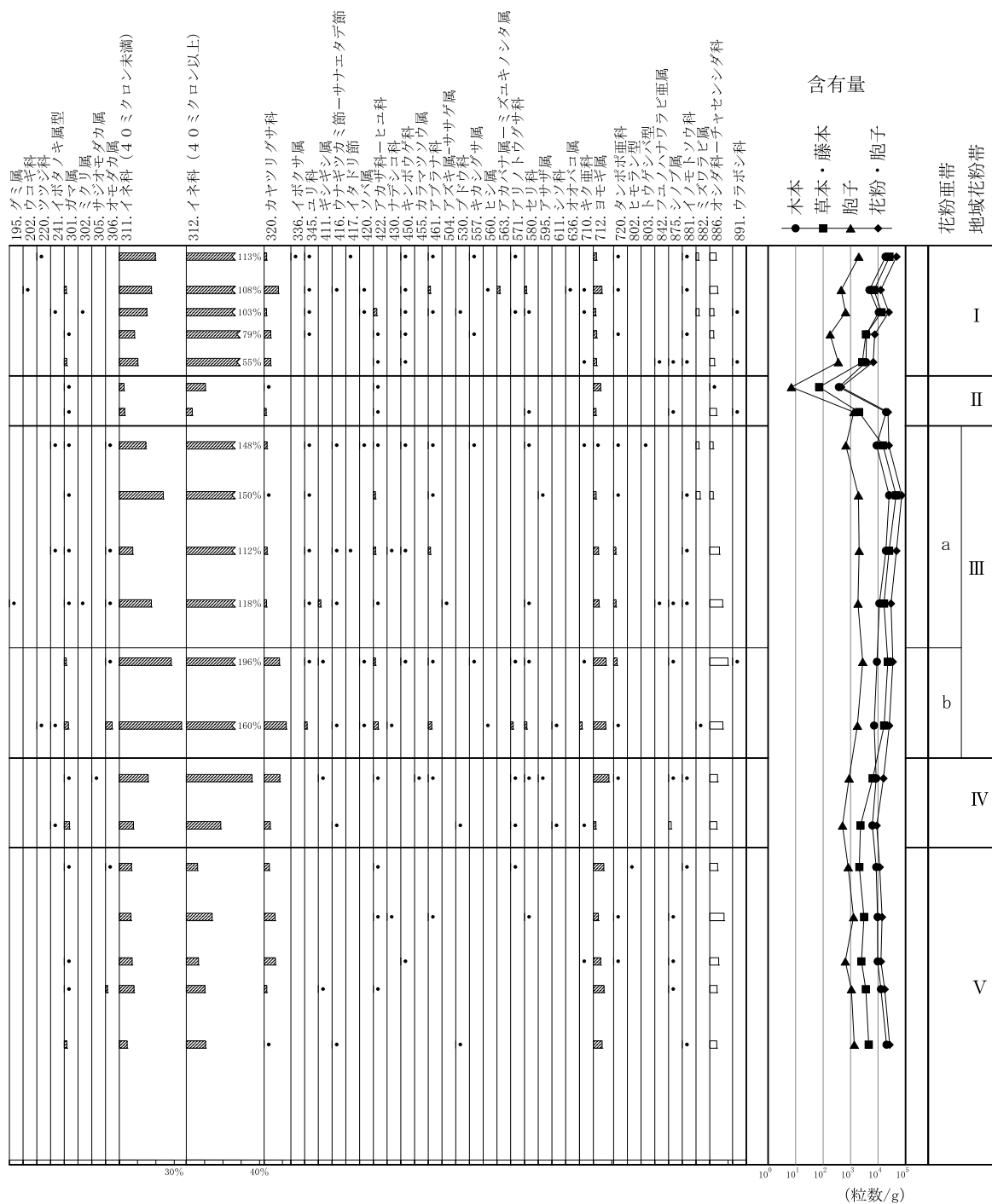
マツ属 (複維管束亜属) が他の種類に比べ高率で、増加傾向を示す。また、コナラ亜属、アカガシ亜属は減少傾向を示す。一方、スギ属は他の種類と異なり、下部で減少傾向を示すが、上部では一転増加傾向を示す。13Mt01Gではマキ属が検出されなくなり、13Mt02Gではほとんどの試料で検出されない。草本花粉では、イネ科 (40%以上) が100%を超える高率を示すほか、イネ科 (40%未満) もその他の草本花粉に比べ高率を示す。また、低率であるがソバ属が断続的に出現し、13Mt02G:065では、アズキ属-ササゲ属が僅かに検出された。

図3 花粉ダイ

Ⅲ帯の途中でスギ属が減少から増加に転ずることから、スギ属が減少傾向を示す下位をb亜帯、増加傾向を示す上位をa亜帯とした。

マツ属(複維管束亜属)が高率を示し、渡辺・瀬戸(2014)のⅠ帯に対比される。ただし、渡辺・瀬戸(2014)のⅠ帯では、今回ほどマツ属(複維管束亜属)が高率を示すことはなかった。渡辺・瀬戸(2014)のⅠ帯は松江城下町造成直前、広く見積もって中世の植生を反映しており、大西(1993)のイネ科花粉帯マツ属亜帯初期に対比される。今回のⅢ帯は、イネ科花粉帯マツ属亜帯のほぼ全域に対比され、スギ属が増加傾向を示すa亜帯には、近代を示す可能性も指摘できる。

上記のことから今回のⅢ帯は、中世（恐らく後半）から近代頃にかけての植生を示していると考えられる。



アグラム (13Mt02G)

(4) II 帯 (13Mt02G:031-026)

アカガシ亜属、コナラ亜属がIII帯から増加し、マツ属（複雑管束亜属）が減少する。また、マキ属が低率で出現する。草本花粉の減少は著しく、イネ科（40ミクロン以上）も10%以下の出現率に低下する。

渡辺・瀬戸（2014）、大西（1993）には、該当する層準に同様の花粉化石群集を示す堆積物は存在しなかった。また、瀬戸ほか（2015）ではユニットIIIc、IVa（今回、サブユニットIVa、bに変更）に相当しており、上下層準と異なる様相を示していた。古い時期の堆積物が、水田造成のための埋土、あるいは洪水により再堆積した可能性が指摘できる。

表 1 花粉

科名 試料番号	003	009	020	032	041	051	064	074	13Mt01G	085	100	112	128	137	145	153
3 Podocarpus	マキ属								2 1%	2 1%	1 0%	1 0%	3 1%	3 1%	2 1%	
5 Abies	モミ属	5 2%	1 0%	1 0%	9 4%	3 1%	2 1%	8 3%	5 2%		4 2%	3 1%	3 1%	4 2%	5 2%	3 1%
10 Tsuga	ツグ属	1 0%	2 1%	2 1%			1 0%	2 1%		1 0%	1 0%		4 2%	2 1%	3 1%	1 0%
13 Picea	トウヒ属															
21 Pinus(Diploxylon)	マツ属-複維管束亜属	106 51%	154 69%	213 70%	134 57%	124 58%	95 45%	123 50%	108 43%	53 23%	65 31%	50 23%	61 24%	54 21%	29 14%	28 11%
30 Sciadopitys	コウヤマキ属			1 0%				1 0%				1 0%			2 1%	1 0%
32 Cryptomeria	スギ属	62 30%	39 18%	30 10%	10 4%	12 6%	12 6%	18 7%	25 10%	50 22%	41 20%	28 12%	28 11%	38 14%	31 14%	27 11%
41 Cupressaceae type	ヒノキ科型															
45 Ephedra	マオウ属	3 1%	1 0%	2 1%				1 0%		3 1%	2 1%	4 2%	3 1%	8 3%	6 3%	8 3%
51 Salix	ヤナギ属								1 0%							
52 Myrica	ヤマモミ属															
60 Platycarya	ノグルミ属				1 0%	1 0%			1 0%		1 0%				1 0%	
62 Pterocarya-Juglans	サワグルミ属-クルミ属	1 0%	1 0%			2 1%	2 1%	1 0%		2 1%	1 0%					
65 Carya	カリヤ属															
71 Carpinus-Ostrya	クマシナ属-アサダ属	3 1%	3 1%	3 1%	3 1%	10 5%	14 7%	13 5%	12 5%	10 4%	14 7%	17 8%	6 2%	15 6%	11 5%	24 9%
73 Corylus	ハシバミ属					2 1%	2 1%		1 0%		1 0%	1 0%	1 0%		3 1%	
74 Betula	カババミ属		3 1%	2 1%	1 0%	3 1%	3 1%	1 0%	2 1%	4 2%	1 0%	1 0%	6 2%	4 2%	4 2%	5 2%
75 Alnus	ハシノキ属						8 4%		3 1%	3 1%	2 1%			2 1%	2 1%	
80 Fagus	ブナ属	1 0%	1 0%	1 0%	2 1%	2 1%	1 0%	1 0%	2 1%	1 0%	4 2%	1 0%	6 2%	5 2%	3 1%	2 1%
81 Fagus crenata type	ブナ型								3 1%	1 0%	1 0%			2 1%	1 0%	2 1%
82 Fagus japonica type	イスナ型	1 0%			1 0%	1 0%	1 0%		3 1%	3 1%		1 0%	2 1%	2 1%	1 0%	5 2%
83 Quercus	コナラ亜属	10 5%	10 5%	25 8%	38 16%	33 16%	37 17%	39 16%	42 17%	24 10%	20 10%	20 9%	40 16%	24 9%	27 13%	31 12%
84 Cyclobalanopsis	アカガシ亜属	4 2%	4 2%	12 4%	28 12%	12 6%	23 11%	36 14%	56 24%	45 22%	74 34%	61 24%	71 28%	69 32%	94 37%	
85 Castanea	クリ属									2 1%				1 0%	1 0%	1 0%
88 Castanopsis-Pasania	シイタケ属-マテバシイ属	1 0%		1 0%				2 1%	2 1%		3 1%	6 3%	7 3%		1 0%	1 0%
92 Ulmus-Zelkova	ニレ属-ケヤキ属	3 1%		3 1%	3 1%		4 2%	1 0%	5 2%	7 3%	3 1%	8 3%	3 1%	2 1%	8 3%	
94 Aphananthe-Celtis	エノキ属-ムクノキ属	2 1%	2 1%	5 2%	3 1%		1 0%	2 1%	1 0%	1 0%	1 0%	2 1%	2 1%	3 1%	3 1%	5 2%
97 Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科					2 1%	1 0%	1 0%	1 0%	1 0%	2 1%	3 1%		5 2%	2 1%	
132 Zanthoxylum	サンシヨウ属						1 0%	1 0%								
141 Mallotus	アケメカシワ属															
150 Rhus	ウルシ属															
160 Ilex	モチノキ属	1 0%	1 0%	1 0%	1 0%	1 0%										
170 Acer	カエデ属				1 0%											
172 Aesculus	トキノキ属										2 1%	1 0%	1 0%			
178 Tilia	シナナハタ属															
183 Camellia type	ツバキ属型			1 0%												
195 Elaeagnus	グミ属					1 0%	1 0%		1 0%		1 0%					
202 Araliaceae	ウコギ科															
205 Alcega	アオキ属														1 0%	
220 Ericaceae	ツツジ科				1 0%			1 0%								
225 Diospyros	カキノキ属							1 0%							1 0%	
241 Ligustrum type	イボタノキ属型					1 0%		1 0%							1 0%	
284 Lonicera	スイカズラ属			1 0%						1 0%			1 0%			
301 Typha	ガマ属			1 0%		3 1%	3 1%	3 1%	54 21%	1 0%	1 0%	1 0%	1 0%		1 0%	
302 Sparganium	ミクリ属								1 0%							
305 Alisma	ササギモダカ属										1 0%					
306 Sagittaria	オモダカ属		1 0%	1 0%	3 1%	8 4%	7 3%	3 1%	3 1%	4 2%	5 2%					
311 Gramineae<40	イネ科 (40ミクロン未満)	59 29%	44 20%	36 12%	63 27%	79 37%	69 33%	56 23%	122 48%	80 35%	55 26%	33 15%	22 9%	13 5%	7 3%	15 6%
312 Gramineae>40	イネ科 (40ミクロン以上)	193 94%	273 123%	511 167%	703 297%	743 350%	604 285%	517 212%	409 162%	102 45%	82 39%	64 29%	50 20%	30 12%	27 13%	21 8%
320 Cyperaceae	カヤツリガサ科	29 14%	7 3%	7 2%	21 9%	39 18%	49 23%	32 13%	120 48%	25 11%	17 8%	19 9%	11 4%	1 0%	5 2%	4 2%
336 Anelena	イボクサ属															
345 Liliaceae	ユリ科			1 0%	3 1%	12 6%	5 2%	6 2%					1 0%			1 0%
411 Rumex	キンシロ属			1 0%	1 0%			1 0%					1 0%			
416 Echinocaulon-Persicaria	ウナギソリ属-サナエタデ節	1 0%	1 0%	1 0%	3 1%	10 5%	1 0%	1 0%		1 0%	1 0%	2 1%	1 0%		2 1%	3 1%
417 Reynoutria	イタドリ節															
420 Fagopyrum	ソバ属			2 1%	2 1%	3 1%		1 0%								
422 Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1 0%	4 1%	5 2%	2 1%	5 2%	1 0%	2 1%	4 2%	2 1%	3 1%	1 0%	2 1%	1 0%	1 0%	1 0%
430 Caryophyllaceae	ナデシコ科	2 1%	1 0%	1 0%	2 1%		1 0%	4 2%								
450 Ranunculaceae	キンポウゲ科			5 2%	1 0%	1 0%	1 0%	1 0%							1 0%	1 0%
455 Thalictrum	カラマツソウ属															
461 Cruciferae	アブラナ科	4 2%	3 1%	9 3%	5 2%	4 2%	1 0%	5 2%	2 1%	2 1%	4 2%	2 1%	1 0%		1 0%	
501 Leguminosae	マメ科						1 0%				1 0%					
504 Azuki-Vigna	アズキ属-ササゲ属															
530 Vitaceae	ブドウ科															
557 Rotala	キカシグサ属			1 0%		1 0%		2 1%					2 1%			
560 Trapa	ヒシ属															
563 Epilobium-Ludwigia	ミズバネ属-ミズユキノシタ属										1 0%					
571 Haloragaceae	アリトウグサ科						1 0%	3 1%	1 0%		1 0%					
580 Umbelliferae	セリ科	5 2%	1 0%	1 0%	3 1%	4 2%	5 2%	6 2%	7 3%	1 0%	3 1%	1 0%	2 1%	1 0%	1 0%	
595 Nymphaeodes	アサザ属															
611 Lamiaceae	シソ科															
636 Plantago	オオバコ属				1 0%				1 0%							
651 Patrinia	オオハコシソウ					1 0%										
672 Actinostemma-Gynostemma	コナハタ属-アマチャヅル属			1 0%								1 0%				
710 Carduoidae	キコウキ属	16 8%	4 2%	1 0%	4 2%	4 2%	5 2%	2 1%	4 2%	2 1%	3 1%	3 1%			3 1%	
712 Artemisia	ヨモギ属	5 2%	3 1%	9 3%	24 10%	25 12%	22 10%	22 9%	39 15%	27 12%	14 7%	12 5%	15 6%	10 4%	5 2%	7 3%
720 Cichorioidae	タンポポ科	1 0%	8 4%	6 2%	4 2%	5 2%	6 3%	8 3%	6 2%	2 1%	2 1%		1 0%	1 0%		
802 Urostachys sieboldii type	ヒモラン															
803 Urostachys serratum type	トウゲシバ型				1 0%											
808 Subgenus Lycopodium	ヒカゲノカズラ亜属					1 0%		1 0%								
842 Subgenus Sceptridium	フユノハナツラビ亜属					1 0%		1 0%								
850 Ophioglossum	ハナヤスリ属										2 1%	1 0%				
875 Davallia	シノブ属			1 0%	2 1%		1 0%	1 0%	1 0%							
881 Pteridaceae	イノモトソウ科		1 0%		2 1%	2 1%	4 2%		3 1%	4 2%	1 0%	1 0%	1 0%	1 0%	2 1%	
882 Ceratopteris	ミズウバヒ属	1 0%	5 2%	3 1%												
886 Aspid-Asple	オシダ科-チャセンシダ科	9 4%	7 3%	12 4%	16 7%	12 6%	20 9%	22 9%	15 6%	10 4%	12 6%	14 6%	12 5%	4 2%	10 5%	7 3%
891 Polypodiaceae	ウラボシ科					1 0%				2 1%	1 0%	2 1%				
898 MONOLATE-TYPE-SPORE	モナラテ型孢子	9 4%	4 2%	9 3%	8 3%	9 4%	5 2%	6 2%	1 0%	7 3%	5 2%	9 4%	3 1%	2 1%	4 2%	2 1%
899 TRILATE-TYPE-SPORE	三縁環孢子	7 3%	8 4%	9 3%	20 8%	18 8%	15 7%	10 4%	15 6%	11 5%	11 5%	6 3%	7 3%	5 2%	9 4%	7 3%
末本花粉総数		206 38%	222 37%	306 33%	237 21%	212 18%	212 20%	244 26%	252 24%	229 44%	209 48%	219 55%	249 65%	253 76%	214 73%	254 79%
草本花粉総数		314 58%	347 58%	598 64%	841 75%	930 78%	800 76%	670 70%	778 73%	258 50%	190 44%	143 36%	108 28%	69 21%	53 18%	53 16%
孢子総数		26 5%	25 4%	34 4%	49 4%	44 4%	46 4%	40 4%	35 3%	34 3%	32 7%	33 8%	24 6%	12 4%	25 9%	16 5%
総数		546	594	938	1127	1188	1058	954	1065	521	431	395	381	334	292	323
含有率(持数%)		40.019	74.604	65.724	60.749	86.916	64.596	64.528	91.911	36.418	43.206	21.245	12.180	15.626	11.006	13.398

(5) I 帯 (13Mt01G:003, 13Mt02G:023-003)

再度マツ属(複維管束亜属)が高率になる。一方、コナラ亜属、アカガシ亜属は減少する。スギ属は、II 帯が欠如する13Mt01GではIII 帯上部(b 亜帯)から連続的に増加し、30%に至る。一方、13Mt02Gでは15 ~ 20%の間で増減する。草本花粉の割合もII 帯から急増し、イネ科(40ミクロン以上)は100%程度まで増加する。ただし、II 帯が欠如する13Mt01Gでは、見かけ上、III 帯中部(a 亜帯上部)から連続的に減少する。

大西(1993)では地域花粉帯最上位に、近代から現代の植生を反映したイネ科花粉帯スギ属亜帯が示されている。スギ属亜帯の特徴は、マツ属(複維管束亜属)の卓越とスギ属を伴うことであり、今回のI 帯の特徴と一致する。このことから、今回のI 帯は、近代から現代の植生を示していると考えられる。

5. 古環境推定

以下では、設定した局地花粉帯ごとに、試料採取地点周辺の古植生を主とした古環境を推定する。

(1) V 帯期(縄文時代後期)

① 堆積環境及び古地形

13Mt01GユニットI、ユニットII、13Mt02GユニットI、サブユニットIIa(瀬戸ほか, 2015)が対応す

化石組成表

[illegible]

12,773	17,412	
左よりカウント粒数、百分率		

る（堆積ユニットと花粉帯のずれは、生物擾乱による花粉粒や堆積物粒子の潜り込み、浮き上がりなどに起因すると考えられる。また、流入河川の影響なども原因の一つに考えられる。）。堆積ユニットの変化から、試料採取地点が汽水域内に位置し、中～高塩分汽水から低塩分汽水へと変化していったことが分かる（瀬戸ほか、2015）。局地花粉帯Ⅴ帯で認められる、木本花粉が高率を占め、草本・藤本、胞子の割合が低い特徴は、陸域からやや離れた水域で得られることが多い。このことは、試料採取地点が水域（「松江潟内」）にあったとする、瀬戸ほか（2015）の推定を追従するものである。更に今回のⅤ帯は、試料採取地点の南から南西に位置する松江城下町遺跡北東部のⅣ帯に対比される。松江城下町北東部のⅣ帯層準でも、今回の試料採取地点同様にイオウ濃度（TS）が1 %程度以上と高く、一連の水域（宍道湖東端の入り江）であったと考えられる。この入り江には、東から朝酌川、川ア田川（西川津川）、東奥谷川、奥谷川などが流れ込んでいたが、13Mt01GユニットⅠ、13Mt02GユニットⅠの時期には、調査地が中～高塩分の汽水域環境であったと推定されている（瀬戸ほか、2015）。調査地での塩分濃度が高いことから、この入り江を閉塞する「末次砂州」は、さほど発達していなかったと考えられる。また、13Mt01GユニットⅠ、13Mt02GユニットⅠ最上位の深度は調査地でTP-2.0mより浅く、この入り江の水位は、現宍道湖に比べ浅かったと考えられる。瀬戸ほか（2015）では、13Mt01GユニットⅠ～Ⅲ、13Mt02GユニットⅠ～Ⅲの時期には、調査地が汽水域環境であったと推定されている。今回の調査地は、13Mt01GユニットⅠ～Ⅲ、13Mt02GユニットⅠ～Ⅲの時期には、調査地が汽水域環境であったと推定されている。今回の調査地は、13Mt01GユニットⅠ～Ⅲ、13Mt02GユニットⅠ～Ⅲの時期には、調査地が汽水域環境であったと推定されている。

I、IIの堆積環境を一括して「松江潟内」と呼ぶことを提唱していた。しかし、上述のような事柄から、13Mt01GユニットI、ユニット、13Mt02GユニットIについて、「松江潟」と呼ぶことに訂正する。

② 試料採取地点周囲の森林植生

この水域の集水域は、東の嵩山・和久羅山（嵩山山地：小畑, 1974）、北から西に続く枕木山、新山、白鹿山、赤山、亀田山（湖北山地：小畑, 1974と背後の枕木山地：小畑, 1980）に囲まれる範囲で、南は大橋川に接している。支流の持田川を含め、北東側から流入する朝酌川流域が最も大きな集水域である。このほか北側には、東から川ア田川（西川津川）、東奥谷川、奥谷川の小河川がある。三方を囲む山地や、大橋川対岸に連なる緑山山地、茶臼山山地と背後の湖南山地（小畑, 1974）には、カシ類を主体とし、イヌマキを混淆する照葉樹林が広がり、谷筋から平野にかけてはスギ林が分布したものと考えられる。また、所々にアカマツやコナラ類、シデ類を要素とする遷移林が分布していたと考えられる。このほか、クロマツが海岸林として、宍道湖湖畔や大橋川沿いに分布していた可能性もある。また、モミヤヒノキに加え、ツガやコウヤマキなどの針葉樹種が、枕木山地の高所で温帯針葉樹林を形成していたか、あるいはこれらの樹種が照葉樹林に混淆していたと考えられる。

③ 試料採取地点周囲の湿地～草地植生

岸部近くの湿地には、ヨシなどのイネ科草本やシオクグなどのカヤツリグサ科草本が茂っていたと考えられる。また、岸辺にはチガヤなどのカヤツリグサ科草本が茂っていた可能性があるほか、カワラヨモギなどのヨモギ属草本が茂っていた可能性もある。また、流入する河川内、あるいは周囲の湿地には、ガマ類やオモダカ類、イボクサ類、キカシグサ類などが生育していたと考えられる。

(2) IV帯期（縄文時代後期～晩期）

① 堆積環境及び古地形

瀬戸ほか（2015）の13Mt01GサブユニットIIIa、b、13Mt02GサブユニットIIb、c（瀬戸ほか, 2015）が対応する。このことから、試料採取地点が引き続き汽水域内に位置し、13Mt01GサブユニットIIIbでは一時的にイオウ濃度が上昇するものの、全体ではイオウ濃度が低下傾向を示し、中塩分汽水から低塩分汽水へと塩分濃度が低下したことが分かる（瀬戸ほか, 2015）。松江城下町遺跡の局地花粉帯では、同時期のIII帯でマキ属が検出されず、気温低下が示唆されることから、海水準が下がり、塩分濃度も低下した可能性がある。一方で、海水準の低下により「末次砂州」が徐々に発達したと考えられ、大橋川と隔離されることによって塩分濃度低下が一層顕著になったとも考えられる。13Mt01GサブユニットIIIbでの、一時的なイオウ濃度の高まりから、大橋川から高塩分汽水が流入したと考えられる。また、13Mt01Gでは同層準の局地花粉帯IV帯上部でアカガシ亜属の出現率がやや増加し、若干の気温上昇と、伴う海水準上昇があった可能性も指摘できる。

また、局地花粉帯V帯最上部からIV帯では、両地点ともに草本花粉の割合が増加傾向を示し、試料採取地点の水深が更に浅くなり、湿原化したことが示唆される。このことは、同層準のC/Nが相対的に上昇することと調和的である。

② 試料採取地点周囲の森林植生

三方を囲む山地や、大橋川対岸に連なる山地には、カシ類を主体とする照葉樹林が広がるが、前時期と異なりイヌマキがほとんど見られなくなる。13Mt01Gと13Mt02Gの間に時間のズレがあったとすれば、前述のようにこの時期の終盤に若干の気温上昇が推定され、カシ類やイヌマキの増加とともに照葉樹林がやや拡大した可能性が指摘できる。一方、海水準低下に伴う平野部の拡大に伴い、スギ林は拡大したものと考えられる。また、気候の変化に伴い、アカマツやコナラ類、シデ類を要素とする遷移林の分布

も拡大したと考えられる。クロマツ海岸林は、引き続き宍道湖湖畔や大橋川沿いに分布していた可能性も、ある。一方、モミやヒノキ、ツガ、コウヤマキなどの針葉樹種が成す温帯針葉樹林も、枕木山地の高所で拡大した可能性はあるが、試料採取地点周囲での森林拡大と湿地環境の拡大から相対量が増加せず、その兆候を捉えることができなかった。

③ 試料採取地点周囲の湿地～草地植生

海面低下に伴う湿地の拡大に伴い、ヨシなどのイネ科草本やシオクグなどのカヤツリグサ科草本の広がりが増大したと考えられる。また、チガヤなどのカヤツリグサ科草本や、カワラヨモギなどのヨモギ属草本が湿地内の乾燥した場所や岸辺で増加した可能性もある。また、流入する河川内、あるいは周囲の湿地には、ガマ類やサジオモダカ類、アサザ類などが生育していたと考えられる。

(3) Ⅲ帯期（中世（後半）～近代頃）

① 堆積環境及び古地形

13Mt01GサブユニットⅢc、ユニットⅣ、13Mt02GサブユニットⅢa、b（瀬戸ほか，2015）が対応する。13Mt01Gでは、堆積ユニットと花粉帯の大きなずれが生じている。このことは前述のように、生物擾乱による花粉粒や堆積物粒子の潜り込み、浮き上がりなどに起因すると考えられる。また、流入河川の影響なども、原因の一つに考えられる。局地花粉帯Ⅲ帯では、草本・藤本花粉の割合が60～80%程度と高く、特にイネに由来する可能性が高いイネ科（40%以上）花粉が、高率を示す。このことから、試料採取地が水田であった可能性が示唆される。一方、本帯下底の標高は、13Mt01Gで約-1.05m、13Mt02Gで約-1.44mと、いずれも現在の大橋川の平均水位+0.3mを1m以上下回る。試料採取地を水田として利用していたと仮定すると、1m以上の圧密沈下があったことになる。一方、河原（2013）は、同一水域と考えられる松江城下町遺跡内で、1mの盛り土に対して最大44cmの沈下量を算出している。これに従えば、試料採取地点の盛り土が2m程度あったものの、1mを越える沈下量は、非現実的な値と考えられる。したがって、試料採取地が水田環境下にあった可能性は極めて低く、淡水湖沼である「松江湖」（瀬戸ほか，2015）内に位置していたと考えられる。また、草本・藤本花粉が高率を示すことから、13Mt01G、13Mt02Gの両試料採取地が、湿原、あるいは湖岸に近い水域にあったと考えられる。このことは、瀬戸ほか（2015）で同層準のC/Nが高いことと調和的である。

「松江湖」の概観を推定すると、以下ようになる。水域は東西に延びており（地形図で測定すると、最大で東西1km、南北0.8km程度）、西端は13Mt02Gより更に西、奥谷川までの間に位置していたと考えられる。ただし有機炭素量が低く、沈水植物であるフサモ（アリノトウグサ科）、浮葉植物であるヒシ類（ヒシ属）などの「水草」由来の花粉含有量は、ごく僅かであった。これらのことから、流入河川や汀線付近には「水草」が生育するものの、水域全体に「水草」が繁茂する「沼」のような状況ではなかったと考えられる。また、松江城下町遺跡での花粉分析結果（例えば、渡辺・瀬戸，2014）では、松江城下町造成（近世初頭）以前には、「松江湖」南側に湿原や水田が広がっていたと考えられている。

「松江湖」への主な流入河川は朝酌川で、北東から流入する。一方、西～北部にかけて流入する河川の流域面積は朝酌川に比べ狭く、土砂供給量は東部で多く、西部で少なかったことが示唆される。このため、朝酌川の三角州が「松江湖」に張り出していたと考えられる。「松江湖」の南側に広がった湿原や水田は、その後、近世初頭の松江城下町造成に伴って埋め立てられ、屋敷地へと変貌していった。このことで、「松江湖」はより閉鎖的になったと考えられる。

② 試料採取地点周囲の森林植生

Ⅳ帯の時期から1000年以上が経過しており、植生が大きく変化した。三方を囲む山地や、大橋川対岸

に連なる山地には、アカマツを主体として、コナラ類やシデ類を伴う林に広く覆われる。中世～近代にかけての時期であり、松江城下の発展に伴う周辺山地の「薪炭林：里山」化によると考えられる。カシ類も検出されるが、一部は先駆的なアラカシやシラカシで、アカマツやコナラ類と混淆していた可能性もある。また、低地の開発に伴いスギが伐採され、スギ林は縮小したものと考えられる。a亜帯では恐らく植林により、スギ林が拡大を始めたと考えられる。一方、モミやヒノキ、ツガ、コウヤマキなどの針葉樹種は、枕木山地の高所で分布していた可能性はあるが、試料採取地点周囲での森林拡大と湿地環境の拡大から相対量は減少した。

③ 試料採取地点周囲の湿地～草地植生

前述のようにイネ科（40%以上）花粉が高率を示すものの、試料採取地周辺は湿原、あるいは汀線に近い水域であったと考えられる。汀線近くや近辺で流入する河川流域には、ヨシなどのイネ科草本、ハリイ類やホタルイ類などのカヤツリグサ科、ガマ類、オモダカ類、ヒシ類、フサモ類などが分布したと考えられる。また、湿地内の乾燥した場所や岸边にはチガヤなどのカヤツリグサ科草本や、カワラヨモギなどのヨモギ属草本が増加した可能性もある。一方で水田が、試料採取地に迫っていた可能性が高い。

(4) II 帯期（近代頃？）

前述のように、周辺地域で得られている花粉化石群集の変遷と極めて非調和である。サブユニットIV a、bが対応し、それぞれの堆積物にはラミナや上方細粒化などの堆積構造が認められる。しかし、前述のように「埋土」か、洪水により「ブロック」状土塊が再堆積した可能性が指摘できる。また、II 帯に対応する花粉化石群集は、今回のV 帯あるいはIV 帯に対比可能な組成を示す。松江城下町遺跡では「掘」などを掘削した際の土砂をそのまま「盛土」、「埋土」に利用しており、同様の作業が行われた可能性が高い。

以上のことを踏まえ、瀬戸ほか（2015）の13Mt02Gでの堆積ユニットを、図4に示すように変更（瀬戸ほか（2015）のサブユニットIII cとIV aを合わせて、サブユニットIV aとした）した。

(5) I 帯期（近代～現代）

① 堆積環境及び古地形

13Mt01GユニットV、13Mt02GサブユニットVa～d（瀬戸ほか（2015）のサブユニットIV b、サブユニットVa～cから変更）が対応する。草本・藤本花粉の割合が40～60%程度と高く、特にイネを含む可能性が高いイネ科（40%以上）花粉が高率を示すなど、後述のように試料採取地が水田であった可能性が示唆される。このことは、1918年版地形図では両調査地近辺が水田であったが、1960年代以降埋め立てられ、現在に至っていること、本層準直上からおおよそ2mの厚さの盛土が存在したことからも、明らかである。

一方、13Mt01GユニットV、13Mt02GサブユニットIV bではTOCが0.7～0.5%程度、TNが0.07～0.05%程度と低く、耕作土とは考えにくい値を示し、「埋積土」、「氾濫原堆積物」とする判断材料となった。これは、砂礫を含む層相の影響で希釈効果が働いたものと考えられ、今回の「耕作土」との判断が妥当と考えられる。

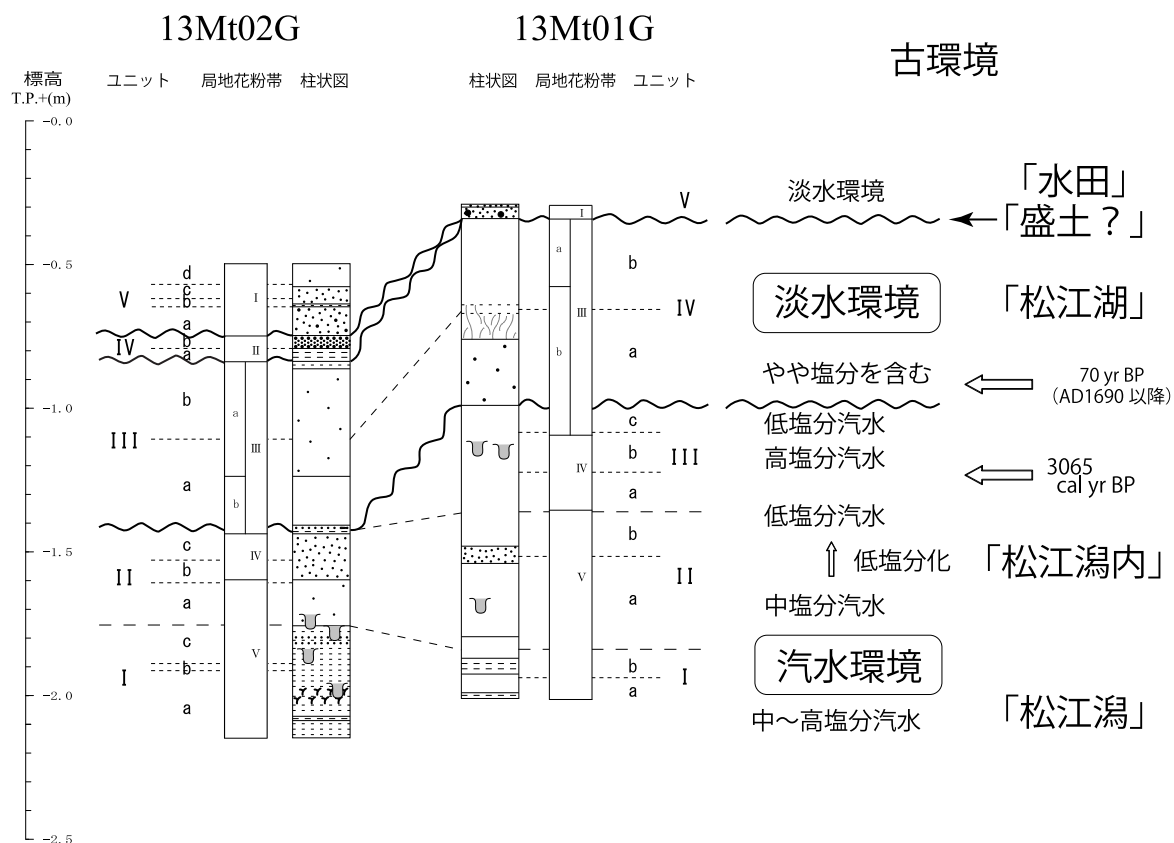


図4 13Mt01Gコアと13Mt02Gコアの対比と古環境
(瀬戸ほか(2015)に、加筆・修正)

② 試料採取地点周囲の森林植生

前述のように、スギの増加を植林に起因すると考えた。現在見ることのできる森林植生に近い植生が、試料採取地点の三方を囲む山地や、大橋川対岸に連なる山地にも広がっていたと考えられる。アカマツを主体とし、コナラ類やシデ類、アラカシなどを伴う「薪炭林：里山」が広くこれらの地域を覆う一方で、これらの伐採跡にスギが植林されていったと考えられる。また、モミやツガは現在も認められるように、枕木山地や「薪炭林：里山」で混淆していたと考えられる。

③ 試料採取地点周囲の植生

イネを含む可能性が高いイネ科(40%以上)花粉が高率を示すほか、水田雑草であるサジオモダカ類、イボクサ類、キカシグサ類、セリ類などが低率で断続的に検出される。また、栽培種のソバ属も幾つかの試料で検出されるなど、試料採取地点が水田で、裏作や畦作でソバが栽培されていた可能性が高い。また、用水路などにはガマ類、ミクリ類、ヒシ類やフサモ類が、畦にはタデ類、アカザ類、ヨモギ類などのキク科が生育していたと考えられる。

6. まとめ

既報(瀬戸ほか, 2015)に続き、松江市学園1丁目(13Mt01G)と菅田町(13Mt02G)の2か所で、ハンディジオスライサーによって採取したコアの解析を行った。本報では花粉分析を行い、花粉層序に基づく堆積時期の推定、古植生などの古環境変遷史を考察した。また、今回の結果を受け、瀬戸ほか(2015)の「堆積ユニット」と「(推定)古環境」の一部を改訂した。

今回設定した局地花粉帯と、渡辺・瀬戸(2014)による松江城下町遺跡の局地花粉帯、大西(1993)などによる、中海・宍道湖地域での地域花粉帯との比較・対比から、今回設定した局地花粉帯の示す時期

を推定した。この推定堆積年代は、既報の¹⁴C年代と整合的であった。また、今回のⅣ帯の時期は松江城下町遺跡のⅢ帯の時期と一致し、花粉化石群集も類似した。一方で、今回のⅣ帯ではマキ属が検出された。松江城下町遺跡のⅢ帯では、マキ属の欠如が特徴の一つとされており、このことが相違点であった。このことは、両地域の背後の森林植生（あるいはごく局地的な植生）の違いによると考えられるが、相対的な前後関係による可能性も指摘できる。この外、今回のⅠ帯が、松江城下町遺跡北東部では認められなかった。このことは、今回のⅠ帯が近代から現代の植生を示し、水田環境下で堆積したものであることに対し、松江城下町遺跡では近世以降、屋敷地が続き、堆積環境になかったことによる。

今回の花粉帯と堆積ユニット境界には、若干のねじれが生じていた。この原因として、生物擾乱による花粉粒や堆積物粒子の潜り込み、浮き上がりなどが考えられる。

松江平野北部に存在した水域の変遷について再考した結果、既報で提唱した「松江潟内」の一部、最下部のユニットⅠの堆積時期について、新たに「松江潟」と呼ぶことを提唱する。また、13Mt02Gにおける堆積ユニットⅢcとⅣaに「盛土」の可能性が指摘されたことから、堆積ユニットを合わせてⅣaに変更し、「盛土？」とした。さらに、松江城下町造成前後の「松江湖」の概観を推定した。

7. 謝辞

本研究全般にわたり、多くの有形、無形の御援助を、松江市史料編纂室から頂いた。試料採取用地確保に関しては、松江市史編纂 絵図地図部会長 大矢幸雄氏、島根大学ミュージアム 會下和宏准教授にお世話になった。分析に関しては、島根大学汽水域研究センター、文化財調査コンサルタント株式会社の諸氏に、御協力いただいている。本研究をまとめるに当たり、これらの方々に深く感謝の意を示し、お礼申し上げます。

8. 引用文献

- 大西郁夫（1993）中海・宍道湖周辺地域における過去2000年間の花粉分帯と植物変化．地質学論集，39，33-39.
- 小畑 浩（1974）5万分の1都道府県土地分類基本調査 地形分類図：松江．経済企画庁・島根県．
- 小畑 浩（1980）5万分の1都道府県土地分類基本調査 地形分類図：境港・美保関．経済企画庁・島根県．
- 河原莊一郎（2013）松江城下町遺跡の土質試験．松江城研究，2，25-33，松江市教育委員会．
- 瀬戸浩二・渡辺正巳・山田和芳・高安克己（2015）松江平野北部の平野発達史と古環境変遷史．松江市歴史叢書，8（松江市史研究，6），99-15，松江市，島根県．
- 中村 純（1974）イネ科花粉について，特にイネを中心として．第四紀研究，13，187-197．
- 渡辺正巳（2010）花粉分析法．考古調査ハンドブック2 必携考古資料の自然科学調査法，174-177．ニュー・サイエンス社．
- 渡辺正巳・瀬戸浩二（2011）中世松江平野の古環境．松江市文化財調査報告書 第139集 松江城下町遺跡（殿町287番地）・（殿町279番地外）発掘調査報告書-松江歴史館整備事業に伴う発掘調査報告書-自然科学分析・写真図版編，松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団，30-36，島根
- 渡辺正巳・瀬戸浩二（2012）松江平野の古環境(1)―県道城山北公園線発掘調査に関連して(1)―．松江城研究，1，49-59，松江市教育委員会．
- 渡辺正巳・瀬戸浩二（2013）松江平野の古環境(2)―県道城山北公園線（大手前通り）発掘調査に関連して(2)―．松江城研究，2，35-44，松江市教育委員会．
- 渡辺正巳・瀬戸浩二（2014）松江平野の古環境(3)―県道城山北公園線（大手前通り）発掘調査に関連して(3)―．松江市歴史叢書，7（松江市史研究，5），87-93，松江市，島根県．

（わたなべ まさみ 島根大学汽水域研究センター・文化財調査コンサルタント株式会社）
（せと こうじ 島根大学汽水域研究センター准教授）
（やまだ かずよし ふじのくに地球環境史ミュージアム）
（たかやす かつみ 島根大学 名誉教授）

松江城城郭呼称について

松江市史編集委員会松江城部会

1. はじめに

松江城の城郭については、史料の選択方法や考え方によって、これまで学術的な論考、報告書あるいは観光的な雑誌、パンフレットなどで様々な呼称が用いられてきた。現在使用されている松江城のパンフレットや城内案内板などで城郭呼称を見ると、近世の絵図や文献に記されているものもあるが、伝承として伝わったのか近代以降の文献でしか確認できないものもある。また、「二之丸下ノ段」のように、当初は便宜的に用いられたものが、今日あたかも正式な名称であるかのように扱われているものもある⁽¹⁾。そこで、本稿では、松江城が城郭として機能した近世の絵図、文献史料を検討し、城郭呼称がどのように記されてきたのか整理するとともに、『松江市史』別編「松江城」で用いる「松江城城郭呼称概念図」の根拠とするものである。

2. 松江城下絵図、城郭図の検討

近世の絵図のうち、松江城の城郭と城郭呼称が記載されている可能性があるものに、松江城下絵図と城郭図がある。松江市史編集委員会絵図地図部会及び松江城部会の悉皆調査によれば、現在確認できる松江城下絵図は114点、城郭図は26点、城郭建物図は36点⁽²⁾であり、このうち絵図としての信頼性があり、かつ城郭呼称が記載されているものは限られている。

今回の検討にあたって用いた絵図は、1. 堀尾期松江城下町絵図、2. 寛永年間松江城家敷町之図、3. 出雲国松江城絵図、4. 出雲国松江城之絵図、5. 松江城及城下古図、6. 松江城縄張図、7. 御本丸二ノ御丸三ノ丸共三枚ノ内、8. 松江城下絵図、9. 御城内絵図面、10. 松江城下絵図、11. 出雲国松江城之図、12. 諸国城郭修復図 出雲国松江城、13. 松江城郭古図、14. 雲州松江御城下之図、15. 松江城下絵図、16. 出雲国松江本城図、17. 出雲国島根郡松江城図である。(番号、絵図の名称は表1に一致)

幕府へ提出する城の修理許可申請文に添付した絵図(幕府収納絵図)、松江藩主家に伝来した絵図、家老等の有力家臣家に伝来した絵図、松江藩・島根県が作成したと考えられる絵図など、絵図として信頼性が高いと思われるものを抽出した。

こうして抽出した絵図の検討により、表記された城郭呼称を整理したものが表1である(城郭区分番号①～⑫の所在は、「松江城城郭呼称概念図」①～⑫に対応)。絵図の名称及び成立年代については、城下絵図は『松江市史』史料編「絵図・地図」により、城郭図は所蔵館名称・年代を基本としつつ松江城部会で検討した。

3. 松江城に関わる文献史料の検討

松江城に関わる文献史料は数多いが、絵図と同様、史料的に信頼性が高いと思われるものを選び、表記された城郭呼称を表2のように整理した。(城郭区分番号①～⑫の所在は、「松江城城郭呼称概念図」①～⑫に対応)。今回の検討にあたって用いた文献史料は、藩主(松平家)の履歴などを一代ごと年代順にまとめた「年譜」、松平家家臣の勤功録である「列士録」、城郭施設について記録した「竹内右兵衛書つけ」「御城内惣間数」「御作事所御役人帳」、近代になって記録された「旧藩事蹟」「雲藩職制」などで

ある。なお、松江城に関する文献史料調査は今後も継続的に続けていくものであり⁽³⁾、文献史料に記された城郭呼称は今後の調査によって新しい事例も確認されると思われるので、あくまで現時点での検討成果である。

4. 『松江市史』別編「松江城」で用いる松江城城郭呼称

松江城城郭呼称に関する絵図と文献史料の総合的な検討を経て、『松江市史』別編「松江城」で用いる基本的な「松江城城郭呼称」については、信頼性が高く、年代的に古いものを基準とすることとした。また、呼称と城郭施設の場所、範囲を特定しやすい絵図を基本とし、補足的に文献史料を用いることとした。

表1で示すように、城郭区分として、①本丸、②二之丸、③三之丸の名称が揃って表記されるのは、「3. 出雲国松江城絵図」が最も古い。この絵図は正保年間（1644～1648）に幕府の命により全国の諸大名が作成を指示されたいわゆる「正保城絵図」の一つでもあることから、表記についても城郭呼称として正当なものと考えられる。また、その後作成された絵図にもこの名称は踏襲されており、①本丸、②二之丸、③三之丸の呼称を基準とする。

「5. 松江城及城下古図」は松江藩家老三谷家に伝来した絵図で、「3. 出雲国松江城絵図」とは作成の目的が異なるものの城郭呼称についてはほぼ一致している。④北之丸は他の絵図では見られない呼称だが、文献史料でも確認でき、また、城郭構成からみると本丸、二之丸、三之丸に並ぶ重要な場所であったと考えられることから、④北之丸を基準とする。

①本丸②二之丸③三之丸④北之丸周辺の城郭呼称については、17世紀の絵図ではほとんど記されていない。城郭の細部に名称を付す必要が生じたのであろうか、⑤腰曲輪、⑥中曲輪、⑧外曲輪、⑨外曲輪、⑩後曲輪とまとまって記されるのは、松平家に伝来した享保5年（1720）頃の「9. 御城内絵図面」⁽⁴⁾からである。⑤腰曲輪、⑥中曲輪、⑧外曲輪、⑨外曲輪、⑩後曲輪の呼称はその後、幕府へ提出した絵図（幕府収納絵図）などに踏襲されることから、この呼称を基準とする。ただし、⑧外曲輪の場所は観光案内・雑誌・報告書等で「二之丸下ノ段」と呼び習わしている場所であるので、「⑧外曲輪（二之丸下ノ段）」と示す。また、⑨外曲輪については、城山稻荷神社の周囲は屋敷地となっており、絵図・文献史料では城郭呼称が確認できない場所もあるが、「松江城城郭呼称概念図」では敢えてその範囲を広げて示した。

⑦の場所は、今日「馬溜」の名称で示される場所である。今回検討の基本とした絵図に城郭名は表記されていないが、この場所が①本丸、②二之丸周辺を囲む外曲輪の一画であること、松平家伝来の『御城内惣間数』に「外郭」と記されていることから、例外的ではあるものの、⑦外曲輪（馬溜）の呼称を付け、基準とする。

⑪三之丸之内、⑫三之丸之内については防御機能のある内堀の外で、松江城部会では藩有地ではあるが城郭施設ではないがとの意見が多かった。しかし、⑪、⑫の空間は「1. 堀尾期松江城下町絵図」にも見られるように、城郭とともに藩や藩主家が利用できる空間として堀尾期から確保されている。また、「3. 出雲国松江城絵図」及びそれ以降も「三之丸之内」の表記が見られ、市民感覚的にも「御花畑」「御鷹部屋」は城郭の一画との意識も強いことから、「松江城城郭呼称概念図」には⑪三之丸之内（御花畑）、⑫三之丸之内（御鷹部屋）を加えている。

なお、「松江城城郭呼称概念図」で示す範囲はあくまで概念的なものである。石垣や傾斜地も城郭施設に含まれるが、概念図では上部の平地部分を示した。

表 1 松江城城郭名称一覧（絵図）

番号	絵 図 の 名 称	種別	成立年代(推定)	城 郭 区 分 (番号①～⑫は「図1 松江城城郭名称概念図」に対応)												所 蔵	市史・絵図・地図掲載絵図	備考
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫			
1	堀尾期松江城下町絵図	城下絵図	元和6年～寛永10年(1620～1633)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(花はたけ)	島根大学附属図書館	堀尾期松江城下町絵図(図22)	堀尾家伝来か	
2	寛永年間松江城家敷町之図	城下絵図	寛永11年～14年(1634～1637)	本丸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(花島)	(鷹部屋半番)	丸亀市立資料館	寛永年間松江城家敷町之図(図23)	京極家伝来
3	出雲国松江城絵図	城下絵図	正保年間(1644～1648)	本丸	二之丸	三之丸	(侍屋敷)	—	—	—	二之丸之内	—	—	三之丸之内	三之丸之内	国立公文書館	出雲国松江城絵図(図24)	幕府収納
4	出雲国松江城之絵図	城郭絵図	延宝2年(1674)	本城	南二ノ郭	南三ノ郭	別之郭	北二ノ郭	腰之郭	—	—	北二ノ郭	—	—	南三ノ郭	松江歴史館		幕府収納(控・写)
5	松江城及城下古図	城下絵図	天和3年～元禄5年(1683～1692)	本丸	二之丸	三之丸	北之丸	—	—	—	—	—	—	三之丸之内(下御殿)	三之丸之内	三谷健司家蔵	松江城及城下古図(図25)	三谷権太夫家伝来
6	松江城縄張り図	城郭絵図	元禄11年～宝永7年(1698～1710)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	松江歴史館		松平家伝来か(松江市指定)
7	御本丸二ノ御丸三の丸共三枚ノ内	城郭絵図	17世紀末	御本丸	二之御丸	三ノ丸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	国文学研究史料館		松平家伝来
8	松江城下絵図	城下絵図	宝永2年～正徳3年(1705～1713)	本丸	二ノ丸	三ノ丸	—	—	—	—	—	—	—	(御花島)	三ノ丸	鳥取県立図書館	松江城下絵図(図30)	
9	御城内絵図面	城郭絵図	享保5年(1720)頃	本城	二之曲輪	三丸(貼紙)	—	腰曲輪	中曲輪	—	外曲輪	外曲輪	後曲輪	—	—	国文学研究史料館		松平家伝来
10	松江城下絵図	城下絵図	元文～延享年間(1736～1748)	本丸	二之丸	三之丸	—	—	—	—	二之丸ノ内	—	—	三之丸ノ内(用屋敷)	三之丸ノ内	島根県立図書館	松江城下絵図(図26)	松江藩作成か
11	出雲国松江城之図	城郭絵図	元文3年(1738)	本城	二之曲輪	三之曲輪	出丸	腰曲輪	中曲輪	—	外曲輪	外曲輪	後曲輪	—	—	兵庫県立歴史博物館	出雲国松江城之図(所蔵館)	幕府収納(控・写)
12	諸国城郭修復図 出雲国松江城	城郭絵図	安永2年(1773)	本城	二之曲輪	三之曲輪	出丸	腰曲輪	中曲輪	—	外曲輪	外曲輪	後曲輪	—	—	東京大学史料編纂所	諸国城郭修復図出雲国松江城(所蔵館)	幕府収納(控・写)
13	松江城郭古図	城郭絵図	安永7年(1778)	本城	二之曲輪	三之曲輪	出丸	腰曲輪	中曲輪	—	外曲輪	外曲輪	後曲輪	—	—	松江歴史館		幕府収納(控・写)
14	雲州松江御城下之図	城下絵図	文政8年～天保2年(1825～1831)	御本丸	二御丸	三御丸	—	—	—	—	—	—	—	(御花畑)	(御鷹部屋、御金蔵)	島根県立図書館	雲州松江御城下之図(図29)	
15	松江城下絵図	城下絵図	天保年間(1830～1844)頃	—	—	三之丸	—	—	—	—	—	—	—	(御花畑)	(御鷹部屋)	松江歴史館	松江城下絵図(図31)	
16	出雲国松江本城図	城郭絵図	元治元年(1864)	本城	二之曲輪	三之曲輪	出丸	腰曲輪	中曲輪	—	外曲輪	外曲輪	後曲輪	—	—	国立公文書館	出雲国松江本城図(所蔵館)	幕府収納
17	出雲国島根郡松江城図	城郭絵図	明治14年(1881)製図	本城	二城	三城	—	中郭	中郭	—	外郭	外郭	後郭	三ノ丸内(御花島、観山殿)	三ノ丸(御金蔵、新御殿)	兵庫県立歴史博物館		島根県作成(島根県令境二部)

絵図の選定にあたって、江戸幕府収納絵図、松江藩主家(堀尾家・京極家・松平家)伝来絵図、松江藩家老家伝来絵図、松江藩・島根県作成絵図など、信頼性が高いと思われるものを選定の基準とした。
絵図の名称及び成立年代を示すにあたって、城下町図[「松江市史」史料編「絵図・地図」]により、城郭図は所蔵館名称・年代を基本とし、松江城部会で検討して決定した。
網掛け部分は、『松江市史』別編「松江城」で用いている「松江城城郭名称概念図」作成にあたっての根拠箇所を示す。

表2 松江城城郭呼称一覧（文献史料）

名称決定参考箇所																				
城 郭 区 分（番号①～⑫は「図1 松江城城郭名称概念図」に対応）																				
番号	文献史料の名称	和 暦	西 暦	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬～⑭に未 確定	成立年代 (推定)	所蔵	出典	備考
1	『竹内右兵衛書つけ』			御本丸中	二御丸中	—	—	—	—	—	御本丸二 丸下/段	—	—				1713	松江歴史 館	『松江城研究1』	竹内右兵衛家伝束
2	『御城内惣間数』			御本丸	二之御 丸、二ノ 御丸	三之御丸	外 廓	腰曲輪、 腰廓、腰 御廊、	中 廊	外 廓	中廊、 中御廊	外 廓	—				1766	国文学研 究史料館	『松江城研究2』	松平家伝束
3	『雲州松江秘事』			御本丸中	二ノ御丸	三ノ御丸	—	—	—	—	—	外曲輪	—				享保18年 頃	大阪市立 大学	『松江市史 史料編6 近世Ⅱ』	寛永が松江藩在中 に築享したもの
4	『旧藩事蹟』			本丸	二ノ丸	三ノ丸	出丸、後山	腰曲輪	—	馬溜、 馬出し	—	外曲輪	後廊	御花畑	御蔵部 屋		明治～大 正	国文学研 究資料館	『出典国松江松平家 文書』	松平家幕末家臣重 村俊介の私文書
5	『宗衍年譜 二』	延享2	1745	ホンマル 中 城														島根県立 図書館	『松平家旧蔵家譜』	松平家伝束
6	『松江藩列士録』 勝部丹藏	弘化4	1847	御本丸														島根県立 図書館	『松江藩列士録第2 巻』勝部徳五郎	松平家歴代家臣の 系譜と勤功の書
7	『家譜 上』	寛文9	1669		二 丸													島根県立 図書館	『松平家旧蔵家譜』	松平家伝束
8	『宗衍年譜 二』	延享2	1745		二ノ丸 二 城													島根県立 図書館	『松平家旧蔵家譜』	松平家伝束
9	『宗衍年譜 三』	寛延1	1748		第二ノ郭													島根県立 図書館	『松平家旧蔵家譜』	松平家伝束
10	『御作事所御役人帳』	宝暦2	1752		二 丸														『御作事所御役人帳』	松江藩御作事所御大 工頭が書留めた帳簿
11	『松江藩列士録』 小林佐平太	嘉永4	1851		二 丸													島根県立 図書館	『松江藩列士録第5 巻』小林祖一郎	松平家歴代家臣の 系譜と勤功の書
12	『綱隆年譜 全』	延宝2	1674				キタクルフ 北ノ廓											島根県立 図書館	『松平家旧蔵家譜』	松平家伝束
13	『吉透年譜 全』	延宝3	1675				後 山											島根県立 図書館	『松平家旧蔵家譜』	松平家伝束
14	『旧藩事蹟』	延宝3	1675				うしろ 後 山												『旧藩事蹟』中原先生 書き下し本	
15	『綱近年譜 上』	元禄4	1691				北廓(之ヲ北ノ テ 出丸ト謂フ)											島根県立 図書館	『松平家旧蔵家譜』	松平家伝束
16	『御作事所御役人帳』	元禄7	1694				後 山												『御作事所御役人帳』	松江藩御作事所御大 工頭が書留めた帳簿
17	『雲藩職制』	元禄9	1696				後 山												『雲藩職制』	
18	『綱近年譜 下』	宝永1	1704				北 郭											島根県立 図書館	『松平家旧蔵家譜』	松平家伝束
19	『綱近年譜 下』	宝永6	1709				北ノ丸											島根県立 図書館	『松平家旧蔵家譜』	松平家伝束
20	『雲国侯年譜 参』	享保18	1733				北 丸											島根県立 図書館	『雲国侯年譜』(中島 家所蔵)	松平家歴代家臣の 系譜と勤功の書
21	『松江藩列士録』 佐藤繁右衛門	寛延2	1749				後 山											島根県立 図書館	『松江藩列士録第5 巻』佐藤四郎	松平家歴代家臣の 系譜と勤功の書
22	『松江藩列士録』 佐藤繁左衛門	寛延3	1750				後 山											島根県立 図書館	『松江藩列士録第5 巻』佐藤四郎	松平家歴代家臣の 系譜と勤功の書
23	『松江藩列士録』 三成伴六	文化1	1804				後 山											島根県立 図書館	『松江藩列士録第5 巻』三成伴六	松平家歴代家臣の 系譜と勤功の書
24	『家譜 上』	延宝2	1674			三ノ丸												島根県立 図書館	『松平家旧蔵家譜』	松平家伝束
25	『御作事所御役人帳』	元禄3	1689			三 丸													『御作事所御役人帳』	松江藩御作事所御大 工頭が書留めた帳簿
26	『御作事所御役人帳』	元禄10	1697			三 丸													『御作事所御役人帳』	松江藩御作事所御大 工頭が書留めた帳簿
27	『御作事所御役人帳』	享保8	1723			三 丸													『御作事所御役人帳』	松江藩御作事所御大 工頭が書留めた帳簿
28	『御作事所御役人帳』	享保11	1726			三 丸													『御作事所御役人帳』	松江藩御作事所御大 工頭が書留めた帳簿
29	『御作事所御役人帳』	享保16	1731			三 丸													『御作事所御役人帳』	松江藩御作事所御大 工頭が書留めた帳簿
30	『松江藩列士録』 岡重七	寛延2	1749			三 丸												島根県立 図書館	『松江藩列士録第2 巻』岡重左衛門	松平家歴代家臣の 系譜と勤功の書
31	『松江藩列士録』 赤田彦吉	宝暦5	1755			三丸												島根県立 図書館	『松江藩列士録第5 巻』赤田徳左衛門	松平家歴代家臣の 系譜と勤功の書
32	『御作事所御役人帳』	宝暦9	1759			三 丸													『御作事所御役人帳』	松江藩御作事所御大 工頭が書留めた帳簿
33	『松江藩列士録』 赤田彦吉	宝暦9	1759			三 丸												島根県立 図書館	『松江藩列士録第5 巻』赤田徳左衛門	松平家歴代家臣の 系譜と勤功の書
34	『松江藩列士録』 安藤喜与七	明和2	1765			三 丸												島根県立 図書館	『松江藩列士録第5 巻』安藤只七	松平家歴代家臣の 系譜と勤功の書
35	『御作事所御役人帳』	明和3	1766			三 丸													『御作事所御役人帳』	松江藩御作事所御大 工頭が書留めた帳簿
36	『御作事所御役人帳』	明和5	1768			三 丸													『御作事所御役人帳』	松江藩御作事所御大 工頭が書留めた帳簿
37	『松江藩列士録』 赤田彦吉	明和5～6	1768～ 1769			三 丸												島根県立 図書館	『松江藩列士録第5 巻』赤田徳左衛門	松平家歴代家臣の 系譜と勤功の書
38	『松江藩列士録』 山門古四郎	安永2	1773			三 丸												島根県立 図書館	『松江藩列士録第4 巻』山門平左衛門	松平家歴代家臣の 系譜と勤功の書
39	『御作事所御役人帳』	天明6	1786			三 丸													『御作事所御役人帳』	松江藩御作事所御大 工頭が書留めた帳簿
40	『御作事所御役人帳』	天明8	1788			三ノ丸													『御作事所御役人帳』	松江藩御作事所御大 工頭が書留めた帳簿
41	『松江藩列士録』 岡重左衛門	文政11	1828			三 丸												島根県立 図書館	『松江藩列士録第2 巻』岡重左衛門	松平家歴代家臣の 系譜と勤功の書
42	『宗衍年譜 一』	享保18	1733	ホンマル 中城												二ノ丸 マル 城		島根県立 図書館	『松平家旧蔵家譜』	松平家伝束
43	『家譜 上』	延宝2	1674													北ノ廓		島根県立 図書館	『松平家旧蔵家譜』	松平家伝束
44	『綱隆年譜 全』	延宝2	1674													北ノ廓 クル フ		島根県立 図書館	『松平家旧蔵家譜』	松平家伝束
45	『雲国侯年譜 四』	安永2	1773													外曲輪		島根県立 図書館	島根県立図書館蔵 『中島家蔵』	松平家歴代家臣の 系譜と勤功の書
46	『雲藩職制』	享保18	1733																『雲藩職制』	
47	『松江藩列士録』 岡仙左衛門	明和2	1765															島根県立 図書館	『松江藩列士録第2 巻』岡重左衛門	松平家歴代家臣の 系譜と勤功の書
48	『松江藩列士録』 岡仙左衛門	天明7	1787															島根県立 図書館	『松江藩列士録第2 巻』岡重左衛門	松平家歴代家臣の 系譜と勤功の書
49	『松江藩列士録』 岡仙左衛門	天明8	1788															島根県立 図書館	『松江藩列士録第2 巻』岡重左衛門	松平家歴代家臣の 系譜と勤功の書
50	『御作事所御役人帳』	安永3	1774																『御作事所御役人帳』	松江藩御作事所御大 工頭が書留めた帳簿
51	『出入捷覧』	天明8	1788																『松江藩出入捷覧』	松平家伝束
52	『御作事所御役人帳』	天明9	1789																『御作事所御役人帳』	松江藩御作事所御大 工頭が書留めた帳簿
53	『出入捷覧』	天保11	1840																『松江藩出入捷覧』	松平家伝束

〔松江城の城郭呼称についての検討経過〕

松江城の城郭呼称については、松江城部会松江城城郭呼称検討会、城郭史グループ会、松江城部会査読検討会、史料編纂室文献検討会など、多様な角度から検討を加え、松江城部会の総意においてまとめたものである。検討経過は以下の通り。

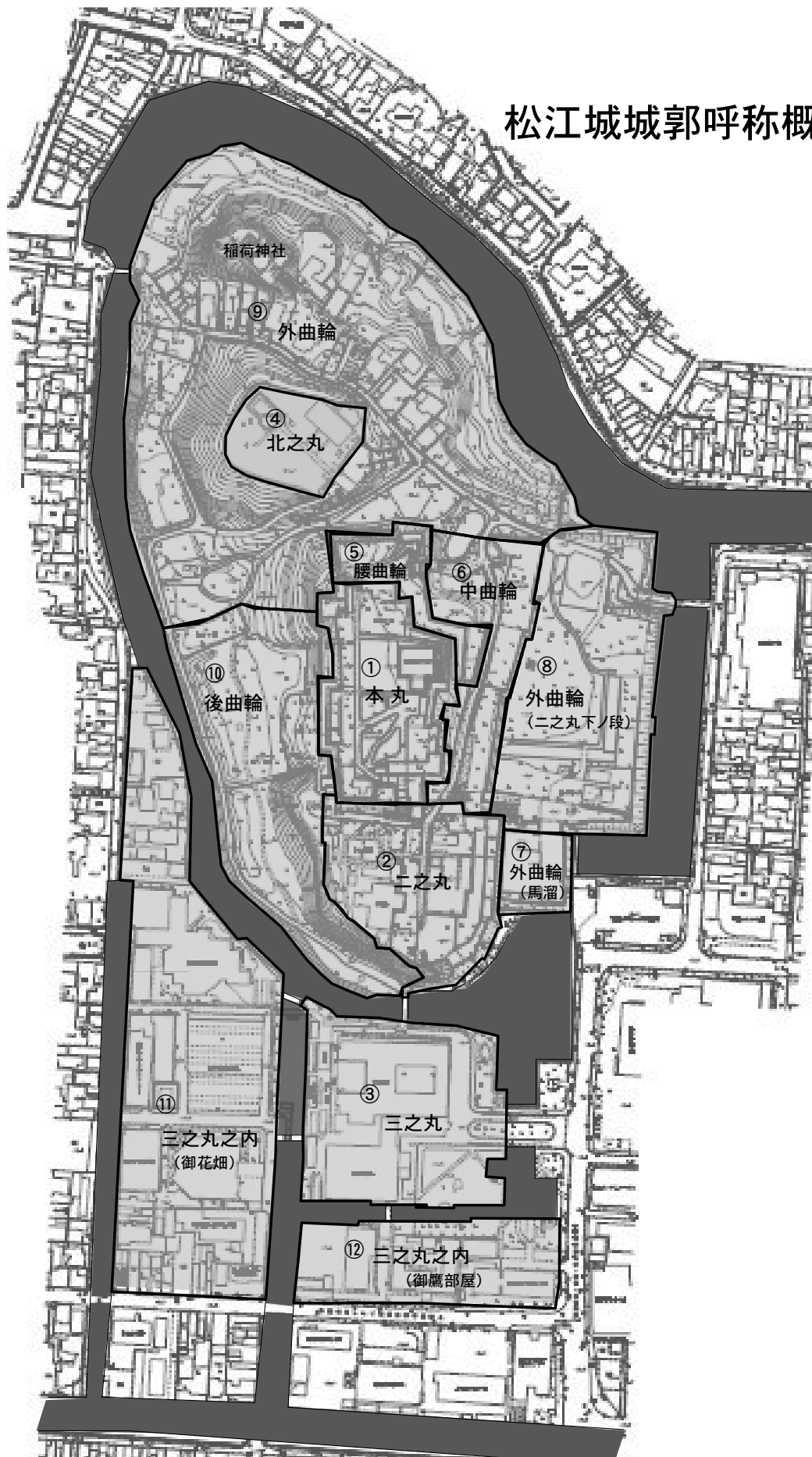
(2014. 4. 18 松江城城郭呼称検討会) (2014. 7. 16 松江城部会城郭史グループ会) (2014. 8. 24 松江城部会) (2014. 10. 29 松江城城郭呼称検討会) (2014. 12. 1 松江城城郭呼称検討会) (2014. 12. 14 松江城部会査読検討会) (2015. 1. 20 史料編纂室文献検討会) (2015. 2. 6 松江城城郭呼称検討会) (2015. 2. 22 松江城部会) (2015. 5. 10 松江城城郭呼称検討会) (2015. 6. 24 松江城部会城郭史グループ会) (2015. 8. 30 松江城部会)

【検討参加者 西尾克己、中井均、松尾信裕、山上雅弘、乗岡実、先山徹、堀田浩之、岡崎雄二郎、和田嘉宥、渡辺理絵、足立正智、河原荘一郎、渡邊正巳、西島太郎、飯塚康行、赤沢秀則、稲田信、内田文恵、北村久美子、石塚晶子、福井将介】

注

- (1) 「二之丸下ノ段」という呼称は、文献史料の『竹内右兵衛書つけ』に「御本丸二丸下ノ段」と記載されているが、地区を区分するために島田成矩氏により「御本丸二丸下ノ段」を便宜的に「二之丸下ノ段」と用いられて以降、この呼称が一般的に使われている。(島田成矩1975「松江城の城郭について」『島根県文化財調査報告』第10集 島根県教育委員会)
- (2) 松江市史編集委員会松江城部会、絵図・地図部会の調査による。本号掲載大矢幸雄・和田嘉宥「松江市域の絵図・地図目録(中間報告)」参照
- (3) 松江市史料編纂室では松江城に関する文献(刊本)調査、文献史料調査を進めており、今後も継続的に資料・史料収集を進めていく予定である。
- (4) 和田嘉宥2013「松江城城郭施設の推移について」『松江城研究』2 松江市教育委員会

松江城城郭呼称概念図



松江城天守古写真考

—「明治初年」とされてきた荒廃した松江城天守古写真について—

稲田 信・福井将介

1. はじめに

今日、明治初期とされる松江城天守が写る写真が複数枚伝わっている。本稿では、これまで調査報告書などで紹介されてきた松江城古写真を集め、年代整理を試みるもので、特に「明治初年」とされる荒廃した松江城天守古写真の撮影年代について検討する。

2. 現存する松江城天守古写真の整理

検討する古写真は『重要文化財松江城天守修理工事報告書』(1955)⁽¹⁾、『島根県文化財調査報告』第十集(1975)⁽²⁾に掲載され、その後も松江城関連の書籍にしばしば掲載されているものである(写真A～Fと便宜的に呼ぶ)。(図版【写真A～F】は松江歴史館、まちづくり文化財課、城山公園管理事務所保管の写真に掲載)。

並べてみると、明治初年とされる松江城古写真(三之丸を含む)はA～Fのわずか6枚で、『重要文化財松江城天守修理工事報告書』では写真Aを「明治初年松江城天守」、写真Cを「明治初年の松江城全景」と紹介する。『島根県文化財調査報告』第十集では写真Aを「廃藩置県後の松江城天守閣(城郭図29番＝明治初年)」、写真Bを「天守閣・二の丸・三の丸(城郭図30番＝明治5年)」、写真D'を「天守閣・二の丸(城郭図31番＝明治8年以前)」、Eを「三の丸城郭図(城郭図32番＝明治8年以前)」、Fを「三の丸と城下(城郭図33番＝明治8年以前)」と紹介している。ちなみに、写真D'はDのトリミングである。

ところで、『島根縣史』九「藩政時代下 明治維新期」⁽³⁾によれば、「明治八年五月広島鎮台は工兵大尉斎藤直演を派出し千鳥城の諸建造物並に三ノ丸殿を入札払とし之を取去らしめんとす、入札払の実行に当り櫓の如きも四円又は五円にて落札し蕪々たる天守閣も僅に百八十円にて石橋の某に落札せり、此事伝聞せる旧藩士等は感慨措く能はず元出雲郡の豪農勝部本右衛門藩士高城権八等と相議り落札高の金を納めて天守閣破壊は辛ふじて免れたるも其他の建造物は日ならずして解き払はれ荒涼たる廢墟を現出せり」(下線筆者)と記されており、この記述が正しければ、天守以外の建物が写る写真B、C、D、E、Fは明治8年(1875)5月頃以前に撮影されたものとなる。

まず、同じようなアングルで撮影されたB、C、D3枚の古写真を比較する⁽⁴⁾。

写真Bは、三之丸正面の番所横(南側)道路辺りから写されたものである。天守をはじめ本丸の武具櫓、多門、高石垣上の二之丸には御書院、南櫓、御広間、中櫓、半壊した状態の瓦塀覆が見え、三之丸には表御門(長屋門)、多門(長屋)、表御門へ通じる土橋、手前には柵、右端には番所が見える。二之丸の石垣上の瓦塀覆が残っているので、瓦塀覆が取り払われた写真C、Dより古い年代のものである。

写真Cは、写真Bとほぼ同一場所の三之丸正面の番所横(南側)道路辺りから撮影されたもので、天守をはじめ本丸の武具櫓、多門、高石垣上の二之丸には御書院、南櫓、御広間、中櫓が見え、三之丸には表御門(長屋門)、多門(長屋)、表御門へ通じる土橋、手前には柵、右端には番所が見える。二之丸石垣上の瓦塀覆が取り払われているので、写真Bより年代の新しいものである。但し、番所の屋根、壁の傷み具合などを見る限り、写真B、Cの撮影時期は近いものとも考えられる。また、写真B、Cいずれも屋根などにうっすらと雪がかかっているようにも見える。

写真Dは三之丸前番所の北側で表御門へ通じる土橋西端辺りから写されたもので、天守をはじめ、本丸の武具櫓、多門、高石垣上の二之丸には御書院、南櫓、中櫓、御広間の屋根、三之丸には表御門（長屋門）北の多門（長屋）、土橋の一部、土橋西端付近の柵が写る（番所の北側から撮影しており、写真B、Cに写る番所は見られない）。二之丸石垣上の瓦塀覆は写真C同様、全て取り払われているので、写真Bより年代の新しいものである。さらに、建物が解体されつつあることが確認できる。例えば、B、Cに写る御広間玄関が無くなり（武具櫓手前）、御書院の屋根の大半が取り払われ屋根に作業中と思われる人物複数が写り、南櫓の二階窓格子の取り外し途中の様子が写り、表御門北の多門も解体されつつある様子（写真左端）が写る。よって、写真Cよりも新しいものである。撮影時期は、天守を残して「其他の建造物は日ならずして解き払はれ荒涼たる廢墟を現出せり」となる直前、すなわち明治8年5月頃の入札直後のものではないかと想定できる。

撮影順は明らかにB→C→Dである⁽⁵⁾。

次に、写真E、Fを見ると、写真Eは大手口辺りの堀沿いから三之丸表御門（長屋門）、多門（長屋）、三之丸御広間、御玄関などを撮影したものである。写真Fは二之丸の石垣上から撮影したと想定され、三之丸表御門（長屋門）や多門（長屋）、堀の向こうには新御殿（初代島根県庁舎）、三之丸表御門へ通じる土橋、左端には写真B、Cに写る番所、番所横道路の向こうに御作事所など、三之丸の施設や周辺の建物が写っており、写真B、C、Dの撮影場所や周辺の状況も確認できる。撮影時期はいつであろうか。写真Eに写る表御門北の多門に塗られた漆喰の傷み具合を写真B、C、Dと比較すると、写真Cと酷似するので、写真Eは写真Cと同時期と考えられる。写真Fは比較が難しく断定はできないが、写真B、Cに写る番所横（南側）道路沿いの柵（写真下方）が無いように見えるので、写真B、Cの撮影後単独で撮影された可能性も、写真Dと同時期に撮影された可能性もある。

なお、明治3年3月には御作事所（御破損方）の御大工等によって天守四重屋根の修理（墨書の記載内容からかなりしっかりした屋根の修復である）が行われているので、写真B、C、D、E、Fは、明治3年から同8年までの短い間に写された写真と見做してよいだろう⁽⁶⁾。

3. 「明治初年」とされる荒廃した松江城天守古写真（写真A）の検討

さて、写真Aである。「明治初年松江城天守」、「廢藩置県後の松江城天守閣（明治初年）」、或いは「明治8年」⁽⁷⁾と紹介されてきた。一方、天守とその他の城郭建物が写り、明らかに明治8年以前と特定できる写真は、これまで確認できた中では、写真B、C、Dのわずか3枚のみである。この3枚の天守古写真を年代順に拡大し、天守を写真Aとともに並べてみた（「天守の比較写真」参照）。写真B、C、D3枚の中で最も新しく、明治8年5月頃の入札直後のものと想定する写真Dはかなり高精細な写真が伝わっているが、天守は写真Aのように崩れておらず、外見上それほど目立った傷みも認められない。このことから、写真Aの撮影時期を「明治初年」、「明治8年」のものと見做すことは難しいように思われる。また、明治6年（1873）には松江の豪商たちによって松江城の天守や本丸、二之丸を会場とした博覧会が企画され、綿密な計画により県内に出品が呼びかけられ、そして開催されたことが史料で確認できる⁽⁸⁾。明治6年に本丸、天守にも大勢の人々が訪れる博覧会が計画され開催されたことは、やはり写真Aの撮影時期を「明治初年」、「明治8年」のものと見做すことは難しいように思われる。

では、写真Aはいつ撮影されたものであろうか。考えつくのは、明治27（1894）年に大修理が行われたことである。写真Aは、何らかの修理を要する状況、可能性として明治27年の大修理の契機となった傷みを撮影したものではないかと推定したのである。

そこで、松江城天守に関する新聞切り抜きと照合したところ、明治25年（1892）8月6日の『山陰新

聞』に、「天守閣崩落 事少しく遅聞に属すれとも暴風雨の為城山天守閣下層東南隅の屋根五六間許り崩落せしを発見せり」とあり、明治27年の大修理の機運は、明治25年8月6日以前に松江城を襲った暴風雨による甚大な被害が要因となり、急速に高まったように読み取れる。（「松江城関連記事一覧（稿）」参照）

他にも、明治3年（1870）3月の天守四重屋根の修理の記録（天守内の墨書）、明治21年（1888）の修理の記事が確認できる。明治3年の修理については前述のとおり御大工頭らの名前が墨書されており、写真B、C、D写真を見ても分かるように、少なくとも廃藩置県前の明治3年3月までは天守が適切に管理されていたと考えられる記録である。また、明治21年の修理は詳細不明ながら、『山陰新聞』記事によれば、明治21年「3月27日から天守閣修理」「4月13日、客月24日以来天守閣の縦覧は1600名余、寄附金20円と若干の寄附金」「4月15日、旧暦の弥生の節句で天守閣に登る人が多かった」「5月、西南戦争記念碑の式典、天守も会場」「5月27日、平均70～80人の天守閣縦覧」「6月24日、天守閣の土上げ（修繕中の天守閣に旧藩士族による）」「9月8日、天守閣縦覧人、5日200余名、6日350名ばかり」「10月4日、士族会で松江城の旧観保存を話し合い。天守修繕に2000円の寄附を義損」「11月1日、天守保存費用を旧藩主家から藩士へ寄贈の事業費3000円から充てるとの話」「11月5日、千鳥城保存には寄附金を用いるとの話」などが確認でき、多くの人々が天守に登る明治21年の状況は写真Aのような荒廃した天守とは結びつかない。

それに対して、明治大修理の竣工式の様子を伝える明治27年（1894）12月17日付『山陰新聞』⁽⁹⁾によれば、「工事委員三島佐次右衛門氏は報告すらく抑も本工事は、明治二十七年六月十日を以て起工せしも、翌年雨露の浸蝕に任せし為破損実に甚だしく、其の一二を挙げれば四方破風屋根地取替百十坪、土居二百二十坪、座板張替百三十六坪、柱建替二十一本、土壁塗替三百二十坪、瓦の補填一万三千五百枚、漆喰百三十石、此他桁梁垂木鉄具等の取替枚挙に暇あらず而して同年十一月十八日完く竣工す」とあり、「四方破風屋根地取換」「柱建替二十一本」「瓦の補填一万三千五百枚」などを要する傷み具合のために、この大修理がおこなわれたことが分かる。修理の詳細は今後の課題ではあるが、写真Aのような荒廃した天守を修理するために、

「四方破風屋根地取換・・・」の記事は矛盾しない。

とすれば、やはり写真Aは明治27年の大修理の契機となった傷みを撮影したという可能性が高く⁽¹⁰⁾、想定できる撮影時期は、「天守閣崩落」の暴風雨に襲われた明治25年8月頃から明治の大修理が始まる明治27年6月頃までということになる。

松江城天守写真撮影略年表

年 号	写真撮影	出 来 事
1870年（明治3）		御作事所により天守修理
1871年（明治4）	写真B撮影 写真C撮影	太政官へ廃城の伺（1月晦日）、廃藩置県（7月）
1873年（明治6）		天守・本丸・二之丸で博覧会
1875年（明治8）	写真D撮影	天守を除く建物の解体
1888年（明治21）		天守修理
1892年（明治25）	写真A撮影	「天守閣崩落」の記事（山陰新聞）
1894年（明治27）		市民の募金などにより天守大修理

4. まとめ

明治27年までの松江城古写真は、今回確認した限りわずか6枚である⁽¹¹⁾。そのうち、5枚（写真B～F）はこれまでも先学が指摘してきたように明治8年以前のものと考えられ、撮影機会は城郭施設の変化などから3～4回であったことが分かる（天守は3回）。撮影機材と撮影者が限られた明治初期、写真撮影

を行うにはそれなりの理由があったのであろう。松江城に関しても明治初期の文献史料が少ない中で、古写真を史料として扱い、様々な角度からその撮影時期、撮影理由、写真に含まれる意味を追及していくことは重要であり、大手門などを含め、さらなる古写真の発見が望まれる。

それにしてもなぜ、写真Aを「明治初年」や「明治8年」の天守の状況として理解し続けてしまったのだろうか。想像するに、例えば『島根縣史』に記された「豪農勝部本右衛門藩士高城権八等と相議り落札高の金を納めて天守閣破壊は辛ふじて免れたるも其他の建造物は日ならずして解き払はれ荒涼たる廢墟を現出せり」という記録や記憶が、哀れな天守として人々の脳裏にイメージされ、それを結びつけるかのように写真Aを「明治8年」のものという「物語」に組み立てていったように思われる。

松江城古写真の年代整理により改めて見えてきたことは、むしろ、この崩壊しそうな天守を目の当たりにした市民有志により大修理が発起され⁽¹²⁾、市民の募金などによって松江城天守は明治27年に修復・保存され今日に至るといふ、その記念碑的写真として写真Aは捉え直すべきだということである。松江城を大切に思う市民の心意気には歴史がある。

松江市史料編纂室では、130名余りの執筆陣の献身的なご努力をいただき、『松江市史』の刊行と、基本調査、付帯出版物の刊行を行ってきた。ここから導かれる松江市域の最大の特徴は、古代から現代にいたるまで、出雲地域、島根県の政治権力の中樞が置かれた場所であり、結果的に山陰の政治・経済・文化の中核地であったということである。そのため、松江市域には驚くほどの貴重な歴史史料が残されているが、それらの多くが手つかずの状態にあるように思われる。一方で、十分な調査と研究がなされないまま、「物語」のような話として松江の歴史を説明する場面も見受けられる。松江城の調査研究で故西和夫先生が、「正確に理解し、正當に評価することが大切」と論してくださったように、松江市が今後とも歴史を活かしたまちづくりを進めていくためにも、松江市には市民の皆さんとともに、継続的に調査・研究を進めていける体制が必要だと痛感する所以である。

注

- (1) 井上梅三ほか1955『重要文化財松江城天守修理工事報告書』松江城天守修理事務所。報告書中に「各方面に渉りこれが蒐集に努めたが(中略)明治初年の写真が発見された以外、創建の当初より、その後の修理に関しての資料は遂に得られなかった」(P53)と記し、報告書に掲載された写真Aなどいくつかの古写真は昭和大修理時の調査で発見されたようである。報告書に使用された写真(写)は、他の昭和の天守修理関係資料とともに、現在松江歴史館に保存されている。なお、昭和大修理時の調査にあたっては、「昭和二十五年度以降 国宝松江城天守史料借入返却原簿」(松江歴史館所蔵)が作成され、その折に「明治初年」と認識された写真として「明治初年の松江城写真 松江市城山 亀松亭」「明治初年頃の写真(二ノ丸から三ノ丸を望む、三ノ丸から二ノ丸を望む、松江藩主邸 三枚) 松江市母衣町 村田写真館」「明治初年 初の天守写真 一枚 松江市殿町 附属小学校(二十六年十月二日小林教頭渡)」の記録がある。この「史料借入返却原簿」に荒廃した松江城天守古写真(写真A)が含まれているとすれば、附属小学校から借入・返却した「明治初年 初の天守写真 一枚」の可能性が高いと考え問い合わせたが、松本真理副校長の御尽力にも関わらず残念ながら現在附属小学校では確認できなかった。(「附記 現在確認出来る写真の保管・所在状況」参照)
- (2) 島田成矩1975『島根県文化財調査報告』第十集 島根県教育委員会。今回の調査で口絵として載る写真は現在まちづくり文化財課で保管する写真プリント(松江市経済部→松江市教育委員会(文化財課)→歴史まちづくり部(まちづくり文化財課))を転載したものと確認できた。なお、『島根県文化財調査報告』は「天守閣・二の丸・三の丸(城郭図30番)」=写真Bの撮影年を『新修島根県史』通史編1「考古・古代・中世・近世」P575掲載写真キャプションを根拠として明治5年としたと思われるが、両者は異なる写真で、『新修島根県史』掲載写真は写真Cである。ただ、『新修島根県史』が写真Cを明治5年とした根拠は分らない。
- (3) 野津左馬之助1930『島根縣史』九「藩政時代下 明治維新时期」島根県
- (4) 城郭施設の名称、配置等は、和田嘉宥2013「松江城城郭施設の推移について」『松江城研究』2、和田嘉宥2014

「三之丸の特色とその推移について」『松江市歴史叢書』7を参考とした。また、取り壊される前の松江城内の諸建造物を明治8年に描いたとされる「松江亀田千鳥城」(松江歴史館所蔵)なども、古写真を見るうえで参考となる。

- (5) 二之丸瓦塀覆や書院の屋根に注目し、写真を年代順に説明したものに、飯塚康行2001[写真史料]「史跡松江城整備事業報告書(第2分冊:調査編)」『松江市文化財調査報告書』第88集-2 松江市教育委員会 などがある。
- (6) 注1に同じ。墨書には「明治三巳三月十四日 此所屋根仕舞仕候 此節御役人 御大工頭 小村平蔵 馬場作右衛門 御大工 布施賢六 橋本伝三郎・・・」などがあり、明治4年の「廃藩置県」頃までは旧藩以来の御大工等によって城内諸建物は適切に修繕されていたとも考えられる。(但し、明治8年正月晦日に松平藩庁(藩知事松平定安)は無用の贅物として松江城を廃する願いを太政官に提出し[松平定安公伝]、同年4月24日には藩庁から廃城の決定が達せられている[「藩庁通達書」(朝日家旧蔵・松江市蔵)]。明治4年頃には城郭施設の維持と管理は困難になっていたと考えられる。)

また、和田嘉宥氏の御教示によれば、松江城内の城郭施設を描いた「御城内絵図面」(国文学研究資料館蔵)には「明治五申五月兵部省江差出ニ付扣置」と記す貼紙があり、明治5年当時の松江城の姿を伝える図面と考えられる。この図では、貼紙をして建造物を消した箇所も見られ、二之丸でも既に取り壊された建物もありそうだが、石垣の上の瓦塀覆は明瞭に描かれており、貼紙などで消されていない。この図が明治5年の状況を正確に反映しているとするれば、二之丸石垣上の瓦塀覆が失われている写真Cは明治5年以降に写されたものと見做せる。また、「安政三辰四月改 三丸惣絵図面」(国文学研究資料館蔵)には「明治八年二月二日取調」と記す貼紙があり、玄関、御広間など、内部(三之丸御殿)の主要施設とともに「外構建家之分」(長屋、御門、土蔵11ヶ所か)、「朱引御模様替掛紙之分」等の記載がある。絵図の上からも明治8年2月には、表御門、多門(長屋)、玄関などがまだ建っていたことが分かる。

なお、佐藤仁志氏には写真A、B、C、Dに写る植物相を見ていただき、専門的観点から次の御教示をいただいた。「写真がDを除いて不鮮明なことや、これはといった季節の決め手になる植物が確認できないことなどから、撮影時期等の推定を行うことは難しい。その上で、あえて推察するとすれば、写真Aの石垣に張り付いているつる植物をツタと考えた場合、このような環境に生育するツタの葉の多くは冬季に落葉することから、冬季以外の季節であろうということ。お堀端に帯状に広がっている群落は、多年草のマコモと思われること。写真B、C、Dに写っている生垣状の植物がバラの仲間とすれば、Dの場合、葉が十分に展開していない季節のようにも見える。とすれば、4月上旬以前の撮影かもしれない。しかし、BやCに写っているものも十分に葉が茂っているようには見えない(生育環境がよくない?)ことなどから、それ以降(例えば5月)としてもおかしくはないと思われることなどである。」

ちなみに、『松平定安公伝(其十七松江城廃止及び同城沿革一斑)』によれば、「明治八年八月に至や、楼閣牆壁及び石垣の破毀に着手し、唯り天守閣のみを保存するに至れり」ともある。

以上のことを総合すれば、既に瓦塀覆等が傷み始めている写真Bは御大工の修理が適切に行われなくなるであろう「廃藩置県」頃以降、写真Cは「御城内絵図面」より明治5年以降、写真Dは建物取り払い関連の記述や植物相の見解などから明治8年4～8月頃、とさらに絞られる可能性がある。今後の検討課題としたい。

- (7) 昭和の大修理に中心的に携わった井上梅三や須田大蔵も修理の調査過程で確認された写真Aを明治8年撮影と解釈したようで、昭和の大修理の際、明治27大修理以前の姿として用いられた。井上梅三ほか1955(注1)によれば、昭和の修理の現状変更に当たって、「明治八年に撮影した写真も明治改造直前の状況を示す好資料」とし、天守西側、南側の改修根拠としている。この解釈が、その後も無批判に受け入れられ続けたものと考えられる。
- (8) 上野富太郎・野津静一郎1941『松江市誌』松江市、「博覧会稟告」(松江歴史館所蔵)、「自明治四年至明治八年 県治要領」(島根県公文書センター蔵)など
- (9) 明治27年12月17日付『山陰新聞』によれば、前日の16日に竣工式が行われている。日清戦争の開始など国際情勢が緊迫する中での天守修理で、日清戦争の戦況を伝える記事の間に「天守閣修繕竣工式」の記事は載る。竣工式当日、島根県知事、千家出雲大社宮司らを来賓に迎え、天守閣旧観保存発起総代福岡世徳(松江市長)らが祝詞を朗読した。天守内には日清戦争の戦利品が並べられ、二之丸入口には大緑門が建てられた。
- (10) 有馬誉夫2011『島根の観光レジャー史(明治・昭和戦後)』は、主として明治から昭和時代の新聞を分析し、「明治初年」とされる荒廃した松江城天守古写真(写真A)について、「明治25年5月の「崩壊」をきっかけに

して修繕の機運が高まり、いよいよ「保存会」設置、明治27年修繕に着手されるが、当の写真は、明治25年の保存会趣意書と同時に、あるいは修繕工事に取りかかる現場写真として写されたものではないか、と筆者は推察している」とする。この写真(写真A)の年代観に疑問を投げかけた嘴矢ではなかろうか。

- (11) 写真A～Fの写真原板は当時の撮影技術から写真乾板(ガラス乾板)と考えられるが、所在は確認出来ず、今回の検討は松江歴史館とまちづくり文化財課保管のガラス乾板(昭和修理時に作成したもの)、写真プリントによった。写真Aは、昭和修理時頃には天守周辺も写る大型の写真プリントの状態で存在したようで、接写したガラス乾板が松江歴史館に保管されるとともに、岩波書店が昭和27年に撮影し昭和28年(1953)発行の岩波写真文庫「松江」(岩波書店編集部／編)にも掲載されている。いずれ写真原板(ガラス乾板)や写真原板から作成した写真プリントを確認出来ることを願っている。(まちづくり文化財課に保管する写真Dは他の古写真と比べて高精細なので、写真原板から直接プリントした可能性がある)
- (12) 明治27年5月22～24日の山陰新聞に天守閣修繕事務所より天守修繕の入札広告が出され、発起人として岡崎運兵衛、佐藤喜八郎、森脇甚右衛門、大島新四郎、三島佐次右衛門、桑原羊次郎、松本欽次郎、織原万次郎、清原宗太郎、金沢伝十郎、山内佐助、福村弥一郎、古津元市、原源蔵、若槻敬、勝田千之助、早田豊一郎、泉友助、園山伊助、森脇新兵衛、高見兵助、尾原佐七、森脇儀兵衛、田中助次郎、持田熊次郎、河内忠助、参成三郎兵衛、浅島大造、山本権七、西代喜太郎、山口卯兵衛、中島伊八、梅木小太郎、福岡世徳、高橋義比の35名が名を連ねる。修繕事務所は松江市天神町の松江銀行内に置かれた。また、明治43から44年にかけて作成された『旧藩美蹟』(第十九編松本欽次郎事蹟 第七章千鳥城修繕と松江神社移転)には、「一種の威念に打たしめるもの我松江に在つては、五層の天守閣である。(中略)かかる好箇の記念物も、廃藩の当時には、他の門柵楼櫓と俱に、殆ど毀壊されんとしたので有るが、工費の多大を要する為、僅に踏留まって其の運を脱れたのである。されば久しく荒廢に委せられ、薨破れては雨露の漏洩も防ぐに由なく、扉落ちては鴟梟の巢窟たるを免れなかった。古き簷端の忍ぶにもと低回顧望する人は多かつたけれど、誰更市のために手入れしようとする者は無く、可惜三百年の旧城も見るみる朽壞に帰せんとして居た。欽次郎は之を見て遺憾に堪へず、遂に明治廿七年率先費を投じ、有志家を説き、三千円許の釀金を得て、大修繕を加えたので、今日かの如く巍然たる壮観を仰ぐを得るのである。」と記されている。

現在確認出来る写真の保管・所在状況

昭和25年6月から同30年3月まで行われた天守解体修理時に撮影された写真類は、丁寧に整理され、『重要文化財松江城天守修理工事報告書』掲載分を含め、全て松江歴史館で保管されている。ガラス乾板、ネガフィルム、写真プリントがある。『修理報告書』に掲載された松江城古写真は、写真A、Cであるが、保管される写真プリントを見ると、写真B、D、E、Fともあるので、昭和25～30年頃には今回検討した松江城古写真A～Fの存在は全て認識されていたようである。解体修理時の写真借入記録にある「明治初年の松江城写真 松江市城山 亀松亭」「明治初年頃の写真(二ノ丸から三ノ丸を望む、三ノ丸から二ノ丸を望む、松江藩主邸 三枚) 松江市母衣町 村田写真館」「明治初年 初の天守写真 一枚 松江市殿町 附属小学校(二十六年十月二日小林教頭渡)」の所在は残念ながら確認できなかった。

他にも、写真B、Eは昭和16年刊行の『松江市誌(P1493)』に「雑賀町勝部貞太郎氏蔵」としてやや傷んだ写真が掲載されている。また、松江歴史館には近年寄贈を受けた羽山家資料(写真Bのプリント)、松本時夫氏旧蔵資料(昭和修理時撮影の写真B、D'、E、Fのガラス乾板)が保管されている。松江城天守最上階(天狗の間)には写真Cの比較的高精細なものが掲額されており、番所の傷み具合などが分かる。

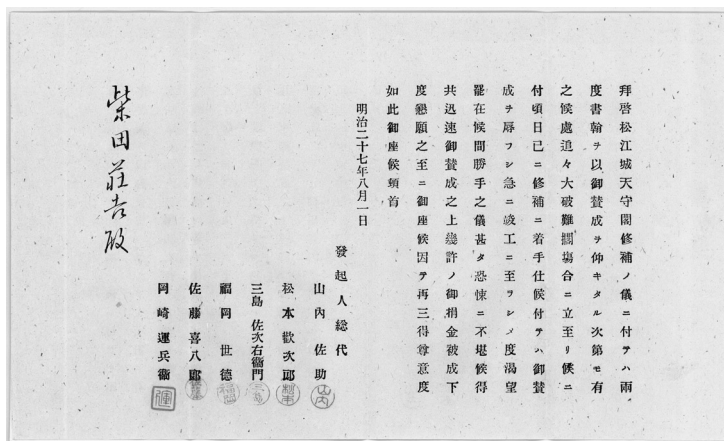
『島根県文化財調査報告』第十集(1975)の口絵の原写真プリントは、松江市経済部から松江市教育委員会(文化財課)にアルバムに納めた形で伝わり、現在、歴史まちづくり部(まちづくり文化財課)で保管している。

追記

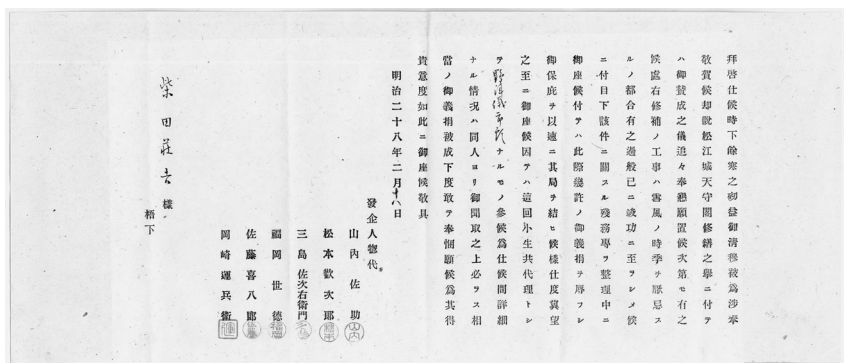
天守と天守以外の城郭建物が写る絵葉書(樋野俊晴氏所蔵)があると伊藤孝一氏からご教示いただいた。絵葉書には「松江市殿町森田写真館製版」とあることから、殿町にあった森田写真館から発行されたものである。写真には「松江舊藩主松平家御殿ト二ノ丸城山ノ遠景」のキャプションがあり、写真上に切手を貼り記念スタンプを押す。スタンプには「関東都督府始政六周年記念」「旅順」「43-9-1」

の文字が読み取れる。利用された写真は、写真Cと同一のもので(番所の屋根と壁の傷みは修正されている)、スタンプ中の「43-9-1」は明治43年(1908)9月1日と考えられることから、絵葉書作成時期がスタンプ押印時期と近いとすれば、明治43年頃に写真Cの写真乾板を森田写真館が所有し、葉書を発行していたとも考えられる。ちなみに関東都督府は明治38年(1905)に設置された関東総督府が明治39年(1906)に関東都督府と名称変更したもので、拠点は旅順に置かれた。遼東半島先端部の関東州の統治と防備を受け持った関東都督府の6周年記念に、明治初年の松江城が写る森田写真館作成の絵葉書が利用されたことは興味深い。

また、樋野俊晴氏からは、明治27年の天守大修理の折に義捐金の協力を依頼した文書が残されていると御教示を受けた。発起人惣代として山内佐助、松本歆次郎、三島佐次右衛門、福岡世徳、佐藤喜八郎、岡崎運兵衛の連名で、明治27年(1894)8月1日付と明治28年(1895)2月18日付の2通である。工事着手後と竣工後にも義捐金が集め続けられていたことが分かる。いずれも能義郡母里村(安来市)の素封家柴田家に伝わったものである。



明治27年8月1日付、松江城天守大修理のための義捐金協力依頼文(柴田家文書)



明治28年2月18日付、松江城天守大修理のための義捐金協力依頼文(柴田家文書)

[本稿は松江市史編纂事業に併せ松江城古写真の年代整理を試みたもので、主として本文は稲田信が、松江城関連記事一覧は福井将介が担当した。なお、今回、写真Aの撮影時期を明治25年8月頃から明治27年6月頃までと想定し提起したが、残念ながら一次的な資料により撮影年月日が明らかになったわけではない。明治中期になると明治初期に比べ残された史料も多くなることから、識者の御教示を仰ぐ次第である。]

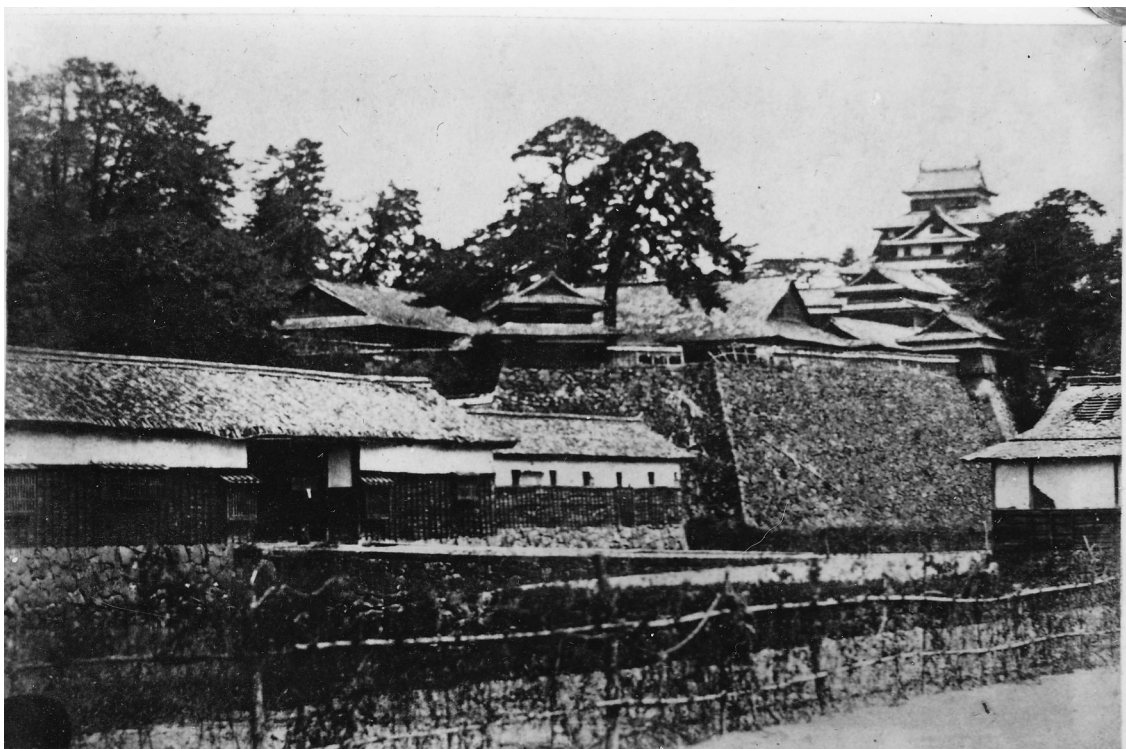
謝 辞

本稿を執筆するにあたり、歴史学の観点から松尾寿氏に、地域史の観点から安部登氏に、建築史の観点から和田嘉宥氏に、歴史地理学の観点から大矢幸雄氏に、城郭史の観点から西尾克己氏、岡崎雄二郎氏、ト部吉博氏に写真の年代確定への御指導をいただきました。写真の比較検討では伊藤孝一氏、徳岡隆夫氏に御尽力をいただきました。写真に写る植物相については佐藤仁志氏に御教示いただきました。

資料作成にあたり、まちづくり文化財課史料編纂室、同国宝化推進室、同埋蔵文化財調査室、松江歴史館の諸氏には御協力をいただきました。また、山口信夫氏、樋野俊晴氏、曾田稔氏からは貴重な情報をいただきました。記して感謝申し上げます。



【写真A】松江城古写真(推定：明治25年8月頃から明治27年6月頃の間の撮影)



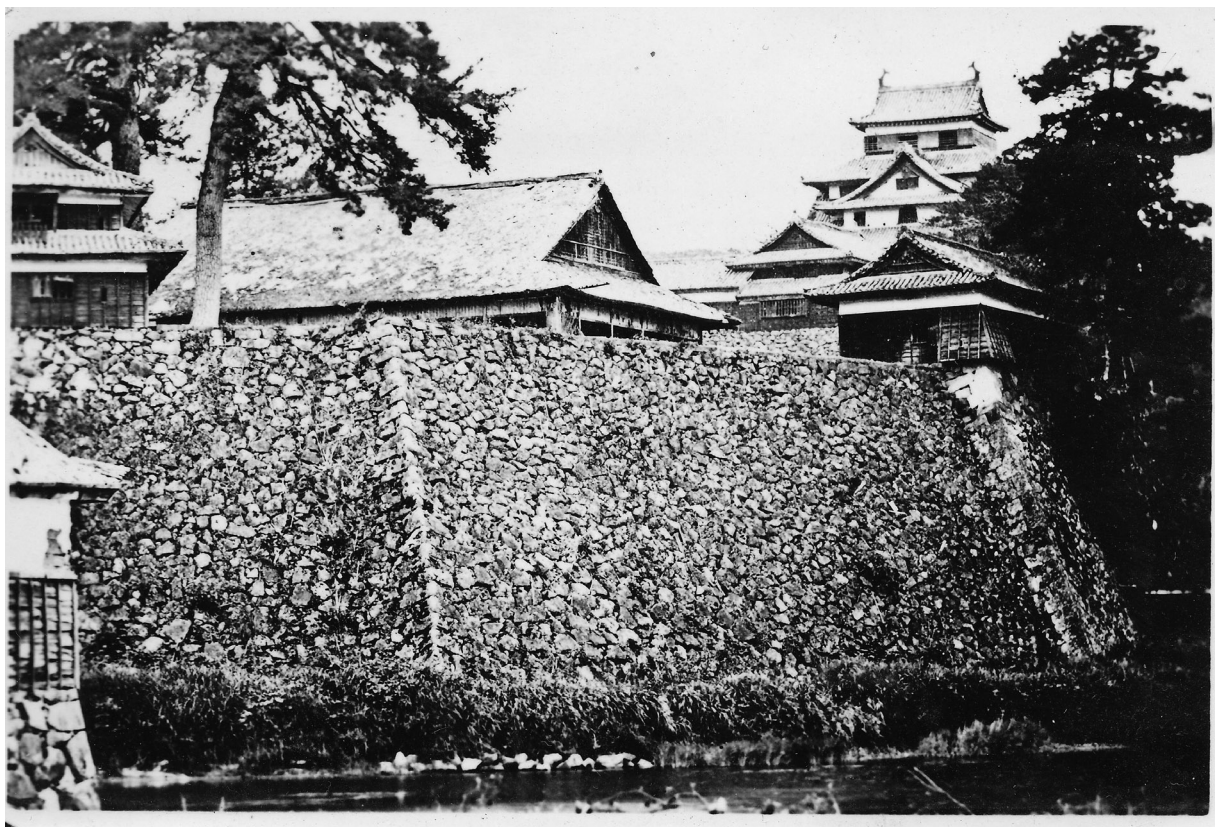
【写真B】松江城古写真(明治8年以前：現存する最も古い松江城天守の写真)



【写真C】松江城古写真(明治8年以前:現存する二番目に古い松江城天守の写真)(天守5階で掲額写真)



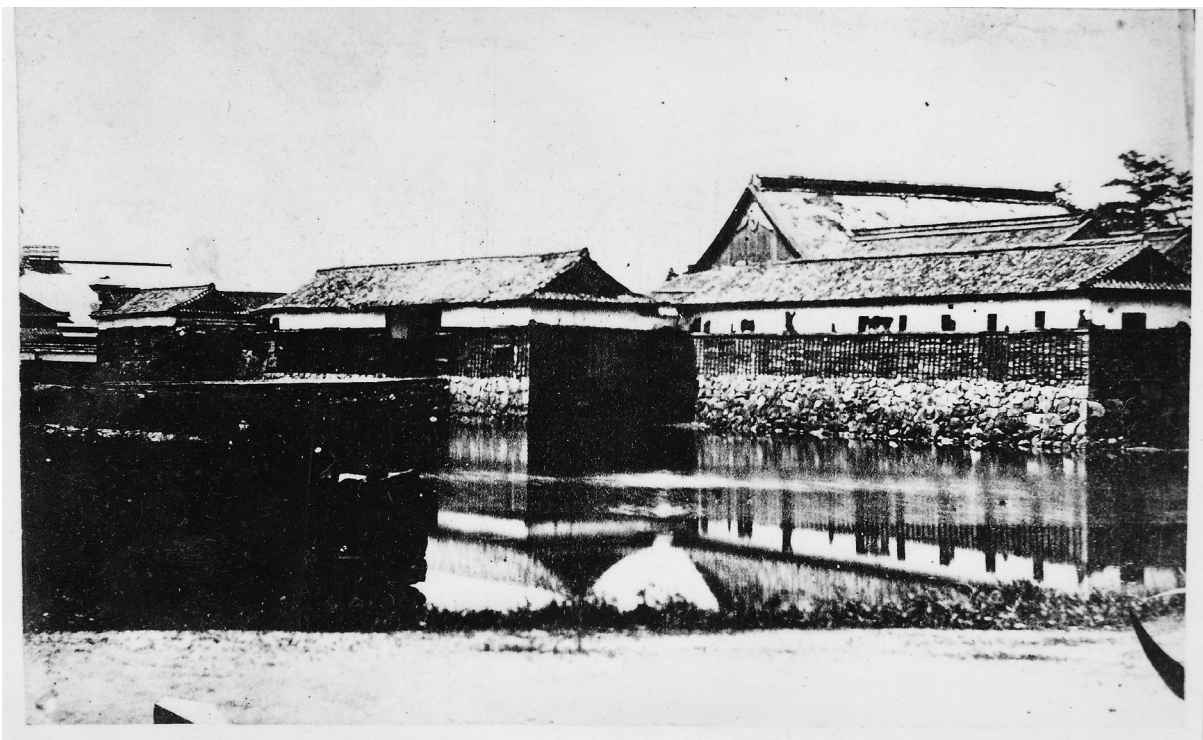
【写真D】松江城古写真(明治8年:現存する三番目に古い松江城天守の写真)



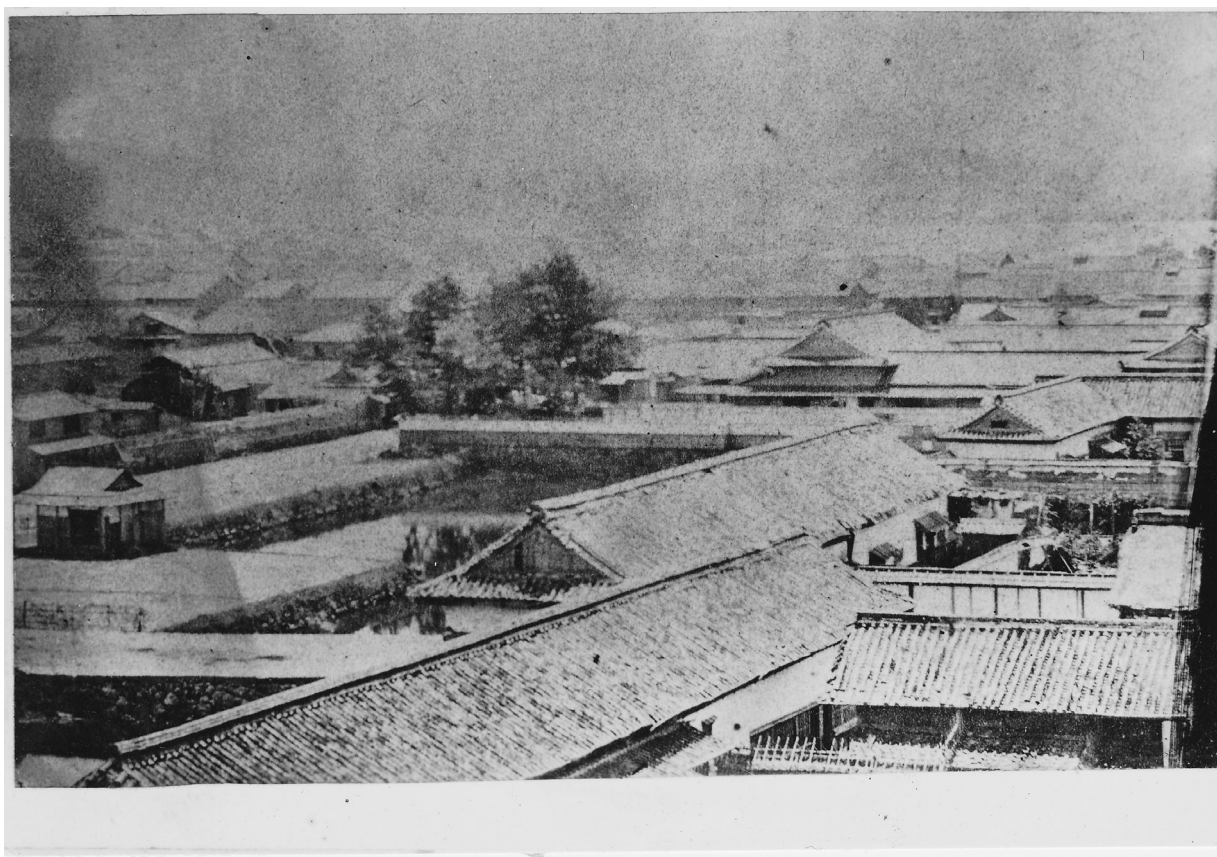
【写真D'】松江城古写真(Dのトリミング、明治8年：現存する三番目に古い松江城天守の写真)



【写真Dの部分拡大】二之丸内の御書院、南櫓（御書院屋根の解体作業、南櫓二階窓格子の取り外し途中の様子が確認出来る。御書院屋根には作業中であろう人物が複数写る。）



【写真E】松江城古写真(明治8年以前：御門右隣の多門の傷み具合から写真Bと同時期の撮影)



【写真F】松江城古写真(明治8年以前)

天守の比較写真



【写真A】の天守(推定:明治25年8月頃～明治27年6月頃)



【写真B】の天守(明治8年以前:最も古い天守写真)



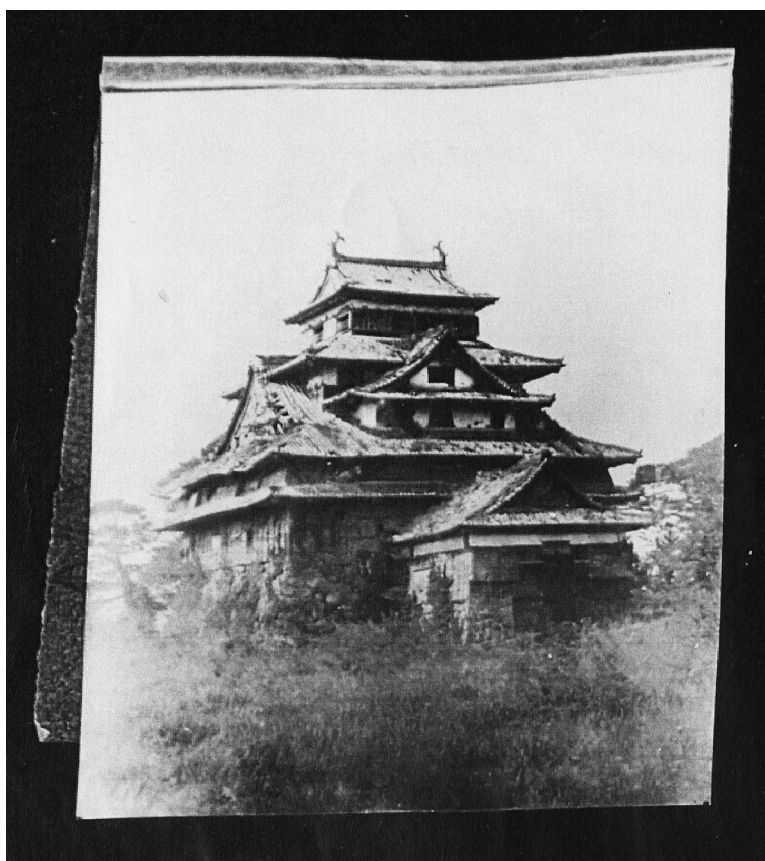
【写真C】の天守(明治8年以前:二番目に古い天守写真)



【写真D】の天守(明治8年:三番目に古い天守写真)

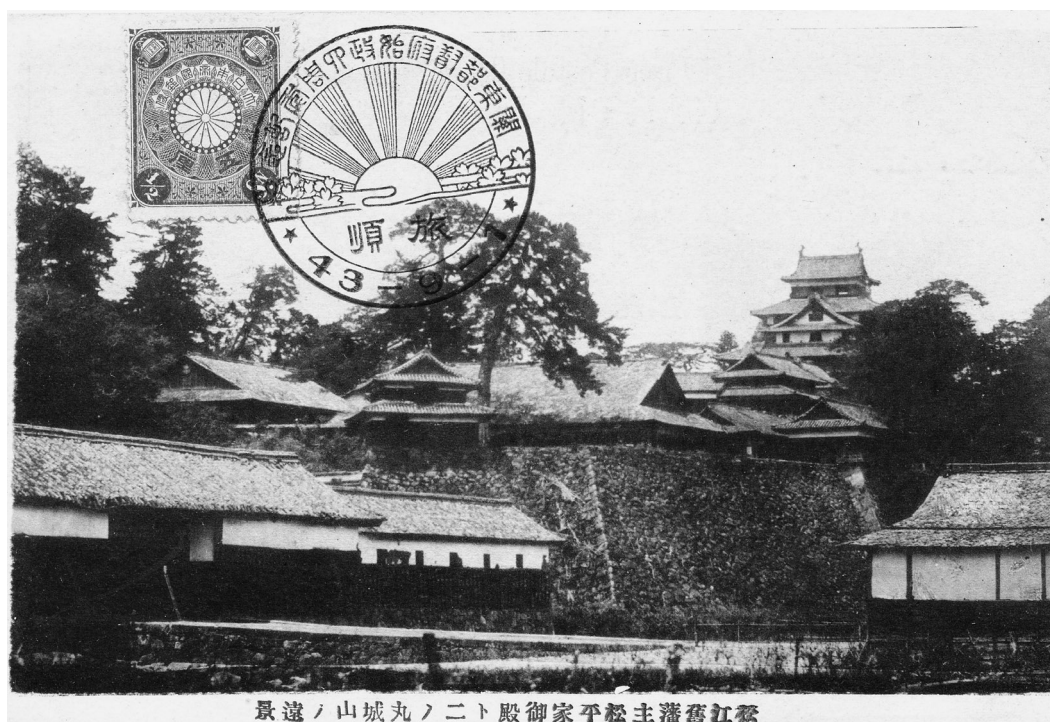


昭和修理時に撮影された写真Aの
原写真(ガラス乾板:松江歴史館蔵)
ガラス乾板に写る写真Aの原写真
は、左横に写る温度計や下見板か
ら推測すれば、なり大型の写真プ
リントであったと分かる。原写真
所在は、現在確認されていない。



昭和27年に撮影された写真Aの
原写真の全体写真

写真Aの原写真は天守周辺も写っていたことが分かる。昭和28年発行の岩波写真文庫「松江」にも同様の写真が掲載されている。



松江藩主松平家御殿ノ丸城山ノ景

松江市殿町森田写真館から発行された絵葉書（樋野俊晴氏蔵）

利用された写真は写真Cで、スタンプ中の「43-9-1」は「関東都督府始政六周年記念」とあるので、明治43年9月1日を示す。

松江城古写真比較表

種類	撮影建物類	撮影場所と方向	撮影時期(想定) (下記*)	撮影時期(想定)の根拠
写真A	松江城天守	本丸内の天守南西側から天守に向け撮影	明治25年8月頃から明治27年6月頃	- 写真B～Dの天守との比較 - 明治6年の博覧会開催 - 明治3、21の修理時の状況とは考えにくく、明治25年8月頃の暴風雨を契機とした明治の大修理に至る状況は写真Aと矛盾しない(松江城関連記事一覧)
写真B	[本丸]天守、武具櫓、多門、[二之丸]御書院、南櫓、御広間、中櫓、半壊した瓦塀覆、[三之丸]表御門(長屋門)、多門(長屋)、[三之丸正面]土橋、道路脇柵、番所	三之丸正面の番所横(南側)道路辺りから天守、二之丸方向に向け撮影	明治3年(1870)～明治8年(1876)、 松江城天守が写る最も古い写真	- 天守以外の城郭施設が残る(少なくとも明治3年3月までは、御作事所が管理しており、それ以降と見做せる) - 二之丸石垣上の瓦塀覆が残っており、写真C、Dより古い
写真C	[本丸]天守、武具櫓、多門、[二之丸]御書院、南櫓、御広間、中櫓、[三之丸]表御門、多門、[三之丸正面]土橋、道路脇柵、番所	三之丸正面の番所横(南側)道路辺りから天守、二之丸方方向に向け撮影	明治3年～明治8年、 松江城天守が写る二番目に古い写真	- 天守以外の城郭施設が残る - 瓦塀覆が失われており、写真Bより新しい
写真D	[本丸]天守、武具櫓、多門、[二之丸]御書院、南櫓、御広間、中櫓、[三之丸]表御門、多門、[三之丸正面]土橋、土橋西端付近の柵	三之丸前番所の北側・土橋西端辺りから天守、二之丸方向に向け撮影	明治8年5月以降か、 松江城天守が写る三番目に古い写真	- 天守以外の城郭施設が残る - 瓦塀覆が失われており、写真Bより新しい。また、建物が解体されつつあり、写真Cより新しい。天守以外の建物が撤去される明治8年の入札直後か
写真E	[三之丸]三之丸表御門、多門、三之丸御広間、御玄関、[三之丸正面]土橋	大手口辺りより三之丸表御門方向に向け撮影	明治3年～明治8年(写真Cと同時期)	天守以外の城郭施設が残る
写真F	[三之丸]三之丸表御門、多門、[三之丸正面]土橋、番所脇(北)の柵、番所、[その他]堀の向に新御殿(初代県庁)	二之丸の石垣上より三之丸表御門方向に向け撮影	明治3年～明治8年	- 天守以外の城郭施設が残る - 番所南道路沿いの柵が見えず、写真B、Cの撮影後、写真Dと同時期か

* 撮影時期は、本文(注6)などで記すように、いくつかの史料を比較することでさらに絞られる可能性はあるが、今後の検討課題としたい。

(いなた まこと 松江市史料編纂室長)
(ふくい まさゆき 松江市史料編纂室専門調査員)

松江城関連記事一覧(稿)

[凡例] 松江城に関わる明治元年～明治27年までの記事を抽出した。典拠は原則記事末に【 】で記したが、明治15年5月発刊の『山陰新聞』については【山】とした。新聞記事は原則見出しを採録し、記事内容記載の場合は要約し、（要約）以下に記述した。同年の記事については年号を省いた。天守に関わると思われるものは太字で示した。[2011年11月福井作成]

西暦（年号）	松江城の出来事
1868 (慶応4・明治元)	・ 1月、松江藩二番八雲丸 西園寺山陰道鎮撫使の嫌疑を受ける ・ 3月、山陰道鎮撫使 松江城入城 ・ 9月、松江藩奥羽出兵を開始(翌年8月まで)
1870（明治3）	・ 3月14日、天守閣屋根の修理が行われる【天守閣木材墨書（昭和三十年松江城天守閣修繕工事報告書）】
1871（明治4）	・ 正月晦日、松江藩より廃城の伺が太政官に提出される【太政類典、定安公伝】 ・ 4月24日、政府の承諾を受け、藩庁から廃城の決定が達せられる【「藩庁通達書」朝日家旧蔵文書（松江市蔵）】 ・ 7月14日、廃藩置県
1873（明治6）	・ 陸軍省と大蔵省の間で松江城の地券発行に関する交渉【陸軍省大日記】 ・ 7月以前、松江城下の有力商人等、5月の出雲大社での博覧会開催を受けて、松江城内での博覧会開催を計画する【博覧会稟告（大野家文書）】 ・ 7月31日、松江城内に於いて小博覧会開設を聴し管内に布達す【縣治要領】 ・ 松江城内の博覧会での出品目録が作成される【出雲松江博覧会物品目録第一號～第七號（根岸家文書）】 ・ 9月失日、士族大野丹小博覧会に式へ撃剣会を興行を請ふ聴さず【縣治要領】 ・ 松江城内で勸業博覧会を行う【松江市誌】
1875（明治8）	・ 5月、松江城城郭施設入札のために広島鎮台は斎藤直演大尉を派遣、天守は高城権八・勝部本右衛門の尽力で保存されたという。その他の建物も月ならずして解き払われた【千鳥城の築造と其城下】、【島根縣史】、【松江市誌】
1876（明治9）	・ 城内に増えた鳥を追ひ払う為、猟銃の持主を雇う願出【太政類典】 ・ 6月～7月宇都宮に駐屯中の斎藤直演大尉軍法会議に掛けられ、8月に降格免官【陸軍省大日記】
1877（明治10）	
1880（明治13）	・ 1月26日、内務省へ旧城内三ノ丸に苗圃開設のため貸渡し照会への返答あり【陸軍省大日記】
1881（明治14）	
1882（明治15）	・ 5月5日、千鳥城 （要約）千鳥城に鶴などが増えて南西より松が枯れて旧観を損ねた。角鹿のため近年鶴の数は減少【5月5日付山】 ・ 9月19日、分営 （要約）松江旧城内に陸軍分営を設置の為、城内の宅地買取の報道【9月19日付山】 ・ 10月30日、二百五十回忌 （要約）松江城開基堀尾忠晴公二百五十回忌、堀尾方善等により執行【10月21日付山】
1883（明治16）	・ 7月10日、土方内務大輔 （要約）土方久元内務大輔、天守閣に登閣し、市内を觀望【7月13日付山】 ・ 7月28日、武官出張 （要約）広島鎮台より士官の松江城検分. 噂によれば多分陸軍所轄の旧城内二の丸を検査の為ならんと 【7月25日付山】 ・ 10月12日、少将来松 （要約）広島鎮台司令官野崎陸軍少将所管地巡視のため11日来松。12日に二の丸天守台を巡視した【10月13日付山】
1884（明治17）	・ 3月9日、流血 （要約）旧暦2月の初午の稲荷詣で、大根島の人々城山稲荷などに参詣し市中を見物した。見物人が急に出血を催した【3月10日付山】 ・ 8月5日、狂犬 （要約）城内に潜む狂犬を突き殺した話。子犬が不憫なこと【8月7日付山】
1885（明治18）	・ 5月23日、鼠賊 （要約）城内で相撲・駆足など遊戯をしていた子どもたちの財布が盗まれたこと【5月26日付山】 ・ 6月15日、中学生徒調練 （要約）松江中学の生徒へは普通体操と陸軍体操との二様を教授さるゝ由なるが尚平素平素歩兵科の調練をなさしめるため、銃砲の借り受け場として城内宇上御殿の地面を以て之に充てる見込み【6月15日付山】 ・ 6月28日、ぶらんこ往生 （要約）城内旧二の丸入口の借地に住む、住人が首つり自殺した【6月29日付山】 ・ 11月2日、長途行軍兵の始末 （要約）広島鎮台第11連隊古志原・上乃木で対抗演習、松江城を陣地とする演習。城内で分列式を行う【11月4日付山】 ・ 11月14日、懲戒も其法あり （要約）一昨夜（14日）、城内で子どもの泣き声、悪さをした子を二の丸に放し置く折檻を行った親を巡査が説諭した【11月16日付山】 ・ 11月中、ボヤ （要約）頃日、旧城内の家でボヤ、早速消し止め大事にはならなかった【11月28日付山】 ・ 12月、謝状及び告諭 （要約）広島鎮台より11月の演習について謝状及び告諭が出される。12月3日に司令官代理歩兵第十旅団長佐久馬左馬太氏謝状、12月22日籠手田知事の告諭が出される。11月3日に城内分列式があったなど演習の日程が出される【12月24日付山】 ・ この年、亀田山一帯が松平家に払い下げられたとの説【島根縣史】

1886（明治19）	・ 2月27日、運動会 （要約）去る二十七日は松江第一中学校師範学校の両生徒一同亀田城山旧二丸跡の芝地に於て旗奪を執行せしが紅白の襷に源平の両陣と分れ最と花々しきことなりし由【3月1日付山】 ・ 3月20日、第二回運動会（要約） 二の丸跡で松江中学・師範学校第二回運動会【3月23日付山】 ・ 4月21日、亀田城の保存 （要約）籠手田知事、21日に松江士族授産の件について士族総代と会見。会見で亀田城の保存についても取りあげる。松江城天守閣の追年破壊し居て周囲は草茫々恰かも狐狸の巢窟となれるのを修繕を加へて公園と為し一は山陰一城の天守閣を存置し一は以て各種の共進会場に充る時は幾分か市街の盛況を来すならんと粗は計画せられるとかいふ【4月24日付山】 ・ 4月23～25日、馬会 （要約）城内二の丸米倉跡で馬会。この日が最終日【4月24日付山】 ・ 5月3日、市街各学校連合運動会 （要約）市内各小学校、二の丸米倉跡で連合運動会【5月6日付山】 ・ 11月中旬、行軍来着 （要約）（続）陸軍による演習で松江城が陣地として利用される。兵員の観閲などに用いられる【11月16日付山】 ・ 11月18日、籠手田知事、西南戦争記念碑を城内に建設するに辺り外中原清光院の集会で演説 【史料 県令籠手田安定 II】 ・ 11月27日、旧二丸の馬匹会 （要約）旧二丸の馬匹会は予ては一昨日よりの筈なりしかと生憎同日は雨天にて休会し昨日いよいよ早朝より馬も人も群集し終日ハイドウの声を絶ざりし又本日は競馬をもするとのことなれば往て五覧【11月28日付山】 ・ 11月28日、競馬 （要約）二丸馬匹会にて計画通り競馬あり【11月30日付山】
1887（明治20）	・ 3月27日、戦死者記念碑 （要約）計画中、建設の位置は旧二の丸武具方辺【3月27日付山】 ・ 4月2日、亀田城 （要約）この度鎮台から本県へ引き渡しにつき、城内の荒廃を伝える。枯れ木の払い下げ、天守の金唐銅等を外すなど、紛失物。取締りを兵事課へ上申する【4月2日付山】 ・ 4月6日、城地主管方 （要約）城地の県への引き渡すと同時に以前の番人廃止、今度兵事課にて旧三の丸跡を監獄へ貸し与えることにより當城地総体の主管方を當監獄へ依頼されたるやに聞く【4月6日付山】 ・ 4月8日、明9日、学校生徒大運動会演技 （要約） 旧二の丸操練場にて尋常師範中学と附属小学校生徒一同による演技運動を催すとのこと。雨天順延。勅令・小学校令公布記念【4月10日付山】 ・ 4月26日、馬会 馬会 （要約）松平伯来松により旧藩主を慰めるため二の丸で馬会を開く計画（5月4日まで準備の記事あり）【4月26日付附録山】 ・ 5月2日、馬会 （要約）旧二の丸跡の馬会の詳報【5月4日付山】 ・ 5月8日、馬会 （要約）四日の馬会の詳報【5月8日付山】 ・ 5月12日、公園地に確定す （要約）旧城内を公園地とする噂。いよいよ確定せし趣で、城内の作付等を取り払うことになりしと【5月14日付山】 ・ 5月、広告 （要約）松平直亮氏帰京につき、19日旧二の丸練兵場に於いて出雲士族が奉送会を行う記事と広告。（当日の報道は新聞欠）【5月16日付・5月18日付山】 ・ 5月18日、松江諸堀禁漁 （要約）松江市街内堀と称する線内（本日の広報、京橋川尻旧御船屋鼻と南田町大橋氏の邸横與方川口迄北田町にては杉原橋迄西は四十間堀迄に限り水門外小字波戸サキ迄北は北堀町渡橋限りにして概ね旧藩政頃の禁漁場線内に異ならないように思われる）【5月18日付山】 ・ 5月頃、築堤の挙 （要約）旧三の丸南堀の畑作を撤去し石垣際に新堤を築き樹木を植える工事を着手【5月18日山】 ・ 6月14日、山川浩氏来松 （要約）高等師範学校長山川浩氏、来松。昨日（14日）旧二の丸師範中学生徒の練兵場に臨み、同生徒の練兵を一覧【6月15日付山】 ・ 8月22日、松江城貸渡済の義に申進 （要約）広島鎮台監督部長柴直言から陸軍大臣大山巖へ旧松江城并に天守櫓等該県士へ貸渡之義について許可の書類を交わしたことを報告する【陸軍省大日記 簿冊明治20年編冊各監督部】 ・ 9月3日、車行開けり （要約）旧城内東惣門より中原口へ通ずる道路の修繕落成した【9月3日付山】 ・ 9月5日、記念碑建立請負人 （要約）記念碑建立請負人原正次郎氏、同建立の取調で馬関、多度津、広島、大坂へ出発【9月5日付山】 ・ 9月16日から21日、馬会 （要約）城内二の丸師範学校附属操練場で秋季馬会開催。（20日までの予定が一日日延べ）【9月17日付山】 ・ 9月28日、馬会 （要約）馬会更に一日日延べし、28日乗馬、競馬、打毬を行う【9月27日付山】 ・ 10月19日、記念碑着手 （要約）城内の記念碑の建設着手【10月19日付山】 ・ 10月19日、測候所 （要約）測候所を旧二の丸近方に建設の噂【10月19日付山】 ・ 10月22・23日、広告 （要約）産牛競進会 母衣町原文平発起の畜牛競進会を松江城内で開催【10月21日付山】
1888（明治21）	・ この年 天守閣修理 籠手田知事松の記念植樹を行う【旧藩事蹟】 ・ 1月8日、城内紀年碑 （要約）津和野藩の旧藩主亀井滋明氏・福羽美静氏城内記念碑に寄贈なりたる由【1月8日付山】 ・ 1月20日、義捐金 （要約）記念碑建設で千家尊福氏寄付【1月20日付山】

- ・ 1月20日、城内池底の木砲 （要約）紀年碑建築中に側の池水を抜いたところ数十の木砲を発見【1月20日付山】
- ・ 2月19日、紀年碑工事の景況 （要約）亀田城の紀年碑工事の景況の記事【2月19日付山】
- ・ 2月23日、鎮台兵来松の期日 （要約）城内紀年碑式典のため広島鎮台兵の来松のこと【2月23日付山】
- ・ 2月25日、紀年碑見物 （要約）城内紀年碑の建設現場に見学者が多く集まる【2月25日付山】
- ・ 3月4日、銅碑柱 （要約）城内二の丸の紀年碑工事の見学に関する記事【3月4日付附録山】
- ・ 3月6日、倶楽部 （要約）城内に殿町有志俱による倶楽部設置の許可がでたとの記事【3月6日付山】
- ・ 3月10日、劇場 （要約）城内二の丸入口、惣門突き当たり付近に劇場を建設する願が出された【3月10日付山】
- ・ 3月24日、紀年碑建設事務所 （要約）此の中より着手せる城内紀年碑建設場の東石垣際へ新築の一棟は同建設事務所にして開所式が行われたよし【3月26日付山】
- ・ 3月24日、初午の景況 （要約）天主閣の縦覧を許され天守の絶頂には誰の心付にや三個の双眼鏡を備へありしものから郷中の人々は始めて天主閣へ登りたるものも見渡す限りの絶景を眺め、午前10時より午後5時まで登閣の男女千人以上あり、天主閣保存費中への寄付金として二銭以上の登閣料を徴せし惣額13円なにながしと云うものなりし、紀年碑工事にも見学者が多くあった【3月26日付山】
- ・ 3月26日、城内の畑地 （要約）城内天主台並に三ノ丸等にある松江監獄附属の畑地は、本年の作付限にて陸軍へ返納する筈なりと【3月26日付山】
- ・ 3月27日、天主閣の修繕 （要約）3月27日より天守閣修理。雨漏を繕ひ置かんと議【3月28日付山】
- ・ 4月5日、登松江城址観松平直政公手栽松有感 （要約）山下楓庵、城山に登城し、松平直政手植の松を題に漢詩を読む【4月5日付山】
- ・ 4月9日、紀年会 （要約）尋常師範学校旧二の丸総連場で同校の創設日にあたり記念会を開催【4月11日付山】
- ・ 4月13日、実地演習の方略 （要約）今月下旬に広島鎮台21連隊第一大隊が松江城内で実地演習、敵軍役に師範学校生と中学校生徒を充て籠城兵に扮する、市内開業医を軍医に充てる予定である【4月13日付山】
- ・ 4月13日、天守閣縦覧 （要約）客月24日以来天守閣の縦覧は1600名余、寄附金20円と雨漏り修繕費として若干の寄附金があった【4月13日付山】
- ・ 4月15日、鎮台兵の行軍 （要約）鎮台兵の行軍は中止との報道【4月15日付山】
- ・ 4月15日、弥生の節句 （要約）旧暦の弥生の節句で天守閣に登る人が273人に及んだ【4月15日付山】
- ・ 4月14日、城内の仮屋 （要約）亀田城本丸、二ノ丸に仮屋を建て飲食に供する店は多くなる見込みだが、天主台（本丸）での許可が料理屋・すし屋、菓子屋など10人ばかりに許可が出された【4月17日付山】
- ・ 4月17日、建碑式の予定 （要約）来月6日に西南戦争記念碑の式典の予定【4月17日付山】
- ・ 4月21日、紀年碑式のこと （要約）記念碑式の記事【4月21日付山】
- ・ 4月27日、大沼少将 （要約）来月5日に城内での記念碑式、招魂祭臨席のため来松する【4月27日付山】
- ・ 4月27日、産牛競進会 （要約）二の丸で畜産競進会開催【4月29日付山】
- ・ 4月29日、武官来松 （要約）来松する大沼少将の続報【4月29日付山】
- ・ 5月、広告（要約）松江城山紀年碑記事 西南戦争記念碑の式典、天守も会場。・（5月～10月まで天守閣を入々が縦覧する記事）【明治21年5月3日付山】
- ・ 5月27日、天守閣縦覧人 （要約）平均70～80人の天守閣縦覧人があった記事【5月27日付山】
- ・ 5月29日、松江城山 （要約）天守閣修繕の企てあり、雨露を凌がんとための仮修繕があり、今度弥本修繕に着手し、頂上の間より修繕し四方の物見窓をば悉皆硝子窓に仕込む都合、又、大弓場と室内射的場を設置する由、（城山公園化について）【5月31日付山】
- ・ 5月31日、松江大隊区本部 （要約）三の丸に松江大隊区本部建設の風聞【5月31日付山】
- ・ 6月14～16日、奉納浄瑠璃 （要約）城内二の丸で奉納浄瑠璃の開催の記事【6月16日付山】
- ・ 6月22日、天守閣の土上げ （要約）修繕中の天守閣に旧藩士族による【6月24日付山】
- ・ 6月25日、天守閣の土上げ （要約）この日第二回目の天守の土上げを行う筈【6月24日付山】
- ・ 6月26日、火薬取締規約違反 （要約）この日5月6日の建碑式で花火を打ち上げた士族に対し、火薬取締規則違反の告発があったが、無罪判決が出される【6月28日付山】
- ・ 6月27日、荒川新一郎氏 （要約）農商務省技官荒川新一郎氏が城山に上がる【6月28日付山】
- ・ 7月1日、2日、馬会 （要約）二の丸で馬会を開催【7月2日付山】
- ・ 7月14日、白昼狐を飛ばす （要約）三の丸の畑に白昼狐が現れる【7月16日付山】
- ・ 8月9日、城山の白首 （要約）城山において、密会する者を揶揄する記事【8月9日付山】
- ・ 8月22～23日、芝居と相撲 （要約）城山二の丸にて22～23日に角力興行のこと【8月19日付山】
- ・ 8月27～28日、紀年碑奉納焼香角力 （要約）城内二の丸にて記念碑焼香奉納相撲の開催【8月27日付山】
- ・ 9月5～6日、天守閣縦覧人 （要約）5日200余名、6日350名ばかり武内神社の例祭の影響か【9月8日付山】
- ・ 9月26日、二ノ丸の馬会 （要約）来月6日より3日間城内二の丸において馬会開催。品評会の計画【9月26日付山】

	・10月2日、旧城拝借の相談（要約）松江城拝借の相談。母衣町尋常小学校において、その目的は天守閣その他の旧観保存と他日廃城の場合速やかに払い下げを願うこと【10月2日付山】 ・10月2日、土族会（要約）亀田城拝借論の続報。松江城の旧観保存を話し合い 借受は見合わせ、天守閣破損修繕の道を立てることとしてその費用予算は二千元にて之を義捐する事に為し【10月4日付山】 ・10月4日、射的場（要約）城内二の丸に近々中学校・師範学校のため射的場設置【10月4日付山】 ・10月6～8日、城内二ノ丸の馬会（要約）予定通り城内二の丸の馬会の開催される。本日8日乗馬会【10月8日付山】 ・10月14日、城山記念碑の賊（要約）城内の西南戦争記念碑の碑文剥奪事件【10月16日付山】 ・10月20日、城内の仮屋（要約）城内の仮屋について設置の許可がなされた【10月20日付山】 ・10月20～21日、学生体育大会（要約）松江城内操練場において【10月22日付山】 ・10月21日、昨今ノ両日、旧城内ニ於テ松江市街近傍諸学校生徒凡ソ四千余名ノ大運動会ヲ開ク（予、審査係）。【西田千太郎日記】【10月4日付山】 ・10月24日、島根赤十字社の祭典（要約）松江城内で赤十字社紀年惣會の開催の記事【10月22日付山】 ・10月26日、赤十字社の紀年祭（要約）松江城内で赤十字社紀年惣會を開催。天守閣内部で旧藩主の甲冑類、人形を展示し人々に縦覧させる。天守閣修理の寄附金5円93銭集まる【10月24日付山】 ・10月26日、赤十字社紀年祭典（要約）当日の概況。天主閣天狗の間には福島正則蜻蛉形の具足、妙珍作の具足、旧松江藩主の具足、隠岐国音無松の松皮等を飾付け二層閣には繻帯人形数個を飾りありて当日の登閣人員は五百九十三名に及び之が寄付金（天主閣修繕の爲め）は則ち五円九拾三銭なりしとのこと【10月28日付山】 ・10月29日、千鳥城保存有志会（要約）母衣町小学校において、千鳥城保存について相談を行われたこと。総代5名、土族有志814名（内発企者73名）天守保存費用を旧藩主家から藩士へ寄贈の事業費3000円から充てるとの話を躊躇する物言いの記事【11月1日付山】 ・11月5日、千鳥城保存の事（要約）千鳥城保存には寄附金を用いるとの追加訂正記事【11月5日付山】
1889（明治22）	・2月7日、来る十一日（要約）来る11日二の丸連兵場にて尋常中学・師範学校両校生徒の観兵式を行う【2月7日付山】 ・2月11日、一昨十一日市中の景況（要約）11日に大日本帝国憲法発布の記念祝賀会が城山記念碑前で行われた【2月13日付山】 ・3月11日、二ノ丸公園（要約）二の丸公園は昨年以來数多の名樹の植付がなされ桃櫻が殊に多いが、花木の植樹が再びなされ、梅の寄贈が多いこと【3月11日付山】 ・3月21日、射的場（要約）城内元武具方跡に仮設の射的場があるが、師範学校惣練場より一段高い位置に新設し、整地作業の開始がなされている【3月21日付山】 ・3月27日、義捐者紀年碑（要約）城山西南戦争記念碑の横に義捐者記念碑を建設し、先般来着手し、来5月5日を期して成功の見込み、籠手田知事の撰文を紹介する【3月27日付山】 ・4月3日、天主閣の大写真（要約）天守閣に昨年の憲法発布の記念観兵式の大写真を展示すること。このところ天守閣縦覧人毎日百二三十人【4月4日付山】 ・4月12～14日、産牛競進会（要約）二の丸での畜産競進会に一五六頭の出展【4月14日付山】 ・4月13日、新山莊輔氏（要約）宮内省主馬寮技師、新山莊輔氏昨日（13日）、城内二の丸で開かれた畜産競進会に臨席し、本日（14日）帰京【4月14日付山】 ・4月14日、桜と桃（要約）櫻と桃の花の見頃（菅田、城山内など）【4月14日付山】 ・4月14日、紀年碑一週年祭の延期（要約）義捐者紀年碑の工事遅れにより延期【4月14日付山】 ・4月14日、二ノ丸射的場（要約）一昨日（14日）開場式、二の丸射的場で旧藩弓術師範の模範演技見学者多数来場【4月16日付山】 ・5月8日、招魂祭（要約）城内二の丸記念碑前での招魂祭、今年天台宗の執行【5月8日付山】 ・5月28日、旧城払下の議（要約）陸軍省所轄に属する全国各地の旧城の内、不用の分を払下くるやの風聞あるより。陸軍省に於いても旧城主たりし人の願は特別を以て聞届けなるべく定価を以て旧城主へ払下くるやの説【5月28日付山】【籠手田】 ・5月28～29日、馬会（要約）一昨日（28日）より城内二の丸操練場にて乗馬会の開催【5月30日付山】 ・6月2日、市会議員の懇親会（要約）昨日（3日）の臨時市会後、市会議員の懇親会が城山二松亭で開かれる【6月3日付山】 ・6月5日、送迎会（要約）前号での城内での懇親会は送迎会の誤り、大野郡長ら6名の送迎会との訂正【6月5日付山】 ・6月7日、殿町の露店（要約）殿町より城山へ街灯を設置する計画【6月7日付山】 ・6月16日、会（要約）昨日（16日）末次外4町の有志130余名元戸長を城山二松亭に招き慰労会を開催【6月17日付山】

	・ 8月2日、軍馬検査 （要約）一昨日、帯松中の松永歩兵少佐二の丸操練場において軍馬検査を行う【8月4日付山】 ・ 8月6日、天主閣の収入 （要約）1月から4月まで大凡毎月四千人（四十円）、5～6月平均千五百人（十五円）、7月、七百人（七円）8月は日々平均三十人【8月6日付山】 ・ 8月28日、ホテルの必要 （要約）松江に外国人及び内国人の到来を促すためホテルを設置する意見の中で設置候補地に城山その他の意見をあげる【8月28日付山】 ・ 9月9日、一昨夜の月 （要約）一昨日、夜晴れていたため月がきれいで城山公園其他に歩く人が多かった【9月11日付山】 ・ 9月10日、大弓の大会 （要約）昨日（10日）二の丸弓場で弓道大会【9月11日付山】 ・ 9月11日、天守閣登閣人数統計 （要約）8月中768名にして登閣料7円68銭、本月に入ってから一日二三十人位【9月11日付山】 ・ 9月15日、軍馬購買委員 （要約）軍馬購買委員が来26日来県し、来27日に城内において軍馬の検査を行うとのこと【9月15日付山】 ・ 9月27日、城山公園諸門閉鎖時限 （要約）城山公園の諸門是迄午後10時限り閉門の処此頃より同12時限りに改たむ【9月27日付山】 ・ 9月27日、内藤少佐の一行 （要約）本日二ノ丸に於ける馬匹検査を終えると仁多郡へその後、30日松江經由で帰京という【9月27日付山】 ・ 9月28日、軍馬購入 （要約）昨日（28日）二の丸で軍馬検査、馬二頭を購入【9月29日付山】 ・ 9月29日、旧城弛の地価 （要約）陸軍省所轄の旧城地の内、今回払い下げ21城に松江城も含まれる。松江城に関して松平家と県知事との間で話し合いがもたれた【9月29日付山】（10月中地価関係の記事） ・ 9月28～29日、馬会 （要約）昨日馬会の様子と本日も城内練兵場で馬会の開催【9月29日付山】 ・ 10月1日、書記官亀田城の払下を周旋す （要約）亀田城払い下げについて某書記官が周旋するとの記事。北堀町の商人達が買受けを願う（次号続）【10月1日付山】 ・ 10月1日、馬会 （要約）一昨日（9月29日）の城内馬会の続報【10月1日付山】 ・ 10月9日、松江城の評価 （要約）いよいよ松平直亮氏が旧松江城の払い下げを請願する。来十四五日に軍吏の調査【10月9日付山】 ・ 10月12日、松江浜田両城の評価 （要約）第五師団米川氏一昨日（11日）来松し、昨日（12日）評価人と今度払い下げの松江城の評価調査。本日は右評価のため滞在。明日浜田城へ赴く【10月13日付山】 ・ 10月15日、旧松江城の評価 （要約）松江城の評価は今後陸軍大臣へ報告され、払い下げ代価の掲示がある手続きとなる【10月15日付山】 ・ 10月19日、松江城の坪数 （要約）旧松江城払下に付今度其城地坪数を取調べられし処ろ平地八千六百六十九坪余、山地三万五百六十二坪余、堀池二万三千三百八坪余、建物二百一十一坪余、立木尺廻り以上千五百五本なりしとの事【10月19日付山】 ・ 10月29日、松江城の付属 （要約）法吉村の旧火薬庫敷地も払い下げ城地に付属するという【10月29日付山】 ・ 10月29日、乗馬教習会 （要約）北堀町の貸馬業者が来月から二の丸内で乗馬講習会を行う【10月29日付山】 ・ 11月3日、昨日の祝事 （要約）天長節と立皇太子式の祝い、城山で師範学校生徒の分列式。市民の祝宴会も開かれた【11月4日付山】 ・ 11月6日、城山天守閣の閉鎖 （要約）千鳥城天守閣の縦覧はいよいよ本月限りにて差止むる事となる由なるが近日の登閣者は平均二十人位にて去る三日天長節当日には百余人に及びたりとの事又去十月中の登閣人員は八百九十三人にて此の登閣料八円九十三銭なりき【11月6日付山】 ・ 11月6日、溝部第二部長 （要約）松江旧城山払下の件で第5師団へ出張していたが、一昨日（6日）帰松した【11月8日付山】 ・ 11月10日、城山の歌舞音曲 （要約）なるべく控えるようにとの内命、払い下げに決したので再び行われるようになった【11月10日付山】 ・ 11月14日、軍人会 （要約）出雲軍人会を亀田山城内で開催の計画【11月14日付山】 ・ 11月20日、変死 （要約）一昨日（20日）未明城山稲荷に参拝の老女二の丸内の古井戸に落ちて死亡【11月22日付山】 ・ 12月29日、切腹 （要約）城内に居住する男、自宅内で切腹する【12月30日付山】
1890（明治23）	・ 松江城払い下げに関する書類 （22年11月～23年3月）【陸軍省大日記】 ・ 1月16日、励志会 （要約）市内有志による勵志会の発会式の準備、来20日に城山二松亭で発会式を起こす予定【1月16日付山】 ・ 1月20日、励志会の発会式 （要約）一昨日（20日）、勵志会の発会式が城山二松亭で举行された【1月22日付山】 ・ 3月19日、旧城払下 （要約）亀田城（松江城）が旧藩主松平家に4500円で払い下げとの報道【3月19日付山】【松江日報】

	・ 3月31日、城山公園 （要約）城山公園昨今は桃花満開にして相当の遊覧者あり【3月31日付山】 ・ 4月10日、尋常師範学校生徒の打毬会 （要約）一昨日（10日）二の丸練兵場で尋常師範学校生徒打毬競争を行う【4月12日付山】 ・ 4月14日、紀年碑 （要約）亀田城城山に建設中の記念石碑は完成し、本日より台座に据え付け着手する【4月14日付山】 ・ 4月14・16・18・20日、（要約）広告 来る5月5日旧松江城山において西南之役雲石隠戦死者臨時招魂祭施行。取り扱い城山事務所【4月14～20日付山】 ・ 4月18日、城山招魂祭（要約） 城山での西南之役雲石隠戦死者臨時招魂祭は来月4日に変更、日曜日のため参拝者の都合の故【4月18日付山】 ・ 4月22日、招魂祭 （要約）城山での招魂祭は5月4日5日の両日開催4日神式、5日は仏式七宗による開催【4月22日付山】 ・ 4月22日、広告 （要約）来る5月4日・5日旧松江城山において西南之役雲石隠戦死者臨時招魂祭施行。4日神式、5日仏式とする【4月22日付山】 ・ 4月24日、広告 （要約）来る5月4日・5日旧松江城山において西南之役雲石隠戦死者臨時招魂祭施行。4日神式、5日仏式とする【4月24日付山】 ・ 4月26日、広告 （要約）来る5月4日・5日旧松江城山において西南之役雲石隠戦死者臨時招魂祭施行。4日神式、5日仏式とする【4月26日付山】 ・ 5月4～5日、招魂祭の景況 （要約）5月4～5日の城山招魂祭について、特別招待者城山二松亭で饗応、操練場にて角力、競馬の余興も行われる【5月6日付山】 ・ 5月15日、松浦伯 （要約）来松中の松浦伯爵一行の予定。昨日（15日）午前は天守閣に登り午後松江に所在する松平家の宝物を縦覧する【5月16日付山】 ・ 6月29日、監獄畑 （要約）三ノ丸跡の島根監獄附属畑に過日、盗人が入るが、一昨日も盗人を番人が追い回した所、堀に飛び込み、番人が騒いだ隙に逃走した【6月29日付山】 ・ 10月25日、旧二ノ丸ニ於テ松江及近傍諸学校連合大運動会举行【西田千太郎日記】 ・ 10月25日、体育会に関する某教育家の談話 （要約）旧城内二の丸跡操練場にて某教育家の体育会に関する講演会【10月25日付山】 ・ 10月25日、昨日体育会の模様一斑 （要約）昨日（25日）の私立教育會主催の体育会は、二の丸跡操練場において開会、旧追手門跡と会場入り口に旭日旗を交差させる。来賓、出場者の記事を書ける【10月26日付山】 ・ 10月28日、体育会演技に付き師範学校生徒の憤懣 （要約）25日城山での体育会について師範学校生徒の憤懣の記事。（強制参加の場合ボイコットする考えの意を書ける）【10月28日付山】 ・ 11月9日、紅葉便り （要約）城山の裏手など（現在の市内各所）紅葉が盛りであることを伝える【11月9日付山】 ・ 11月15日、ヘルン氏にはあらざるか （要約） 客月25日城山での体育会と天長節の景況について近着の横浜メーブル新聞に今月3日付松江発書簡で紹介される記事はヘルン氏によるものか【11月15日付山】 ・ 11月21日、松江市会議員市参事会員収入役 （要約）来る25日帝国議會招集にあたり城山で大祝賀会を行う予定。発起人松江市会議員、収入役など市職員を主体【11月21日付山】 ・ 11月22日、当市国会祭の準備 （要約）前号に載せた国会祭の続報。城山の記念碑前で行うなど【11月22日付山】 ・ 11月28日、広告 （要約）旧松江城山において29日午前九時参集、午前10時開式で帝国議會開会祝宴を行うこと【11月28日付山】 ・ 11月29日、広告 （要約）旧松江城山において29日午前九時参集、午前10時開式で帝国議會開会祝宴を行うこと【11月29日付山】 ・ 11月29日、市内の国会祭 （要約）市内城山紀年碑前での国会祭の様子【11月30日付山】 ・ 12月14日、大弓忘年会 （要約）二ノ丸射的場にて本日開催【12月14日付山】 ・ 12月16日、二松亭の紳士 （要約）県会議員、議長案内にて城山二松亭に集まる。（慰労の集まりらしい）【12月16日付山】 ・ 12月17日、地租軽減の請願を為さんとす（要約） 前号で紹介した県会議員が城山二松亭に集まった理由は、慰労会に非ず、地租軽減の請願の為の集会とのこと【12月17日付山】 ・ 12月20日、白波 （要約）一昨々日（20日）夜半、南北殿町の境で窃盗、賊は城山方面に姿を消す【12月23日付山】
1891（明治24）	・ 1月14日、杜騙 （要約）寸借詐欺容疑の人物、城山の記念碑を拝みに赴く途中で警察に捕縛される【1月14日付山】 ・ 1月16日、乞食の所為なるか （要約）過日来城山二松亭で毎夜勝手に火を用い、煮炊きするものあり【1月16日付山】 ・ 3月10日、送別会 （要約）一昨日城山二松亭で今度高等師範学校入学を許された尋常師範学校訓導斎藤弥作氏のため師範学校生徒の送別会が行われた【3月10日付山】

- ・ 3月11日、消防演習 （要約）昨日、松江市役所は城内二の丸に市内消防組を招集して市職員立ち会ひの下消防演習を行う予定であったが二組のみの参加で、後日再び招集すること【3月12日付山】
- ・ 3月20日、三条故内府の追悼祭 （要約）来29日城山において故三條内府（三条実美）の追弔会を行う【3月20日付山】
- ・ 3月21日、広告 （要約）29日三條大勲位の追悼祭を城山に於いて挙行す。当日午後2時より【3月21日付山】
- ・ 3月23日、○鳥取県技師（中学校長囑託）石田二男雄（理学士）中学校ニ来訪、相伴フテ架橋中ノ大橋上下ヲ巡覽シ又城山ニ行キ天主閣ニ登リ、末次遊園松勢水亭ニテ斎藤氏等四、五名ト共ニ石田氏ノ為メニ懇親会ヲ開キ、【西田千太郎日記】
- ・ 3月24日、広告 （要約）29日三條大勲位の追悼祭を城山に於いて挙行す。当日午後2時より【3月24日付山】
- ・ 3月27日、ヘルン氏の狐 （要約）ヘルン氏散歩の際に或稻荷社の奉納狐に興味を持ち、城山稻荷など市内各所の狐像の写真を殿町の写真家森田禮造氏に撮影を依頼する【3月27日付山】
- ・ 3月29日、故三条公追悼祭 （要約）一昨日（29日）城山において挙行された三條実美追悼祭の詳細【3月31日付山】
- ・ 4月28日、松江婦人衛生会 （要約）松江婦人衛生会は来月3日午前11時城山二松亭で撮影を行う【4月28日付山】
- ・ 5月15日、籠手田氏の送別会 （要約）来19日、城山において前島根県知事籠手田安定氏の送別会を行うこと【5月15日付山】
- ・ 5月16日、広告 （要約）松江城山において旧島根県知事籠手田安定氏の送別会を行う。発起人名簿に高城権八の名前も見える。 当日の新聞には送別会を中止するべきとの記事もみえる【5月16日付山】
- ・ 5月30日、朝ヘルン氏方ニ井上氏（井上円了）ニ逢フ。午后同氏中学校ニ来リ相伴フテ天守閣ニ登ル【西田千太郎日記】
- ・ 6月26日、大弓会 （要約）去21日に開催の城山での大弓会は雨天のため28日に開会【6月26日付山】
- ・ 7月7日、市役所建築位置の模様 （要約）去土曜日の懇親会で市役所設置の候補地に三丸跡の松平家所有地内を借受けんとする説が出された【7月7日付山】
- ・ 7月7日、知事末松氏を訪ふ （要約）一昨日（7日）篠崎知事は午後7時頃腕車で城山公園内を散策し、帰路片原町に滞在中の末松謙澄氏と数時間に亘り会談する【7月9日付山】
- ・ 7月14日、練兵演習 （要約）本日篠崎知事は、尋常師範学校生徒の英仏両体操を一覧するため、午前7時より二の丸練兵場において観兵式および体操を挙行する【7月14日～15日付山】
- ・ 7月13日、師範学校卒業生の写真 （要約）一昨日（13日）城山において師範学校卒業生の撮影。凡日本服と兵児帯の出で立ちであった【7月15日付山】
- ・ 7月16日、ヘルン氏ヲ訪ヒ、フロレンツ氏ト伴ヒ天主閣ニ登リ、市中散歩、望湖樓ニ同氏ノ饗ヲ受ク【西田千太郎日記】フロレンツ氏大学教師・ドイツ人【7月8日付西田千太郎日記】
- ・ 7月18日、中学校卒業証書授与式ヲ了シテ教員及卒業生一同城山ニ撮影ス【西田千太郎日記】※城山二本松下で撮影【西田千太郎日記所収写真】
- ・ 7月19日、当中学校教員卒業生の写真 （要約）昨日卒業証書授与式の後中学校教員および卒業生一同は城山記念碑前において卒業写真の撮影【7月19日付山】
- ・ 8月19日、城山記念碑に参詣者多し （要約）賽銭箱設置、祈願に百度千度参りなど【8月19日付山】
- ・ 8月20日、城山大弓場 （要約）一節は野合場になっていたが、近頃毎夜寝泊まる者あり、番人が戸締まりするが、石垣など平気でよじ登る【8月20日付山】
- ・ 8月30日、一昨夜の月（世俗来迎） （要約）一昨夜の月。弥陀三尊の来迎を拝せんと城山などにも出向く者多い【9月1日付山】
- ・ 9月13日、実業家懇話会 （要約）本日実業者農話会を城山二松亭にて開会。、品評会、講話を開くこと【9月13日付山】
- ・ 9月13日、実業者農話会 （要約）一昨日（13日）城山二松亭にて開催の実業者農話会について、40余名出席。講話や農作物品評会を行ったこと【9月15日付山】
- ・ 9月14日、昨日の暴風彙報 （要約）城山公園二松亭前の2喬。直政公手植えの松が折れる【9月15日付山】
- ・ 9月29日、広告 （要約）旧松江城内二の丸 松木壱本、但し目廻し八尺。入札の上売却10月2日に限り城山事務所に入札。松平家家従【9月29日付山】
- ・ 9月30日、広告 （要約）旧松江城内二の丸 松木壱本、但し目廻し八尺。入札の上売却10月2日に限り城山事務所に入札。松平家家従【9月30日付山】
- ・ 10月23日、市長の調停 （要約）昨日（23日）、市内魚鳥会社の紛議の調停を城山二松亭において福岡世徳市長が原告総代人を招いて行うが、調停成らず【10月24日付山】
- ・ 11月10日、市内小学校の聯合大運動会 （要約）本日市内五尋常小学校は連合運動会を二の丸において行ふ。雨天順延【11月10日付山】

	・12月1日、県会議員中の民党組織（要約）近日中に県会議員（県内の自由党・改進黨）城山二松亭に集まり、民党組織を結成する計画【12月1日付山】 ・12月20日、愛國敢為会（要約）殿町二の丸公園内の坂口某宅にて愛國敢為会を開く。毎月5回演説会を開き耶蘇教の聖書を攻撃し、同教が雲國に与える影響を論じ、機関誌「本魂」を発行すると伝える【12月20日付山】 ・12月20日、出雲農会（要約）一昨日20日城山二松亭で第二回出雲農会を開催した。出展数、参加者など【12月22日付山】
1892（明治25）	・3月6日、広告（要約）旧松江城内二の丸 松木一本、本月10日入札の上売却、城山事務所にて入札を差出す【3月6日付山】 ・3月8日、広告（要約）旧松江城内二の丸 松木一本、本月10日入札の上売却、城山事務所にて入札を差出す【3月8日付山】 ・3月13日、松の操（要約）昨秋の暴風で折れた松江城内二の丸跡の松を殿町の川津佐太郎が代金で入札。直政手植えの松と伝わり、額面を挽いて楽山神社に奉納する素志があるとのこと【3月13日付山】 ・3月31日、広告（要約）之を見ざる者は野蛮の人なり 米国エジソン氏発明の蘇音機が到着し、30日から3日間、城山二松亭において展示する【3月31日付山】 ・4月3日、多々納氏の蘇音器（要約）城山二松亭で縦覧した多々納氏所有の蘇音器は昨日閉場。今後別の場所で貸し出し縦覧するという（学校などの縦覧に供する用意）【4月5日付山】 ・4月6日、城山稲荷の足高行（要約）十三年に一度の（ホーランエンヤ）ノ準備など【4月6日付山】 ・4月6日、緊急広告（要約）松江城山稲荷神社社務所より當社神幸にあたって寄附を求める人物に注意する事【4月6日付山】 ・4月9日、寄付金詐欺の義を以て拘引（要約）城山稲荷神社神幸に際して、詐欺の儀で拘引【4月10日付山】 ・4月20日、羽左田太田両氏の送別会（要約）昨日（20日）城山二松亭にて午後送別会を開く出席者福岡市長、高橋助役。各学校訓導等50余名。渡辺寛一郎氏の別辞朗読など【4月21日付山】 ・4月21日、射的複た行はる（要約）城山の射的場はこの頃毎日盛況。籠手田知事の盛んにした作用故か【4月21日付山】 ・4月23日、生馬生徒の運動会（要約）昨日（23日）島根郡生馬尋常小学校男女生徒一同、城内の櫻花を一覧し、同所で写真を撮影し、帰途菅田村有澤山荘で運動会を行う【4月24日付山】 ・4月28日、松江祭（要約）織原万次郎、和田正幸、吉田次郎等諸氏の発起人は、爾来年1回城山において招魂祭を行い、今後楽山神社をこの地に移転し、松江祭として市人一同相祝う計画がある【4月28日付山】 ・4月29日、松江祭に付き（要約）昨日記載の松江祭について不日準備のため城山二松亭において各町の有志が準備会を行う。また、発起人は福岡世徳、清原宗太郎、松本観次郎、原源蔵の四氏【4月29日付山】 ・4月中、千鳥城の修繕（要約）亀田山千鳥城の天狗間丈の修繕を行い余りは追々執り行ふ。4月よりその一部分の修繕に着手する【3月15日付山】 ・5月1日、ヘルン氏所望の写真（要約）中学校元教員のヘルン氏が当市に書状を寄せて、今度米國シカゴ博覧会で出品の材料とするため松江母衣尋常小学校の女子一・二年の生徒の写真を送る願ひにつき、その依頼に応じ、生徒一三人を連れ、城山で写真を撮影する【5月1日付山】 ・5月7日、松江祭（要約）松江祭の計画について。城山公園に楽山神社を遷座する。祭日には城山で相撲、弓馬の大会を催すなど【5月7日付山】 ・5月7日、城山稲荷の足高行き（要約）14日から【明治25年5月7日付山】 ・5月7日、杵築八雲会（要約）昨日（7日）城山二松亭で開催。神門郡杵築の出身者と学生による会。今後1回開催とのこと【5月8日付山】 ・5月10日、松江祭委員会（要約）昨日（10日）開催の松江祭委員会で、福岡世徳市長発行人総代として趣旨説明し、猪服定重氏から天守閣を日本の美術として保存したいとの演説が行われる【5月11日付山】 ・5月11日、神幸式に就ての争論（要約）城山稲荷神幸式での争論があった【5月11日付山】 ・5月13日、寄書（要約）奥村鉄幹氏が「松江祭に就て」との題で松江の開府について纏め、松江開祖たる堀尾吉晴も祭るべきだと述べる【5月13日付山】 ・5月13日、広告（要約）城山稲荷神社 稲荷神社神幸式開催【5月13日付山】 ・5月14日、松江城山稲荷ノ出雲神幸祭アリ【西田千太郎日記】 ・5月13～14日、松江祭の発企者及び各町委員の総会と士族会（要約）一昨日（13日）、松江祭の会議。昨日（14日）士族会を開催。28・29日に堀尾吉晴、松平直政、西南戦争戦没者招魂祭を行うこと【5月15日付山】 ・5月15日、14日、城山稲荷の神幸（ホウランエンヤ）（要約）城山稲荷神社の神幸式の概況。通路北堀川より【5月15日付山】 ・5月17日、楽山神社の神輿渡御（要約）本年は城山に渡御すること【5月17日付山】

- ・ 5月21日、（要約）広告、松江城山稲荷神社神幸還御式。22日、当日は字剣先と着船時城山到着時に祝砲を放つ【5月21日付山】
- ・ 5月22日、城山稲荷還御式ヲ視テ帰ル【西田千太郎日記】
- ・ 5月22日、懐旧の情果して如何（楽山神社の渡御）（要約）来る28日城山で行われる楽山神社の祭礼。御輿渡御について楽山より船で津田村旧馬場に入り、旧藩主の御国入の例にならう計画【5月22日付山】
- ・ 5月22日、城山稲荷の還御式（要約）去る22日の城山稲荷の還御式の概況。市内の堀を廻り城山へ還御する【5月24日付山】
- ・ 5月24日、右小機動演習一般の仮想（要約）當尋常中学校生徒一同による小機動演習及び遠足運動。29日に城山において記念祭拝賀、分列式を行う【5月24日付山】
- ・ 5月24日、広告（要約）松江祭 城山において 28日・29日【5月24日付山】
- ・ 5月24日、広告（要約）楽山神社 今年は、城山仮殿に神輿を渡御すること。祭礼の予定【5月24日付山】
- ・ 5月25日、広告（要約）松江祭 城山において 28日・29日【5月25日付山】
- ・ 5月25日、広告（要約）楽山神社 今年は、城山仮殿に神輿を渡御すること。祭礼の予定【5月25日付山】
- ・ 5月26日、広告（要約）松江祭 城山において 28日・29日【5月26日付山】
- ・ 5月26日、広告（要約）楽山神社 今年は、城山仮殿に神輿を渡御すること。祭礼の予定【5月26日付山】
- ・ 5月27日、松江祭に関する彙報（要約）城山内での式、催しについて説明【5月27日付山】
- ・ 5月27日、広告（要約）松江祭 城山において 28日・29日【5月27日付山】
- ・ 5月27日、広告（要約）楽山神社 今年は、城山仮殿に神輿を渡御すること。祭礼の予定【5月27日付山】
- ・ 5月28日、○市中有志者ノ計画ニテ本年ヨリ松江祭ナルモノヲ始メ本日及明日之ヲ施行ス。予モ金壹円ヲ寄贈ス。本日ハ楽山神社城山ニ渡御アリ。其式ハ古風ヲ用ヒ、甲冑ノ武装者等随從セリ。其道筋ハ楽山ヨリ舟ニテ津田馬場ニ渡リ、同所ヨリ行列ヲ整ヒ城山ニ至リ祭典ヲ施行シ、夜ニ入りテ石橋、河津村ヲ経テ還幸。撃剣、烟火等ノ奉納アリ、遊人群集セリ【西田千太郎日記】
- ・ 5月28日、松江祭（要約）（新聞記者の論説記事）【5月28日付山】
- ・ 5月28日、松江祭りに関する雑件（要約）神殿は記念碑前に間口四間奥行六間【5月28日付山】
- ・ 5月28日、広告（要約）松江祭 城山において 28日・29日【5月28日付山】
- ・ 5月28日、広告（要約）楽山神社 今年は、城山仮殿に神輿を渡御すること。祭礼の予定【5月28日付山】
- ・ 5月29日、松江祭ノ第二日ニ当リ城山ニ於テ堀尾吉晴及西南役戦死者ノ霊ヲ祭ル【西田千太郎日記】
- ・ 5月29日、松江祭（要約）祭堀尾吉晴朝臣文、祭西南殉難者文【5月29日付山】
- ・ 5月29日、松江祭の景況（要約）（廿八日）【5月29日付山】
- ・ 5月29日、城内の景況（要約）三千人を越える人々が城内に集まる【5月29日付山】
- ・ 5月29日、広告（要約）松江祭 城山において 28日・29日【5月29日付山】
- ・ 5月29日、広告（要約）楽山神社 今年は、城山仮殿に神輿を渡御すること。祭礼の予定【5月29日付山】
- ・ 5月31日、29日の松江祭の景況（要約）堀尾吉晴の甲冑展示【5月31日付山】
- ・ 5月31日、掏摸二つ（要約）一昨日（29日）城山にて盗難事件【5月31日付山】
- ・ 6月21日、論説 松江市の将来（要約）（未完・城下町成立について述べる）【6月21日付山】
- ・ 6月26日、追善大弓会（要約）7月3日午後一時より城山射的場にて旧松江藩弓術師故木村供左衛門氏の13回忌に相当のため旧門弟などの発企で開催する【6月26日付山】
- ・ 7月3日、納涼（要約）納涼の風景として城山公園、大橋橋上など紹介【7月3日付山】
- ・ 7月3日、追善弓会（要約）旧松江藩弓術師故木村供左衛門氏の追善弓会は予記のごとく一昨日（3日）城山射的場で開催、30名参加し、饗応もあり盛会であった【7月5日付山】
- ・ 7月5日、末本厚親倶楽部の第一総会（要約）一昨日（5日）午後三時より城山二松亭にて末本厚親倶楽部の第一総会が開催された【7月7日付山】
- ・ 7月7日、就て二件（花瘦情仙投）（要約）松江の風光に就いて（城山公園について天主閣からの観望 松江の情景を末松謙澄・井上円了などの評を踏まえ評論する）【7月7日付山】
- ・ 7月12日、名義を詐称して金員を募る（要約）愛国敢為会（殿町旧二の丸内）の元会員、名義を詐称して金員を募ったとして今度告訴の準備中であると。愛国敢為会（耶蘇教徒放逐を訴える団体）【7月12日付山】
- ・ 8月6日、天守閣崩壊（要約）過日の暴風雨のため天守閣下府東南隅の屋根五・六間の崩壊を発見する【8月6日付山】
- ・ 8月25日、千鳥城の天守閣修繕（要約）かねて噂のあった天守閣を修補して美術標本にすることについて其儀を漸く一歩進め近日佐藤喜八郎・岡崎運兵衛氏等の集議する筈なりと【8月25日付山】
- ・ 8月30日、松江城主天主閣旧観保存（要約）維新以降城郭が破壊される現状と松江城の天守旧観も徐々に破壊されることに対し悲しむことと。修補して共進会議と美術品展覧所に充てることなど考えを示し、岡崎運兵衛氏（他の諸氏名も見える）などの発起で松平伯爵の許諾を得て修理する。協賛金の募集をあてること【8月30日付山】

	・ 9月3日、千鳥城天守閣借受けの依頼 （要約）天守閣を修補して美術標本陳列場に充てんとする考えを先に記載したが、発起者佐藤喜八郎、岡崎運兵衛、松本勸次郎、山内佐助、福岡世徳、三島佐次右衛門等諸氏弭其儀を一決し、天守閣を借り受け将来農産品工芸品の共進会場に充てるように修繕を有志者で行うように、一昨日依頼書を東京の松平伯爵へ送付した。依頼書の許可が届き次第に趣意書を発表する【9月3日付山】 ・ 9月10日、松江城天守閣旧観保存趣意書 （要約）天守閣旧観保存の企て、本日午後五時より雲陽館で集会。発起者より有志者の同意を求める趣意書が出された。（趣意書全文を掲載）【9月10日付山】 ・ 9月10日、松江城天守閣修繕計画要領 （要約）天守閣旧観保存の企ては、本日午後五時より雲陽館で集会。趣意書。天守閣の修繕の見積もり二五〇〇円。大凡九六〇・七〇円は各郡から広く募集する。依頼書について一昨日松平家より承諾の返答【9月10日付山】 ・ 9月10日、松江城天守閣旧観保存協議会 （要約）去る10日雲陽館での同会で、120～30名来会し福岡世徳氏趣意書を頒布し、趣旨を説明する。費用見積もりの2500円の内1000円を各郡有志者が負担し、残り1500円を松江市有志者が負担する。その他5つの議題を協議する。松浦佐左衛門氏天守閣の本来の由来と松江城天守閣の小沿革を略説し、一同本件に関わる雑談を行い散会。附記各町に委員を設け義捐募集を行う都合【9月13日付山】 ・ 9月18日、天守閣保存仕様の希望 （要約）天守閣の外観についての要望の意見【9月18日付山】 ・ 9月20日、千鳥城天守閣修繕各町委員会 （要約）一昨日午後六時より望湖楼にて開催。参加者五十余名。発起者福岡世徳氏より本日は天守閣修繕の義捐金募集方法について評決するとの挨拶。南田町委員永井卓一氏より原案の調書の有無について質問。発起人三島佐次右衛門氏より原案といえる書類は無いが、参考のため取り調べた書類があるとしてそれを朗読する。（以下、天守修繕見積もりと義捐金募集の割合、修理計画見積もりを載せる）【9月20日付山】 ・ 9月20日、松江実業協会の惣集会（天守閣騒ぎ）（要約）再昨日常栄寺で行われたが、会幹三島和一郎氏より天守閣修復中止を発起人に訴える挨拶を行う。（馬淵浚渫工事を含め天守閣修繕予算の見積もりに対する疑義が出されたこと。これらの事業に対する調査委員の招集を訴え、三島和一郎氏を含めた諸氏が調査委員が任命され、今度調査委員会を行う）【9月20日付山】 ・ 9月20日、天守閣の保存反対 （要約）（妨害に動いている者がいるらしいとの記事）【9月20日付山】 ・ 9月20日、泥棒屋敷へ泥棒に罷越候 （要約）（出獄後に三ノ丸の堀を渡り監獄に泥棒に入った人物の話）【9月20日付山】 ・ 9月20日、弓術の大会 （要約）明後日午後一時より城山矢場に於て弓術の大会を開く予定【9月20日付山】 ・ 10月5日、広島県尋常師範学校生徒の学校参観 （要約）一昨日（3日）来松、昨日（4日）午前七時三ノ丸練兵場に至り當師範学校生徒の兵式体操を見る。今朝米子へ【10月5日付山】 ・ 10月8日、三夜の月 （要約）城内も賑やかに見物者がいた【10月8日付山】 ・ 11月1日、吉川子爵の帰国 （要約）昨日（1日）千鳥城等を一覽し、夜有沢山荘に招待を受け、本日飯石郡經由で広島に出て帰国【11月2日付山】 ・ 11月3日、弓術会 （要約）横山彦七・木村金市両氏の発起にて本日午前10時より城山弓術場において弓術会を催し併せて祝宴を張るという【11月3日付山】
1893（明治26）	・ 2月10日、師範中学の儀式 （要約）當尋常中学校明日紀元節に就き、御真影の拝賀式、午前10時より二ノ丸練兵場で分列式を行う【2月10日付山】 ・ 2月11日、中学校ニテ拝賀式ヲ行ヒ、予、一演説ヲナセリ。了テ城山ニ於テ一斉発火ヲナス【西田千太郎日記】 ・ 2月11日、一斉射撃 （要約）當尋常中学校、本日午前九時拝賀式を行い、その後城山において一斉射撃を行う筈【2月11日付山】 ・ 3月8日、天守閣に歴代国主の肖像を掲げんとす （要約）天神町の山本信太郎氏は堀尾吉晴公を始めとして歴代の松江藩主の肖像を天守閣最上樓に掲げることを計画し、松平直亮伯へ願ひ出る。もし歴代国主の肖像を所蔵するものがあれば、書工を同伴し該家まで写取りに赴かんと奔走中とのこと【3月8日付山】 ・ 4月13日、松江策（一） （要約）松江市の位置。松江の評論の出だしに「天守閣」を記述する【4月13日付山】 ・ 4月16日、城山ノ桜花ヲ看（一、二日前満開）、【西田千太郎日記】 ・ 4月18日、有澤と城山 （要約）有澤山荘と城山の桜の名所について比較。花見客は城山に多く赴くようになってる訳【4月18日付山】 ・ 4月26日、学校新築ノ議案、本年ノ議會ニ提出ノ都合トナリシヲ以テ敷地ヲ至急撰定スルノ要アリ。県庁ノ見込ニテハ旧三ノ丸迹トナスニアルモノヽ如シト雖モ尚赤崎辺ニ好地位アリト報スルモノアリシヲ以テ、本日浅井、永井諸氏ト行テ検ス【西田千太郎日記】 ・ 4月29日、外国人天守閣修繕費に義捐す （要約）当市滞留する耶蘇宣教師ノウエル・バックストン氏昨日(29日)本社に訪れ天守閣修繕の声があると聞き修繕費10円を義捐する。同氏は頃日天守閣を縦覧しその構造実に堅牢なるも外部頽廢より延いて内部腐食せることあれば誠に惜しみ。保存会に寄附すると【4月30日付山】 ・ 5月11日、○浅井、石田二氏ト共ニ天守閣ニ上リ、寄宿舍ニ立チ寄ル【西田千太郎日記】

	・ 5月30日、○氏内各小学校生徒ノ連合大運動会ヲ城内ニ行ヒ、中学校職員モ按内ヲ受ケタルニヨリ、金壹円五十銭ヲ寄贈ス【西田千太郎日記】 ・ 5月30日、市内小学校連合運動会 （要約）予記の如く昨日（30日）午前9時過ぎより旧城内二ノ丸に於いて開催。市内の学童3000名ばかり集う【5月31日付山】 ・ 8月6日、垂釣口罰 （要約）三ノ丸西城の堀や北堀川で釣を行つた者に対する過料【8月6日付山】 ・ 8月20日、大弓射會 （要約）幡垣角市・木村金市氏等の発起にて本日城山弓射場に於いて大弓射会を催す由。【8月20日付山】 ・ 10月11日、フォンデス氏消息 （要約）昨日（11日）午後米子から松江に来て、城山天守閣を縦覧する。（フランドス氏は元英国海軍大佐仏教研究者、仏教演説会を来松中に開催する）【10月12日付山】 ・ 10月14日～15日、本県事項 （要約）降雨が酷く市内浸水。23日に水はようやく引いた。【明治27年1月4日付附山】 ・ 10月16日、全ク浸水セザリシハ白潟本町ニシテ、天神町、灘町ノ大部亦然リ。其他ハ城山ヲ始メ山辺附近ノ地ノミ浸水セズ【西田千太郎日記】 ・ 10月19日、松江の大洪水 （要約）（一般の景況）【10月19日付山】 ・ 10月19日、松江監獄の水害 （要約）（松江市内の水害被害。松江監獄はお花畑に所在。三ノ丸の小塚に炊場を仮設した）【10月19日付山】 ・ 11月5日、（要約）10月の水害での松江市内の浸水地域の地図を載せる。（三ノ丸と城山は浸水していない）【明治26年11月5日付山】
1894（明治27）	・ 2月16日、松江市宿屋業組合の総会 （要約）明日（16日）、当市橋南北の宿屋同業者、城山二松亭において組合総会を開く、殿町宿屋業組合は組合不要論を唱え不参加、26年度決算報告を行い、懇親会を行う【2月15日付山】 ・ 2月16日、井戸の中より脏物現はる （要約）昨日（16日）午前殿町旧城内入口の井戸に投身者ありとの噂があり、同所にかけてみれば、衣類数点が投げ込んであり、見つけた人は警察に届け出た。賊が盗品を投げ込んだのではないかとの評判【2月17日付山】 ・ 2月16日、松江市宿屋業組合総会 （要約）予記の如く昨日午後城山二松亭にて総会。参加者50余名。報告後、正副組合長の選挙し、選出。減税運動について話し合い。殿町の不参加についての意見を載せる【2月17日付山】 ・ 2月24日、司令官の馬逸して県庁構内を騒がす （要約）伊津野當大隊区司令官昨日（24日）乗馬にて三ノ丸の前を通つた処、馬が急に暴れ出し、落馬し、県庁構内を暴れ廻る【2月25日付山】 ・ 3月2日、【広告】三月九日、大婚廿五周年祝典を開催（要約）福岡世徳・佐藤喜八郎へ参加者は申し込みのこと。発起人一覧（高城権八の名もの）あり（明治天皇）【3月2日付山】 ・ 3月4日、大婚二十五年祝典（松江市） （要約）城山公園の祝典。市公務員が発企として城山公園で祝典を行う予告をしていた。当日祝砲を撃つことは、その筋の許可がおりず、さらに当日に限り特別に許可すとの話もある。記念碑前に台を設置し、開会に際し祝文を朗読し、宴たけなわの時に宮内大臣に祝文を執奏する電報依頼し、銀紙製の気球をあげる計画である【3月4日付山】 ・ 3月4日、【広告】三月九日、大婚廿五周年祝典を開催 （要約）福岡世徳・佐藤喜八郎へ参加者は申し込みのこと。発起人一覧（高城権八の名もの）あり（明治天皇）【3月4日付山】 ・ 3月8日、根付き相生の松 （要約）明日の祝賀に城山に記念の相生の松を植え、須衛都久神社から花車を出すこと【3月8日付山】 ・ 3月9日、本日ヲ以テ兩陛下御結婚満貳拾五年祝典ヲ挙ゲラル。実ニ未曾有ノ成典ニシテ、（中略）我中学校ニテハ御真影拝賀、教員総代及生徒総代奉賀文（各宮内大臣ヲ経テ奉呈セリ）ヲ朗読シ、式終リテ城山ニ一斉射撃ヲナシ、尚ホ市中運動ヲナシ帰校、萬歳ヲ唱テ一旦解散。（中略）城山ニハ市民ノ祝賀会アリ、【西田千太郎日記】 ・ 3月9日、師範学校奉祝式の予定 （要約）師範学校・中学校は、二の丸練兵場にて一斉射撃を行うこと【3月9日付山】 ・ 3月9日、城山の祝賀会 （要約）大凡千名余。福岡世徳市長の祝文を奉じ。発起人年長者高城権八氏また祝意を表し、天皇皇后兩陛下の万歳を称せし【3月11日付山】 ・ 3月9日、中・師範学校の祝砲 （要約）城山で祝砲の概況を伝える【3月11日付山】 ・ 3月11日、茶町の相生松 （要約）花車を城山へ繰り出す。記念の松を植樹【3月11日付山】 ・ 3月23日、快晴ニ乗ジテ城山ニ散歩ス【西田千太郎日記】 ・ 4月3日、○旧交会ノ催ニテ若槻氏ノ為ニ懇親会ヲ城山（記念碑附属ノ一亭）ニ開ク。【西田千太郎日記】 ・ 4月7日、城山ノ桜花正ニ満開、例年ニ比スレバ稍早シ【西田千太郎日記】 ・ 4月8日、櫻 （要約）城山は彼岸桜は散り、山櫻の早きものは恰も満開【4月8日付山】 ・ 4月10日、定安公年譜編纂 （要約）嘉永六年より明治六年に至るまでの定安公の年譜を編纂する。旧記を広く収集すること【4月10日付山】 ・ 4月11日、【広告】旧松江藩諸君に広告す （要約）（定安公年譜編纂に付き藩政・公の身辺に関わる資料の借覧を願う。松平家扶）【4月11日付山】 ・ 4月13日、【広告】旧松江藩諸君に広告す （要約）（定安公年譜編纂に付き藩政・公の身辺に関わる資料の借覧を願う。松平家扶）【4月13日付山】

- ・4月15日、【広告】旧松江藩諸君に広告す（要約）（定安公年譜編纂に付き藩政・公の身邊に関わる資料の借覧を願う。松平家扶）【4月15日付山】
- ・4月20日、【広告】旧松江藩諸君に広告す（要約）（定安公年譜編纂に付き藩政・公の身邊に関わる資料の借覧を願う。松平家扶）【4月20日付山】
- ・4月25日、【広告】旧松江藩諸君に広告す（要約）（定安公年譜編纂に付き藩政・公の身邊に関わる資料の借覧を願う。松平家扶）【4月25日付山】
- ・5月5日、松江米穀取引所開業式（要約）松江米穀取引所開業式、城山公園で園遊会、二ノ丸練兵場で相撲興行【5月6日付山】
- ・5月6日、一昨日の城山公園（要約）松江米穀取引所は一昨日（6日）午前取引し、午後より所員一同、取引関係者を含め城山にて祝宴を開く。和多見の芸妓も集まり、余興の相撲もあり、前日と違い縦覧勝手次第としたので多くの見物人あり【5月8日付山】
- ・5月9日、御巡幸に関する詳報（要約）松江の行在所 過般御巡幸の噂以来、市有志者間で三の丸へ行在所を二の丸公へ御休憩所を新築せしには当市は好位置にあり、種々の相談があり、今度協議会を開くとのこと【5月9日付山】
- ・5月9日、中学建設と警察署移転（要約）中学が生徒数増で狭隘になり、一時三の丸跡を借用し新築するとの相談もあり、今度、松江警察署を移転し、中学と警察署の間の土地を取得して建設との計画も出された【5月9日付山】
- ・5月17日、天守閣修繕発起人会（要約）天守閣修繕についてその後消息を聞かなかったが、天皇巡幸があり、一日も猶予がないとの意見もあり、発起人他20余名本日末次本町臨水亭で協議を為すという【5月17日付山】
- ・5月19日、御巡幸に関する準備の協議（要約）昨日（19日）午後5時より市会議事所において開催。市参事会及岡崎運兵衛、佐藤喜八郎両氏に協議材料（仮令は行在所は如何なるものを建築すべきものなるや行在所の位置及其建設に要する費用如何等）取締め方を委嘱するに決し、両名も承諾した【5月20日付山】
- ・5月22日、松江城天守閣修繕の事（要約）いよいよ着手の事となり広く工事の入札を募ることは本日の本紙広告に在り就て之を見よ【5月22日付山】
- ・5月22日、広告（要約）松江城天守閣修繕の工事入札広告が出される【5月22日付山】
- ・5月23日、広告（要約）松江城天守閣修繕の工事入札広告が出される【5月23日付山】
- ・5月24日、広告（要約）松江城天守閣修繕の工事入札広告が出される【5月24日付山】
- ・5月29日、知事書記官の用意周到（要約）旧城址三ノ丸を以て行在所にあてる計画が既に与論としてあり、知事書記官において、監獄が隣にあるため夜間声音が洩れ無いか、舞夜微行して確認した。靴音などが聞こえたので其の手当が必要であるとのこと【5月29日付山】
- ・6月1日、天守閣修繕工事入札【明治27年5月22日付山広告、明治27年6月2日付山】
- ・6月2日、天守閣の修繕工事（要約）入札は昨日（1日）松江銀行にて開き、入札者9名の内、殿町の白石伊織が最下札であるが、本日夕刻、臨水亭で発起人集会を開き、入札結果に落札諾否し、義捐金募集についても協議する。修繕工事は来る10日より着手し竣工期日は来る9月30日なり【6月2日付山】
- ・6月2日、天守閣の修繕の事（要約）発起人集会協議、白石伊織へ1950円で天守修繕を請負。発起人から選挙で工事主任を選出、三島佐次右衛門、桑原洋次郎、大島新四郎、織原萬次郎、園山伊助当選【6月5日付山】
- ・6月4日、行在所の位置の内談（要約）佐藤喜八郎、福岡世徳、松平家々扶足羽中次郎の三氏、一昨日（4日）県庁に出頭、大浦知事に面会して種々協議する。専ら三の丸位置をもってその議を擬せると【6月6日付山】
- ・6月6日、行在所と松平伯（要約）明年いよいよ県下へ御巡幸があることについて松平伯より行在所築設ため旧城内の地を要する時は、その協力を惜しまないことと建設費も相当の責任を負ふとして、既に当地の家扶へもその旨を伝えたとのこと【6月6日付山】
- ・6月10日、天守閣修繕手斧初式（要約）松江城天守閣修繕工事開始【6月10日付山】
- ・6月10日、知事以下の天守閣修繕費用義捐（要約）今回の松江城天守閣修繕について知事以下の判任官より金127円を義捐送付の旨を知事より発起人へ通知あり【6月10日付山】
- ・6月22日、御巡幸に関する各町惣代会（要約）各町惣代会で行在所新設の位置に、権現沖湖水埋立地、旧城二の丸或いは三の丸跡、望湖楼付近地、三谷権太夫氏宅など候補地が出される【6月24日付山】
- ・6月25日、御巡幸に関する準備委員会（要約）昨日午後五時より市役所で行在所に関する協議、旧二の丸、権現沖、望湖楼近在地、三谷権大夫氏の灘地などの好適地と定め委員9名を選んで二週間調査する。委員には松本観次郎氏他が当選し、調査結果をもって開会【6月26日付山】
- ・7月19日中学校卒業証書授与式挙行。予モ一席ノ演説ヲナセリ。（中略）終リテ卒業生等一同城山ニ撮影ス【西田千太郎日記】
- ・8月3日、松平伯邸（菓子八十四錢一箱ヲ持ち行ク）ニ家扶山口亮ニ面会ス。伯爵ハ昨今沼津ニ避暑不在。中学校敷地ニ旧三ノ丸跡ヲ貸与スルコトニ異存ナキコトヲ確メ、松江ニテノ風説ニ同処借受ハ到底望ナシトイヘルハ為メニスル処アリテ或人々ガ故ラニ流布セル処ナルヲ知レリ。此件ニツイテハ岸氏ニ手数ヲ掛ケタリ【西田千太郎日記】（西田千太郎、7月20日松江発、東京に滞在中）

	・ 8月15日、広告 （要約）城山紀年碑前に戦勝祝宴会を開く。発起人に高城権八の名あり【8月15日付山】 ・ 8月15日、昨日の勝利祝宴会 （要約）昨日（15日）城山記念碑前で挙。参会者1200余名事務所二松亭に置き、記念碑前に演壇を設置した【8月16日付山】 ・ 9月4日、天守閣の修繕竣工近し （要約）松江の壮観天守閣の修繕は夏季中降雨少く執業容易なりし為め本月中には竣工の見込みなり昨今は瓦葺中なりと【9月4日付山】 ・ 9月6日、二ノ丸ニ中学校生徒ノ「ベースボール」ヲ観ル【西田千太郎日記】 ・ 9月30日、天守閣修繕竣工。工事関係者名簿の墨書【昭和三十年松江城天守閣修繕工事報告書】 ・ 11月13日、天守閣の修繕竣工 （要約）城山天守閣の修繕は昨日（13日）を以て全く竣工せし以て両三日中に委員に引渡す筈なりと【11月14日付山】 ・ 11月18日、松江城天守閣修繕工事竣工【12月17日付山】 ・ 11月26日、去ル二十一日我軍艦旅順口ヲ攻撃シ、廿二日朝之ヲ占領セリトノ公報達シ、昨今ハ市民ノ狂喜祝宴等々ノ催アリ。我中学生ハ一斉射撃ヲ朝城山ニ試ミ、午後北京攻陥ノ擬戦等ヲナセリ【西田千太郎日記】 ・ 11月26日、広告 戦勝大祝宴会（要約）城山を含めた市内各所で日清戦争勝利の祝賀【11月26日付山】 ・ 12月8日、戦利品の拝借叶ふ （要約）当市より亀田城内に陳列して衆庶の縦覧を願うため出願した戦利品の拝借の事、往復を除き1週間の見込みで五十八点聴許の旨一昨日電報来る【12月8日付山】 ・ 12月9日、天守閣修繕発起人会 （竣工式の日取り、義捐金の支払い者への優待、各種学校生徒、県内軍人家族への天守閣無料登閣など決定）【山陰新聞】、【西田千太郎日記】 ・ 12月10日、天守閣修繕落成広告 松江城天守閣修繕竣工ニ付来ル十六日午前十時同所ニ於テ落成式ヲ挙行ス【明治27年12月10日付山】 ・ 12月10日、戦利品縦覧広告 今回征清戦利品拝借許可ヲ得タルニ付来ル十七日より一週間松江城天守閣ニ於テ縦覧ニ供ス【明治27年12月10日付山】 ・ 12月11日、天守閣修繕落成広告 松江城天守閣修繕竣工ニ付来ル十六日午前十時同所ニ於テ落成式ヲ挙行ス【明治27年12月11日付山】 ・ 12月11日、戦利品縦覧広告 今回征清戦利品拝借許可ヲ得タルニ付来ル十七日より一週間松江城天守閣ニ於テ縦覧ニ供ス【明治27年12月11日付山】 ・ 12月12日、天守閣修繕落成広告 松江城天守閣修繕竣工ニ付来ル十六日午前十時同所ニ於テ落成式ヲ挙行ス【明治27年12月12日付山】 ・ 12月12日、戦利品縦覧広告 （要約）今回征清戦利品拝借許可ヲ得タルニ付来ル十七日より一週間松江城天守閣ニ於テ縦覧ニ供ス【12月12日付山】 ・ 12月14日、天守閣修繕落成式と戦利品（要約）来十七日より廿三日迄一週間松江城天守閣に陳列する戦利品について本日到着の場合明十五日天守閣に陳列し翌日天守閣落成式ヲ挙ぐる筈【12月14日付山】 ・ 12月16日、松江天守閣修繕竣工式ヲ行フ。予も壺円拾銭ヲ工費中ニ寄付ス。征清戦利品数十種借用城内ニ陳列、一週間衆人ノ縦覧ヲ許ス【西田千太郎日記】 ・ 12月16日、天守閣修繕竣工式 （要約）天守閣広間において開催。 天守閣天狗の間に日清戦争の絵画、第三層に戦利品の展示会を1週間開催 工事の概況などを伝える【12月17日付山】 ・ 明治廿七年中重要記事（二）一身、親戚、朋友及我地方ニ関スル著大事件、十二月 松江天主閣修繕工事竣工、征清軍ノ戦利品陳列縦覧【西田千太郎日記】
1895（明治28）	・ 1月1日、本県事項 （要約）明治27年の年表、本県事項、27年3月9日に城山で大婚記念式典が行われたこと。8月15日、城山記念碑前に戦勝祝宴会開く。12月16日、天守閣修繕竣工式、征清戦利品を拝借して1週間縦覧する【1月4日付山】 ・ 1月8日、市会議員の新年宴会 （要約）當市長以下、30余名、臨水亭において、昨日（8日）午後4時半より今度辞任する高城権八氏の慰労宴会を兼ねる【1月9日付山】 ・ 2月6日、前田正名氏歓迎の準備 （要約）前田正名氏来県につき、岡崎運兵衛等が歓迎の発起人となる。演説会場は天神 栄徳座、懇親会場は城山の予定【2月6日付山】→3月に内国勸業博覧会の展示品整理事務繁忙ニ付き来県を取りやめ【3月10日付山】 ・ 2月7日、威海衛ノ陥落ニツキ未ダ詳報ヲ得ザレドモ公報ノ達シタルヲ以テ之ヲ祝センガ為メ、本日中学ノ授業ヲ休み、城山ニ上リテ一斉射撃ヲ行ヒ、大元帥陛下ノ萬歳三唱シ、ソレヨリ市内ヲ進行ス。○予、感冒ノ虞アリシヲ以テ城山ヨリ辞シテ帰リシガ、【西田千太郎日記】 ・ 2月8日、當市に於ける威海衛占領の祝宴会 （要約）来11日の紀元節を仆し、午前10時より城山で祝宴会を開催。広島大本營へ祝電を贈り、大軽気球を挙げ、撃剣なども行う【2月8日付山】 ・ 2月8日、師範・中学両校生徒の祝意 （要約）威海衛占領に祝意を示すため、昨日第一尋常中学校生徒が城山において一斉射撃を行い白瀉天満宮に参拝した【2月8日付山】 ・ 2月8日、（要約）〔広告〕威海衛占領ノ公報達セルニ付来ル十一日ノ佳辰ヲトシ城山ニ於テ祝捷会ヲ開カントス賛成ノ諸君ハ市役所内福岡世徳迄申込アリタシ。会費・期日・記念撮影・撃剣・発起人名簿など【明治28年2月8日付山】

- ・ 2月9日、(要約) [広告] 威海衛占領ノ公報達セルニ付来ル十一日ノ佳辰ヲトシ城山ニ於テ祝捷会ヲ開カントス賛成ノ諸君ハ市役所内福岡世徳迄申込アリタシ。会費・期日・記念撮影・撃剣・発起人名簿など【明治28年2月9日付山】
- ・ 2月11日、午前九時中学ニ祝賀式ヲ行ヒ、予ハ特別ニ日出度紀元節ヲ祝スルノ演舌ヲナシ、終リテ城山ニ一斉射撃ヲナシ、帝国萬歳ヲ唱フ。城山ニハ官民共同ノ祝捷会ヲ開キ(六銭)、参会者千四百名ニ及ビ種々ノ余興等アリ。市中ノ賑ハ予想セル程ニ盛ナラズ【西田千太郎日記】
- ・ 2月11日、(要約) ●威海衛陥落祝捷會(昨日)。城山公園において、当日の状況を説明する記事。来会者1200名以上貳なること【明治28年2月12日付山】
- ・ 2月11日、(要約) ●師範学校及び小学校の拝賀式。尋常師範学校生徒は、午前九時講堂で拝賀式を行った後、城山二松亭前で一斉発火する(礼砲力)【明治28年2月12日付山】
- ・ 2月11日、(要約) ●中学生との拝賀式と機動演習 昨日、床机山へ機動演習し、帰校後講堂で拝賀式を行う。その後城山二松亭前で一斉発火し、帰校する【明治28年2月12日付山】
- ・ 4月14日、(要約) ●双壽の松に銘酒を供ふ。一昨日(14日)、松江市役所に伯州日野郡の紳士(住所氏名あり)が訪れ、松江城山に登山し、記念碑の側の明治天皇聖婚25周年の双松をあるのを見たので、聖壽の萬歳と勝軍を祝し、銘酒を供えたいとの要望を市役所の宿直に申しで、受諾を受けたという【明治28年4月16日付山】
- ・ 4月18日、日清和睦ヲ祝センガ為メ中学ノ授業ヲ休ミ、午後城山ニ発火演習ヲ試ム、観者群集【西田千太郎日記】
- ・ 4月30日(要約) 【広告】 往年の松江祭挙行に対する義損金の内若干の剰余生じたるは当時広告の如し、然るに該金は松江城天守閣修繕の挙に對し挙て寄贈することに協議したり(中略) 福岡世徳・松本勸次郎・原源蔵・清原宗太郎【明治28年4月30日付山】
- ・ 5月3日、(要約) ●祝和会の動向(投書)。俱に太平を楽しまん。(其五)【明治28年5月3日付山】
- ・ 5月3日、(要約) ●祝和会の動向(投書)。大運動会。(学校生徒が城山公園において)(其九)【明治28年5月3日付山】
- ・ 5月31日、(要約) ●当市の凱旋大祝会。余記の如く一昨夜(29日)松江銀行内事務所にて準備委員会を開催。6月8日 城山を会場を伝える【明治28年5月31日付山】
- ・ 6月6日、(要約) ●分捕品の縦覧。当市白潟区内出身の兵士にして征清軍に従ひ是迄陸海二戦に於て分捕りたる戦利品を各自実家へ送付(中略) 曾て天守閣に於て縦覧せしめたるものよりは珍奇なるもの多し【明治28年6月6日付山】
- ・ 6月6日、(要約) 広告 凱旋大祝捷会 8日9日10日の3日間、松江城山を会場に開催【明治28年6月6日付山】
- ・ 6月7日、(要約) 【広告】 凱旋大祝会豫興日時左ノ如シ。輕気球、八日午後城山ニ於テ。撃剣、同上。(中略) 六月七日凱旋大祝会事務所【明治28年6月7日付山】
- ・ 6月8日、本日ヨリ三日間松江市凱旋大祝賀会挙行、中学校モ賛同シ予等モ発起人中ニ加ハル。(中略) 予ハ唯中学校庭上ノ儀式ニ臨ミタルノミニテ城山ノ式場ニハ至ラズ。市中各町種々ノ催アリ【西田千太郎日記】
- ・ 6月8日、●軍人優待、白潟本町一同より当市帰郷の軍人並に同家族へ本日城山に於て菓子折一個つつを贈呈する手筈【明治28年6月8日付山】
- ・ 6月8日、(要約) ●凱旋祝会各町の趣向。○縁取町、幼少年に揃えの洋服を着せ、飾りを付け、湖上に大砲を放ち、大砲を城山会場まで行進する。○和多見町、藝妓娼婦一同、城山まで練り歩く【明治28年6月8日付山】
- ・ 6月9日、(要約) ●当市凱旋大祝会、○城山の式場 三千八百余名(会の様子も記す)【明治28年6月9日付山】
- ・ 6月18日、(要約) ●囚徒看守を斬らんとす。一昨日(18日)午後の事、旧三の丸畑にて【明治28年6月20日付山】
- ・ 7月25日、(要約) ●バルトン氏。一昨日来松。昨日、城山を始め市内の実地検査に着手せるか【明治28年7月25日付山】
- ・ 8月6日、(要約) ●松江市の水道。バルトン氏の調査、洞光寺山若くは其附近の高山或は二の丸迄鉄管を通し適當の所に濾過池と清水池を作り【明治28年8月6日付山】
- ・ 10月20日、(要約) ●神仏兩式に定まる。来る11月9日城山記念碑前に於て挙行する筈の征清死亡者の招魂祭は神仏兩式を以て定まる【明治28年10月20日付山】
- ・ 10月31日、台湾ノ平定ヲ祝センガ為メ、中学生午後一時ヨリ城山ニ一斉射撃ヲナス【西田千太郎日記】
- ・ 10月31日、(要約) ●台湾鎮定の祝意 昨日(31日)に第一尋常中学校生徒は教員に引率され、城山において台湾鎮定を祝し発火演習を行う【明治28年11月1日付山】
- ・ 11月3日、九時天長節ノ拝賀式ヲ了リ、生徒城山ニ一斉射撃ヲ行ヒシガ予ハ喘息ノ為メ辭シテ帰り休養【西田千太郎日記】
- ・ 11月13日、本日ハ一市三郡征清役戦病死者ノ招魂祭、明日ハ同軍人慰労会ヲ城山ニ催ス。予モ壹円ノ寄附ヲ賦課セラル。午前ノ神祭式ニ列席シ、午後一時過帰宅セシガ悪寒アリ【西田千太郎日記】
- ・ 11月13日、●一市三郡戦病没者招魂祭、昨日(13日)、城山に於いて(会の様子)【明治28年11月14日付山】
- ・ 12月16日、廿七八年役戦死者、昨日ヲ以テ靖国神社ニ合祀セラレ本日ヨリ三日間招魂大祭アルヲ以テ、本日午後、中学生城山ニ一斉発火以テ遙祭ス【西田千太郎日記】

〈史料紹介〉「高城権八家過去帳」に見る高城権八家の系譜

稲田 信・内田文恵・小山祥子

1. はじめに

松江城天守が今日の姿として残る過程で、明治新政府の方針により松江城が廃城の危機にある時、斐川の豪農勝部本右衛門父子と旧藩士高城権八の尽力によって天守は辛うじて残されたという英雄談が人口に膾炙されている。例えば、『島根縣史』九「藩政時代下 明治維新时期」によれば、「明治四年廃藩置県の為め千鳥城三ノ丸は陸軍省の所管となり御花畑及若殿御殿は県有となりしも修繕費の出所なかりしを以て破損に任せ数年を経過せり、明治八年五月広島鎮台は工兵大尉斎藤直演を派出し千鳥城の諸建造物並に三ノ丸殿を入札払とし之を取去らしめんとす、入札払の実行に当り櫓の如きも四円又は五円にて落札し巍々たる天守閣も僅に百八十円にて石橋の某に落札せり、此事伝聞せる旧藩士等は感慨措く能はず元出雲郡の豪農勝部本右衛門・藩士高城権八等と相議り落札高の金を納めて天守閣破壊は辛ふじて免れたるも其他の建造物は日ならずして解き払はれ荒涼たる廢墟を現出せり」と記されている^(注)。

勝部本右衛門家は現在も出雲市斐川町に在住されるが、残念ながら高城権八家はその後継承されなかった。天守保存功勞者として頻繁に紹介され、顕彰看板なども建立されたにも関わらず、権八に関する情報はいたって少ない。ところが、天守国宝指定を特集したTV番組で高城権八の顔写真が放映されたことをきっかけに、高城権八家に伝来している「過去帳」を所持しているとの情報が史料編纂室に寄せられた。過去帳については、極めて個人家のプライバシーに関するものであり、慎重な取り扱いをすべきものであるが、この「高城権八家過去帳」は高城家の系譜など、これまで不明であった権八を知る上で不可欠の情報を含んでおり、松江城の歴史を明らかにする立場から、所有者のご承諾を受けたうえで、紹介するものである。

2. 過去帳の伝来

過去帳とは、故人の戒名（法号・法名）・俗名・死亡年月日・享年（行年）などを記しておく帳簿である。「日付入り」のものは1日から31日までの日付が入っており、亡くなった日の欄に記入する。日付入りの過去帳は、毎日めくすることで故人の命日（月命日・祥月命日）を確認し、追善供養、または謝恩する。続柄などが記されていれば、その家の系譜や来歴などが分かる貴重な史料でもある。

高城権八家のものと推測できる過去帳は、松江市在住の内田滋家に伝来したもので、内田家に嫁いだ権八の孫「フサ（滋氏の曾祖母）」が跡絶えた高城家の遺品として受け継いだものという。伝来の過去帳は紙製、形状は折本で縦17.4cm、幅6.9cm、記述型式は1日から順に日付が入っており、亡くなった日の欄に戒名や俗名、続柄、その他の情報などが記されている。

記された内容から、高城家は享保21年（1736）に没した「戒名：一夢元昌信士」を初代とし、天守保存功勞者の権八（戒名：高権院泰嶽隆城居士、明治31年12月25日没）は六代目にあたる（五代も権八を名乗る）。初代「一夢元昌信士」は輕輩取立者として任用され、三代目の「戒名：虚天了空居士」には「御先手組入」「中興祖」と記されており、格が上がり先手組足輕として列していた。四代、五代と続き、六代権八の時に更に昇進していた。六代権八死去の時に娘「キク」はいたが、婿養子（キクの夫）「貫一」はすでに没しており、内田滋氏によれば孫の「太郎」が喪主となった。

なお、この過去帳には貼紙が3か所に認められ、六代目権八の両親それぞれに院号が追加されたことを示す貼紙が元の記載の横に張られている。六代目高城権八の記載箇所には元々の記載文字の上に貼紙・記載文字が認められる。

(表1)は「高城権八家過去帳」の記載内容を没年順に整理したものである。六代目権八両親は貼紙の文字、六代目権八は貼紙の文字と貼紙下の文字を掲載した。(図1)は「高城権八家過去帳」、内田家戸籍抄本(内田氏提供)、内田滋氏への聞き取りにより、高城権八家初代から内田滋氏に至る系譜を復元したものである。

3. おわりに

松江城が国宝に指定され、改めて松江城天守が多くの人々の努力によって幾度の危機を乗り越えながら、今日に伝わっていることに注目が集まっている。しかしながら、明治8年(1875)に松江城天守が辛うじて保存されるにあたり、斎藤大尉が行ったとされる城郭施設の入札の実態や、勝部本右衛門、高城権八の働きを示す直接的な史料は確認されていない。明治初年は激動の時代であり、激動期ゆえに松江城に限らず史料が極端に少ない時期でもある。明治初年に天守が辛うじて破壊から免れ、今日に伝えられているという経過を、残されたわずかな史料から明らかにしていくことは、松江城研究を進めるうえでも重要な作業である。

注

野津左馬之助1930『島根縣史』九「藩政時代下 明治維新时期」島根県。なお、岡田射雁1906「千鳥城と其城下」『松陽新報』には、「千鳥城の入札払下・・・(略)・・・明治八年五月広島鎮台は、千鳥城の諸建造物並びに三の丸殿を入札払に付して、之を取り去るべく、工兵大尉斎藤直演氏を派遣せり。・・・(略)・・・斎藤大尉の出張・・・(略)・・・城内の諸建造物及び三の丸殿を入札払ひに付したるが、何れも二足三文の情けなき金額にて、櫓の如きは四円五円にて落札し、巍々たる天守閣の如きも、石橋の某なる者に、僅々百八十円にて入札落ちたり。是等城内の諸建造物は、皆ただ屋瓦と鋸釘等の金額を見積もりて附けたる払下げ代価にして、木材及び石材の如きは、少しも計算に入れざるものなりき。**天守閣保存運動** 右諸般の入札払あるを伝聞せる旧藩士等は、其の祖先以来日々親しめる藩城と、永久の訣別を見るべく、悉く愴然たる一種の感慨に打たれたるも、政府の命令に出でたるものなるを以て、何れも涙を飲んで運命の手に委すべく決心したり。時に元出雲郡の豪農勝部本右衛門氏、亦松江旧藩士と志を同じうするものなるが、何とぞして天守閣だけにても保存したきものと思ひ、終に旧藩士高城権八氏と協議せる所ありて、高城氏は直に県庁に出頭し、土木係にして、同大尉の臨時顧問たる旧藩御大工馬場佐々右衛門を介して、斎藤大尉を訪問し、右天守閣の入札金と同一金額を、有志者より献納すべきを以て、天守閣をこのまま存続せられん事を懇願せり。・・・」(『島根叢書』第1篇(1933)再録より抜粋)とある。勝部本右衛門、高城権八の尽力によって天守は辛うじて残されたという記事は、岡田射雁1906「千鳥城と其城下」での記述が今日確認できる限り初出で、『島根縣史』などに採録されることで、「千鳥城と其城下」に記された「保存功勞」が定説化していった可能性がある。

〔謝 辞〕 本稿を執筆するにあたり、内田滋氏、内田朝子氏からは貴重な情報提供をいただきました。また、高城権八家から内田家に伝わった「高城権八家過去帳」については、松江城の歴史を明らかにするために活用してほしいと、松江市に御寄贈いただき松江歴史館で保管することとなりました。重ねて感謝申し上げます。

(いなた まこと 松江市史料編纂室長)
(うちだ ふみえ 松江市史料編纂室主任編纂官)
(こやま さちこ 松江市史料編纂室 副主任)

表 1 「高城権八家過去帳」の記載内容一覧

西暦	死亡年月日	戒 名	付 記
1713	正徳三年七月十九日	月心妙珠信女	縁由不分明
1717	享保二年二月十一日	了泰童子	
1726	享保十一年二月七日	幻空童子	
1729	享保十四年四月六日	一夢元昌信士	元祖
1732	享保十七年十一月二十日	寒林宗庭信士	縁由不分明
1736	享保二十一年二月十六日	陽岳妙春信女	元祖一夢室
1751	寛延四年三月二十三日	元室利貞信女	二代目仙峯室
1757	宝暦七年九月一日	仙峯榮寿信士	二代目
1780	安永九年九月十八日	華林貞封信女	中興元祖虚天室
1788	天明八年九月九日	林紅禪童女	四代目耕月二女
1794	寛政六年三月十五日	虚天了空居士	三代目自カヲ以御先手組入 中興祖
1820	文政三年五月八日	耕月祖雲居士	四代目
1823	文政六年七月十八日	蓮室生縁信女	耕月三女 宮川新重室同家断絶
1831	天保二年九月二日	幼顔孩子	五代目権八三男
1838	天保九年七月一日	頓了依教信士	通称善右衛門 三代目虚天三男ニシテ富山家ヲ継 故アリテ同家断絶於京都死去
1838	天保九年十月八日	幻容孩女	五代目権八四女
1840	天保十一年四月十四日	忠嚴良孝居士	五代目権八長男 通称信市
1842	天保十三年八月二十五日	佛鑑玄乗大和尚	四代目耕月三男
1845	弘化二年十月二十四日	玉霜禪童女	五代目春山五女トラ
1846	弘化三年四月五日	實嚴貞性大姉	五代目春山妻
1846	弘化三年四月五日	定光院實嚴貞性大姉	五代目春山妻 明治三十二年一月二十八日院号 追加ス
1847	弘化四年十一月十六日	還孝院到安是心居士	五代目春山公二男 通称平藏 伯父前田善市為養 子
1848	弘化五年二月七日	春山良花居士	五代目 通称権八
1848	弘化五年二月七日	祥雲院春山良花居士	五代目 通称権八 明治三十二年一月二十八日号 ヲ追加ス
1848	嘉永元年十二月二十日	松月貞操大姉	四代目耕月室
1863	文久三年二月六日	本応良性信士	五代目権八五男通称萬之助
1888	明治二十一年七月四日	純徳院貫雄良一居士	通称貫一 六代目権八養子三十八年五ヶ月 實西 田仁左衛門次男
1888	明治二十一年八月二十八日	瑞林恵光禪童女	貫一 二女ヨネ 満十四歳
1898	明治三十一年十二月二十五日	高権院泰嶽隆城居士	五代目春山四男 六十七年 通称権八
1898	(貼紙下) 明治[]	(貼紙下) [] 高権院泰嶽隆城居士	(貼紙下) 五代目春山四男六十七年 六代目通称権八

(欄外記入)

1731	享保十六年六月十五日	釈尼善榮信女	虚天了空居士実父母 倉崎権左衛門家
1758	宝暦八年十二月二十四日	雪芳可白信士	
1935	昭和十年	高城キク	高城権八長女
1955	昭和三十年頃死	高城 成	貫一・キク次男

(網掛けは貼紙)

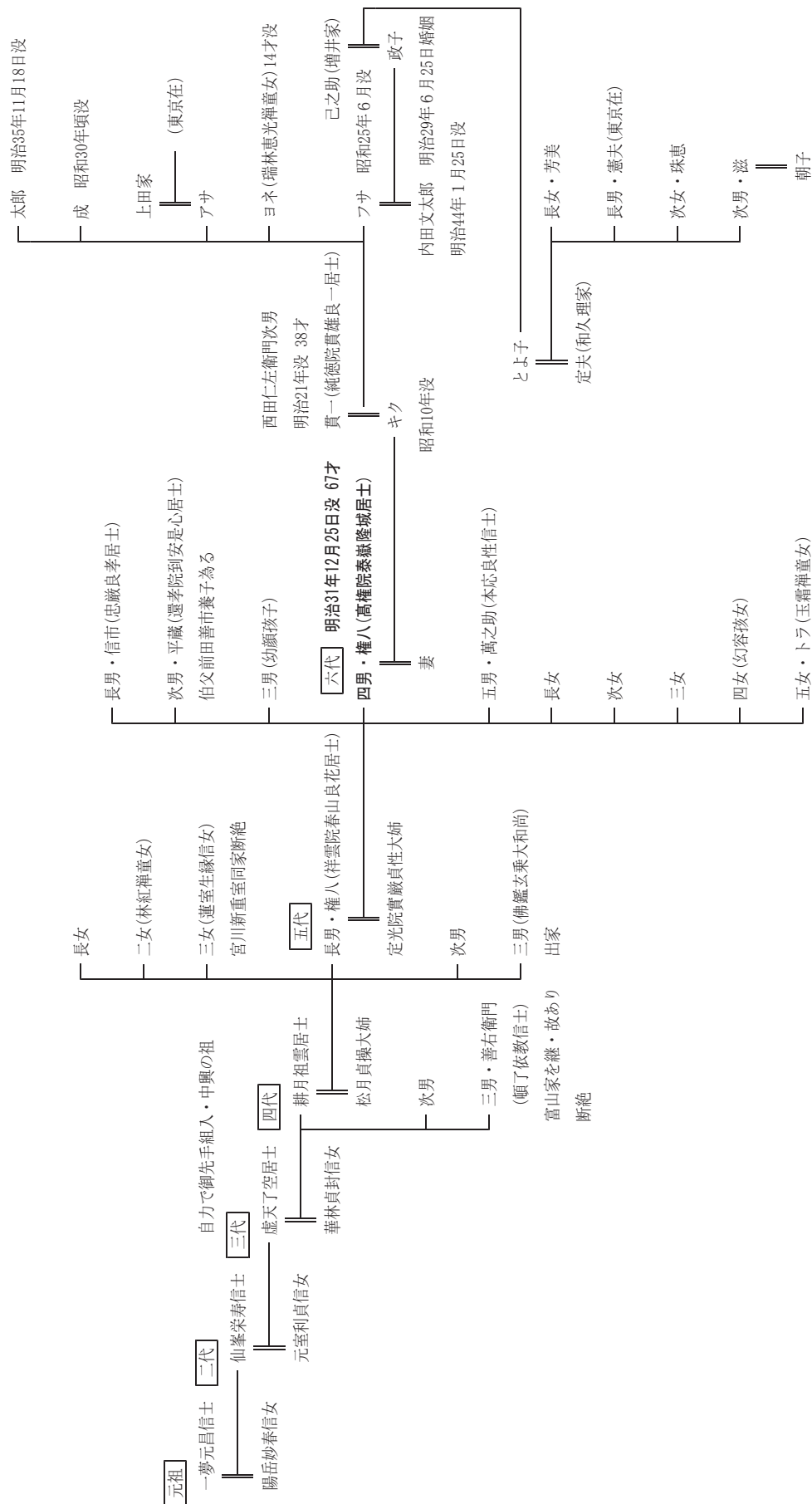


図1 高城権八家の系譜

(高城権八家過去帳、内田家戸籍抄本、内田滋氏・朝子氏からの聞き取り等により作図)



高城権八家過去帳（表紙）

日 五 十 二				日 四 十			
			佛鑑玄乘大和尚				
			高権院茶寮隆盛居士				
			明治三十一年十二月廿五日				
			天保十三壬寅八月				
			四代目耕月三男				
			九代目春山買至年				
			通称権八				

高城権八家過去帳（六代目高城権八記載箇所（貼紙）：明治31年12月25日没）

松江市史編纂日誌

松江市史編纂における主な活動状況【平成26年度】（後期：10月1日から）

平成26年

期 日	内 容	備 考
10月4日	考古専門部会	〔議題〕 ①通史編の編集について ②部会の今後などについて など
10月9日	松江市史編纂委員会	〔議題〕 ①事業報告について ②松江市史編集状況について ③事業計画について ④松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題
10月10日	自然環境部会	〔議題〕 通史編の編集、史料編の検討 など
10月18日	松江市史講座	〔第1部〕 松江藩の財政について(伊藤昭弘委員(近世史部会)) 〔第2部〕 伝染病の大流行と信仰(喜多村理子委員(民俗部会))
10月18, 19日	近世史部会	〔議題〕 史料編Ⅲの編集、史料編Ⅳ・通史編の検討 など
10月27～29日	松江城出土陶磁器指導会	
10月30, 31日	近現代史料調査	朝酌公民館文書調査
11月3日	近世史料調査	島根県立図書館等所蔵史料(東谷委員)
11月9日	中世史部会	〔議題〕 通史編の検討 など
11月15日	松江城関連調査	松江城伝来資料調査
11月15日	松江市史講座	〔第1部〕 中世の経済と社会(長谷川委員(中世史部会)) 〔第2部〕 各種地図の変遷からみる松江の近代化(阿部委員(絵図・地図部会))
11月18日	近現代史料調査	川辺地区・朝酌公民館文書調査
11月23～26日	近現代史料調査	島根県立図書館等所蔵史料(鬼嶋委員)
11月24日	松江城関連調査	松江城石垣・石材調査(乗岡委員・先山委員)
11月28日	自然環境部会	〔議題〕 通史編の編集、史料編の検討 など
11月30日	考古専門部会	〔議題〕 通史編原稿読合せ など
12月2～4日	松江城関連調査	亀嵩城調査(中井委員・西尾委員)
12月11, 12日	近現代史料調査	高井家文書調査
12月14日	松江城部会	〔議題〕 松江城査読検討会
12月20日	松江市史講座	〔第1部〕 神国大博覧会開催計画とその行方(能川委員(近現代史部会)) 〔第2部〕 松江の明治建築(足立委員(民俗部会))
12月20日	近現代史部会	〔議題〕 史料編・通史編の検討 など
12月24～28日	近世史料調査	島根県立図書館等所蔵史料(東谷委員)
12月25日	近世史小部会	〔議題〕 史料編Ⅳに掲載する史料選定、通史編の執筆分担 など
12月25日	松江城関連調査	松江城瓦胎土分析調査

平成27年

期 日	内 容	備 考
1月11～13日	近世史料調査	島根県立図書館等所蔵史料(岸本委員)
1月19日	松江城部会 文献・歴史地理・建築グループ会	〔議題〕 文献検討会
1月24日	松江市史講座	〔第1部〕 松江の古寺と仏像(的野先生) 〔第2部〕 中海・宍道湖の自然環境(三瓶先生)
1月26日	松江城関連調査	松江城鯢調査
1月26日	松江城部会 文献・歴史地理・建築グループ会	〔議題〕 絵図検討会

期 日	内 容	備 考
1月27, 28日	近現代史料調査	山陰合同銀行史料調査
2月1, 2日	近世史料調査	島根県立図書館等所蔵史料(岸本委員)
2月6日	松江城部会	〔議題〕松江城査読検討会
2月7日	中世史部会	〔議題〕通史編の検討 など
2月9日	自然環境部会	〔議題〕通史編の編集、史料編の検討 など
2月10～12日	近世史料調査	島根県立図書館等所蔵史料(常松委員)
2月21日	松江市史講座	〔第1部〕松江城城郭施設の特色とその推移(和田委員(松江城部会)) 〔第2部〕江戸時代の農村(常松委員(近世史部会))
2月22日	松江城部会	〔議題〕別編の検討 など
2月23日	松江市史部会長会議	〔議題〕①松江市史編纂状況、各部会からの状況報告 ②来年度予算について ③松江市史編集委員会の議題、日程調整について など
3月9日	近現代史小部会	〔議題〕史料編・通史編の検討 など
3月14日	松江城調査報告会	
3月20日	『松江市歴史叢書8』発行	「松江市史研究6号」
3月21日	松江市史講座	〔第1部〕中世の寺院と神社(井上委員(中世史部会)) 〔第2部〕戦後松江の公民館と新生活運動(鬼嶋委員(近現代史部会))
3月21日	近現代史部会	〔議題〕史料編・通史編の検討 など
3月21, 22日	近世史部会	〔議題〕史料編「近世Ⅲ」の編集、史料編「近世Ⅳ」・通史編の検討 など
3月23日	『松江市史』発行(第7弾)	「史料編7 近世Ⅲ」
3月24, 25日	近現代史料調査	川辺地区・高井家文書調査
3月26日	近現代史部会	〔議題〕史料編・通史編の検討 など
3月27日	松江城部会	〔議題〕松江城査読検討会
3月30日	『松江市史』発行(第8弾)	「通史編1 自然環境・原始・古代」

松江市史編纂における主な活動状況【平成27年度】(前期：9月30日まで)

平成27年

期 日	内 容	備 考
4月11日	松江城関連調査	松江城瓦・石垣調整会
4月13日	松江城関連文献検討会	
4月15日	民俗小部会	松江市史別編2「民俗」添付DVD映像の確認
4月17～20日	近世史料調査	岸本委員
4月20日	近現代史小部会	
4月18日	松江市史講座	「幕末松江藩と雨森謙三郎(精翁)」 岸本寛委員(近世史部会)
4月24日	打合せ	
5月7日	打合せ	
5月1日	松江歴史館と松江市史編纂関係者との意見交換会	〔議題〕 1. 松江市史編纂の経過報告 2. 松江歴史館の現状と今後の展望について意見交換
5月7日	中世史小部会	
5月9日	松江市史講座	「市民と語る松江の自然(シンポジウム)」 高安克己委員・澤田順弘委員・田坂郁夫委員・佐藤仁志委員(自然環境部会)
5月9日	自然環境部会	〔議題〕史料編「自然環境」編纂計画について ①各分野の内容・頁数の原案の検討 ②スケジュールの確認
5月10日	松江城査読検討会	
5月16日	松江城関連調査	松江城瓦調査(山陰中・近世瓦研究会発足)
5月17日	松江城関連調査	松江城石垣調査

期 日	内 容	備 考
5月17日	近現代史料調査	島根町史編纂委員であった小野啓次郎氏の関係史料
5月26日	松江歴史館と松江市史編纂関係者との意見交換会	〔議題〕 松江歴史館の中・長期的運営プランについて意見交換
5月30日	近世史部会	〔議題〕 史料編「近世Ⅳ」および通史編について
5月30日	松江城査読検討会	
5月30～31日	近現代史部会	〔議題〕 史料編、通史編について
5月31日	平成27年度松江市史編集委員会	〔議題〕 ①編纂体制、出版計画（一部計画変更） ②平成26年度事業報告、平成27年度事業計画 ③各部会の報告（事業報告、事業計画、調査・執筆・編集状況） ④『松江市』通史編について ⑤松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題 その他（松江市史研究執筆応募状況ほか）
5月31日	中世史部会	〔議題〕 通史編について
6月1日	近現代史料調査	鬼嶋委員
6月6日	松江市史講座	「松江裁判所 事始め」 居石正和委員（近現代史部会）
6月8日	松江城文献史料検討会	〔議題〕 1. 前回の意見交換会の報告と今後の方針 2. 年表について 3. 「松江城築城に関する史料一覧」について 4. 写真史料について 5. その他
6月17日	松江城部会小部会	
6月19日	中世史小部会	
6月24日	松江城部会城郭史G会	〔議題〕 1. 『松江市史』別編「松江城」の編集スケジュールの確認 2. 第2次原稿提出について（6月17日） 3. 松江城城郭呼称について 4. 松江城築城関係史料について 5. その他 平成27年度第1回松江城部会について（8月30日）等
7月2日	自然環境部会	〔議題〕 1. 部会員について 2. 史料編の頁割について 3. 史料編の版組について
7月5日	松江城査読検討会	
7月8日	松江城関連調査	松江城天守地階鯨調査
7月12日	松江城関連調査	松江城瓦調査（山陰中・近世瓦研究会）
7月18日	松江市史講座	「出雲世界のルーツ―五・六世紀の意宇平野―」 池淵俊一氏（原始古代史部会）
7月24日	「松江城築城物語」に係る文献史料検討会	〔議題〕 旧島根県史記載の「松江城築城物語」をベースに、それらの物語が他の文献史料にどれだけ記載されているかを整理。
7月25日	近世史小部会	〔議題〕 通史編3「近世（一）」藩政史分野に関する打合せ
7月27～28日	近現代史料調査	山陰合同銀行史料調査
7月30日	松江市史部会長会	〔議題〕 1. 各部会からの報告 2. 編集委員会、歴史館との連絡会を受けて、今後の取り組み 3. 平成28～31年度仕様書の調整について 4. 平成28年度市史講座について 5. その他

期 日	内 容	備 考
7月30日	近現代史料調査	野津篤家史料調査（野津左馬助旧蔵史料） 旧島根県史編纂史料（引継文書、原稿の下書き等）
7月31日	『松江市ふるさと文庫』 17発行	「松江の碑」
8月8日	松江城関連調査	松江城瓦調査（山陰中・近世瓦検討会）
8月10日	松江城関連調査	松江城写真検討会
8月23日	松江城小部会	松江歴史館展示打合せ
8月24日 ～9月18日	インターンシップ受け入れ	明治～昭和の新聞記事目録作成、史料調査等
8月24日	公文書の管理にかかる協議	松江市公文書の管理について
8月26～27日	近現代史料調査	山陰合同銀行史料調査
8月27日	近現代史小部会	〔議題〕史料編・通史編について
8月29日	講演会	渡辺理絵委員「18世紀中頃の松江における屋敷と住人の関係性 —絵図と給帳と屋敷割帳を通じて—」於：松江歴史館
8月30日	松江城部会	〔議題〕 1. 近世史部会長との意見交換 2. スケジュール確認 3. 各G会からの報告 4. 原稿提出について 5. 松江城の古写真の紹介について 6. 松江城城郭呼称について 7. 松江城築城物語に関連する文献資（史）料整理について 8. 平成28年度松江市史講座について 9. その他
8月30日	松江市史講座	「城郭から見た堀尾氏の出雲支配」 中井均氏（滋賀県立大学人間文化学部教授）
9月1日	松江城関連調査	松江城天守部材調査
9月3日	近世史料調査	伊藤委員（大阪大学にて山中家文書調査）
9月9日～10日	近世史通史編小部会	〔議題〕通史編3「近世（一）」第1・2章の内容検討
9月12日	近世史料調査	中倉家古文書調査
9月13日	松江城関連調査	松江城瓦調査（山陰中・近世瓦研究会）
9月14日	松江市史部会長会	〔議題〕 1. 各部会からの報告 2. 松江市の公文書について 3. 平成28年度松江市史講座について 4. 松江市史編纂委員会の議題について
9月16日	松江城に関する文献史料 検討会	
9月19日	松江市史講座	「出雲的世界の形成」 森田喜久男委員（原始古代史部会）
9月20日	近世史料調査	史料編纂室にて調査（常松委員）
9月24日	近現代史部会（第2回）	〔議題〕史料編・通史編について
9月25日	近現代史料調査	能川委員・鬼嶋委員
9月30日	松江市史発刊（第9弾）	「別編2 民俗」

松江市史編纂体制図

平成28年3月1日 時点

委員名									
区分	役割	◎ 藤岡大拙 ・ (同上) ・ 田坂郁夫	・ 安部登 ← (文化財保護審議会会長) ○ 井上寛司	・ 乾隆明 ○ 井上寛司	・ 引野道生 ・ 小林雅士	・ 安部己因枝 ・ 竹永三男	・ 川島美子 ・ 大矢幸雄	・ 薦谷典子 ・ 西尾克己 ・ 喜多村正	・ 仁田晴江 ・ 喜多村理子
編纂委員会	・市史編纂全般に関わる基本的事項の協議 ・市史編纂の成果を市民に還元していく事項の協議 ※住民、行政、専門家が一体となり市史を作り上げるため、地元有識者、専門研究者で構成する。 ・市史全体の編集 ・必要な史料(資料)の調査・整理及び総括 ※市史全体の編集を中心となつて行つたため、各分野の専門研究者で構成する。	・田坂郁夫 ・高安克己	・勝部昭 ・大日方克己 ・佐藤信 ・西尾克己	◎ 井上寛司 ・川岡勉 ・長谷川博史 ・西田友広	○ 小林雅士 ・岸本寛 ・鳥谷智文 ・東谷智 ・三宅正浩 ・渡辺浩一	・竹永三男 ・伊藤康宏 ・居石正和 ・能川泰治 ・鬼嶋淳	・大矢幸雄	・西尾克己	・喜多村正 ・喜多村理子
編集委員会	・編纂事業の具体的な内容の企画・立案 ※各部会の部会長で構成する。 ・市史各巻の内容を検討 ・必要な史料(資料)の調査・整理 ※市史各巻の編集を中心となつて行つたため、担当専門分野の専門研究者で構成する。	◎ 田坂郁夫 《地形・地質G》 ○ 澤田順弘 ・高安克己 ・小暮哲也 《気候・気象G》 ○ 田坂郁夫 《生物G》 ○ 佐藤仁志 ・越川敏樹 ・() ・()	【原始古代史】 ◎ 勝部昭 《考古専門部会》 ○ 西尾克己 ・丹羽野裕 ・山田康弘 ・松本岩雄 ・平石充 《古代専門部会》 ○ 大日方克己 ○ 佐藤信 ・平石充 ・野々村安浩 ・森田喜久男	【中世史】 ◎ 井上寛司 ○ 西田友広 ○ 川岡勉 ○ 長谷川博史 ・原慶三	【近世史】 ◎ 小林雅士 ○ 岸本寛 ○ 鳥谷智文 ○ 東谷智 ○ 三宅正浩 ○ 渡辺浩一 ・伊藤昭弘 ・宇野田尚哉 ・沢山美果子 ・多久田友秀 ・佐々木倫朗 ・西島太郎 ・常松隆嗣 ・石田俊	【近代史】 ◎ 竹永三男 ○ 伊藤康宏 ○ 居石正和 ○ 能川泰治 ○ 鬼嶋淳	【絵図・地図】 ◎ 大矢幸雄 ・川村博忠 ・高安克己 ・上杉和央 ・渡辺理絵 ・乾隆明 ・内田融 ・阿部志朗 ・安高尚毅	【松江城】 ◎ 西尾克己 《城郭史G》 ○ 中井均 ・藤原安夫 ・山崎節枝 ・喜多村理子 ・山崎亮 ・品川知彦 ・中上明 ・永井猛 ・酒井重美 ・浅沼政誌	◎ 喜多村正 ・中村幹雄 ・足立正智 ・藤原安夫 ・山崎節枝 ・喜多村理子 ・山崎亮 ・品川知彦 ・中上明 ・永井猛 ・酒井重美 ・浅沼政誌
（専門部門部会員）									
執筆者（通史編・別編）	・部会で議論した内容に基づく執筆 ※市史各巻の執筆を行うため、部会の専門委員と部分執筆を行う執筆者で構成する。 編集委員・専門委員以外の執筆者→ （編集室職員等は未掲載）	・河原莊一郎 ・入月俊明 ・三瓶良和 ・瀬戸浩二 ・田中秀典 ・気象台関係者 ・中興地蔵研究センター関係者 ・森茂晃 ・岩田貴之 ・林成多 ・淀江賢一郎 ほか	・的野克之 ・永井猛 ・西尾克己 ・山根正明 ・中野賢治 ・下房俊一	・伊藤康宏 ・森本幾子 ・栗木純一 ・中安恵一 ・原 豊二	・矢野健太郎 ・内田融 ・関耕平 ・廣嶋清志 ・内田和義 ・井口隆史 ・谷口憲治 ・保永展利 ・中野茂夫 ・工藤泰子 ・勝部昭 ・喜多村理子	・面谷明俊	・西島太郎 ・安高尚毅 ・中野茂夫 ・狭川真一 ・伊藤孝一 ・花谷 浩		
事務局体制	1. 市史編纂事業の事務的統括 2. 編集委員等専門研究者の支援 3. 市史、付帯出版物等の編集作業・出版 （市民の代弁者としてのチェック機能も） 4. 文化運動の推進（講座やシンポジウムなど）	[松江市]市長:松浦正敬、副市長:能海広明、副市長:吉山治 [松江市教育委員会]教育長:清水伸夫 [歴史まちづくり部]部長:安田憲司 [まちづくり文化財課]課長:永島真吾 [史料編集室]室長:稲田信、副主任:小山祥子 主任編集官:内田文恵 専門調査員:北村久美子、専門調査員:石塚晶子、専門調査員:和田美幸、専門調査員:福井将介、専門調査員:高橋真千子							

松江市歴史叢書 9

松江市史研究 7 号

2016年（平成28年）3月25日発行

編 集 松江市歴史まちづくり部
まちづくり文化財課史料編纂室

発 行 松 江 市
〒690-8540 島根県松江市末次町86番地

印 刷 (有) 黒 潮 社
〒690-0841 松江市向島町182-3

Historical Library of Matsue City 9

March 2016

MATSUE SHISHI KENKYU No.7

Research of Matsue City's History

- Branch Castles under the Horio Clan Domination in Izumo District(3)
—Kamedake Castle, Misawa Castle— NAKAI Hitoshi (1)
- Reexamination about so-called
"Story of the construction of a Matsue-jo castle" SASAKI Michiro · FUKUI Masayuki (9)
- About analysis of the Taido of the tile which was excavated from Matsue-jo Castle
and neighboring remains SHIRAISHI Jun (21)
- Illustrated map complete catalog of Matsue city limits (Interim report) OYA Yukio · WADA Yoshihiro (27)
- About the Aspect and Chronological order of ceramics excavated from The remains of
Matsue-jo Castle downtown area—Mainly on a 17th century document— KOYAMA Taisei (45)
- Excavational investigation in historic sites Matsue Castle (2)
—Kita-somon bridge, Gorouka bridge trace— OKAZAKI Yujiro (55)
- The history of plain development and paleoenvironmental change in the North part of Matsue Plain,
Southwest Japan (2)
—The old paleovegetation which is estimated by a pollen analysis—
..... WATANABE Masami · SETO Koji · YAMADA Kazuyoshi · TAKAYASU Katsumi (71)
- About castle facilities name of Matsue-jo Castle Matsue-jo Castle sectional meeting (83)
- Thought about the old photograph of Matsue-jo Castle INATA Makoto · FUKUI Masayuki (89)
- 〈Historical materials introduction〉 The genealogy of the Gonpachi Takagis seeing in a
"Death register of the Gonpachi Takagis" INATA Makoto · Uchida Fumie · Koyama Sachiko (117)
- Matsue City Historiographic Journal Historical Sources Compilation Room (123)

松江市

Matsue City

Suetsugu, Matsue-city, Shimane-pre, Japan

ISBN978-4-904911-32-7
C3321 ¥1500E

松江市

定価(本体1500円【税別】)



978490491132 7



192332101500 5